

WebSAM vDC Automation v6.1

ワークフローテンプレート リファレンス

第 1 版

2019 年 10 月

日本電気株式会社

免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。

本書の内容の一部または全部を無断で転載および複製することは禁止されています。

本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。

日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

商標

- SigmaSystemCenter、WebSAM、Netvisor、iStorage、ESMPRO、EXPRESSBUILDER、EXPRESSSCOPE、SIGMABLADE、UNIVERGE、および、ProgrammableFlow は日本電気株式会社の登録商標です。
- VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、Internet Explorer、SQL Server、Hyper-V および Azure は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Linux は Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Red Hat は、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Intel、Itanium は、Intel 社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Apache、Apache Tomcat、Tomcat は、Apache Software Foundation の登録商標または商標です。
- Oracle、Solaris、Java、WebLogic は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。
- SAP は、ドイツおよびその他世界各国における SAP AG の商標または登録商標です。
- Fortinet、FortiGate、FortiClient および FortiGuard は Fortinet, Inc. の登録商標です。その他このガイド内に記載されているフォーティネット製品はフォーティネットの商標です。
- A10 Networks の AX シリーズ、Thunder シリーズは、A10 Networks, Inc.の登録商標です。
- Catalyst、IOS、Cisco IOS、Cisco、Cisco Systems、および Cisco ロゴは米国およびその他の国における Cisco Systems,Inc.の商標または登録商標です。
- F5、F5 Networks、F5 のロゴ、および本文中に記載されている製品名は、米国および他の国における F5 Networks, Inc の商標または登録商標です。
- PostgreSQL は、PostgreSQL の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

-
- Amazon、AWS、Amazon Elastic Compute Cloud は、Amazon.com, Inc.の米国および各国での商標または登録商標です。

その他、本書に記載のシステム名、会社名、製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。

なお、® マーク、™ マークは本書に明記しておりません。

輸出する際の注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は、外国為替及び外国貿易法で規定される規制貨物（または役務）に該当することがあります。 その場合、日本国外へ輸出する場合には日本国政府の輸出許可が必要です。 なお、輸出許可申請手続きにあたり資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業拠点にご相談ください。

はじめに

対象読者と目的

本書は、インストール後の設定全般を行うシステム管理者と、その後の運用・保守を行うシステム管理者を対象読者とし、ワークフローテンプレートの利用方法と詳細について説明します。また、異常時のリカバリ方法や操作についても説明します。

本書の表記規則

本書では、注意すべき事項、および関連情報を以下のように表記します。

注

機能、操作、設定に関する注意事項、警告事項および補足事項です。

ヒント

追加情報または参照先の情報の場所を表します。

表記一覧

本書では以下の表記方法を使用します。

表記	使用方法	例
[] 角かっこ	画面に表示される項目 (テキストボックス チェックボックス タブなど) の前後	[マシン名] テキストボックスに マシン名を入力します [すべて] チェックボックス
『 』 かぎかっこ	画面名 (ダイアログボックス ウィンドウなど)、マニュアル名の前後	『設定』 ウィンドウ 『インストレーションガイド』
コマンドライン中の [] 角かっこ	かっこ内の値の指定が省略可能であることを示します	add [/a] Gr1
モノスペースフォント (courier new)	コマンドライン システムからの出力 (メッセージプロンプトなど)	以下のコマンドを実行してください replace Gr1
モノスペースフォント斜体 (courier new) <> 山かっこ	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目 値の中にスペースが含まれる場合は " (二重引用符) で値を囲んでください	add <i>GroupName</i> InstallPath= "<i>Install</i> <i>Path</i>" <インストール DVD>

UNIVERGE PF シリーズの表記について

本書では、UNIVERGE PF シリーズの各製品について、以下の略称を利用しています。

製品名	略称
PF6800 Network Coordinator	UNC
PF6800	PFC
PF5xxx Switch	PFS

目次

第1章 ワークフローテンプレートの概要.....	1
第2章 ワークフローの確認方法.....	15
第3章 各種ワークフローテンプレートの詳細.....	16
3.1 VM（仮想マシン）	17
3.1.1 VM 生成.....	17
3.1.2 VM 削除.....	33
3.1.3 VM 再構成.....	38
3.1.4 VM 生成(Sub)	49
3.1.5 ソフトウェア配布.....	50
3.1.6 ライセンスキー紐付け	51
3.1.7 VM 削除(Sub).....	52
3.1.8 VM 起動.....	53
3.1.9 VM 再起動.....	54
3.1.10 VM 停止.....	55
3.1.11 VM 性能監視設定更新(Sub)	56
3.1.12 VM 再構成(Sub)	57
3.1.13 性能情報削除.....	58
3.1.14 構成情報削除.....	60
3.1.15 トポロジ情報削除.....	61
3.1.16 テナント ID 設定.....	62
3.1.17 配布識別 ID ファイル書き込み	63
3.1.18 VM 生成前オプション処理(エージェントあり).....	64
3.1.19 VM 生成後オプション処理(エージェントあり).....	65
3.1.20 VM 再構成前オプション処理(エージェントあり)	65
3.1.21 VM 再構成後オプション処理(エージェントあり).....	66
3.1.22 VM 削除前オプション処理(エージェントあり).....	66
3.1.23 VM 削除後オプション処理(エージェントあり).....	66
3.1.24 ホスト情報取得.....	67
3.1.25 一時ファイル削除.....	68
3.1.26 スタティックルート設定	69
3.1.27 WindowsOS のアクティベーション	71
3.1.28 VM 生成(エージェントあり).....	72
3.1.29 VM 再構成(エージェントあり)	79
3.1.30 VM 削除(エージェントあり).....	85
3.1.31 SSC 運用グループ作成.....	87
3.1.32 事業者管理 VLAN 取得.....	89
3.1.33 Linux サブスクリプションのアクティベーション	90
3.1.34 VM 生成(エージェントなし).....	91
3.1.35 VM 削除(エージェントなし).....	94
3.1.36 VM 生成後オプション処理(エージェントなし).....	96
3.1.37 VM 削除後オプション処理(エージェントなし).....	96
3.1.38 VM 生成後オプション処理.....	97
3.1.39 VM 再構成(エージェントなし)	97

3.1.40	VM 再構成前オプション処理	100
3.1.41	VM 再構成前オプション処理(エージェントなし)	101
3.1.42	VM 削除前オプション処理(エージェントなし)	101
3.1.43	VM 生成前オプション処理	102
3.1.44	VM 生成前オプション処理(エージェントなし)	102
3.1.45	VM 再構成後オプション処理	103
3.1.46	VM 再構成後オプション処理(エージェントなし)	103
3.1.47	VM 削除前オプション処理	103
3.1.48	VM 削除後オプション処理	104
3.1.49	UUID 取得	104
3.2	VM テンプレート	105
3.2.1	VM テンプレート作成	105
3.2.2	VM テンプレート一覧取得	110
3.2.3	VM テンプレート削除	112
3.2.4	VM テンプレート作成(Sub)	114
3.2.5	VM テンプレート登録	119
3.2.6	VM テンプレート登録(Sub)	126
3.2.7	VM テンプレート一覧取得(Sub)	128
3.2.8	VM テンプレート削除要求	129
3.2.9	VM テンプレート削除(Sub)	130
3.2.10	VM テンプレート所在取得	131
3.3	物理サーバ	133
3.3.1	物理サーバ払い出し	133
3.3.2	物理サーバ払い出し(Sub_GM)	146
3.3.3	物理サーバ払い出し(Sub_MoM)	148
3.3.4	物理サーバ削除	150
3.3.5	物理サーバ削除(Sub_GM)	157
3.3.6	物理サーバ削除(Sub_MoM)	159
3.3.7	物理サーバ再構成	160
3.3.8	物理サーバ再構成(Sub_GM)	169
3.3.9	物理サーバ再構成(Sub_MoM)	171
3.3.10	物理サーバ追加前処理	172
3.3.11	物理サーバ追加後処理	173
3.3.12	物理サーバ削除前処理	173
3.3.13	物理サーバ削除後処理	174
3.3.14	物理サーバ再構成前処理	174
3.3.15	物理サーバ再構成後処理	174
3.4	ソフトウェアリポジトリ	175
3.4.1	ソフトウェアリポジトリ環境設定取得	175
3.5	ネットワーク	176
3.5.1	テナント NW 作成	176
3.5.2	テナント NW 作成(Set)	179
3.5.3	VLAN 作成	185
3.5.4	VLAN 作成(Set)	187
3.5.5	SSL-VPN 設定	193
3.5.6	SSL-VPN 設定(Set)	195

3.5.7 NAT 設定.....	199
3.5.8 NAT 設定(Set).....	201
3.5.9 テナント LB 作成.....	202
3.5.10 テナント LB 作成(Set).....	205
3.5.11 テナント LB 作成(Sub).....	208
3.5.12 物理サーバ用 NW 設定	211
3.5.13 ポッド拡張設定.....	212
3.5.14 ポッド縮退設定.....	214
3.5.15 テナント FW 作成.....	216
3.5.16 テナント FW 作成(Set)	218
3.5.17 テナント FW 作成(Sub).....	223
3.5.18 テナント FW 更新.....	224
3.5.19 テナント FW 更新(Sub).....	228
3.5.20 テナント LB 更新.....	229
3.5.21 NAT 設定削除.....	232
3.5.22 テナント LB 削除.....	234
3.5.23 テナント FW 削除.....	237
3.5.24 テナント FW 削除(Sub).....	240
3.5.25 汎用装置作成.....	242
3.5.26 汎用装置削除.....	244
3.5.27 DC 間 NW への接続用 VLAN 作成	246
3.5.28 DC 間 NW への接続用 VLAN 削除	248
3.5.29 テナント FW ポリシー設定	250
3.5.30 UNC 情報設定	256
3.5.31 UNC 情報設定(Sub).....	261
3.5.32 UNC 情報 vNode 設定(Sub)	276
3.5.33 物理サーバ用 NW 削除	279
3.5.34 物理サーバ用 NW 更新	281
3.5.35 テナント NW 無効化	282
3.5.36 テナント NW 有効化	284
3.5.37 テナント NW 有効化(Set).....	286
3.5.38 テナント NW 削除	287
3.5.39 SSL-VPN 解除	292
3.5.40 VLAN 削除	295
3.5.41 VLAN 削除(Sub).....	297
3.5.42 全 VLAN 設定	305
3.5.43 物理サーバ用 L2SW 設定.....	308
3.5.44 ポッド拡張設定(Sub).....	309
3.5.45 ポッド縮退設定(Sub).....	313
3.5.46 VLAN 作成(Sub).....	317
3.5.47 予約エラー判定.....	322
3.5.48 予約確定処理.....	323
3.5.49 VM 用 NW の Pod 間連携による拡張	325
3.5.50 同時実行待ち合わせ	328
3.5.51 予約情報ファイル削除処理	329
3.5.52 NW 機器共通処理	330
3.5.53 NW 装置グループ処理	333

3.5.54	NW 装置処理.....	335
3.5.55	NW 装置設定.....	342
3.5.56	PFC 設定.....	346
3.5.57	LB 設定.....	351
3.5.58	LB(A10)設定.....	359
3.5.59	UNC 設定.....	364
3.5.60	SSC 設定.....	366
3.5.61	経路情報設定.....	367
3.5.62	テナント FW アドレスグループ設定.....	369
3.5.63	テナント FW アドレスメンバー設定.....	373
3.5.64	テナント FW サービス設定.....	375
3.5.65	テナント FW 経路情報設定.....	378
3.5.66	テナント FW NAT 設定.....	381
3.5.67	テナント FW ポリシールール設定.....	384
3.5.68	テナント FW ポリシー設定(Sub).....	388
3.5.69	ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法.....	390
3.5.70	nwa_devconfdelete.bat.....	394
3.5.71	ネットワーク機器制御ワークフローにおけるワークフロー異常終了の監視方法.....	395
3.6	ストレージ.....	397
3.6.1	ディスクボリュームの削除.....	397
3.6.2	RDM 領域の拡張.....	399
3.6.3	RDM 領域の返却.....	401
3.6.4	RDM 領域の初期化.....	404
3.6.5	RDM 領域の拡張(Sub).....	406
3.6.6	ディスクボリュームの削除(Sub).....	407
3.6.7	RDM 領域の初期化(Sub).....	408
3.7	VM (仮想マシン) (手動).....	410
3.7.1	VM 性能監視設定更新.....	410
3.8	VM テンプレート (手動).....	412
3.8.1	手動 VM テンプレート登録.....	412
3.9	ソフトウェアリポジトリ (手動).....	414
3.9.1	SW リポジトリ用論理ディスク作成.....	414
3.9.2	SW リポジトリ用論理ディスク削除.....	417
3.9.3	SW リポジトリ用論理ディスク作成(Sub).....	418
3.9.4	SW リポジトリ用 NFS の Exports 設定.....	420
3.9.5	SW リポジトリ用論理ディスク削除(Sub).....	421
3.10	ストレージ (手動).....	422
3.10.1	ディスクボリュームを構築する.....	422
3.10.2	ディスクボリュームを構築する(Sub).....	426
第 4 章 注意事項.....		429
付録 A 改版履歴.....		430

表目次

表 3-1	戻り値一覧	395
-------	-------------	-----

第1章

ワークフローテンプレートの概要

製品インストール時に同梱のワークフローテンプレートを以下の構成で登録します。

シナリオ制御ビュー

Automation vDC のワークフローテンプレート管理グループ

- └ Automatic クラウドプロバイダ API から使用するテンプレートグループ
 - └ Network ネットワーク機器のプロビジョニングに使用するテンプレートグループ
 - └ CreateConnectPort DC 間 NW への接続用 VLAN 作成
 - └ CreateGeneralDev 汎用装置作成
 - └ CreateTenantFW テナント FW 作成
 - └ CreateTenantLB テナント LB 作成
 - └ CreateTenantNW テナント NW 作成
 - └ CreateVLAN VLAN 作成
 - └ DeleteConnectPort DC 間 NW への接続用 VLAN 削除
 - └ DeleteGeneralDev 汎用装置削除
 - └ DeleteNAT NAT 設定削除
 - └ DeletePhysicalServerNW 物理サーバ用 NW 削除
 - └ DeleteSSL-VPN SSL-VPN 解除
 - └ DeleteTenantFW テナント FW 削除
 - └ DeleteTenantLB テナント LB 削除
 - └ DeleteTenantNW テナント NW 削除
 - └ DeleteVLAN VLAN 削除
 - └ DisableTenantNW テナント NW 無効化
 - └ EnableTenantNW テナント NW 有効化
 - └ SettingFWPolicy テナント FW のポリシー設定
 - └ SettingNAT NAT 設定
 - └ SettingPhysicalServerNW 物理サーバ用 NW 設定
 - └ SettingPodContractionNW テナント用 NW の Pod 間連携による縮退
 - └ SettingPodExpansionNW ポッド拡張設定
 - └ SettingSSL-VPN SSL-VPN 設定
 - └ UpdatePhysicalServerNW 物理サーバ用 NW 更新
 - └ UpdateTenantFW テナント FW 更新
 - └ UpdateTenantLB テナント LB 更新
 - └ SubScenario ネットワーク機器のプロビジョニングに使用するサブシナリオグループ
 - └ CheckNWAErrorMessage 予約エラー判定
 - └ CommittingNWAOperation 予約確定処理
 - └ CreateTenantFW(Set) テナント FW 作成 (Set)
 - └ CreateTenantFW(Sub) テナント FW 作成 (Sub)
 - └ CreateTenantLB(Set) テナント LB 作成 (Set)
 - └ CreateTenantLB(Sub) テナント LB 作成 (Sub)
 - └ CreateTenantNW(Set) テナント NW 作成 (Set)
 - └ CreateVLAN(Set) VLAN 作成 (Set)
 - └ CreateVLAN(Sub) VLAN 作成 (Sub)
 - └ DeleteReservationFile 予約情報ファイル削除処理
 - └ DeleteTenantFW(Sub) テナント FW 削除 (Sub)
 - └ DeleteVLAN(Sub) VLAN 削除 (Sub)
 - └ DoingNWAOperation VM 用 NW の Pod 間連携による拡張
 - └ EnableTenantNW(Set) テナント NW 有効化 (Set)
 - └ NWCommonScenario NW 機器共通処理
 - └ SettingAllVLAN 全 VLAN 設定
 - └ SettingFWPolicy(AddrGrp) テナント FW のアドレスグループ設定
 - └ SettingFWPolicy(AddrMbr) テナント FW のアドレスメンバー設定
 - └ SettingFWPolicy(NAT) テナント FW の NAT 設定

- └ SettingFWPolicy(Route) テナント FW の経路情報設定
- └ SettingFWPolicy(Rule) テナント FW のポリシールール設定
- └ SettingFWPolicy(Service) テナント FW のサービス設定
- └ SettingFWPolicy(Sub) テナント FW のポリシー設定 (Sub)
- └ SettingGeneralDevice NW 装置設定
- └ SettingLB LB(BIG-IP) 設定
- └ SettingLB(A10) LB(A10) 設定
- └ SettingNAT(Set) NAT 設定 (Set)
- └ SettingNWDevice NW 装置処理
- └ SettingNWDeviceGroup NW 装置グループ処理
- └ SettingPFC PFC 設定
- └ SettingPhysicalServerL2SW 物理サーバ用 L2SW 設定
- └ SettingPodContractionNW(Sub) テナント用 NW の Pod 間連携による縮退 (Sub)
- └ SettingPodExpantionNW(Sub) ポッド拡張設定 (Sub)
- └ SettingRoute 経路情報設定 (MoM)
- └ SettingSSC SSC 設定 (SSC の vSW, 論理 NW 設定)
- └ SettingSSL-VPN(Set) SSL-VPN 設定 (Set)
- └ SettingUNC UNC 設定
- └ SettingUNCInfo UNC 情報設定
- └ SettingUNCInfo(sub) UNC 情報設定 (Sub)
- └ SettingUNCInfo(Sub)_vNode UNC 情報 vNode 設定 (Sub)
- └ UpdateTenantFW(Sub) テナント FW 更新 (Sub)
- └ WaitNWAOperation 同時実行待ち合わせ
- └ Physical 物理サーバのプロビジョニングに使用するテンプレートグループ
 - └ DeletePhysicalServer 物理サーバ削除
 - └ ProvisionPhysicalServer 物理サーバ払い出し
 - └ ReconfigurePhysicalServer 物理サーバ再構成
 - └ SubScenario 物理サーバのプロビジョニングに使用するサブシナリオグループ
 - └ DeletePhysicalServer(Sub_GM) 物理サーバ削除 (SubGM)
 - └ DeletePhysicalServer(Sub_MoM) 物理サーバ削除 (SubMoM)
 - └ PostCreateAgentOperation 物理サーバ追加後オプション処理
 - └ PostDeleteAgentOperation 物理サーバ削除後オプション処理
 - └ PostReconfigureAgentOperation 物理サーバ再構成後オプション処理
 - └ PreCreateAgentOperation 物理サーバ追加前オプション処理
 - └ PreDeleteAgentOperation 物理サーバ削除前オプション処理
 - └ PreReconfigureAgentOperation 物理サーバ再構成前オプション処理
 - └ ProvisionPhysicalServer(Sub_GM) 物理サーバ追加 (SubGM)
 - └ ProvisionPhysicalServer(Sub_MoM) 物理サーバ追加 (SubMoM)
 - └ ReconfigurePhysicalServer(Sub_GM) 物理サーバ再構成 (SubGM)
 - └ ReconfigurePhysicalServer(Sub_MoM) 物理サーバ再構成 (SubMoM)
- └ Storage ストレージ機器制御に使用するテンプレートグループ
 - └ ExpantionRDMVolume RDM 領域の拡張
 - └ InitializeRDMVolume RDM 領域の初期化
 - └ ReturnRDMVolume RDM 領域の返却
 - └ SubScenario ストレージ機器制御に使用するサブシナリオグループ
 - └ DeleteDiskVolume(Sub) ディスクボリュームの削除 (Sub)
 - └ ExpantionRDMVolume(Sub) RDM 領域の拡張 (Sub)
 - └ InitializeRDMVolume(Sub) RDM 領域の初期化 (Sub)
- └ SWRepository ソフトウェアリポジトリに使用するテンプレートグループ
 - └ SubScenario ソフトウェアリポジトリに使用するサブシナリオグループ
 - └ GetSWRepositoryConfig ソフトウェアリポジトリの環境情報取得
- └ VM VM プロビジョニングに使用するテンプレートグループ
 - └ CreateVM VM 生成
 - └ DeleteVM VM 削除
 - └ ReconfigureVM VM 再構成
 - └ SubScenario VM プロビジョニングに使用するサブシナリオグループ
 - └ CreateAgentlessVM VM 生成 (Agent なし)
 - └ CreateAgentVM VM 生成 (Agent あり)

	<ul style="list-style-type: none"> └ CreateSSCOperationGroup SSC 運用グループ作成 └ CreateVM(Sub) VM 生成 (Sub) └ DeleteAgentlessVM VM 削除 (Agent なし) └ DeleteAgentVM VM 削除 (Agent あり) └ DeleteConstructionInfo 構成情報削除 └ DeletePerformanceData 性能情報削除 └ DeleteTemporaryFile 一時ファイル削除 └ DeleteTopologyInfo トポロジ情報削除 └ DeleteVM(Sub) VM 削除 (Sub) └ DistributionMW ソフトウェア配布 └ GetHostInfo ホスト情報取得 └ GetUUID UUID 取得 └ LinuxSubscriptionActivation Linux サブスクリプションのアクティベーション └ MatchAsset ライセンスキー紐付け └ MatchTenantID テナント ID 設定 └ PostCreateAgentlessVMOperation VM 生成後オプション処理 (Agent なし) └ PostCreateAgentVMOperation VM 生成後オプション処理 (Agent あり) └ PostCreateVMOperation VM 生成後オプション処理 └ PostDeleteAgentlessVMOperation VM 削除後オプション処理 (Agent なし) └ PostDeleteAgentVMOperation VM 削除後オプション処理 (Agent あり) └ PostDeleteVMOperation VM 削除後オプション処理 └ PostReconfigureAgentlessVMOperation VM 再構成後オプション処理 (Agent なし)
し)	<ul style="list-style-type: none"> └ PostReconfigureAgentVMOperation VM 再構成後オプション処理 (Agent あり) └ PostReconfigureVMOperation VM 再構成後オプション処理 └ PreCreateAgentlessVMOperation VM 生成前オプション処理 (Agent なし) └ PreCreateAgentVMOperation VM 生成前オプション処理 (Agent あり) └ PreCreateVMOperation VM 生成前オプション処理 └ PreDeleteAgentlessVMOperation VM 削除前オプション処理 (Agent なし) └ PreDeleteAgentVMOperation VM 削除前オプション処理 (Agent あり) └ PreDeleteVMOperation VM 削除前オプション処理 └ PreReconfigureAgentlessVMOperation VM 再構成前オプション処理 (Agent なし)
し)	<ul style="list-style-type: none"> └ PreReconfigureAgentVMOperation VM 再構成前オプション処理 (Agent あり) └ PreReconfigureVMOperation VM 再構成前オプション処理 └ ReconfigureAgentlessVM VM 再構成 (Agent なし) └ ReconfigureAgentVM VM 再構成 (Agent あり) └ ReconfigureVM(Sub) VM 再構成 (Sub) └ SendVLANInfo 事業者管理 VLAN 取得 └ SetStaticRoute スタティックルート設定 └ UpdatePerformanceCounter(Sub) VM 性能監視設定更新 (Sub) └ VMRestart VM 再起動 └ VMShutdown VM 停止 └ VMStartup VM 起動 └ WindowsOSActivation WindowsOS アクティベーション └ WriteFileDistributionID 配布識別 ID ファイル書き込み
	<ul style="list-style-type: none"> └ VMTemplate VM テンプレートに使用するテンプレートグループ <ul style="list-style-type: none"> └ CreateTemplate テンプレートの生成 └ DeleteTemplate テンプレートの削除 └ GetTemplateList テンプレート一覧の取得 └ SubScenario VM テンプレートに使用するサブシナリオグループ <ul style="list-style-type: none"> └ CreateTemplate(Sub) テンプレートの生成 (Sub) └ DeleteTemplate(Sub) テンプレートの削除 (Sub) └ DeleteTemplateReq テンプレート削除要求 └ GetTemplateList(Sub) テンプレート一覧の取得 (Sub) └ GetTemplateLocation テンプレートの所在取得 └ RegisterTemplate テンプレートの複製と登録 └ RegisterTemplate(Sub) テンプレートの複製と登録 (Sub)

- └ Manual 手動で投入するテンプレートグループ
 - └ Storage ストレージ機器制御に使用するテンプレートグループ
 - └ CreateDiskVolume ディスクボリュームの作成
 - └ DeleteDiskVolume ディスクボリュームの削除
 - └ SubScenario ストレージ機器制御に使用するサブシナリオグループ
 - └ CreateDiskVolume(Sub) ディスクボリュームの作成 (Sub)
 - └ SWRepository ソフトウェアリポジトリに使用するテンプレートグループ
 - └ CreateDiskVolumeSWRepository 論理ディスク作成
 - └ DeleteDiskVolumeSWRepository 論理ディスク削除
 - └ SubScenario ソフトウェアリポジトリに使用するサブシナリオグループ
 - └ CreateDiskVolumeSWRepository(Sub) 論理ディスク作成 (Sub)
 - └ DeleteDiskVolumeSWRepository(Sub) 論理ディスク削除 (Sub)
 - └ ExportMoMList NFS の Exports 設定
 - └ VM VM プロビジョニングに使用するテンプレートグループ
 - └ UpdatePerformanceCounter VM 性能監視設定更新
- └ VMTemplate VM テンプレートに使用するテンプレートグループ
 - └ RegisterTemplateByUser 手動 VM テンプレート登録

[シナリオ制御ビュー] - [Automation] - [Automatic] - [VM]直下にあるワークフローテンプレートの概要は以下になります。これらのテンプレートは、サービスガバナーのワークフロー実行 API から実行します。

シナリオ名	シナリオ ID	処理概要	実行階層
CreateVM	40000001	VM の生成、または VM インポートを行う。	広域管理サーバ
DeleteVM	40000002	VM の削除、性能情報及び構成情報の削除を行う。	広域管理サーバ
ReconfigureVM	40000003	VM の再構成、ライセンスキーの紐付け、ソフトウェアの配布、性能監視設定の更新を行う。	広域管理サーバ

[シナリオ制御ビュー]-[Automation]-[Automatic]-[VM]-[SubScenario]配下にある以下のワークフローテンプレート(サブシナリオ)は、[VM]直下にあるワークフローテンプレート、[Manual]配下にある UpdatePerformanceCounter、および他のサブシナリオから呼び出します。

シナリオ名	シナリオ ID	処理概要	呼び出し元シナリオ名	実行階層
CreateVM(Sub)	40001001	VM を生成し、生成した VM のディスク情報を取得する。	CreateAgentVM CreateAgentlessVM	管理サーバ
Distribution MW	40001002	VM にソフトウェアを配布する。	CreateAgentVM ReconfigureAgentVM ProvisionPhysicalServer ReconfigurePhysicalServer	広域管理サーバ
MatchAsset	40001004	VM とライセンスキーを紐付ける。	CreateAgentVM CreateAgentlessVM ReconfigureAgentVM ProvisionPhysicalServer ReconfigurePhysicalServer	広域管理サーバ
DeleteVM(Sub)	40001005	VM の削除を行う。	DeleteAgentVM DeleteAgentlessVM	管理サーバ
VMStartup	40001006	VM の起動を行う。	ReconfigureAgentVM CreateTemplate(Sub) ReconfigurePhysicalServer	管理サーバ

シナリオ名	シナリオ ID	処理概要	呼び出し元シナリオ名	実行階層
VMRestart	40001007	VM の再起動を行う。	CreateAgentVM ReconfigureAgentVM ProvisionPhysicalServer ReconfigurePhysicalServer	管理サーバ
VMShutdown	40001008	VM の停止を行う。	CreateAgentVM CreateAgentlessVM ReconfigureAgentVM ReconfigureVM(Sub) ProvisionPhysicalServer ReconfigurePhysicalServer CreateTemplate(Sub)	管理サーバ
UpdatePerformanceCounter(Sub)	40001009	性能監視カウンタの設定を更新する。	UpdatePerformanceCounter CreateAgentVM ReconfigureAgentVM ProvisionPhysicalServer ReconfigurePhysicalServer	管理サーバ
ReconfigureVM(Sub)	40001010	VM の再構成を行う。	ReconfigureAgentVM ReconfigureAgentlessVM	管理サーバ
DeletePerformanceData	40001011	性能情報を削除する。	DeleteAgentVM DeletePhysicalServer	管理サーバ
DeleteConstructionInfo	40001012	構成情報を削除する。(階層化されている場合は、接続されているマネージャからも削除する)	DeleteAgentVM DeletePhysicalServer	管理サーバ
DeleteTopologyInfo	40001013	トポロジに登録されているエージェント情報を削除する。	DeleteAgentVM DeletePhysicalServer	管理サーバ
MatchTenantID	40001014	エージェントの振り分け先を決定するために、テナント ID と UUID を通知する。	CreateAgentVM ProvisionPhysicalServer	管理サーバ
WriteFileDistributionID	40001015	配布のタスク ID をファイルに書き込む。	CreateAgentVM ReconfigureAgentVM ProvisionPhysicalServer ReconfigurePhysicalServer	管理サーバ
PreCreateAgentVMOperation	40001016	VM 生成前(エージェントあり)のオプション処理を行う。	CreateAgentVM	広域管理サーバ
PostCreateAgentVMOperation	40001017	VM 生成後(エージェントあり)のオプション処理を行う。	CreateAgentVM	広域管理サーバ
PreReconfigureAgentVMOperation	40001018	VM 再構成前(エージェントあり)のオプション処理を行う。	ReconfigureAgentVM	広域管理サーバ
PostReconfigureAgentVMOperation	40001019	VM 再構成後(エージェントあり)のオプション処理を行う。	ReconfigureAgentVM	広域管理サーバ
PreDeleteAgentVMOperation	40001020	VM 削除前(エージェントあり)のオプション処理を行う。	DeleteAgentVM	広域管理サーバ
PostDeleteAgentVMOperation	40001021	VM 削除後(エージェントあり)のオプション処理を行う。	DeleteAgentVM	広域管理サーバ

シナリオ名	シナリオ ID	処理概要	呼び出し元シナリオ名	実行階層
GetHostInfo	40001022	生成した VM のホスト情報を取得する。	CreateAgentVM CreateAgentlessVM ReconfigureAgentVM ReconfigureAgentlessVM ProvisionPhysicalServer ReconfigurePhysicalServer	管理サーバ
DeleteTemporaryFile	40001023	一時ファイルの削除を行う。	CreateAgentVM CreateAgentlessVM ReconfigureAgentVM ReconfigureAgentlessVM ProvisionPhysicalServer ReconfigurePhysicalServer DistributionMW MatchAsset SendVLANInfo SetStaticRoute	広域管理サーバ 管理サーバ
SetStaticRoute	40001024	管理サーバとエージェントが通信するために VM にスタティックルートを設定する。	CreateAgentVM ProvisionPhysicalServer	管理サーバ
WindowsOS Activation	40001025	生成した VM の OS アクティベーションを実施する。	CreateAgentVM ProvisionPhysicalServer	管理サーバ
CreateAgent VM	40001026	エージェントがインストールされた VM を生成し、マネージャとの通信設定、ライセンスキーの紐付け、ソフトウェアの配布、性能監視設定を行う。	CreateVM	広域管理サーバ
Reconfigure AgentVM	40001027	VM を再構成し、ライセンスキーの紐付け、ソフトウェアの配布、性能監視設定の更新を行う。	ReconfigureVM	広域管理サーバ
DeleteAgent VM	40001028	VM を削除する。性能情報及び構成情報も削除する。	DeleteVM	広域管理サーバ
CreateSSC Operation Group	40001029	SSC のグループを作成し、リソースプールを割り当てる。	CreateAgentVM CreateAgentlessVM ProvisionPhysicalServer	管理サーバ
SendVLANInfo	40001030	事業者管理 VLAN 情報を取得する。	CreateAgentVM ProvisionPhysicalServer	広域管理サーバ
LinuxSubscription Activation	40001031	生成した VM の OS アクティベーションを実施する。	CreateAgentVM ProvisionPhysicalServer	管理サーバ
CreateAgentlessVM	40001032	VM の生成、ライセンスキーの紐付けを行う	CreateVM	広域管理サーバ
DeleteAgentlessVM	40001033	VM の削除を行う	DeleteVM	広域管理サーバ
PostCreateAgentlessVM Operation	40001036	VM 生成（エージェントなし）後のオプション処理を行う	CreateAgentlessVM	広域管理サーバ
PostDeleteAgentlessVM Operation	40001037	VM 削除（エージェントなし）後のオプション処理を行う	DeleteAgentlessVM	広域管理サーバ
PostCreateVM Operation	40001038	VM 生成後のオプション処理を行う	CreateVM	広域管理サーバ

シナリオ名	シナリオ ID	処理概要	呼び出し元シナリオ名	実行階層
Reconfigure Agentless VM	40001039	VM の再構成を行う	ReconfigureVM	広域管理サーバ
PreReconfigureVMOperation	40001040	VM 再構成前のオプション処理を行う	ReconfigureVM	広域管理サーバ
PreReconfigureAgentlessVMOperation	40001041	VM 再構成（エージェントなし）前のオプション処理を行う	ReconfigureAgentlessVM	広域管理サーバ
PreDeleteAgentlessVMOperation	40001042	VM 削除（エージェントなし）前のオプション処理を行う	DeleteAgentlessVM	広域管理サーバ
PreCreateVMOperation	40001043	VM 生成前のオプション処理を行う	CreateVM	広域管理サーバ
PreCreateAgentlessVMOperation	40001044	VM 生成（エージェントなし）前のオプション処理を行う	CreateAgentlessVM	広域管理サーバ
PostReconfigureVMOperation	40001045	VM 再構成後のオプション処理を行う	ReconfigureVM	広域管理サーバ
PostReconfigureAgentlessVMOperation	40001046	VM 再構成（エージェントなし）後のオプション処理を行う	ReconfigureAgentlessVM	広域管理サーバ
PreDeleteVMOperation	40001047	VM 削除前のオプション処理を行う	DeleteVM	広域管理サーバ
PostDeleteVMOperation	40001048	VM 削除後のオプション処理を行う	DeleteVM	広域管理サーバ
GetUUID	40001056	UUID を取得する	CreateAgentVM	広域管理サーバ

[シナリオ制御ビュー] - [Automation] - [Automatic] - [Network]直下にあるワークフローテンプレートの概要は以下になります。これらのテンプレートは、サービスガバナーのワークフロー実行 API から実行します。

シナリオ名	シナリオ ID	処理概要	実行階層
CreateConnectPort	40030024	データセンタ間の NW へ接続するためのネットワーク情報を設定する。	広域管理サーバ
CreateGeneralDev	40030021	汎用装置に接続するためのネットワーク情報を設定する。	広域管理サーバ
CreateTenantFW	40030019	ファイアウォールの設定を行う。	広域管理サーバ
CreateTenantLB	40030003	ロードバランサの設定を行う。	広域管理サーバ
CreateTenantNW	40030001	テナントネットワークの設定を行う。	広域管理サーバ

シナリオ名	シナリオ ID	処理概要	実行階層
CreateVLAN	40030002	ネットワーク機器に対して VLAN 作成を行う。	広域管理サーバ
DeleteConnect Port	40030025	データセンタ間の NW へ接続するためのネットワーク情報を削除する。	広域管理サーバ
DeleteGeneral Dev	40030022	汎用装置に接続するためのネットワーク情報を削除する。	広域管理サーバ
DeleteNAT	40030011	NAT 情報を削除する。	広域管理サーバ
DeletePhysial ServerNW	40030012	物理サーバ用ネットワーク設定を削除する。	広域管理サーバ
DeleteSSL-VPN	40030017	SSL-VPN 情報を削除する。	広域管理サーバ
DeleteTenantFW	40030020	ファイアウォールの設定を削除する。	広域管理サーバ
DeleteTenantLB	40030006	ロードバランサの設定を削除する。	広域管理サーバ
DeleteTenantNW	40030016	テナントネットワークの設定を削除する。	広域管理サーバ
DeleteVLAN	40030018	ネットワーク機器に対して VLAN を削除する。	広域管理サーバ
DisableTenant NW	40030014	テナントネットワークの設定を無効化する。	広域管理サーバ
EnableTenant NW	40030015	テナントネットワークの設定を有効化する。	広域管理サーバ
SettingFWPolicy	40030026	FW のポリシーを設定する。	広域管理サーバ
SettingNAT	40030005	NAT 情報を設定する。	広域管理サーバ
SettingPhysial ServerNW	40030007	物理サーバ用ネットワーク設定を行う。	広域管理サーバ
SettingPodContractionNW	40030023	テナント用 NW の Pod 間連携による縮退を行う。	広域管理サーバ
SettingPodExpansionNW	40030008	テナント用 NW の Pod 間連携による拡張を行う。	広域管理サーバ
SettingSSL-VPN	40030004	SSL-VPN 情報を設定する。	広域管理サーバ
UpdatePhysial ServerNW	40030013	物理サーバ用ネットワーク設定の更新を行う。	広域管理サーバ
UpdateTenant FW	40030009	ファイアウォールの設定を更新する。	広域管理サーバ
UpdateTenant LB	40030010	ロードバランサの設定を更新する。	広域管理サーバ

[シナリオ制御ビュー]-[Automation]-[Automatic]-[Network]-[SubScenario]配下にある 以下のワークフローテンプレート(サブシナリオ)は、[Network]直下にあるワークフローテンプレート、および他のサブシナリオから呼び出します。

シナリオ名	シナリオ ID	処理概要	呼び出し元シナリオ名	実行階層
CheckNWA ErrorMessage	40031029	リソース予約のエラー判定を行う。	CreateVM	広域管理 サーバ
Committing NWAOperation	40031031	リソース予約の確定を行う。	CreateVM	広域管理 サーバ
CreateTenantFW(Set)	40031019	ファイアウォールの設定を行う。	CreateTenantFW	広域管理 サーバ
CreateTenantFW(Sub)	40031018	ファイアウォール用のネットワークの設定を行う。	CreateTenantFW(Set) SettingAllVLAN	広域管理 サーバ
CreateTenantLB(Set)	40031015	ロードバランサおよびロードバランサ用のネットワークの設定を行う。	CreateTenantLB	広域管理 サーバ
CreateTenantLB(Sub)	40031005	ロードバランサの設定を行う。	CreateTenantLB(Set) UpdateTenantLB DeleteTenantLB SettingAllVLAN	広域管理 サーバ
CreateTenantNW(Set)	40031014	テナントネットワークの設定を行う。	CreateTenantNW	広域管理 サーバ
CreateVLAN(Set)	40031027	VLAN の設定を行う。	CreateVLAN	広域管理 サーバ
CreateVLAN(Sub)	40031004	仮想インタフェースの設定を行う。	CreateVLAN(Set) CreateTenantNW(Set) SettingAllVLAN	広域管理 サーバ
DeleteReservationFile	40031032	リソース予約ファイルの削除を行う。	CreateVLAN(Sub) DeleteVLAN(Sub) SettingNWDevice SettingPodExpansionNW(Sub) SettingPodContractionNW(Sub) SettingUNCInfo	管理サーバ
DeleteTenantFW(Sub)	40031028	テナントネットワークの削除を行う。	DeleteTenantFW SettingAllVLAN	広域管理 サーバ
DeleteVLAN(Sub)	40031026	仮想インタフェースの削除を行う。	DeleteTenantNW SettingAllVLAN	広域管理 サーバ
DoingNWA Operation	40031030	VM 作成時に Pod 間連携による拡張を行う。	CreateVM DeleteVM ReconfigureVM ReconfigureAgentVM ReconfigureAgentlessVM	広域管理 サーバ
EnableTenantNW(Set)	40031022	テナントネットワークの有効化を行う。	EnableTenantNW	広域管理 サーバ
NWCommonScenario	40031013	ネットワーク機器の台数を検索して、設定を行う。	DeleteNAT DeleteSSL-VPN DeleteTenantFW DeleteTenantFW(Sub) DeleteTenantLB DeleteTenantNW DisableTenantNW SettingAllVLAN CreateTenantFW(Set) CreateTenantFW(Sub) CreateTenantLB(Sub)	広域管理 サーバ

シナリオ名	シナリオ ID	処理概要	呼び出し元シナリオ名	実行階層
			CreateTenantNW(Set) CreateVLAN(Set) CreateVLAN(Sub) DeleteVLAN(Sub) EnableTenantNW(Set) SettingNAT(Set) SettingPhysicalServerL2S W SettingPodExpantionNW(S ub) SettingPodContractionNW(Sub) SettingSSL-VPN(Set) UpdateTenantFW(Sub)	
SettingAllV LAN	40031001	ネットワーク機器分のループを行い、 設定を行う。	DeletePhyisalServerNW DeleteTenantFW DeleteTenantLB DeleteTenantNW DeleteVLAN DisableTenantNW SettingPhyisalServerNW SettingPodExpantionNW SettingPodContractionNW CreateTenantFW(Set) CreateTenantLB(Set) CreateVLAN(Set) EnableTenantNW(Set) UpdatePhyisalServerNW UpdateTenantFW UpdateTenantLB	広域管理 サーバ
SettingFWP olicy(AddrG rp)	40031036	FW ポリシー（アドレスグループ）の 設定を行う。	SettingFWPolicy	管理サーバ
SettingFWP olicy(Addr Mbr)	40031037	FW ポリシー（アドレスメンバ）の設 定を行う。	SettingFWPolicy(AddrGrp)	管理サーバ
SettingFWP olicy(NAT)	40031040	FW ポリシー（NAT）の設定を行う。	SettingFWPolicy	管理サーバ
SettingFWP olicy(Route)	40031039	FW ポリシー（経路情報）の設定を行 う。	SettingFWPolicy	管理サーバ
SettingFWP olicy(Rule)	40031041	FW ポリシー（ルール）の設定を行う。	SettingFWPolicy	管理サーバ
SettingFWP olicy(Servic e)	40031038	FW ポリシー（サービス）の設定を行 う。	SettingFWPolicy	管理サーバ
SettingFWP olicy(Sub)	40031042	FW ポリシーの設定を行う。	SettingFWPolicy(AddrGrp) SettingFWPolicy(AddrMbr) SettingFWPolicy(NAT) SettingFWPolicy(Route) SettingFWPolicy(Rule) SettingFWPolicy(Service)	管理サーバ
SettingGene ralDevice	40031008	ネットワーク機器への設定を行う。	SettingNWDevice	管理サーバ

シナリオ名	シナリオ ID	処理概要	呼び出し元シナリオ名	実行階層
SettingLB	40031010	ロードバランサ(BIG-IP) の設定を行う。	SettingNWDevice	管理サーバ
SettingLB(A10)	40031021	ロードバランサ(A10)の設定を行う。	SettingLB	管理サーバ
SettingNAT(Set)	40031017	NAT 設定を行う。	SettingNAT	広域管理サーバ
SettingNWDevice	40031007	ネットワーク機器の冗長機器分の設定を行う。	NWCommonScenario SettingNWDeviceGroup	広域管理サーバ
SettingNWDeviceGroup	40031006	ネットワーク機器の冗長装置のグループに対して設定を行う。	NWCommonScenario	広域管理サーバ
SettingPFC	40031009	PFC の設定を行う。	SettingNWDevice	管理サーバ
SettingPhysicalServerL2SW	40031002	物理サーバ用 L2 スイッチの設定を行う。	DeletePhysicalServerNW SettingAllVLAN	広域管理サーバ
SettingPodContractionNW(Sub)	40031033	テナント用ネットワークの Pod 間連携による縮退を行う。	SettingPodContractionNW SettingAllVLAN	広域管理サーバ
SettingPodExpansionNW(Sub)	40031003	テナント用ネットワークの Pod 間連携による拡張を行う。	SettingPodExpansionNW SettingAllVLAN	広域管理サーバ
SettingRoute	40031012	経路情報を設定する。	CreateVLAN(Sub) DeleteVLAN(Sub) SettingPodExpansionNW(Sub) SettingPodContractionNW(Sub)	管理サーバ
SettingSSC	40031011	SSC の設定を行う。	SettingNWDevice	管理サーバ
SettingSSL-VPN(Set)	40031016	SSL-VPN 装置の設定を行う。	SettingSSL-VPN	広域管理サーバ
SettingUNC	40031023	UNC の設定を行う。	SettingUNCInfo(Sub)	管理サーバ
SettingUNCInfo	40031024	UNC に設定する情報の検索を行う。	DeleteTenantNW DeleteVLAN SettingPodExpansionNW SettingPodContractionNW CreateTenantNW(Set) CreateVLAN(Set)	広域管理サーバ
SettingUNCInfo(Sub)	40031025	UNC に設定する情報の決定を行う。	SettingUNCInfo	広域管理サーバ
SettingUNCInfo(Sub)_vNode	40031034	UNC に設定する vNode の情報の決定を行う。	SettingUNCInfo(Sub)	広域管理サーバ
UpdateTenantFW(Sub)	40031020	テナントネットワークの更新を行う。	UpdateTenantFW SettingAllVLAN	広域管理サーバ
WaitNWAOperation	40031035	同時実行の待ち合わせ処理を行う。	DeleteVM	広域管理サーバ

[シナリオ制御ビュー]-[Automation]-[Automatic]-[SWRepository]-[SubScenario]配下にある以下のワークフローテンプレート(サブシナリオ)は、[VMTemplate]直下にあるワークフローテンプレート、および他のサブシナリオから呼び出します。

シナリオ名	シナリオ ID	処理概要	呼び出し元シナリオ名	実行階層
GetSWRepositoryConfig	40041009	ソフトウェアリポジトリの環境設定を取得する	CreateTemplate GetTemplateList RegisterTemplate	管理サーバ

[シナリオ制御ビュー] - [Automation] - [Automatic] - [VMTemplate]直下にあるワークフローテンプレートの概要は以下になります。これらのテンプレートは、サービスガバナーのワークフロー実行 API から実行します。

シナリオ名	シナリオ ID	処理概要	実行階層
CreateTemplate	40060001	VM テンプレートの作成を行う。	広域管理サーバ
GetTemplateList	40060002	VM テンプレートの情報を収集し、VM テンプレートの一覧を取得する	広域管理サーバ
DeleteTemplate	40060003	VM テンプレートの削除を行う	広域管理サーバ

[シナリオ制御ビュー]-[Automation]-[Automatic]-[VMTemplate]-[SubScenario]配下にある以下のワークフローテンプレート(サブシナリオ)は、[VMTemplate]直下にあるワークフローテンプレート、[VM]配下にある CreateVM、[Manual]配下にある RegisterTemplateByUser、および他のサブシナリオから呼び出します。

シナリオ名	シナリオ ID	処理概要	呼び出し元シナリオ名	実行階層
CreateTemplate(Sub)	40061001	VM テンプレートの作成を行う	CreateTemplate	管理サーバ
RegisterTemplate	40061002	VM テンプレート共有機能により、VM テンプレートの登録を行う	CreateVM RegisterTemplateByUser	広域管理サーバ
RegisterTemplate(Sub)	40061003	VM テンプレート共有機能により、管理サーバに VM テンプレートの登録を行う	RegisterTemplate	管理サーバ
GetTemplateList(Sub)	40061004	VM テンプレートの一覧の取得を行う	GetTemplateList	管理サーバ
DeleteTemplateReq	40061005	VM テンプレートの削除を要求する	—	広域管理サーバ
DeleteTemplate(Sub)	40061006	VM テンプレートの削除を行う	DeleteTemplateReq	管理サーバ
GetTemplateLocation	40061007	VM テンプレートの格納先情報の取得を行う	RegisterTemplate	管理サーバ

[シナリオ制御ビュー] - [Automation] - [Automatic] - [Physical]直下にあるワークフローテンプレートの概要は以下になります。これらのテンプレートは、サービスガバナーのワークフロー実行 API から実行します。

シナリオ名	シナリオ ID	処理概要	実行階層
ProvisionPhysicalServer	40070001	物理サーバを払い出し、スタティックルートの設定、ライセンスキーの紐付け、ソフトウェアの配布を行う。	広域管理サーバ
DeletePhysicalServer	40070002	物理サーバを削除する。性能情報及び構成情報も削除する。	広域管理サーバ
ReconfigurePhysicalServer	40070003	物理サーバを再構成し、ライセンスキーの紐付け、ソフトウェアの配布、性能監視設定の更新を行う。	広域管理サーバ

[シナリオ制御ビュー]-[Automation]-[Automatic]-[Physical]-[SubScenario]配下にある以下のワークフローテンプレート(サブシナリオ)は、[Physical]直下にあるワークフローテンプレート、および他のサブシナリオから呼び出します。

シナリオ名	シナリオ ID	処理概要	呼び出し元シナリオ名	実行階層
PreCreateAgentOperation	40071001	物理サーバ追加前のオプション処理を行う。	ProvisionPhysicalServer	広域管理サーバ
PostCreateAgentOperation	40071002	物理サーバ追加後のオプション処理を行う。	ProvisionPhysicalServer	広域管理サーバ
PreDeleteAgentOperation	40071003	物理サーバ削除前のオプション処理を行う。	DeletePhysicalServer	広域管理サーバ
PostDeleteAgentOperation	40071004	物理サーバ削除後のオプション処理を行う。	DeletePhysicalServer	広域管理サーバ
DeletePhysicalServer(Sub_GM)	40071005	物理サーバの削除を行う。	DeletePhysicalServer	広域管理サーバ
DeletePhysicalServer(Sub_MoM)	40071006	物理サーバの削除を行う。	DeletePhysicalServer(Sub_GM)	管理サーバ
ProvisionPhysicalServer(Sub_GM)	40071007	物理サーバの払い出しを行う。	ProvisionPhysicalServer	広域管理サーバ
ProvisionPhysicalServer(Sub_MoM)	40071008	物理サーバの払い出しを行う。	ProvisionPhysicalServer(Sub_GM)	管理サーバ
ReconfigurePhysicalServer(Sub_GM)	40071009	物理サーバの再構成を行う。	ReconfigurePhysicalServer	広域管理サーバ
ReconfigurePhysicalServer(Sub_MoM)	40071010	物理サーバの再構成を行う。	ReconfigurePhysicalServer(Sub_GM)	管理サーバ
PreReconfigureAgentOperation	40071011	物理サーバ再構成前のオプション処理を行う。	ReconfigurePhysicalServer	広域管理サーバ
PostReconfigureAgentOperation	40071012	物理サーバ再構成後のオプション処理を行う。	ReconfigurePhysicalServer	広域管理サーバ

[シナリオ制御ビュー]-[Automation]-[Manual]配下にあるワークフローテンプレートの概要は以下になります。これらのテンプレートは、広域管理サーバに接続した監視端末から、手動で実行を行います。

シナリオ名	シナリオ ID	処理概要	実行階層
UpdatePerformanceCounter	40000004	VM 監視設定の更新を行う	広域管理サーバ
CreateDiskVolume(Sub)	40011001	ディスクボリュームを作成する	広域管理サーバ
RegisterTemplateByUser	40060004	VM テンプレート共有機能により、管理サーバに VM テンプレートの登録を行う	広域管理サーバ

第2章 ワークフローの確認方法

サービスポータルからワークフローの実行を要求した場合、広域管理サーバ上のワークフローが実行されます。

シナリオ実行 ID(要求 ID)の特定方法は、サービスポータルにより異なります。

シナリオ実行 ID(要求 ID) は、「シナリオ ID(16 進 8 桁)」、「インスタンス実行日(YYYYMMDD)」、「インスタンス ID(10 進 5 桁)」を組み合わせて構成されており、以下の形式になっています。

<シナリオ ID>+<インスタンス実行日>+<インスタンス ID>

シナリオの実行結果を確認する際は、シナリオ実行 ID(要求 ID)の内容を元に、広域管理サーバで実行されたインスタンスを特定し、確認してください。

例) シナリオ実行 ID(要求 ID)が「400000012013010100001」となっている場合、以下のインスタンスが実行されていることが分かります。

- シナリオ ID=40000001 (VM 生成)
- インスタンス実行日=2013/01/01
- インスタンス ID=1

第3章

各種ワークフローテンプレートの詳細

目次

3.1 VM（仮想マシン）	17
3.2 VM テンプレート	105
3.3 物理サーバ	133
3.4 ソフトウェアリポジトリ	175
3.5 ネットワーク	176
3.6 ストレージ	397
3.7 VM（仮想マシン）（手動）	410
3.8 VM テンプレート（手動）	412
3.9 ソフトウェアリポジトリ（手動）	414
3.10 ストレージ（手動）	422

3.1 VM（仮想マシン）

本節では、VM プロビジョニングに使用するワークフローテンプレートの詳細について記載します。

3.1.1 VM 生成

- シナリオ名

CreateVM

- 処理概要

VM の生成を行う

また、NW オートメーション機能を使用する場合は、Pod の拡張を行う

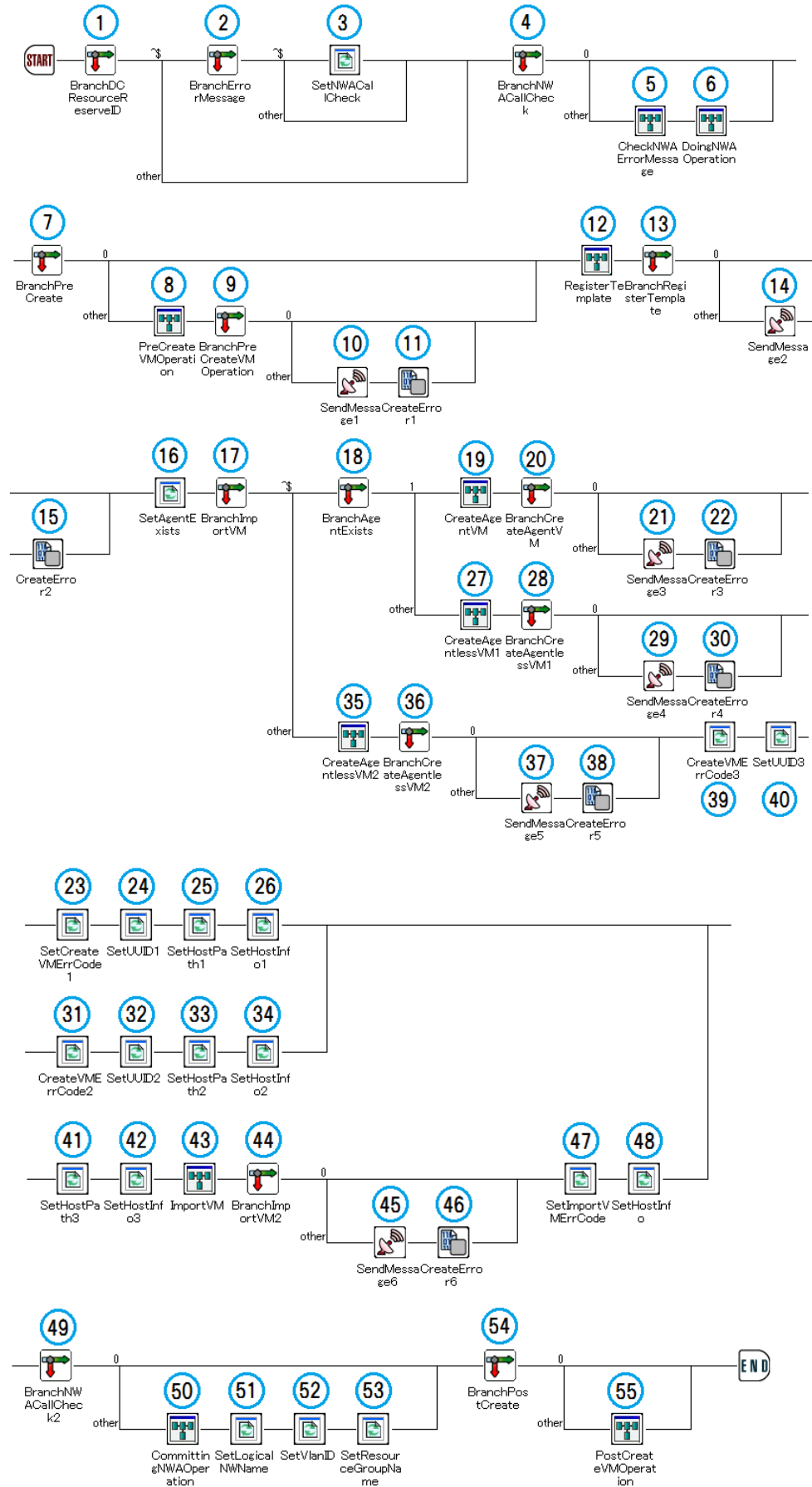
また、ワークフローが異常終了した場合、障害復旧に必要な情報をビジネスビューに表示する

- 実行条件

リソースプールに、生成する VM を作成できるだけの空きがあること

※エージェントがインストールされている VM を生成する場合、VM テンプレートにエージェントがインストールされている必要があります。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	DC リソース管理の予約 ID が設定されているかどうか判断		
2	エラーメッセージが設定されているかどうか判断		
3	NW オートメーションのシナリオを呼び出さないように設定		
4	NW オートメーションのシナリオを呼び出すかどうか判断		
5	予約エラー判定を実行 (サブシナリオ CheckNWAErrorMessage を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照し対処後、再度サービスリクエストする。
6	VM 用 NW の Pod 間連携による拡張を実行 (サブシナリオ DoingNWAOperation を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照し対処後、再度サービスリクエストする。
7	VM 生成前のオプション処理を行うかどうか判断		
8	VM 生成前にオプション処理を実行 (サブシナリオ PreCreateVMOperation を実行)	継続実行	
9	VM 生成前のオプション処理の実行結果で判断		
10	メッセージを送信する ※メッセージ内容については、「メッセージ詳細」を参照		
11	部品の強制終了※VM 生成前のオプション処理に失敗した場合、強制終了	フロー停止	
12	VM テンプレートを管理サーバに登録(サブシナリオ RegisterTemplate を実行)	継続実行	
13	VM テンプレート登録の実行結果で判断		
14	メッセージを送信する ※メッセージ内容については、「メッセージ詳細」を参照		
15	部品の強制終了 ※VM テンプレート登録に失敗した場合、強制終了	フロー停止	「異常終了時の対処」を参照後、再度サービスリクエストする。
16	エージェントの有無情報を設定※VM テンプレート ID、VM テンプレート名のどちらも指定されていない場合、または指定されていても VM テンプレートの情報がデータベースに存在しない場合はエージェントありとして動作		
17	VM インポートを行うかどうか判断		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
18	VM にエージェントがインストールされているかどうか判断		
19	VM 生成(エージェントあり)を実行 (サブシナリオ CreateAgentVM を実行)	継続実行	
20	VM 生成(エージェントあり)の実行結果で判断		
21	メッセージを送信する ※メッセージ内容については、「メッセージ詳細」を参照		
22	部品の強制終了 ※VM 生成(エージェントあり)に失敗した場合、強制終了	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、VM 削除、登録情報の削除後に、再度サービスリクエストする。
23	VM 生成時の HTTP ステータスコードを設定		
24	生成した VM の UUID を設定		
25	生成した VM のホストパスを設定		
26	生成した VM のホスト情報を設定		
27	VM 生成(エージェントなし)を実行 (サブシナリオ CreateAgentlessVM を実行)	継続実行	
28	VM 生成(エージェントなし)の実行結果で判断		
29	メッセージを送信する ※メッセージ内容については、「メッセージ詳細」を参照		
30	部品の強制終了 ※VM 生成(エージェントなし)に失敗した場合、強制終了	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、VM 削除、登録情報の削除後に、再度サービスリクエストする。
31	VM 生成時の HTTP ステータスコードを設定		
32	生成した VM の UUID を設定		
33	生成した VM のホストパスを設定		
34	生成した VM のホスト情報を設定		
35	VM 生成(エージェントなし)を実行 (サブシナリオ CreateAgentlessVM を実行)	継続実行	
36	VM 生成(エージェントなし)の実行結果で判断		
37	メッセージを送信する ※メッセージ内容については、「メッセージ詳細」を参照		
38	部品の強制終了 ※VM 生成(エージェントなし)に失敗した場合、強制終了	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、VM 削除、登録情報の削除後に、再度サービスリクエストする。

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
39	VM 生成時の HTTP ステータスコードを設定		
40	生成した VM の UUID を設定		
41	生成した VM のホストパスを設定		
42	生成した VM のホスト情報を設定		
43	VM インポートを実行 (サブシナリオ ImportVM を実行) (本バージョンでは使用しません)	継続実行	
44	VM インポートの実行結果で判断		
45	メッセージを送信する ※メッセージ内容については、「メッセージ詳細」を参照		
46	部品の強制終了 ※VM インポートに失敗した場合、強制終了	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、VM 削除、登録情報の削除後に、再度サービスリクエストする。
47	VM インポート時のエラーコードを設定		
48	生成した VM のホスト情報を設定		
49	NW オートメーションのシナリオを呼び出すかどうか判断		
50	予約確定処理を実行 (サブシナリオ CommittingNWAOperation を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、VM 削除、登録情報の削除後に、 「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」 を参照し対処後、再度サービスリクエストする。
51	払い出し VLAN 情報の格納		
52			
53			
54	VM 生成後のオプション処理を行うかどうか判断		
55	VM 生成後にオプション処理を実行 (サブシナリオ PostCreateVMOOperation を実行)	フロー停止	

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力*3	説明
CreateHostInfo	文字列	○		入力	SSC の VM 作成 API を使用するための JSON 形式の文字列
TenantID	文字列	○		入力	テナント ID
UUID	文字列			出力	生成した VM の UUID
HostPath	文字列			出力	SSC に登録されたホストパス
OSType	文字列		0	入力	OS 種別 1 : Windows

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力 ^{*3}	説明
					2 : Linux ※OS アクティベーションを行う場合は指定が必要です。 ※OS アクティベーション時に異なる OS 種別を指定した場合、VM は生成されますがアクティベーションされません。
AGHostName	文字列			入力	ホスト名 ※エージェントがインストールされていない VM を生成する場合は、省略可能です。 ※エージェントがインストールされている VM を生成する際、生成対象のホスト名と異なるホスト名を指定した場合はエージェント情報が取得できないため、VM 生成に失敗します。
ManagerName	文字列	*2		入力	管理サーバ名
ResourcePoolName	文字列	*2		入力	SSC 運用グループバスに割り当てるリソースプール名
CreateVMErrCode	文字列			出力	VM 生成の HTTP ステータスコード
HostInfo	文字列			出力	生成した VM のホスト情報
HyperVisorType	文字列			入力	VM テンプレートの HyperVisor の種別 ※省略された場合は VMware が指定されたものとして扱います。 Hyper-V/KVM の場合は指定必須です。
EndCategoryName	文字列	*2		入力	SSC 運用グループに設定するカテゴリ名
VMTemplateID	文字列			入力	VM テンプレート ID ※省略されている場合は、VM テンプレート名が使用されます。 ※VM テンプレート ID および VM テンプレート名が共に省略されている場合は、VM テンプレート共有を行わない環境として VM が生成されます。 ※CreateHostInfo に指定する VM テンプレートと異なる VM テンプレートを指定した場合、VM 生成に失敗またはエージェントに関する設定が行われていない VM が生成される場合があります。
VMTemplateName	文字列			入力	VM テンプレート名 (SSC に登録している VM テンプレート名) ※VM テンプレート ID が指定されている場合は、VM テンプレート名は使用されません。VM テンプレ

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力*3	説明
					レート ID および VM テンプレート名が共に省略されている場合は、VM テンプレート共有を行わない環境として VM が生成されます。 ※CreateHostInfo に指定する VM テンプレートと異なる VM テンプレートを指定した場合、VM 生成に失敗またはエージェントに関する設定が行われていない VM が生成される場合があります。
VMImageName	文字列			入力	VM イメージ名 ※VM インポートを使用する場合は指定が必要です。 ※TenantID に指定したテナント管理者が登録していない VM イメージ名を指定した場合、VM インポートに失敗します。 (本バージョンでは使用しません)
ImportVMErrCode	文字列		0	出力	VM インポート時のエラーコード 0 : エラーなし 1 : VM インポートに失敗 (本バージョンでは使用しません)
AgentExists	文字列				エージェントの有無情報 0 : エージェントなし 1 : エージェントあり
RootCategoryName	文字列			入力	SSC 運用グループに設定するルートカテゴリ名
GroupNameWindows	文字列			入力	SSC 上の WindowsVM が格納される運用グループ名 ※Windows の運用グループを作成する場合は、必須です。
GroupNameLinux	文字列			入力	SSC 上の LinuxVM が格納される運用グループ名 ※Linux の運用グループを作成する場合は、必須です。
ModelName	文字列			入力	SSC 上の運用グループに設定するモデル名 ※運用グループを作成する場合は、必須です。
ModelType	文字列			入力	SSC 上の運用グループに設定するモデル種別 ※運用グループを作成する場合は、必須です。
DPMMgrIPAddress	文字列			入力	DPM Manager の IP アドレス
LogicalAssetIDList	文字列			入力	ライセンスキー番号 ※ライセンスの登録を行う場合は指定が必要です。

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力*3	説明
LogicalAssetIndexList	文字列			入力	ライセンスキーのインデックス番号 ※LogicalAssetIDList を指定する場合は指定が必要です。 ※既に紐付け済み、または払い出されていないインデックス番号を指定した場合はライセンスキーの紐付けに失敗します。
DistributionNameList	文字列			入力	配布のタスク名 ※ソフトウェア配布を行う場合は、必須です。
DistributionVerList	文字列			入力	配布のバージョン名 ※DistributionNameList を指定する場合は、必須です。
GroupPath	文字列			出力	生成した VM のグループ名
DCResourceReserveID	文字列			出力	DC リソースの予約 ID
ErrorMessage	文字列			出力	サービスガバナーのエラーメッセージ ※エラーメッセージの詳細は、「 3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ) 」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
NWACallCheck	整数		1		NW オートメーションシナリオの呼び出しチェック 0：呼び出さない 1：呼び出す
LogicalNWName	文字列			出力	払い出し論理ネットワーク名
VlanID	文字列			出力	払い出し VLAN ID
ResourceGroupName	文字列			出力	DC リソースグループ名
MoveAsset	整数		0	入力	資産移動を行うかどうか 0：資産移動を行わない 1：資産移動を行う
SpecifiedManager	文字列			入力	接続先 VM 監視サーバ名
RequestMakeGroupPath	文字列			入力	SSC 運用グループを作成するかどうか 0：作成不要 1：作成必要

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

*2 本パラメータは、サービスガバナーにより、自動で指定されます。サービスガバナーを経由せず、シナリオコマンド等で実行する場合は、本パラメータを指定してください。

*3 入出力欄に入力の記載のないローカルオブジェクトは、値を設定すると誤動作を起こす可能性があります。

- グローバルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	説明
vDCA_PreCreateVMFlag	整数		0	VM 生成前のオプション処理実施有無 0：オプション処理を実施しない 1：オプション処理を実施する
vDCA_PostCreateVMFlag	整数		0	VM 生成後のオプション処理実施有無 0：オプション処理を実施しない 1：オプション処理を実施する

- メッセージ詳細：

ワークフローが異常終了した場合、以下のメッセージをビジネスビューに表示します。

- カテゴリ：Unified Management Framework
- 重要度：警告
- アプリケーション：vDCAutomation
- オブジェクト：Scenario
- メッセージ ID：下記参照
- メッセージテキスト：下記参照

メッセージ ID	障害原因	メッセージテキストの内容
00759101	VM 生成前にオプション処理に失敗	VM provisioning Error. rid=DC リソースの予約 ID ResourcePoolName=リソースプール名 ManagerName=管理サーバ名
00759102	VM テンプレート登録に失敗	VM provisioning Error. rid=DC リソースの予約 ID ResourcePoolName=リソースプール名 ManagerName=管理サーバ名
00759103	VM 生成(エージェントあり)に失敗	VM provisioning Error. rid=DC リソースの予約 ID ResourcePoolName=リソースプール名 ManagerName=管理サーバ名 UUID=生成した VM の UUID GUID=生成した VM の GUID AgentName=エージェント名 LowerManagerName=VM 監視サーバ名
00759104	VM 生成(エージェントなし)に失敗	VM provisioning Error. rid=DC リソースの予約 ID ResourcePoolName=リソースプール名 ManagerName=管理サーバ名 UUID=生成した VM の UUID
00759105	VM インポートの場合の VM 生成 (エージェントなし) に失敗 (本バージョンでは使用しません)	VM provisioning Error. rid=DC リソースの予約 ID ResourcePoolName=リソースプール名 ManagerName=管理サーバ名 UUID=生成した VM の UUID
00759106	VM インポートに失敗 (本バージョンでは使用しません)	VM provisioning Error. rid=DC リソースの予約 ID ResourcePoolName=リソースプール名 ManagerName=管理サーバ名 UUID=生成した VM の UUID

- 異常終了時の復旧手順

ワークフローの異常終了時は、以下の手順で復旧を行ってください。管理サーバの確認や SSC の操作を行う場合は、ローカルオブジェクト「**ManagerName**」で指定されている管理サーバに接続してください。

[CreateAgentVM 部品で異常終了している場合]

1. SSC でのマシン生成に成功しているか確認します。

(サブシナリオ「CreateAgentVM」の「CreateVirtualMachine」部品の状態を確認します。)

→部品の状態にかかわらず、管理サーバの SSC の管理コンソールに接続し、作成失敗したマシンの情報があれば削除します。

→正常終了の場合は 2 へ

正常終了以外の場合は 3 へ

2. 生成したマシンが vDC(管理サーバ/VM 監視サーバ)に接続できているか確認します。

→サブシナリオ「CreateAgentVM」の「GetAgentInfo」部品が正常終了し、管理サーバの統合トポロジビューに作成したマシンが登録されているか確認します。

※VM 監視サーバに VM が接続される場合は、サブシナリオ「CreateAgentVM」のローカルオブジェクト「**LowerManagerName**」で指定された VM 監視サーバの統合トポロジビューについても確認してください。

→生成したマシンが vDC Automation に接続されている場合は、「異常終了時の登録情報削除手順 1」に従って登録された情報の削除を行います。

3. 異常終了の原因対処後、VM 生成のサービスリクエストを再実行します。

[CreateAgentlessVM1 部品で異常終了している場合]

1. SSC でのマシン生成に成功しているか確認します。

(サブシナリオ「CreateAgentlessVM」の「CreateVirtualMachine」部品の状態を確認します。)

→部品の状態にかかわらず、管理サーバの SSC の管理コンソールに接続し、作成失敗したマシンの情報があれば削除します。

→正常終了の場合は 2 へ

正常終了以外の場合は 3 へ

2. ライセンスキーの紐付けに成功しているか確認します。

(サブシナリオ「CreateAgentlessVM」の「MatchAsset」部品の状態を確認します。)

→正常終了の場合は「異常終了時の登録情報削除手順 2」に従って登録された情報の削除を行います。

3. 異常終了の原因対処後、VM 生成のサービスリクエストを再実行します。

- 異常終了時の登録情報削除手順 1

1. 広域管理サーバの監視端末に接続し、「CreateAgentVM」シナリオのインスタンス一覧から実行失敗したインスタンスを選択し、右クリックメニューから「ローカルオブジェクト一覧」を選択します。
2. ローカルオブジェクト一覧の以下の情報を確認します。

AgentName

GUID

ManagerName

LowerManagerName

HostUUID

3. 「ManagerName」で指定されている管理サーバの監視端末に接続し、以下のシナリオを順に手動で実行します。手動実行の方法は、『MCOperations マニュアル』(chm ヘルプ)を参照してください。

各シナリオ実行時には、入力として 2 で確認したローカルオブジェクトの設定値を指定してください。

[VM] - [SubScenario] - [DeletePerformanceData]

[VM] - [SubScenario] - [DeleteConstructionInfo]

[VM] - [SubScenario] - [DeleteTopologyInfo]

4. 広域管理サーバのコマンドプロンプトを起動し、作業ディレクトリを「<GM のインストールパス>\Manager\bin」配下へ移動後に以下のコマンドを実行してください。<UUID>には、2 で確認した「HostUUID」の値を入力してください。

AsLogicalAssetCmd.exe /d <UUID>

5. 「DC リソースビュー」 - 「ソフトウェアリポジトリ」 - 「<ソフトウェアグループ>」ノードの「ライセンスキー一覧」から、払い出したライセンスキーを選択し、右クリックメニューの「ライセンスキーインデックス検索(S)」を選択します。
6. 「紐付け資産 ID」に 2 で確認した UUID を指定して検索を行い、検索結果で表示されたライセンスの右クリックメニューから「紐付け解除(U)」を選択します。

注

手順 5、6 は、サブシナリオ「CreateAgentVM」の[MatchAsset]部品を実行している場合に実施します。払い出しに成功した全ライセンスキーに対して実施してください。

- 異常終了時の登録情報削除手順 2

1. 広域管理サーバの監視端末に接続し、「CreateAgentlessVM」シナリオのインスタンス一覧から実行失敗したインスタンスを選択し、右クリックメニューから「ローカルオブジェクト一覧」を選択します。

- ローカルオブジェクト一覧の以下の情報を確認します。

HostUUID

- 「DC リソースビュー」 - 「ソフトウェアリポジトリ」 - 「<ソフトウェアグループ>」ノードの「ライセンスキー一覧」から、払い出したライセンスキーを選択し、右クリックメニューの「ライセンスキーインデックス検索(S)」を選択します。
- 紐付け資産 ID」に2で確認した UUID を指定して検索を行い、検索結果で表示されたライセンスの右クリックメニューから「紐付け解除(U)」を選択します。

注

手順3、4は、サブシナリオ「CreateAgentlessVM」の[MatchAsset]部品が正常終了している場合に実施します。払い出した全ライセンスキーに対して実施してください。

• 異常終了時の対処

シナリオ実行部品が異常終了している場合は、部品の結果画面を開き、以下の情報を元に実行先サブシナリオのインスタンスを特定し、結果を確認してください。

- [実行定義]タブ

- * 実行先マネージャ名 : <サブシナリオを実行したマネージャ名>
- * シナリオ名 : <実行したサブシナリオ名>

- [実行結果]タブ

- * インスタンス開始日時 : <サブシナリオが実行された日時>
- * インスタンス ID : <サブシナリオのインスタンス ID>
- * 結果詳細 :

また、アクション部品の失敗時は、部品の結果画面を開き、[コマンド結果]タブ、[コマンド出力]タブなどの情報も参考にしてください。

以下、ワークフローテンプレートの部品失敗時の主な原因と対処について記載します。

- [RegisterTemplate]

- * VM テンプレートの登録に失敗する(実行先のサブシナリオの RegisterVMTemplate 部品で失敗していた場合)

+ 原因

VMware vSphere PowerCLI が管理サーバにインストールされていない。
VM テンプレート共有を行うための環境設定に不備。

+ 対処

管理サーバに VMware vSphere PowerCLI がインストールされていない場合は『vDC Automation インストレーションガイド』の『2.2.10 VMware vSphere PowerCLI をインストールする』を参照してインストールを行ってください。

また、VM テンプレート共有の環境設定については『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『7.2 VM テンプレートに関する環境設定を行う』を参照して設定を見直してください。

- [CreateAgentVM]

- * SSC への VM 生成要求に失敗する(実行先のサブシナリオの CreateVirtualMachine 部品で失敗していた場合)

- + 原因

SSC に対して発行したリクエスト内容(ローカルオブジェクト「CreateHostInfo」に指定されているリクエスト内容)に不備がある。

- + 対処

管理サーバに監視端末を接続して、サブシナリオ「CreateVM(Sub)」の「CreateVM」部品の実行結果を確認するか、管理サーバの SSC の管理コンソールに接続し、失敗したジョブの詳細を確認し指定に不備のあるパラメータを特定してください。パラメータの詳細については、SSC の API リファレンスを参照ください。

- * エージェントと管理サーバ/VM 監視サーバの接続に失敗する(実行先サブシナリオの SetStaticRoute 部品で失敗していた場合)

- + 原因

エージェントと管理サーバ/VM 監視サーバ間が事業者管理 LAN での通信ができない

- + 対処

以下を確認し、必要に応じて修正してください。

- [SSC の設定]

- SSC の管理コンソールに接続し、設定ミスがないか確認する。

- [VM テンプレートの設定]

- 『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『第7章 VM テンプレート作成』を参照し、使用する VM テンプレートの設定を確認する。

- [ネットワーク設定]

- 『vDC Automation インストレーションガイド』の付録を参照し、ポート番号などの使用状況に問題がないか確認する。
- 広域管理サーバの[DC リソースビュー] - [管理グループ] - [事業者管理 VLAN]ノードを選択し、テナントに払い出しされた事業者管理 VLAN の IP アドレスの範囲や VLAN 名などを確認する。(DC リソース管理機能使用時のみ)

- 管理サーバの事業者管理 VLAN の IP アドレスが使用可能な状態にあるか確認する。(NIC が無効化されていないか、イベントログにネットワーク関連のエラーが出ていないか、等)
- 『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『6.1.2 ワークフローテンプレートを利用する』を参考に、管理サーバの下記グローバルオブジェクトの設定を確認する。(DC リソース管理機能未使用時のみ)

vDCA_TenantNWSubnetInfo

vDCA_GatewayAddress

vDCA_ManagerIPAddress

- [サービスリクエスト]
 - サービスリクエストで NIC に指定している VLAN や IP アドレスがグローバルオブジェクトに設定しているサブネットに含まれているか、確認する。
- * エージェント情報の取得に失敗する。(実行先サブシナリオの GetAgentInfo 部品で失敗していた場合)

+ 原因

生成した VM のエージェントとマネージャ(管理サーバ/VM 監視サーバ)が接続できておらず、構成情報が登録されていない。

(高負荷状態などにより)VM の構成情報の登録処理に時間がかかっている。

+ 対処

以下を確認し、必要に応じて修正してください。

- 広域管理サーバに監視端末を接続し、資産管理ビューに生成した VM が登録されていない場合は、エージェントとマネージャの接続に失敗しているため、「SetStaticRoute 部品で失敗している場合」同様に、ネットワーク設定を確認する。
- VM がマネージャに接続できている場合は、負荷などにより構成情報登録処理に時間を要していると思われるため、資産管理ビューに VM の構成情報が登録されるのを待ち合わせる。(資産管理ビューに作成した VM の情報が登録され、構成情報などが参照できるようになるまで待ち合わせる)
- * ライセンスの紐付けに失敗する。(実行先サブシナリオの MatchAsset 部品で失敗していた場合)
 - + 原因

サービスリクエストで指定されたライセンスキーが登録されていない、またはライセンス数が不足している。

サービスリクエストで指定した「LogicalAssetIDList」、「LogicalAssetIndexList」の内容が、『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『1.5 vDC Automation の環境構築における注意事項』の制限事項を満たしていない。

+ 対処

以下の内容を確認し必要に応じて修正してください。

- サービスリクエストで指定した、ローカルオブジェクト「LogicalAssetIDList」、「LogicalAssetIndexList」内容が『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『1.5 vDC Automation の環境構築における注意事項』の文字数制限を超えていないか確認する。
 - 広域管理サーバに監視端末を接続し、[DC リソースビュー] - [ソフトウェアリポジトリ]配下のライセンスの登録、使用状況を確認し、指定されたライセンスキー、インデックスが使用できる状態か確認する。
- * ソフトウェアの配布に失敗する。(実行先サブシナリオの DistributionMW 部品で失敗していた場合)

+ 原因

サービスリクエストで指定されたソフトウェアのパッケージ/バージョンが登録されていない。

サービスリクエストで指定した「DistributionVerList」、「DistributionNameList」の内容が、『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『1.5 vDC Automation の環境構築における注意事項』の制限事項を満たしていない。

+ 対処

以下の内容を確認し必要に応じて修正してください。

- サービスリクエストで指定した、ローカルオブジェクト「DistributionVerList」、「DistributionNameList」内容が『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『1.5 vDC Automation の環境構築における注意事項』の文字数制限を超えていないか確認する。
 - 広域管理サーバに監視端末を接続し、[DC リソースビュー] - [ソフトウェアリポジトリ]配下のソフトウェアグループノードを選択する。「ソフトウェア一覧」タブに表示されるソフトウェアの右クリックメニューで「配布パッケージ一覧」を選択し、パッケージ/バージョンが登録され、指定されたソフトウェアが配布できる状態か確認する。
- * VM 監視設定の更新に失敗する場合。(実行先サブシナリオの UpdatePerformanceCounter 部品で失敗していた場合)

+ 原因

監視定義のインポートが行われていない。

+ 対処

以下を確認し、必要に応じて修正してください。

- 『vDC Automation インストレーションガイド』の『2.15.6 管理サーバ性能監視の監視定義設定』、『2.16.6 VM 監視サーバ性能監視の監視定義設定』を参照し、監視定義をインポートします。

- [CreateAgentlessVM1]

- * SSC への VM 生成要求に失敗する(実行先のサブシナリオの CreateVirtualMachine 部品で失敗していた場合)

+ 原因

SSC に対して発行したリクエスト内容(ローカルオブジェクト「CreateHostInfo」に指定されているリクエスト内容)に不備がある。

+ 対処

管理サーバに監視端末を接続して、サブシナリオ「CreateVM(Sub)」の「CreateVM」部品の実行結果を確認するか、管理サーバの SSC の管理コンソールに接続し、失敗したジョブの詳細を確認し指定に不備のあるパラメータを特定してください。パラメータの詳細については、SSC の API リファレンスを参照ください。

- * ライセンスの紐付けに失敗する。(実行先サブシナリオの MatchAsset 部品で失敗していた場合)

+ 原因

サービスリクエストで指定されたライセンスキーが登録されていない、またはライセンス数が不足している。

サービスリクエストで指定した「LogicalAssetIDList」、「LogicalAssetIndexList」の内容が、『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『1.5 vDC Automation の環境構築における注意事項』の制限事項を満たしていない。

+ 対処

以下の内容を確認し必要に応じて修正してください。

- サービスリクエストで指定した、ローカルオブジェクト「LogicalAssetIDList」、「LogicalAssetIndexList」内容が『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『1.5 vDC Automation の環境構築における注意事項』の文字数制限を超えていないか確認する。
- 広域管理サーバに監視端末を接続し、[DC リソースビュー] - [ソフトウェアリポジトリ]配下のライセンスの登録、使用状況を確認し、指定されたライセンスキー、インデックスが使用できる状態か確認する。

3.1.2 VM 削除

- シナリオ名

DeleteVM

- 処理概要

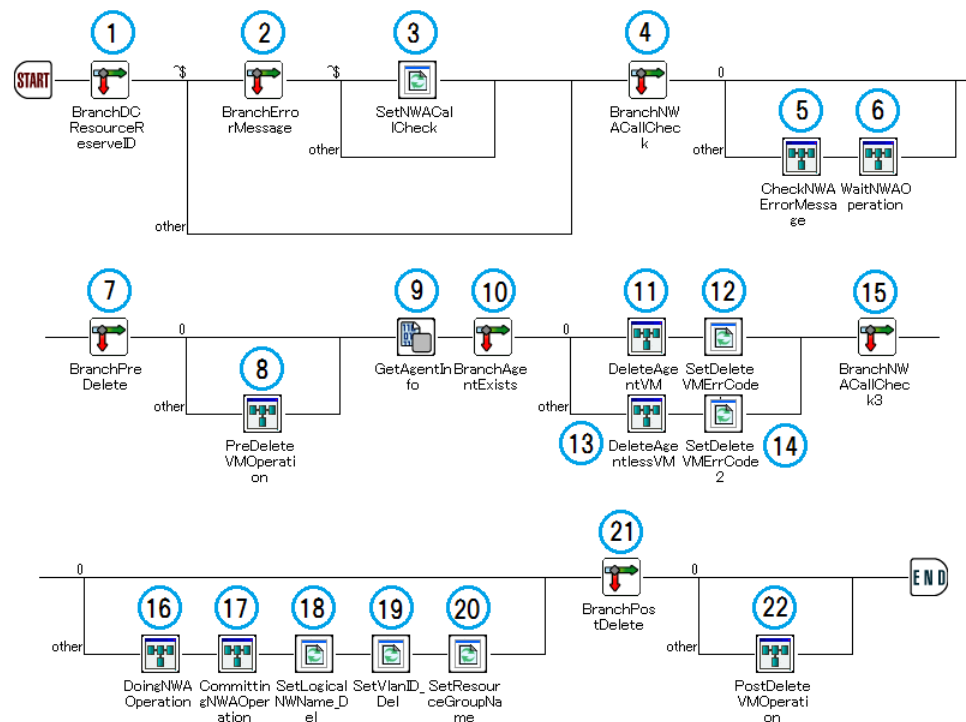
VM の削除、性能情報及び構成情報の削除を行う

また、NW オートメーション機能を使用する場合は、Pod の縮退を行う

- 実行条件

削除対象となる VM が存在していること

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	DC リソース管理の予約 ID が設定されているかどうか判断		
2	エラーメッセージが設定されているかどうか判断		
3	NW オートメーションのシナリオを呼び出さないように設定		
4	NW オートメーションのシナリオを呼び出すかどうか判断		
5	予約エラー判定を実行 (サブシナリオ CheckNWAErrorMessage を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
			ジ)」を参照し対処後、再度サービスリクエストする。
6	VM 削除待ち合わせを実行 (サブシナリオ WaitNWOperation を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照し対処後、再度サービスリクエストする。
7	VM 削除前のオプション処理を行うかどうか判断		
8	VM 削除前にオプション処理を実行 (サブシナリオ PreDeleteVMOperation を実行)	フロー停止	
9	エージェント情報を取得	フロー停止	データベース接続失敗時。エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
10	VM にエージェントがインストールされているかどうかを判断		
11	VM 削除(エージェントあり)を実行 (サブシナリオ DeleteAgentVM を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、再度サービスリクエストする。
12	VM 削除時の HTTP ステータスコードを設定		
13	VM 削除(エージェントなし)を実行 (サブシナリオ DeleteAgentlessVM を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、再度サービスリクエストする。
14	VM 削除時の HTTP ステータスコードを設定		
15	NW オートメーションのシナリオを呼び出すかどうか判断		
16	VM 用 NW の Pod 間連携による縮退を実行 (サブシナリオ DoingNWOperation を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照し対処する。
17	予約確定処理を実行 (サブシナリオ CommittingNWOperation を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照し対処する。
18	払い戻し VLAN 情報の格納		
19			
20			
21	VM 削除後のオプション処理を行うかどうか確認		
22	VM 削除後にオプション処理を実行 (サブシナリオ PostDeleteVMOperation を実行)	フロー停止	

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力*3	説明
ManagerName	文字列	*2		入力	管理サーバ名

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力*3	説明
AGHostName	文字列	○		入力	ホスト名 ※エージェントがインストールされていない VM を削除する場合は、省略可能です。 ※エージェントがインストールされている VM を削除する際、削除対象のホスト名と異なるホスト名を指定した場合はエージェント情報が取得できないため、VM 削除に失敗します。
UUID	文字列	○		入力	削除する VM の UUID ※エージェントがインストールされている VM を削除する際、削除対象の UUID と異なる UUID を指定した場合はエージェント情報が取得できないため、VM 削除に失敗します。
DeleteHostInfo	文字列	○		入力	SSC の VM 削除 API を実行するための JSON 形式の文字列
DeleteVMErrCode	文字列			出力	VM 削除時の HTTP ステータスコード
DCResourceReserveID	文字列			出力	DC リソースの予約 ID
ErrorMessage	文字列			出力	サービスガバナーのエラーメッセージ ※エラーメッセージの詳細は、「 3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ) 」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
NWCallCheck	整数		1		NW オートメーションシナリオの呼び出しチェック 0 : 呼び出さない 1 : 呼び出す
LogicalNWName_Del	文字列			出力	払い戻し論理ネットワーク名
VlanID_Del	文字列			出力	払い戻し VLAN ID
ResourceGroupName	文字列			出力	DC リソースグループ名
TenantID	文字列			入力	テナント ID
MoveAsset	整数		0	入力	資産グループを削除するかどうか 0 : 資産グループを削除しない 1 : 資産グループを削除する

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

*2 本パラメータは、サービスガバナーにより、自動で指定されます。サービスガバナーを経由せず、シナリオコマンド等で実行する場合は、本パラメータを指定してください。

*3 入出力欄に入力の記載のないローカルオブジェクトは、値を設定すると誤動作を起こす可能性があります。

- グローバルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	説明
vDCA_PreDeleteVMFlag	整数		0	VM 削除前のオプション処理実施有無 0：オプション処理を実施しない 1：オプション処理を実施する
vDCA_PostDeleteVMFlag	整数		0	VM 削除後のオプション処理実施有無 0：オプション処理を実施しない 1：オプション処理を実施する

- 異常終了時の復旧手順

ワークフローの異常終了時は、以下の手順で復旧を行ってください。管理サーバの確認や SSC の操作を行う場合は、ローカルオブジェクト「ManagerName」で指定されている管理サーバに接続してください。

- [DeleteAgentVM 部品で異常終了している場合]

- SSC でのマシン削除に成功しているか確認します。

サブシナリオ「DeleteAgentVM」の「DeleteVirtualMachine」部品の状態を確認します。

→正常終了の場合は、「異常終了時の登録情報削除手順」に従って、登録された情報の削除を行います。

→正常終了以外の場合は、異常終了の原因対処後、VM 削除のサービスリクエストを再実行します。

- 後述の「空のワークフロー定義の作成」に従って作成したワークフローの ID を指定して、サービスリクエストを実行します。(サービスリクエストを正常終了させます)

- [DeleteAgentlessVM 部品で異常終了している場合]

- 異常終了の原因対処後、VM 削除のサービスリクエストを再実行します。

- 異常終了時の登録情報削除手順

ワークフローの状態を確認し、実行に失敗した部品以降の処理を実施してください。

- 広域管理サーバの監視端末に接続し、「DeleteAgentVM」シナリオのインスタンス一覧から実行失敗したインスタンスを選択し、右クリックメニューから「ローカルオブジェクト一覧」を選択します。

- ローカルオブジェクト一覧の以下の情報を確認します。

- UUID
- GUID
- AgentName
- ManagerName

- LowerManagerName

- ローカルオブジェクト「ManagerName」で指定されている管理サーバの監視端末に接続し、以下のシナリオを順に手動で実行します。手動実行の方法は、「MCOperations マニュアル」(chm ヘルプ)を参照してください。

各シナリオ実行時には、入力として2で確認したローカルオブジェクトの設定値を指定してください。

- [VM] - [SubScenario] - [DeletePerformanceData]
- [VM] - [SubScenario] - [DeleteConstructionInfo]
- [VM] - [SubScenario] - [DeleteTopologyInfo]

- 広域管理サーバのコマンドプロンプトを起動し、作業ディレクトリを「<GM のインストールパス>\Manager\bin」配下へ移動後に以下のコマンドを実行してください。<UUID>には、2で確認した値を入力してください。

```
> AsLogicalAssetCmd.exe /d <UUID>
```

- 「DC リソースビュー」 - 「ソフトウェアリポジトリ」 - 「<ソフトウェアグループ>」ノードの「ライセンスキー一覧」から、払い出したライセンスキーを選択し、右クリックメニューの「ライセンスキーインデックス検索(S)」を選択します。
- 「紐付け資産 ID」に2で確認した UUID を指定して検索を行い、検索結果で表示されたライセンスの右クリックメニューから「紐付け解除(U)」を選択します。
- 広域管理サーバの監視端末に接続し、削除したい資産グループノードを右クリックし、「資産グループ削除」を選択します。この時、資産グループ配下にサブグループまたは資産が存在しないことを確認してください。

注

手順5、6は、広域管理サーバ上でVMに払い出した全ライセンスキーに対して実施してください。

• 空のワークフロー定義の作成

VM 削除のワークフローの異常終了時、復旧手順として手動で登録情報の削除を行った場合は、サービスリクエストを正常終了させるために、空のワークフロー定義を作成し、実行します。

以下の手順に従って、ワークフローの定義を作成してください。

注

本手順は、「VM 削除」、「物理サーバ削除」ともに共通の手順です。いずれかの復旧処理で空のワークフロー定義を作成している場合は新規に作成する必要はありません。

- 広域管理サーバに監視端末を接続する
- 「設定(S)」 - 「定義モード(C)」を選択し、定義モードを取得する。

3. シナリオ制御ビューを選択し、右クリックメニューから「シナリオ追加(S)」を選択する。
 4. 「新規シナリオ」画面で、シナリオ名、説明に任意の名前、説明を入力し、「OK」を押す。
 5. 作成したシナリオ名のノードを選択し、右クリックメニューから「有効(B)」を選択し、シナリオを有効化する。
- 異常終了時の対処

シナリオ実行部品が異常終了している場合は、部品の結果画面を開き、以下の情報を元に実行先サブシナリオのインスタンスを特定し、結果を確認してください。

- [実行定義]タブ
 - * 実行先マネージャ名 : <サブシナリオを実行したマネージャ名>
 - * シナリオ名 : <実行したサブシナリオ名>
- [実行結果]タブ
 - * インスタンス開始日時 : <サブシナリオが実行された日時>
 - * インスタンス ID : <サブシナリオのインスタンス ID>
 - * 結果詳細 :

また、アクション部品の失敗時は、部品の結果画面を開き、[コマンド結果]タブ、[コマンド出力]タブなどの情報も参考にしてください。

以下、ワークフローテンプレートの部品失敗時の主な原因と対処について記載します。

- [DeleteAgentVM 部品]、[DeleteAgentlessVM 部品]
 - * SSC への VM 削除要求に失敗する(実行先サブシナリオの DeleteVirtualMachine 部品で失敗していた場合)
 - + 原因

SSC に対して発行したリクエスト内容(ローカルオブジェクト「DeleteHostInfo」に指定されているリクエスト内容)に不備がある。
 - + 対処

管理サーバに監視端末を接続して、サブシナリオ「DeleteVM(Sub)」の「DeleteVM」部品の実行結果を確認するか、管理サーバの SSC の管理コンソールに接続し、失敗したジョブの詳細を確認し指定に不備のあるパラメータを特定してください。パラメータの詳細については、SSC の API リファレンスを参照ください。

3.1.3 VM 再構成

- シナリオ名

ReconfigureVM

- 処理概要

VM の再構成、ライセンスキーの紐付け、ソフトウェアの配布、性能監視設定の更新を行う

また、NW オートメーション機能を使用する場合は、Pod の拡張、縮退を行う

注

ライセンスキーの紐付け、ソフトウェアの配布、性能監視設定の更新はエージェントがインストールされている VM に対してのみ実行できます。

- 実行条件

再構成対象となる VM が存在すること

注

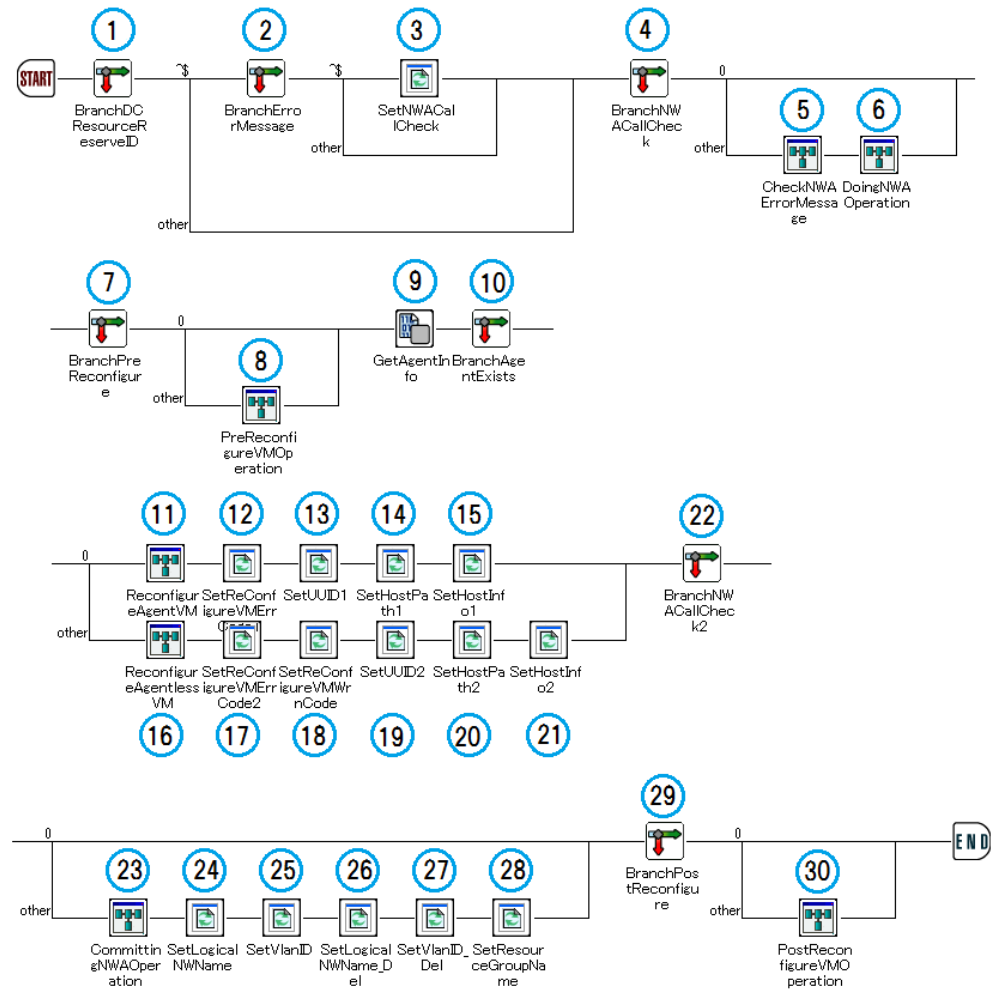
本バージョンでは、デフォルト設定では、構成変更時に VM 停止を実施しません。

VM 停止を伴う構成変更を行う場合は、ローカルオブジェクト「ShutdownOnReconfigureVM」へ「1: VM 停止する」を指定して VM 再構成を実施してください。

また、本バージョンでは、ソフトウェア配布を実施しない場合、構成情報の即時収集（構成変更後の再起動）は行いません。

構成情報の即時収集を行う場合は、グローバルオブジェクト「vDCA_RebootAfterReconfigureVM」の値を「1: 構成情報収集(再起動)を行う」へ変更してください。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	DC リソース管理の予約 ID が設定されているかどうか判断		
2	エラーメッセージが設定されているかどうか判断		
3	NW オートメーションのシナリオを呼び出さないように設定		
4	NW オートメーションのシナリオを呼び出すかどうか判断		
5	予約エラー判定を実行 (サブシナリオ CheckNWAErrorMessage を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照し対処後、再度サービスリクエストする。
6	VM 用 NW の Pod 間連携による拡張を実行 (サブシナリオ DoingNWAOperation を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照し対処後、再度サービスリクエストする。
7	VM 再構成前のオプション処理を行うかどうか判断		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
8	VM 再構成前のオプション処理を実行(サブシナリオ PreReconfigureVMOOperation を実行)	フロー停止	
9	エージェント情報を取得	フロー停止	データベース接続失敗時。エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
10	VM にエージェントがインストールされているかどうかを判断		
11	VM 再構成(エージェントあり)を実行(サブシナリオ ReconfigureAgentVM を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、再度サービスリクエストする。
12	VM 再構成時の HTTP ステータスコードを設定		
13	再構成した VM の UUID を設定		
14	再構成した VM のホストパスを設定		
15	再構成した VM ホスト情報を設定		
16	VM 再構成(エージェントなし)を実行(サブシナリオ ReconfigureAgentlessVM を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、再度サービスリクエストする。
17	VM 再構成時の HTTP ステータスコードを設定		
18	VM 再構成時の警告コードを設定		
19	再構成した VM の UUID を設定		
20	再構成した VM のホストパスを設定		
21	再構成した VM ホスト情報を設定		
22	NW オートメーションのシナリオを呼び出すかどうか判断		
23	予約確定処理を実行 (サブシナリオ CommittingNWAOperation を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照し対処後、「異常終了時の復旧手順」を参照し、再度サービスリクエストする。
24	払い出し、払い戻し VLAN 情報の格納		
25			
26			
27			
28			
29	VM 再構成後のオプション処理を行うかどうか判断		
30	VM 再構成後にオプション処理を実行(サブシナリオ PostReconfigureVMOOperation を実行)	フロー停止	

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力 ^{*3}	説明
TenantID	文字列			入力	テナント ID
ManagerName	文字列	^{*2}		入力	管理サーバ名
UUID	文字列	○		入出力	再構成する VM の UUID ※ReConfigureHostInfo に指定した VM と異なる UUID を指定した場合、VM の再構成に失敗する場合があります。
AGHostName	文字列	○		入力	再構成する VM のホスト名 ※エージェントがインストールされていない VM を再構成する場合は、省略可能です。 ※エージェントがインストールされている VM に再構成・ライセンスキーの紐付け・ソフトウェア配布を行う際、対象のホスト名と異なるホスト名を指定した場合はエージェント情報が取得できないため、VM 再構成に失敗します。
HostPath	文字列			出力	SSC に登録されたホストパス
HostInfo	文字列			出力	再構成した VM のホスト情報
ReConfigureHostInfo	文字列	○		入力	SSC の VM 再構成 API を使用するための JSON 形式の文字列
ReConfigureVMErrCode	文字列			出力	VM 再構成時の HTTP ステータスコード
ReConfigureVMWmCode	文字列		0	出力	VM 再構成時の警告コード 0 : ソフトウェア配布が指定されていない 1 : ソフトウェア配布が指定されている
LogicalAssetIDList	文字列			入力	ライセンスキー番号 ※ライセンスの登録を行う場合は指定が必要です。
LogicalAssetIndexList	文字列			入力	ライセンスキーのインデックス番号 ※LogicalAssetIDList を指定する場合は指定が必要です。 ※既に紐付け済み、または払い出されていないインデックス番号を指定した場合はライセンスキーの紐付けに失敗します。
DistributionNameList	文字列			入力	配布のタスク名 ※ソフトウェア配布を行う場合は、必須です。 ※VM 再構成(エージェントなし)ではソフトウェアの配布が実行できません。値は設定しないようにしてください。
DistributionVerList	文字列			入力	配布のバージョン名

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力 ^{*3}	説明
DCResourceReserveID	文字列			出力	DC リソースの予約 ID
ErrorMessage	文字列			出力	サービスガバナーのエラーメッセージ ※エラーメッセージの詳細は、「 3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ) 」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
NWCallCheck	整数		1		NW オートメーションシナリオの呼び出しチェック 0 : 呼び出さない 1 : 呼び出す
LogicalNWName	文字列			出力	払い出し論理ネットワーク名
VlanID	文字列			出力	払い出し VLAN ID
LogicalNWName_Del	文字列			出力	払い戻し論理ネットワーク名
VlanID_Del	文字列			出力	払い戻し VLAN ID
ResourceGroupName	文字列			出力	DC リソースグループ名
ShutdownOnReconfigureVM	整数		0	入力	VM 停止を行うかどうか 0 : VM 停止しない 1 : VM 停止する

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

*2 本パラメータは、サービスガバナーにより、自動で指定されます。サービスガバナーを経由せず、シナリオコマンド等で実行する場合は、本パラメータを指定してください。

*3 入出力欄に入力の記載のないローカルオブジェクトは、値を設定すると誤動作を起こす可能性があります。

- グローバルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	説明
vDCA_PreReconfigureVMFlag	整数		0	VM 再構成前のオプション処理実施有無 0 : オプション処理を実施しない 1 : オプション処理を実施する
vDCA_PostReconfigureVMFlag	整数		0	VM 再構成後のオプション処理実施有無 0 : オプション処理を実施しない 1 : オプション処理を実施する
vDCA_RebootAfterReconfigureVM	整数		0	構成情報収集（再起動）を行うかどうか 0 : 構成情報収集(再起動)を行わない 1 : 構成情報収集(再起動)を行う

- 異常終了時の復旧手順

ワークフローの異常終了時は、以下の手順で復旧を行ってください。管理サーバの確認や SSC の操作を行う場合は、ローカルオブジェクト「ManagerName」で指定されている管理サーバに接続してください。

[ReconfigureAgentVM 部品で異常終了している場合]

1. SSC でのマシン再構成を実施/成功しているか確認します。

(サブシナリオ「ReconfigureAgentVM」の「ReconfigureVirtualMachine」部品の状態を確認します。)

→正常終了の場合は、後述のマシン設定のロールバックを実施後、2 へ

→実行していない場合は 2 へ

→異常終了の場合は 4 へ

2. ライセンスキーの紐付けを実施/成功しているか確認します。

(サブシナリオ「ReconfigureAgentVM」の「MatchAsset」部品の状態を確認します)

→正常終了/異常終了している場合は、登録成功したライセンスキーに対して、後述のライセンスキーの紐付け解除を実施します。

→正常終了の場合、実行していない場合は 3 へ

→異常終了の場合は 4 へ

3. ソフトウェアの配布を実行/成功しているか確認します。

(サブシナリオ「ReconfigureAgentVM」の「DistributionMW」部品の状態を確認します)

→正常終了している場合、複数のソフトウェアの配布を行い途中で異常終了している場合は、配布対象のマシンにログインし、配布に成功したソフトウェアを手動でアンインストールします。

4. 異常終了の原因対処後、VM 再構成のサービスリクエストを再実行します。

[ReconfigureAgentlessVM 部品で異常終了している場合]

1. 異常終了の原因対処後、VM 再構成のサービスリクエストを再実行します。

- マシン設定のロールバック

SSC に対して以下の要求を行った場合は、手動でマシンの構成変更を行い、再度サービスリクエストが実行できるように復旧します。

SSC の操作は、ローカルオブジェクト「ManagerName」で指定された管理サーバ上で行います。

- 拡張ディスク、NIC の追加を行った場合

要求内容から追加された拡張ディスク、NIC の情報を特定してから、SSC の管理コンソールに接続し、以下を実施します。

[NIC が追加された場合]

1. 仮想ビューで再構成したマシンを選択し、「メンテナンスオン」状態にする。
2. 「設定」の「VM 編集」を開く。
3. 「ネットワーク情報」欄の新規に追加された NIC の「削除」を選択し、[OK]を押す。
4. 運用ビューで再構成したマシンを選択し、プロパティを開く。
5. ネットワークタブから追加した NIC の IP アドレス設定が残っていれば削除する。
6. 仮想ビューで再構成したマシンを選択し、「メンテナンスオフ」状態にする。

[拡張ディスクが追加された場合]

1. 仮想ビューで再構成したマシンを選択し、「メンテナンスオン」状態にする。
2. 「設定」の「VM 編集」を開く。
3. 「ディスク情報」欄の新規に追加されている拡張ディスクのタブを選択し、[削除]を選択後、[OK]を押す。
4. 仮想ビューで再構成したマシンを選択し、「メンテナンスオフ」状態にする。

- 拡張ディスク、NIC の削除を行った場合

要求内容から削除された拡張ディスク、NIC の情報を特定してから、SSC の管理コンソールに接続し、以下を実施します。

[NIC が削除された場合]

1. リソースビューの「ネットワーク」ノードを選択する。
2. 表示される論理ネットワーク一覧から、削除された NIC が接続されていた論理ネットワークを選択する。
3. 表示される「VLAN(ポートグループ)一覧」の「VLAN(ポートグループ)名」を確認する。
4. 仮想ビューで再構成したマシンを選択し、「メンテナンスオン」状態にする。
5. 「設定」の「VM 編集」を開く。
6. 「ネットワーク情報」欄の[仮想 NIC の追加]を選択し、3 で確認した「VLAN(ポートグループ)名」を選択し、[OK]を押す。
7. 仮想ビューで再構成したマシンを選択し、「メンテナンスオフ」状態にする。

[拡張ディスクが削除された場合]

1. 仮想ビューで再構成したマシンを選択し、「メンテナンスオン」状態にする。
2. 「設定」の「VM 編集」を開く。
3. 再構成したマシンに、サービスリクエストで削除されたディスク以外に拡張ディスクが接続されているかを確認し、下記手順に従って、削除したディスクを復旧します。

[拡張ディスクが接続されていない場合]

「ディスク情報」欄の拡張ディスクの[追加]を選択し、表示される入力画面に、削除した拡張ディスクのタイプ、サイズ、データストア、コントローラ、ディスク番号を入力後、[OK]を押す。

[拡張ディスクが接続されている場合]

「ディスク情報」欄の[+]タブを選択して拡張ディスクを追加し、削除した拡張ディスクのタイプ、サイズ、データストア、コントローラ、ディスク番号を入力後、[OK]を押す。

4. 仮想ビューで再構成したマシンを選択し、「メンテナンスオフ」状態にする。

注

3で追加するディスクのコントローラ、ディスク番号は必ず削除された時のものと一致させて入力してください。

・ ライセンスキーの紐付け解除

1. 広域管理サーバの監視端末に接続し、「ReconfigureVM」シナリオのインスタンス一覧から実行失敗したインスタンスを選択し、右クリックメニューから「ローカルオブジェクト一覧」を選択します。
2. ローカルオブジェクト一覧の以下の情報を確認します。
 - UUID
 - LogicalAssetIDList
 - LogicalAssetIndexList
3. 「DC リソースビュー」 - 「ソフトウェアリポジトリ」 - 「ソフトウェアグループ」ノードの「ライセンスキー一覧」から、払い出したライセンスキーを選択し、右クリックメニューの「ライセンスキーインデックス検索(S)」を選択します。
4. 「紐付け資産 ID」に2で確認したUUIDを指定して検索を行い、検索結果で表示されたライセンスのうち、「LogicalAssetIDList」、「LogicalAssetIndexList」の設定値に合致するものを選択し、右クリックメニューから「紐付け解除(U)」を実施します。

※サブシナリオ「ReconfigureAgentVM」の「MatchAsset」部品が異常終了している場合は、登録成功したものだけを選択し、紐付け解除してください。

・ 異常終了時の対処

シナリオ実行部品が異常終了している場合は、部品の結果画面を開き、以下の情報を元に実行先サブシナリオのインスタンスを特定し、結果を確認してください。

- [実行定義]タブ
 - * 実行先マネージャ名 : <サブシナリオを実行したマネージャ名>
 - * シナリオ名 : <実行したサブシナリオ名>

- [実行結果]タブ

- * インスタンス開始日時：<サブシナリオが実行された日時>
- * インスタンス ID：<サブシナリオのインスタンス ID>
- * 結果詳細：

また、アクション部品の失敗時は、部品の結果画面を開き、[コマンド結果]タブ、[コマンド出力]タブなどの情報も参考にしてください。

以下、ワークフローテンプレートの部品失敗時の主な原因と対処について記載します。

- [ReconfigureAgentVM]

- * SSC への VM 再構成要求に失敗する(実行先のサブシナリオの **ReconfigureVirtualMachine** 部品で失敗していた場合)

+ 原因

SSC に対して発行したリクエスト内容(ローカルオブジェクト「**ReconfigureHostInfo**」に指定されているリクエスト内容)に不備がある。

+ 対処

管理サーバに監視端末を接続して、サブシナリオ「**ReconfigureVM(Sub)**」の「**ReconfigureVM**」部品の実行結果を確認するか、管理サーバの SSC の管理コンソールに接続し、失敗したジョブの詳細を確認し指定に不備のあるパラメータを特定してください。パラメータの詳細については、SSC の API リファレンスを参照ください。

- * ライセンスの紐付けに失敗する。(実行先サブシナリオの **MatchAsset** 部品で失敗していた場合)

+ 原因

サービスリクエストで指定されたライセンスキーが登録されていない、またはライセンス数が不足している。

サービスリクエストで指定した「**LogicalAssetIDList**」、「**LogicalAssetIndexList**」の内容が、『**vDC Automation コンフィグレーションガイド**』の『**1.5 vDC Automation の環境構築における注意事項**』の制限事項を満たしていない。

+ 対処

以下の内容を確認し必要に応じて修正してください。

- サービスリクエストで指定した、ローカルオブジェクト「**LogicalAssetIDList**」、「**LogicalAssetIndexList**」の内容が、『**vDC Automation コンフィグレーションガイド**』の『**1.5 vDC Automation の環境構築における注意事項**』の文字数制限を超えていないか確認する。

- 広域管理サーバに監視端末を接続し、[DC リソースビュー] - [ソフトウェアリポジトリ]配下のライセンスの登録、使用状況を確認し、指定されたライセンスキー、インデックスが使用できる状態か確認する。
- * ソフトウェアの配布に失敗する。(実行先サブシナリオの **DistributionMW** 部品で失敗していた場合)
 - + 原因

サービスリクエストで指定されたソフトウェアのパッケージ/バージョンが登録されていない。

サービスリクエストで指定した「**DistributionVerList**」、「**DistributionNameList**」の内容が、『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『1.5 vDC Automation の環境構築における注意事項』の制限事項を満たしていない。
 - + 対処

以下の内容を確認し必要に応じて修正してください。

 - サービスリクエストで指定した、ローカルオブジェクト「**DistributionVerList**」、「**DistributionNameList**」内容が『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『1.5 vDC Automation の環境構築における注意事項』の文字数制限を超えていないか確認する。
 - 広域管理サーバに監視端末を接続し、[DC リソースビュー] - [ソフトウェアリポジトリ]配下のソフトウェアグループノードを選択する。「ソフトウェア一覧」タブに表示されるソフトウェアの右クリックメニューで「配布パッケージ一覧」を選択し、パッケージ/バージョンが登録され、指定されたソフトウェアが配布できる状態か確認する。
- * VM 監視設定の更新に失敗する場合。(実行先サブシナリオの **UpdatePerformanceCounter** 部品で失敗していた場合)
 - + 原因

監視定義のインポートが行われていない。
 - + 対処

以下を確認し、必要に応じて修正してください。

 - 『vDC Automation インストレーションガイド』の『2.15.6 管理サーバ性能監視の監視定義設定』、『2.16.6 VM 監視サーバ性能監視の監視定義設定』を参照し、監視定義をインポートします。
- [ReconfigureAgentlessVM]
 - * SSC への VM 再構成要求に失敗する(実行先サブシナリオの **ReconfigureVirtualMachine** 部品で失敗していた場合)
 - + 原因

SSC に対して発行したリクエスト内容(ローカルオブジェクト「ReconfigureHostInfo」に指定されているリクエスト内容)に不備がある。

+ 対処

管理サーバに監視端末を接続して、サブシナリオ「ReconfigureVM(Sub)」の「ReconfigureVM」部品の実行結果を確認するか、管理サーバの SSC の管理コンソールに接続し、失敗したジョブの詳細を確認し指定に不備のあるパラメータを特定してください。パラメータの詳細については、SSC の API リファレンスを参照ください。

注

ライセンスキーの紐付け、ソフトウェアの配布、性能監視設定の更新はエージェントがインストールされている VM に対してのみ実行できます。

エージェントがインストールされていない VM に対してソフトウェア配布を行うと、実行先サブシナリオの CreateWarning 部品が警告終了します。

3.1.4 VM 生成(Sub)

- シナリオ名

CreateVM(Sub)

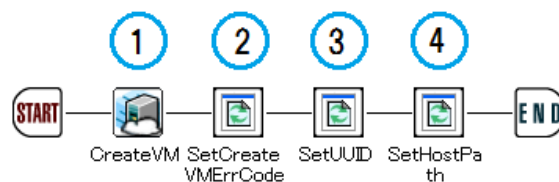
- 処理概要

VM を生成し、生成した VM 情報を取得する。

- 実行条件

リソースプールのリソースに空きがあること

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	SSC へ VM 生成を要求	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処を行う。
2	SSC からの HTTP ステータスコードを設定		
3	UUID を設定		
4	ホストパスを設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
CreateHostInfo	文字列	○		入力	VM 生成を使用するための JSON 形式の文字列(呼び出し元が設定)
CreateVMErrCode	文字列			出力	VM 生成の HTTP ステータスコード
UUID	文字列			出力	生成した VM の UUID
HostPath	文字列			出力	ホストパス

- グローバルオブジェクト一覧
なし

3.1.5 ソフトウェア配布

- シナリオ名

DistributionMW

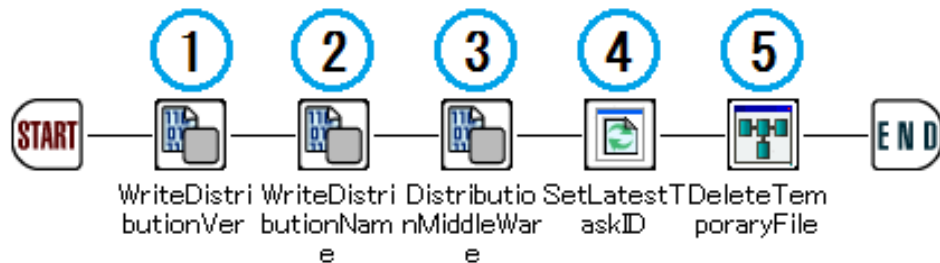
- 処理概要

VM にソフトウェアを配布する。

- 実行条件

Asset に配布パッケージが登録されていること

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	配布パッケージバージョンの一覧を一時ファイルに出力	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。実行結果を確認し、継続実行する。
2	配布パッケージ名の一覧を一時ファイルに出力	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。実行結果を確認し、継続実行する。
3	ソフトウェア配布を実行	フロー停止	ワークフローを確認し、原因を取り除いた後に継続実行する。
4	配布のタスク ID を設定		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
5	ライセンスキーの紐付けに必要だった一時ファイルを削除(サブシナリオ DeleteTemporaryFile を実行)	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。実行結果を確認し、マネージャの状態を確認後、フローを継続実行する。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
DistributionNameList	文字列	○		入力	配布名(呼び出し元で設定)
DistributionVerList	文字列	○		入力	配布バージョン(呼び出し元で設定)
GUID	文字列	○		入力	GUID(呼び出し元で設定)
LatestTaskID	文字列			出力	配布のタスク ID

- グローバルオブジェクト一覧

なし

3.1.6 ライセンスキー紐付け

- シナリオ名

MatchAsset

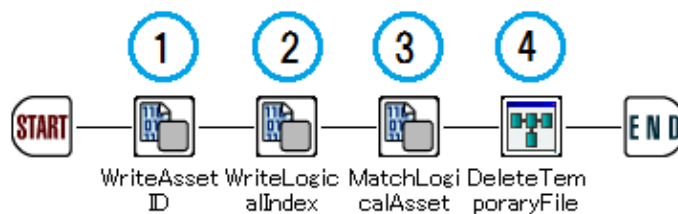
- 処理概要

VM とライセンスキーを紐付ける

- 実行条件

Asset にライセンスキーが登録されていること

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ライセンスキー番号の一覧を一時ファイルに出力	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。実行結果を確認し、継続実行する。
2	ライセンスキーインデックスの一覧を一時ファイルに出力	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。実行結果を確認し、継続実行する。

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
3	ライセンスキーの紐付けを実行し、一時ファイルを削除	フロー停止	ワークフローを確認し、原因を取り除いた後継続実行する。
4	ライセンスキーの紐付けに必要なだった一時ファイルを削除(サブシナリオ DeleteTemporaryFile を実行)	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。実行結果を確認し、マネージャの状態を確認後、フローを継続実行する。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
LogicalAssetIDList	文字列	○		入力	ライセンスキー番号(呼び出し元で設定)
LogicalAssetIndexList	文字列	○		入力	ライセンスキー番号のインデックス(呼び出し元で設定)
UUID	文字列	○		入力	紐付けられる UUID(呼び出し元で設定)

- グローバルオブジェクト一覧
なし

3.1.7 VM 削除(Sub)

- シナリオ名

DeleteVM(Sub)

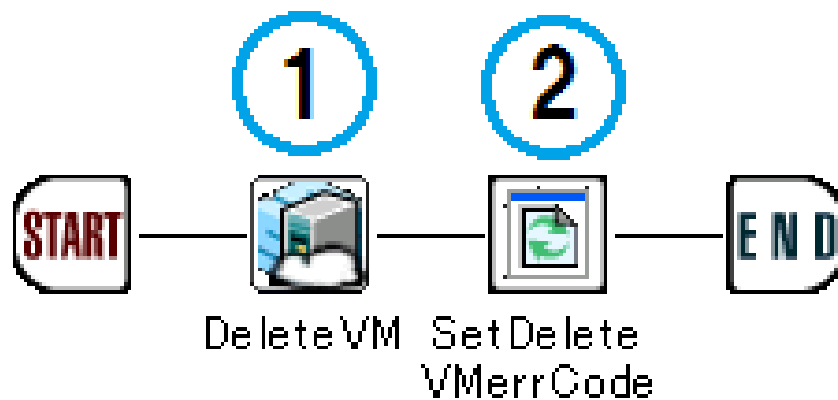
- 処理概要

VM の削除を行う

- 実行条件

削除する VM が存在すること

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	SSC へ VM の削除を要求	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
2	SSC からの HTTP ステータスコードを設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
DeleteHostInfo	文字列	○		入力	削除 VM の情報(呼び出し元が設定)
DeleteVMErrCode	文字列			出力	VM 削除の HTTP ステータスコード

- グローバルオブジェクト一覧

なし

3.1.8 VM 起動

- シナリオ名

VMStartup

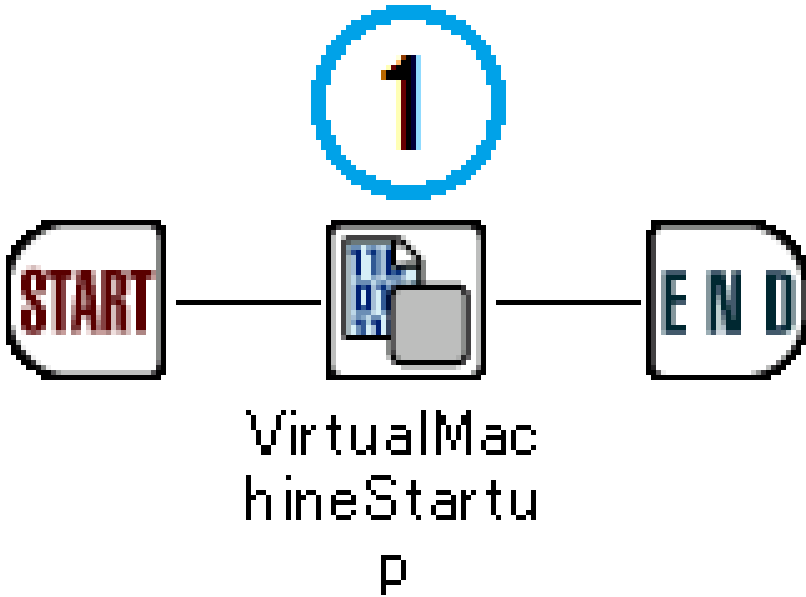
- 処理概要

VM の起動を行う

- 実行条件

特になし

- フロー図



• 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	VM を起動	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、フローを継続実行する。

• ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
UUID	文字列	○		入力	起動を行う VM の UUID(呼び出し元が設定)

• グローバルオブジェクト一覧

なし

3.1.9 VM 再起動

• シナリオ名

VMRestart

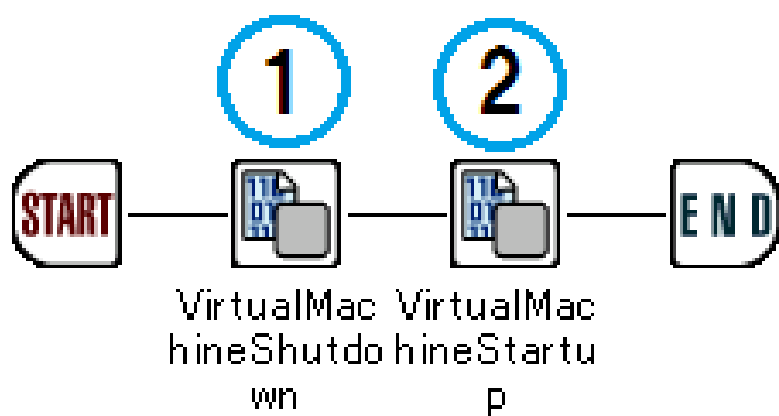
• 処理概要

VM の再起動を行う

• 実行条件

特になし

• フロー図



• 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	VM を停止	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、フローを継続実行する。
2	VM を起動	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、フローを継続実行する。

• ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
UUID	文字列	○		入力	再起動を行う VM の UUID(呼び出し元が設定)

• グローバルオブジェクト一覧

なし

3.1.10 VM 停止

• シナリオ名

VMShutdown

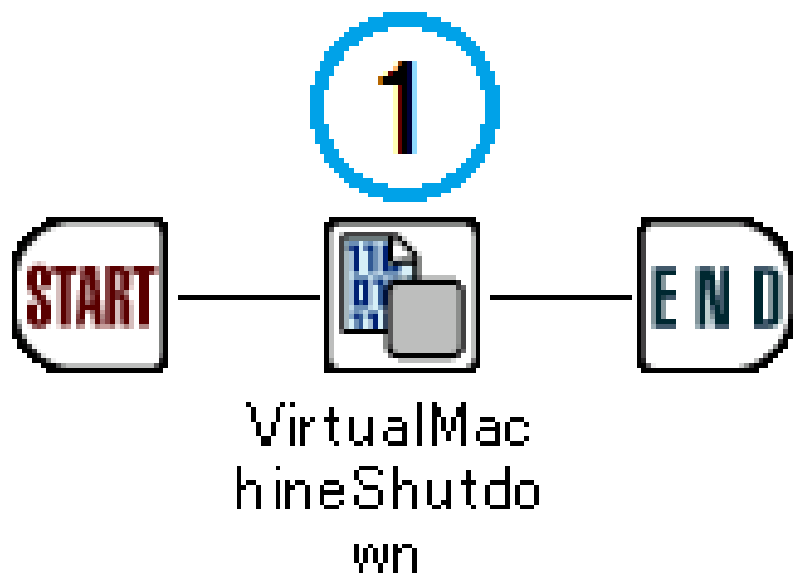
• 処理概要

VM の停止を行う

• 実行条件

特になし

• フロー図



・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	VM を停止	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、フローを継続実行する。

・ ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
UUID	文字列	○		入力	停止を行う VM の UUID(呼び出し元が設定)

・ グローバルオブジェクト一覧

なし

3.1.11 VM 性能監視設定更新(Sub)

・ シナリオ名

UpdatePerformanceCounter(Sub)

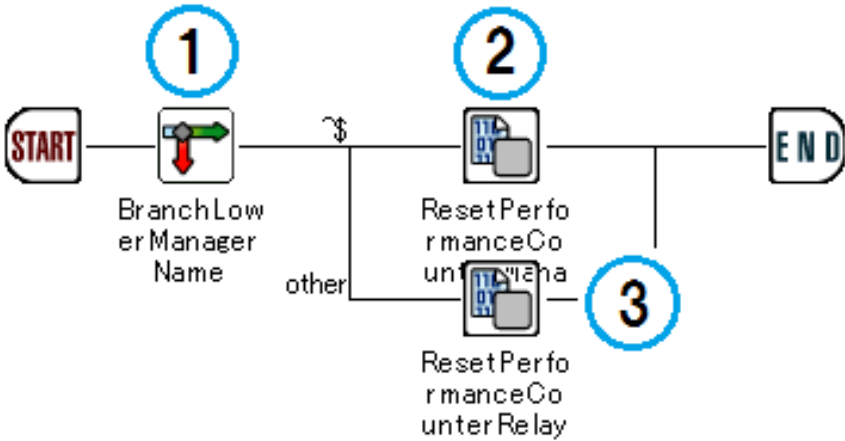
・ 処理概要

性能監視カウンタの設定を更新する

・ 実行条件

特になし

・ フロー図



説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	エージェントの接続先が VM 監視サーバか管理サーバかを判断		
2	性能監視カウンタの設定を更新(管理サーバにエージェントが接続されている場合)	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか再度呼び出し元のワークフローを実行する。
3	性能監視カウンタの設定を更新(VM監視サーバにエージェントが接続されている場合)	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか再度呼び出し元のワークフローを実行する。

ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
LowerManagerName	文字列			入力	VM 監視サーバのマネージャ名(呼び出し元で設定)
AgentName	文字列	○		入力	エージェント名(呼び出し元で設定)

グローバルオブジェクト一覧

なし

3.1.12 VM 再構成(Sub)

シナリオ名

ReconfigureVM(Sub)

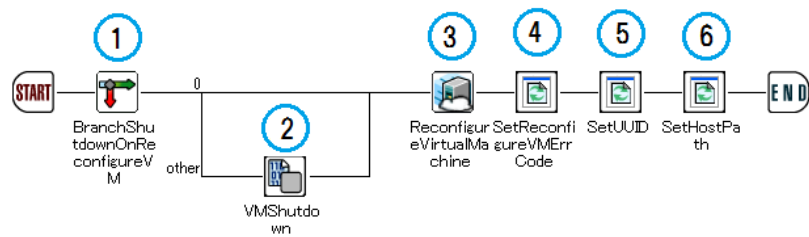
処理概要

VM の再構成を行う

実行条件

再構成する VM が存在すること

フロー図



・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	構成変更を行う場合 VM 停止を行うかどうかで判断		
2	VM を停止	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処を行う。
3	SSC へ VM の再構成を要求	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処を行う。
4	SSC からの HTTP ステータスコードを設定		
5	UUID を設定		
6	ホストパスを設定		

・ ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
ReConfigureHostInfo	文字列	○		入力	再構成 VM 情報(呼び出し元が設定)
UUID	文字列	○		入出力	再構成する VM の UUID(呼び出し元が設定)
ReConfigureVMErrorCode	文字列			出力	VM 再構成の HTTP ステータスコード
HostPath	文字列			出力	ホストパス
ShutdownOnReconfigureVM	整数		1	入力	VM 停止を行うかどうか(呼び出し元が設定) 0 : VM 停止しない 1 : VM 停止する

・ グローバルオブジェクト一覧

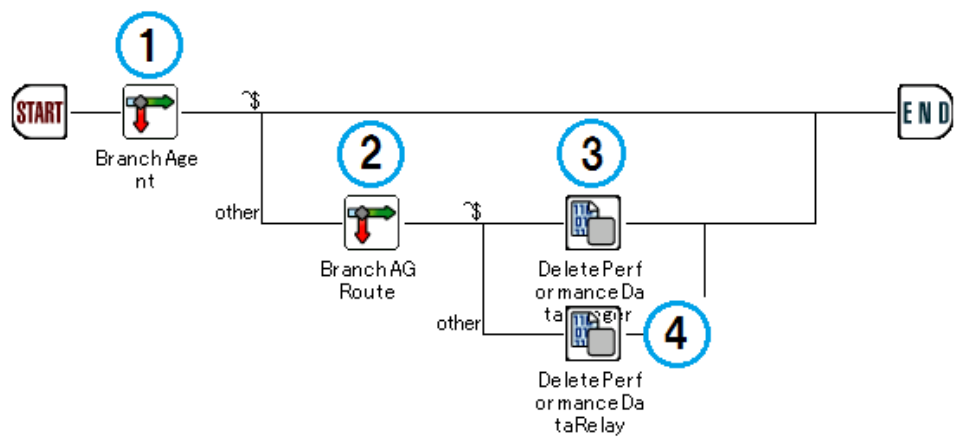
なし

3.1.13 性能情報削除

・ シナリオ名

DeletePerformanceData

- 処理概要
性能情報を削除する
- 実行条件
削除対象の VM が削除済みである。
- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	エージェント名の確認※指定されていない場合は処理なし		
2	エージェントの接続先が VM 監視サーバか管理サーバかを判断		
3	性能統計データ削除※管理サーバから削除	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
4	性能統計データ削除※VM 監視サーバから削除	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
GUID	文字列	○		入力	性能情報を削除する VM の GUID(呼び出し元で設定)
AgentName	文字列			入力	性能情報を削除する VM のエージェント名(呼び出し元で設定)
LowerManagerName	文字列			入力	性能情報を削除する VM が VM 監視サーバに接続されている場合の接続先 VM 監視サーバ名(呼び出し元で設定)

- グローバルオブジェクト一覧
なし

3.1.14 構成情報削除

- シナリオ名

DeleteConstructionInfo

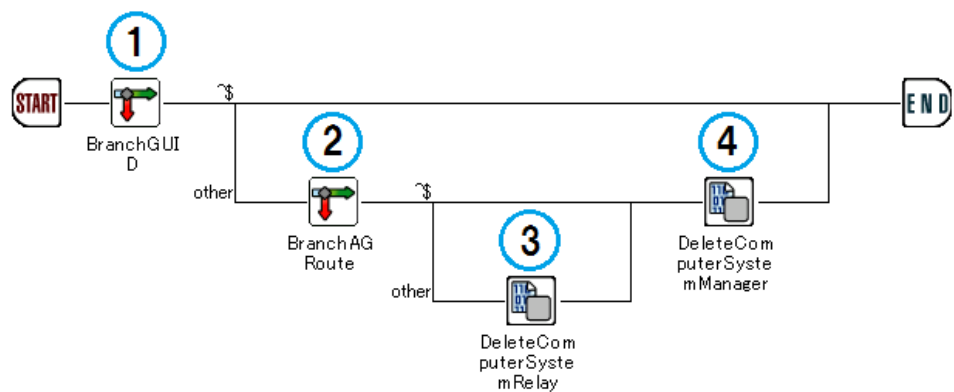
- 処理概要

構成情報を削除する(階層化されている場合は、接続されているマネージャからも削除する)

- 実行条件

削除対象の VM が削除済みである。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	GUIDの確認※指定されていない場合は処理なし		
2	エージェントの接続先が VM 監視サーバか管理サーバかを判断		
3	構成情報削除※VM 監視サーバから削除	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
4	構成情報削除※管理サーバから削除	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。

- ローカルオブジェクト一覧

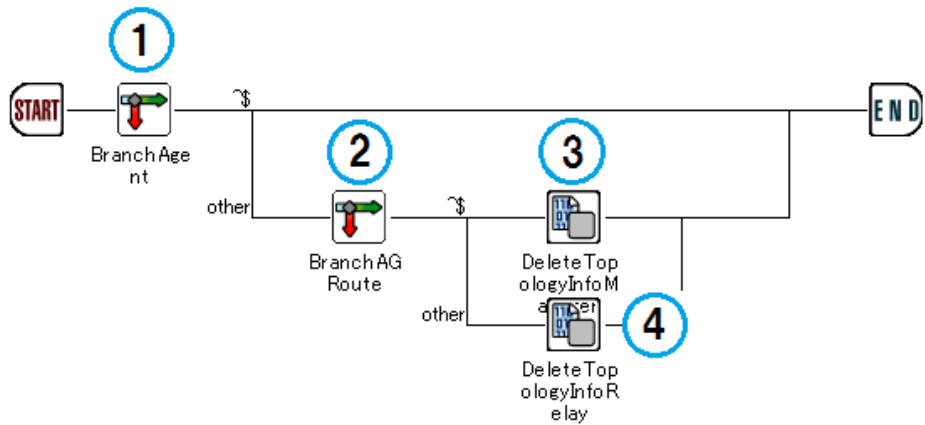
変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
GUID	文字列			入力	構成情報を削除する VM の GUID(呼び出し元で設定)
LowerManagerName	文字列			入力	構成情報を削除する VM が VM 監視サーバに接続されている場合の接続先 VM 監視サーバ名(呼び出し元で設定)

- グローバルオブジェクト一覧

なし

3.1.15 トポロジ情報削除

- シナリオ名
DeleteTopologyInfo
- 処理概要
トポロジに登録されているエージェント情報を削除する。
- 実行条件
削除対象の VM が削除済みである。
- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	エージェント名の確認※指定されていない場合は処理なし		
2	エージェントの接続先が VM 監視サーバか管理サーバかを判断		
3	トポロジ情報削除※VM 監視サーバから削除	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
4	トポロジ情報削除※管理サーバから削除	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
GUID	文字列	○		入力	トポロジ情報を削除する VM の GUID(呼び出し元で設定)
AgentName	文字列			入力	トポロジ情報を削除する VM の エージェント名(呼び出し元で設定)

変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
LowerManagerName	文字列			入力	トポロジ情報を削除する VM が VM 監視サーバに接続されている場合の接続先 VM 監視サーバ名(呼び出し元で設定)

- グローバルオブジェクト一覧
なし

3.1.16 テナント ID 設定

- シナリオ名

MatchTenantID

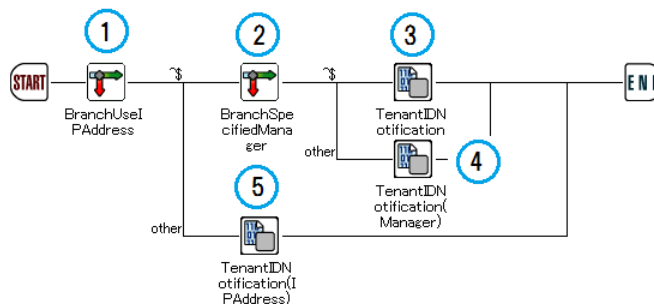
- 処理概要

エージェントの振り分け先を決定するために、テナント ID と UUID を通知する

- 実行条件

特になし

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	管理サーバ IP アドレス (vDCA_ManagementServerIPAddress) が設定されているかどうかで判断		
2	接続先 VM 監視サーバ名が設定されているかどうかで判断		
3	テナント ID と UUID の紐付け	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。実行結果を確認し、マネージャの状態を確認後、フローを継続実行する。
4	テナント ID と UUID の紐付け※接続先 VM 監視サーバ名を通知する	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。実行結果を確認し、マネージャの状態を確認後、フローを継続実行する。終了コードが 12 の場合は、管理

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
			サーバと VM 監視サーバの接続状態を確認する。終了コードが 13 の場合は、指定した VM 監視サーバ名が誤っていないかを確認する。
5	テナント ID と UUID の紐付け ※管理サーバ IP アドレスを通知する	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。実行結果を確認し、マネージャの状態を確認後、フローを継続実行する。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
TenantID	文字列	○		入力	対象 VM の所属するテナント ID(呼び出し元で設定)
UUID	文字列	○		入力	対象 VM の UUID(呼び出し元で設定)
SpecifiedManager	文字列			入力	接続先 VM 監視サーバ名

- グローバルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	説明
vDCA_ManagementServerIPAddress	文字列			テナント ID 紐付け用の管理サーバの IP アドレス

3.1.17 配布識別 ID ファイル書き込み

- シナリオ名

WriteFileDistributionID

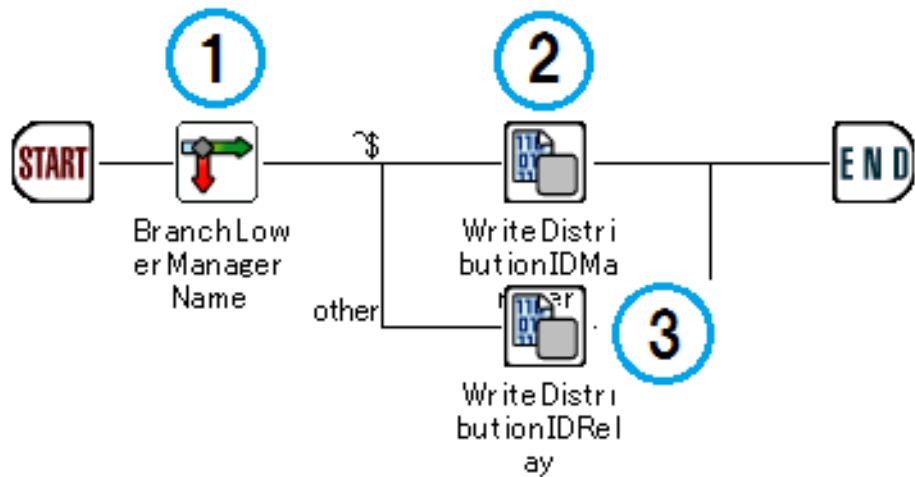
- 処理概要

配布のタスク ID を保存する

- 実行条件

配布処理が行われていること

- フロー図



・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	エージェントの接続先が VM 監視サーバか管理サーバかを判断		
2	配布タスク ID のファイル書き込み処理※管理サーバにエージェントが接続されている場合	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか再度呼び出し元のワークフローを実行する。
3	配布タスク ID のファイル書き込み処理※VM 監視サーバにエージェントが接続されている場合	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか再度呼び出し元のワークフローを実行する。

・ ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
LowerManagerName	文字列	○		入力	VM 監視サーバのマネージャ名(呼び出し元で設定)
AgentName	文字列	○		入力	監視設定を更新するホストのエージェント名(呼び出し元で設定)
LatestTaskID	文字列	○		入力	最後に実行された配布のタスク ID

・ グローバルオブジェクト一覧

なし

3.1.18 VM 生成前オプション処理(エージェントあり)

・ シナリオ名

PreCreateAgentVMOperation

・ 処理概要

VM 生成前のオプション処理を行います

・ 実行条件

特になし

- フロー図

なし

※VM 生成前に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「vDCA_PreCreateVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.1.19 VM 生成後オプション処理(エージェントあり)

- シナリオ名

PostCreateAgentVMOperation

- 処理概要

VM 生成後のオプション処理を行います

- 実行条件

特になし

- フロー図

なし

※VM 生成後に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「vDCA_PostCreateVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.1.20 VM 再構成前オプション処理(エージェントあり)

- シナリオ名

PreReconfigureAgentVMOperation

- 処理概要

VM 再構成前のオプション処理を行います

- 実行条件

特になし

- フロー図

なし

※VM 再構成前に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「vDCA_PreReconfigureVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.1.21 VM 再構成後オプション処理(エージェントあり)

- シナリオ名

PostReconfigureAgentVMOperation

- 処理概要

VM 再構成後のオプション処理を行います

- 実行条件

特になし

- フロー図

なし

※VM 再構成後に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「vDCA_PostReconfigureVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.1.22 VM 削除前オプション処理(エージェントあり)

- シナリオ名

PreDeleteAgentVMOperation

- 処理概要

VM 削除前のオプション処理を行います

- 実行条件

特になし

- フロー図

なし

※VM 削除前に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「vDCA_PreDeleteVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.1.23 VM 削除後オプション処理(エージェントあり)

- シナリオ名

PostDeleteAgentVMOperation

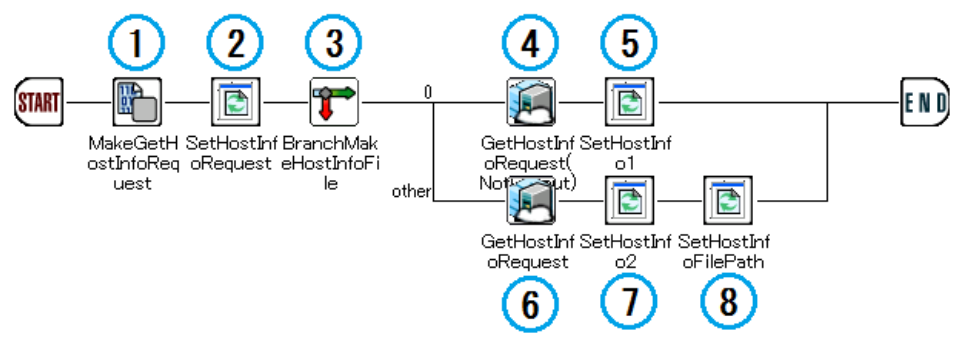
- 処理概要
VM 削除後のオプション処理を行います
- 実行条件
特になし
- フロー図
なし

※VM 削除後に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「vDCA_PostDeleteVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.1.24 ホスト情報取得

- シナリオ名
GetHostInfo
- 処理概要
生成した VM のホスト情報を取得する
- 実行条件
VM の生成に成功していること
- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ホスト情報取得リクエストを作成	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。実行結果を確認し、継続実行する。

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
2	1 で作成したリクエストを格納※1 の結果出力からホスト情報取得リクエストを取得		
3	ホスト情報のファイル出力の可否を判断		
4	SSC へホスト情報取得を要求※ホスト情報のファイル出力なし	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、呼び出し元のワークフローを再度実行する。
5	ホスト情報を格納※4 の結果出力からホスト情報を取得		
6	SSC へホスト情報取得を要求※ホスト情報のファイル出力	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、呼び出し元のワークフローを再度実行する。
7	ホスト情報を格納※6 の結果出力からホスト情報を取得		
8	VM のホスト情報が出力されたファイルのパスを格納※6 の結果出力から結果詳細出力ファイルのパスを取得		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	入出力 *1	説明
HostPath	文字列	○		入力	ホスト情報を取得したい VM のホストパス(呼び出し元で設定)
HostInfoRequest	文字列				SSC へホスト情報を要求するためのリクエスト
HostInfo	文字列			出力	ホスト情報
HostInfoFilePath	文字列			出力	ホスト情報が記載されたファイルのパス
MakeHostInfoFile	整数		1	入力	結果詳細ファイルを作成するか、しないかのフラグ

*1 入出力の記載のないローカルオブジェクトはシナリオ内部でのみ使用します。

- グローバルオブジェクト一覧

なし

3.1.25 一時ファイル削除

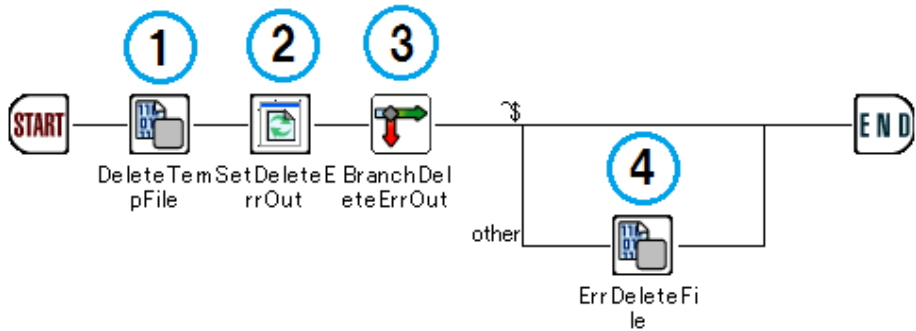
- シナリオ名

DeleteTemporaryFile

- 処理概要

一時ファイルの削除を行う

- 実行条件
削除するファイルが存在すること
- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	一時ファイルを削除	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。実行結果を確認し、マネージャの状態を確認後、呼び出し元のフローを継続実行する。
2	一時ファイル削除結果をローカルオブジェクトに設定		
3	一時ファイル削除結果を確認		
4	ファイル削除失敗時の異常終了処理	継続実行	ファイルの削除に失敗。エラーの対処後、一時ファイルを手動で削除する。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
FilePath	文字列	○		入力	削除するファイルのパス(呼び出し元で設定)
DeleteErrOut	文字列			出力	ファイル削除処理の標準エラー出力

- グローバルオブジェクト一覧
なし

3.1.26 スタティックルート設定

- シナリオ名
SetStaticRoute
- 処理概要

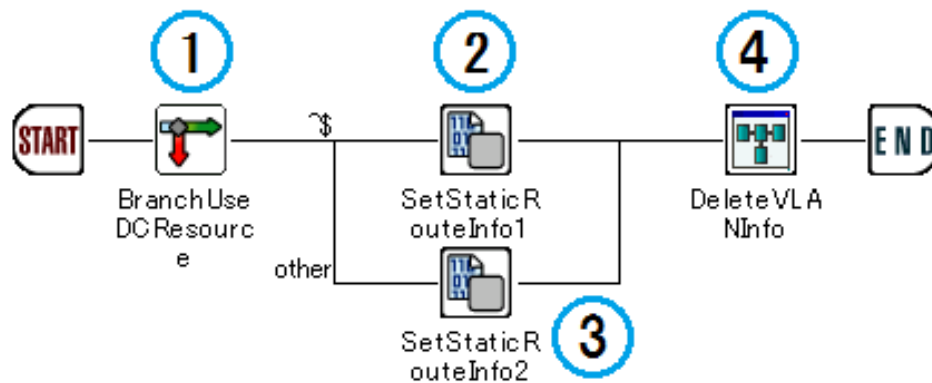
管理サーバのマネージャとエージェントが通信するために、エージェントがインストールされている VM にスタティックルートを設定する。

- 実行条件

VM を生成してから本シナリオ実行までに時間を要すると、タイムアウトすることがある為、VM を生成してから本シナリオ実行までの間に、シナリオを追加しないことを推奨。

VLAN 情報が記載されたファイルが管理サーバに転送されているか、グローバルオブジェクトに VLAN 情報が設定されていること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	DC リソース管理機能の使用有無 (vDCA_TenantNWSubnetInfo の設定有無)を判断		
2	管理サーバとエージェントが接続できるように、ネットワーク設定を実行	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
3	管理サーバとエージェントが接続できるように、ネットワーク設定を実行	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
4	VLAN 情報が記載されたファイルを削除 (サブシナリオ DeleteTemporaryFile を実行)	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。実行結果を確認し、マネージャの状態を確認後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
HostInfoFilePath	文字列	○		入力	対象 VM のホスト情報が記載されたファイルのパス(呼び出し元で設定)
UUID	文字列	○		入力	対象 VM の UUID(呼び出し元で設定)
VLANInfoFilePath	文字列	○		入力	VLAN 情報が記載されたファイルパス(呼び出し元で設定)

- グローバルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	説明
vDCA_ManagerIPAddress	文字列			管理サーバの運用管理用 LAN の IP アドレス 設定例：172.17.1.7
vDCA_GatewayAddress	文字列			テナントネットワーク側のゲートウェイのベースアドレス 設定例：0.0.0.254
vDCA_TenantNWSubnetInfo	文字列			テナントネットワーク側のサブネット情報 設定例：10.1.16.0/24

3.1.27 WindowsOS のアクティベーション

- シナリオ名

WindowsOSActivation

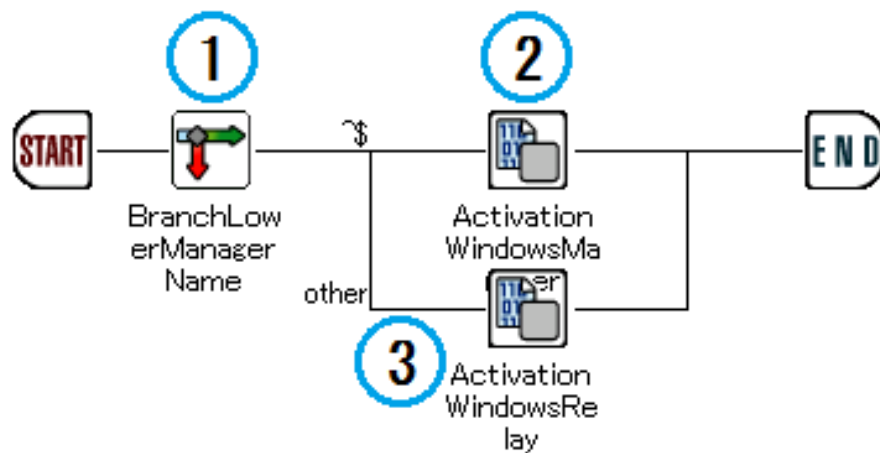
- 処理概要

生成した VM の OS アクティベーションを実施する。

- 実行条件

VM 生成時にライセンスが指定されていること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	エージェントの接続先が VM 監視サーバか管理サーバかを判断		
2	アクティベーションを実行 (管理サーバにエージェントが接続されている場合)		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
3	アクティベーションを実行 (VM 監視サーバにエージェントが接続されている場合)		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
LowerManagerName	文字列			入力	下位マネージャ名(呼び出し元で設定)
AgentName	文字列			入力	エージェント名(呼び出し元で設定)

- グローバルオブジェクト一覧

なし

3.1.28 VM 生成(エージェントあり)

- シナリオ名

CreateAgentVM

- 処理概要

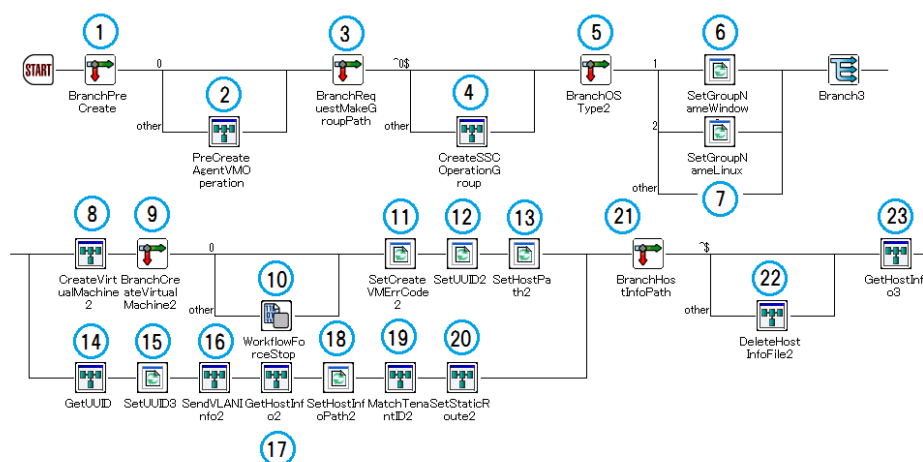
エージェントがインストールされた VM を生成し、マネージャとの通信設定、ライセンスキーの紐付け、ソフトウェアの配布、性能監視設定を行う

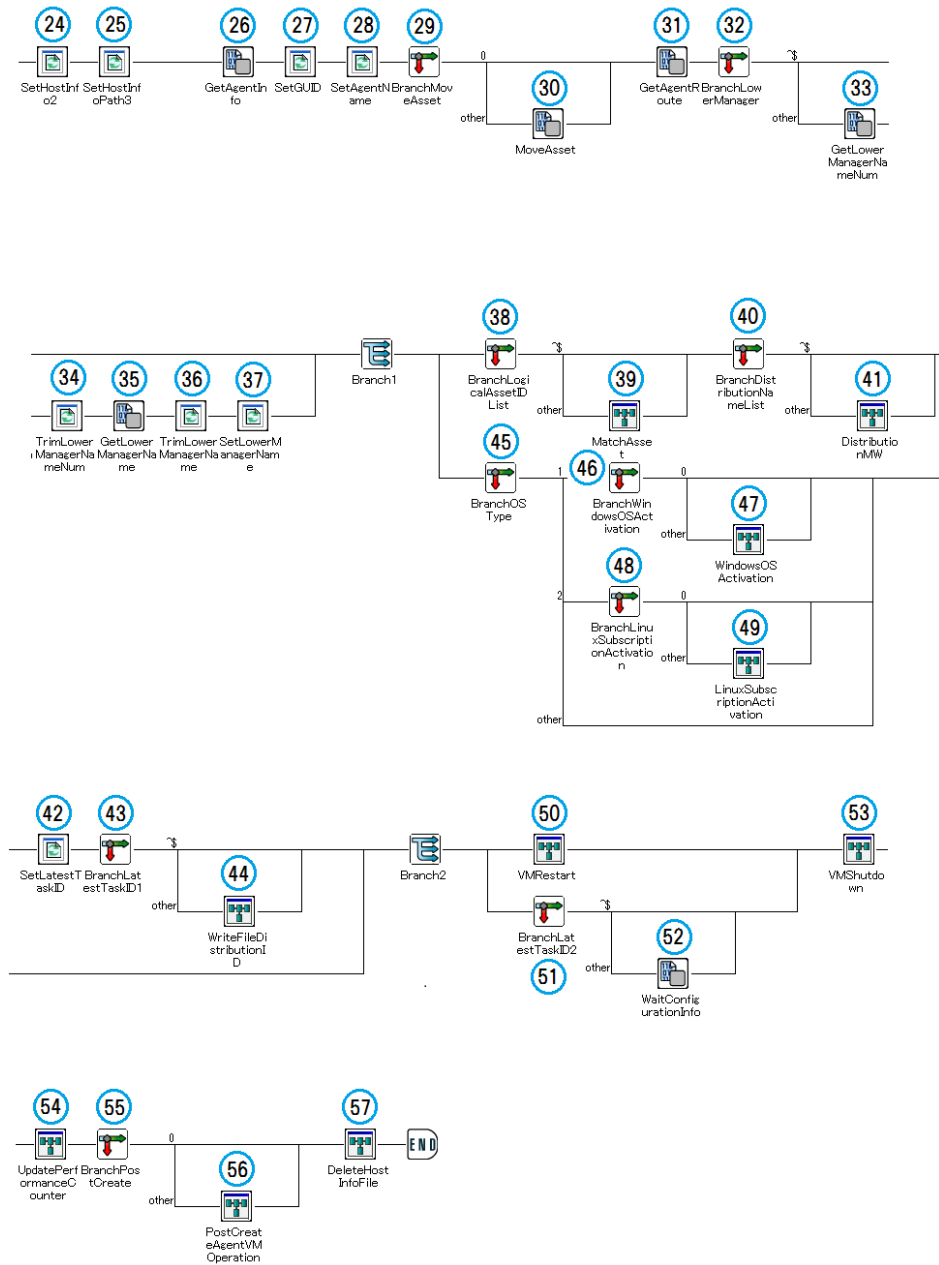
- 実行条件

リソースプールに、生成する VM を作成できるだけの空きがあること

VM のテンプレートに、エージェントがインストールされていること。

- フロー図





• 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	VM 生成前処理を行うか判断 ※オプション機能を使用する場合は、 other ルートのシナリオを実行		
2	VM 生成処理の前にオプション用の 処理を実行(サブシナリオ PreCreateAgentVMOperation を実行)	フロー停止	
3	SSC 運用グループを作成するかどうかで判断		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
4	SSC の運用グループを作成(サブシナリオ CreateSSCOperationGroup を実行)	フロー停止	広域管理サーバと管理サーバが接続されていない可能性がある。接続状況を確認後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
5	OS 種別で判断		
6	SSC 上の WindowsVM が格納される運用グループ名を設定		
7	SSC 上の LinuxVM が格納される運用グループ名を設定		
8	VM 生成(サブシナリオ CreateVM(Sub)を実行)	継続実行	
9	VM 生成の実行結果で判断		
10	シナリオの強制停止※UUID が取得できなかった場合、シナリオを強制停止	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
11	VM 生成時の HTTP ステータスコードをローカルオブジェクトに設定		
12	生成した VM の UUID を格納		
13	生成した VM のホストパスを格納		
14	UUID を取得 (サブシナリオ GetUUID を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
15	取得した UUID を設定		
16	VLAN 情報を取得し、ファイルに出力したファイルを管理サーバへファイル転送 (サブシナリオ SendVLANInfo を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
17	生成した VM のホスト情報を取得(サブシナリオ GetHostInfo を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
18	VM のホスト情報が出力されたファイルのパスを格納		
19	テナント ID の設定(サブシナリオ MatchTenantID を実行)	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。 実行結果を確認し、呼び出し先のマネージャの状態を確認後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
20	管理サーバとエージェントが通信するためにスタティックルートを設定(サブシナリオ SetStaticRoute を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
21	VM のホスト情報が出力されたファイルのパスで判断		
22	ホスト情報が記載されたファイルを削除(サブシナリオ DeleteTemporaryFile を実行)	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。 実行結果を確認し、呼び出し先のマネージャの状態を確認後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
23	生成した VM のホスト情報を取得(サブシナリオ GetHostInfo を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、再度サービスリクエストする。

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
24	VM のホスト情報を格納		
25	VM のホスト情報が出力されたファイルのパスを格納		
26	エージェント情報の取得	フロー停止	エージェントがマネージャに接続できていない。VM テンプレートの誤りが考えられる。エラー対処後、再度サービスリクエストする。
27	GUID の格納		
28	エージェント名の格納		
29	資産移動を行うかどうかで判断		
30	資産移動を実行	継続実行	
31	エージェントの経路情報からマネージャ名及び下位マネージャ名を取得	フロー停止	データベースサーバへの接続失敗、検索タイムアウト。 データベースの起動、エージェントの接続を確認し、継続実行する。
32	VM 監視サーバに繋がっているか判断		
33	VM 監視サーバ名を取得	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。 実行結果を確認し、継続実行する。
34			
35		フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。 実行結果を確認し、継続実行する。
36			
37			
38	ライセンスキーの紐付けを行うか判断		
39	ライセンスキーの紐付け(サブシナリオ MatchAsset を実行)	フロー停止	ライセンスキー番号、インデックスが不正。サービスリクエストの誤りであれば、VM 削除のサービスリクエストで VM を削除し、再度サービスリクエストする。そうでなければ、エラーに対処し、継続実行する。
40	ソフトウェア配布を行うか判断		
41	ソフトウェア配布(サブシナリオ DistributionMW を実行)	フロー停止	配布パッケージ名、バージョンが不正。サービスリクエストの誤りであれば、VM 削除のサービスリクエストで VM を削除し、再度サービスリクエストする。そうでなければ、エラーに対処し、継続実行する。
42	配布タスク ID を格納		
43	配布処理が行われたか確認		
44	配布識別 ID をファイルに記載(サブシナリオ WriteFileDistributionID を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
45	アクティベーションをするために、OS 種別を判断		
46	Windows の OS アクティベーションを実施するか判断		
47	Windows の OS アクティベーションを実施(サブシナリオ WindowsOSActivation を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
48	Linux のサブスクリプションのアクティベーションを実施するか判断		
49	Linux のサブスクリプションのアクティベーションを実施(サブシナリオ LinuxSubscriptionActivation を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
50	VM 再起動(サブシナリオ VMRestart を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
51	配布処理が行われたか確認		
52	構成情報収集の待ち合わせ	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。 実行結果を確認し、呼び出し先のマネージャの状態を確認後、フローを継続実行する。 構成情報収集の待ち合わせでタイムアウトしている場合は、「構成情報収集の待ち合わせ時間変更手順」に従って、待ち合わせ時間を延長してください。
53	VM 停止(サブシナリオ VMShutdown を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
54	VM 監視設定更新(サブシナリオ UpdatePerformanceCounter(Sub)を実行)	フロー停止	本部品失敗時は、下記シナリオを手動実行してください。 [Automation]-[Automatic]-[VM]-[SubScenario]-[UpdatePerformanceCounter(Sub)]
55	VM 生成後処理を行うか判断※オプション機能を使用する場合は、other ルートのシナリオを実行		
56	VM 生成処理の後にオプション用の処理を実行(サブシナリオ PostCreateAgentVMOperation を実行)	フロー停止	
57	ホスト情報が記載されたファイルを削除(サブシナリオ DeleteTemporaryFile を実行)	フロー停止	本部品失敗時は、ファイルが残っているため、手動でファイルを削除してください。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
CreateHostInfo	文字列	○		入力	VM 作成 API(POST/api/jobs/createhost)を使用するための JSON 形式の文字
TenantID	文字列	○		入力	テナント ID
HostUUID	文字列			出力	生成した VM の UUID
HostPath	文字列			出力	SSC に登録されたホストパス
AGHostName	文字列	○		入力	ホスト名
AgentName	文字列				生成した VM のエージェント名
GUID	文字列				生成した VM の GUID
ManagerName	文字列	○		入力	サブシナリオを実行するマネージャ名
ResourcePoolName	文字列			入力	SSC 運用グループパスに割り当てるリソースプール名
HostInfoFilePath	文字列				生成した VM のホスト情報が格納されたファイルパス
LowerManagerName	文字列				生成した VM が VM 監視サーバに接続されている場合は、VM 監視サーバ名を設定する。
EndCategoryName	文字列			入力	SSC 運用グループに設定するカテゴリ名(サービスガバナーで設定)
LowerManagerNameNum	文字列				生成した VM が VM 監視サーバに接続されている場合は、VM 監視サーバ名の文字数を設定する。
RootCategoryName	文字列			入力	SSC 運用グループに設定するルートカテゴリ名
GroupNameWindows	文字列			入力	SSC 上の WindowsVM が格納される運用グループ名
GroupNameLinux	文字列			入力	SSC 上の LinuxVM が格納される運用グループ名
ModelName	文字列			入力	SSC 上の運用グループに設定するモデル名 ※運用グループを作成する場合は、必須です。
ModelType	文字列			入力	SSC 上の運用グループに設定するモデル種別
DPMMgrIPAddress	文字列			入力	DPM Manager の IP アドレス
LogicalAssetIDList	文字列			入力	ライセンスキーの ID
LogicalAssetIndexList	文字列			入力	ライセンスキーのインデックス
DistributionNameList	文字列			入力	配布のタスク名
DistributionVerList	文字列			入力	配布のバージョン名
OSType	整数		0	入力	OS 種別 1 : Windows 2 : Linux

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
HostInfo	文字列			出力	生成した VM のホスト情報(SSC ホスト情報取得 API の結果。JSON 形式)
CreateVMErrCode	文字列			出力	VM 生成の HTTP ステータスコード
LatestTaskID	文字列				配布のタスク ID
MoveAsset	整数		0	入力	資産移動を行うかどうか 0 : 資産移動を行わない 1 : 資産移動を行う
SpecifiedManager	文字列			入力	接続先 VM 監視サーバ名
HyperVisorType	文字列			入力	仮想化基盤種別
GroupName	文字列			入力	SSC 上の VM が格納される運用グループ名
RequestMakeGroupPath	文字列			入力	SSC 運用グループを作成するかどうか 0 : 作成不要 1 : 作成必要

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	説明
vDCA_PreCreateVMFlag	整数		0	VM 生成前のオプション処理実施有無 0 : オプション処理を実施しない 1 : オプション処理を実施する
vDCA_PostCreateVMFlag	整数		0	VM 生成後のオプション処理実施有無 0 : オプション処理を実施しない 1 : オプション処理を実施する
vDCA_Windows_OSActivation	整数		0	Windows の OS のアクティベーション実施有無
vDCA_RHEL_SubscriptionActivation	整数		0	Red Hat のサブスクリプションのアクティベーション実施有無
vDCA_SSCSettingResource	整数		0	作成するカテゴリグループにリソースプールを設定するかどうか 0 : リソースプールを設定する 1 : リソースプールを設定しない

- 構成情報収集の待ち合わせ時間変更手順

1. 広域管理サーバの監視端末に接続します。
2. 「設定(S)」 - 「定義モード(C)」を選択し、定義モードを取得します。

3. 「CreateAgentVM」シナリオを選択し、右クリックメニューから「有効(B)」を選択しチェックを外します。
4. 「CreateAgentVM」シナリオを選択し、右クリックメニューから「定義編集(T)」を選択します。
5. 「WaitConfigurationInfo」部品をダブルクリックし、「アクション設定 - WaitConfigurationInfo」ダイアログを開きます。
6. オプション(O): を下記のように変更してください。変更前のデフォルト待ち合わせ時間は 10 分(600 秒)になります。
(例) 15 分(900 秒)に設定する場合
 - [変更前]
-agent %&&GUID% -notice %&&LatestTaskID%
 - [変更後]
-agent %&&GUID% -notice %&&LatestTaskID% 900
7. 「OK」ボタンを押下します。
8. 「CreateAgentVM」シナリオの編集画面を閉じ、"編集を保存しますか?"のダイアログが表示されたら、「はい(Y)」を押下します。
9. 「CreateAgentVM」シナリオを選択し、右クリックメニューから「有効(B)」を選択しチェックをつけます。
10. 「設定(S)」 - 「定義モード(C)」を選択し、定義モードを解除します。

3.1.29 VM 再構成(エージェントあり)

- シナリオ名

ReconfigureAgentVM

- 処理概要

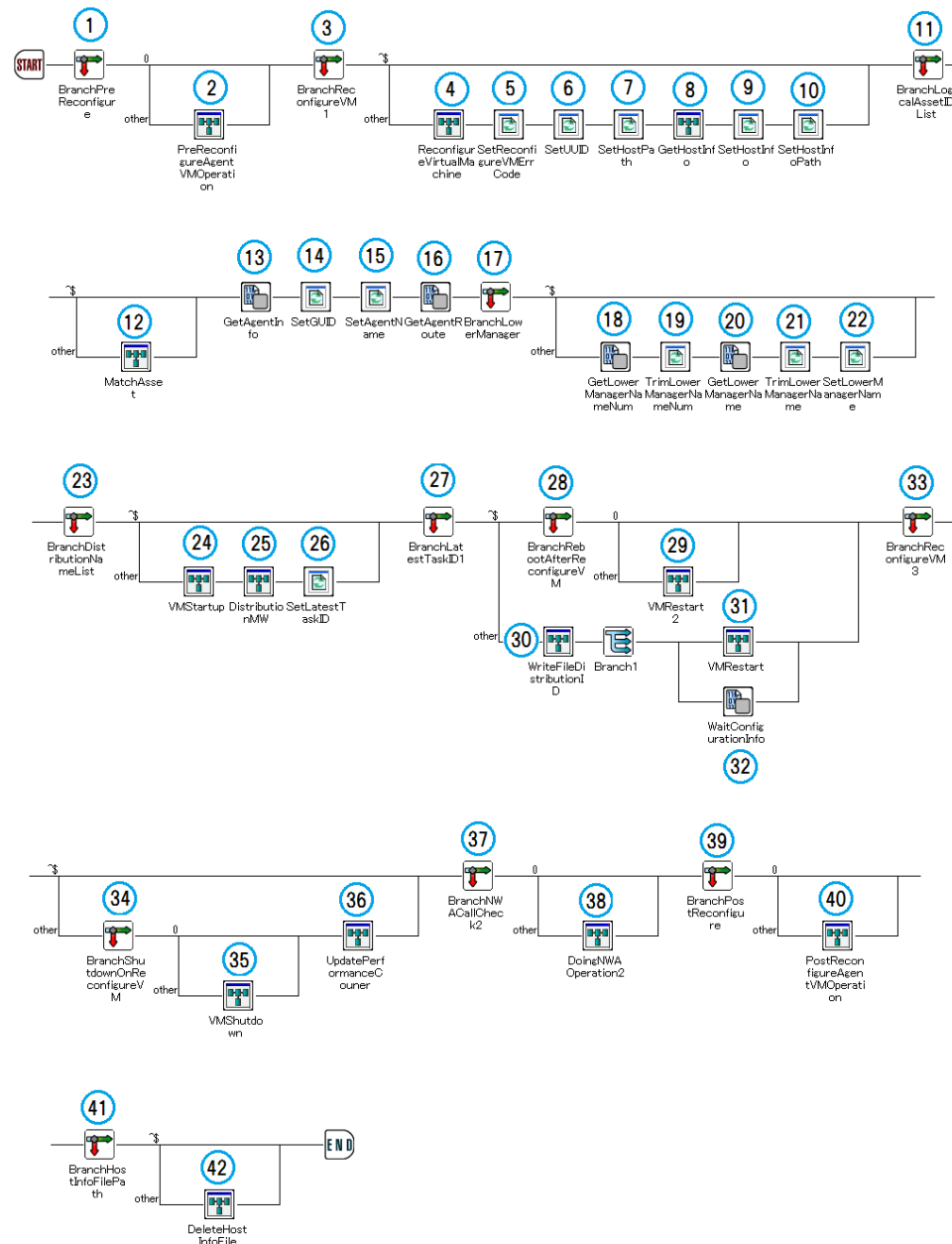
VM を再構成し、ライセンスキーの紐付け、ソフトウェアの配布、性能監視設定の更新を行う

また、NW オートメーション機能を使用する場合は、Pod の縮退を行う

- 実行条件

再構成対象となる VM が作成されていること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	VM 再構成前処理を行うか判断 ※オプション機能を使用する場合は、 other ルートのシナリオを実行		
2	VM 再構成処理の前にオプション用の 処理を実行 (サブシナリオ PreReconfigureAgentVMOperation を実行)	フロー停止	
3	再構成の要求判断		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
	※再構成 VM 情報がなければ実行しない(VM 再構成時に、マシン構成が変更されない場合もある)		
4	VM 再構成(サブシナリオ ReconfigureVM(Sub)を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
5	VM 再構成時の HTTP ステータスコードをローカルオブジェクトに設定		
6	再構成した VM の UUID を格納		
7	再構成した VM のホストパスを格納		
8	再構成した VM のホスト情報を取得(サブシナリオ GetHostInfo を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
9	VM のホスト情報を格納		
10	VM のホスト情報が出力されたファイルのパスを格納		
11	ライセンスキーの紐付けを行うか判断		
12	ライセンスキーの紐付け(サブシナリオ MatchAsset を実行)	フロー停止	ライセンスキー番号、インデックスが不正。サービスリクエストの誤りであれば、VM 削除のサービスリストで VM を削除し、再度サービスリクエストする。そうでなければ、エラーに対処し、継続実行する。
13	エージェント情報の取得	フロー停止	エージェントがマネージャに接続できていない。VM テンプレートの誤りが考えられる。VM 削除のサービスリクエストで VM を削除し、再度サービスリクエストする。
14	GUID の格納		
15	エージェント名の格納		
16	エージェントの経路情報からマネージャ名及び下位マネージャ名を取得	フロー停止	データベースサーバへの接続失敗、検索タイムアウト。 データベースの起動、エージェントの接続を確認し、継続実行する。
17	VM 監視サーバに繋がっているか判断		
18	VM 監視サーバ名を取得	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。 実行結果を確認し、継続実行する。
19			
20		フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。 実行結果を確認し、継続実行する。
21			
22			
23			
23	ソフトウェア配布を行うか判断		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
24	VM を起動(サブシナリオ VMStartup を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
25	ソフトウェア配布(サブシナリオ DistributionMW を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
26	配布タスク ID を格納		
27	ソフトウェア配布が行われたか確認		
28	構成情報収集(再起動)を行うかどうか (vDCA_RebootAfterReconfigureVM) で判断		
29	VM 再起動(サブシナリオ VMRestart を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
30	配布識別 ID をファイルに記載 (サブシナリオ WriteFileDistributionID を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
31	VM 再起動(サブシナリオ VMRestart を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
32	構成情報収集の待ち合わせ	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。 実行結果を確認し、呼び出し先のマネージャの状態を確認後、フローを継続実行する。 構成情報収集の待ち合わせでタイムアウトしている場合は、「 3.1.28 VM 生成(エージェントあり) (72 ページ) 」の「構成情報収集の待ち合わせ時間変更手順」に従って、待ち合わせ時間を延長してください。
33	VM の再構成が行われたか判断 ※ソフトウェア配布のみなど、マシンの構成が変更されない場合もある。 マシンの構成が変更されない場合は、性能情報監視の再設定は必要ない。		
34	構成変更を行う場合 VM 停止を行うかどうかで判断		
35	VM 停止(サブシナリオ VMShutdown を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
36	VM 監視設定更新(サブシナリオ UpdatePerformanceCounter(Sub)を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
37	NW オートメーションのシナリオを呼び出すかどうか判断		
38	VM 用 NW の Pod 間連携による縮退を実行 (サブシナリオ DoingNWAOperation を実行)	フロー停止	3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
			ジ)」を参照し対処後、再度サービスリクエストする。
39	VM 再構成後処理を行うか判断 ※オプション機能を使用する場合は、 other ルートのシナリオを実行		
40	VM 再構成処理の後にオプション用の処理を実行 (サブシナリオ PostReconfigureAgentVMOperation を実行)	フロー停止	
41	VM のホスト情報が記載されたファイルが存在するか判断		
42	ホスト情報が記載されたファイルを削除(サブシナリオ DeleteTemporaryFile を実行)	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。 実行結果を確認し、マネージャの状態を確認後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力*2	説明
HostUUID	文字列	○		入出力	再構成した VM の UUID
HostPath	文字列			出力	ホストパス(ネットワーク設定で使用)
AGHostName	文字列	○		入力	ホスト名
AgentName	文字列				再構成した VM のエージェント名
GUID	文字列				再構成する VM の GUID
ManagerName	文字列	○		入力	サブシナリオを実行するマネージャ名
LatestTaskID	文字列				配布のタスク ID
HostInfoFilePath	文字列				再構成した VM のホスト情報が格納されたファイルパス
ReConfigureVMErrCode	文字列			出力	VM 再構成の HTTP ステータスコード
ReConfigureHostInfo	文字列			入力	VM 再構成 API(POST/api/jobs/reconfigurehost)を使用するための JSON 形式の文字)
LowerManagerName	文字列				VM が VM 監視サーバに接続されている場合は、VM 監視サーバ名を設定する。
LowerManagerNameNum	文字列				VM が VM 監視サーバに接続されている場合は、VM 監視サーバ名の文字数を設定する。
LogicalAssetIDList	文字列			入力	ライセンスキーの ID
LogicalAssetIndexList	文字列			入力	ライセンスキーのインデックス

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力*2	説明
DistributionNameList	文字列			入力	配布のタスク名
DistributionVerList	文字列			入力	配布のバージョン名
HostInfo	文字列			出力	再構成した VM のホスト情報(SSC ホスト情報取得 API の結果。JSON 形式)
DCResourceReserveID	文字列			入力	DC リソースの予約 ID
NWACallCheck	整数		0	入力	NW オートメーションシナリオの 呼び出しチェック 0 : 呼び出さない 1 : 呼び出す
TenantID	文字列			入力	テナント ID
ParentFlowID	文字列			入力	親シナリオ ReconfigureVM のシナ リオ ID
ParentInstanceDate	文字列			入力	親シナリオ ReconfigureVM のイン スタンス日付
ParentInstanceID	文字列			入力	親シナリオ ReconfigureVM のイン スタンス ID
ShutdownOnReconfigureV M	整数		0	入力	VM 停止を行うかどうか(呼び出し 元が設定) 0 : VM 停止しない 1 : VM 停止する

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

*2 入出力欄に入力の記載のないローカルオブジェクトは、値を設定すると誤動作を起こす可能性があります。

- グローバルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	説明
vDCA_PreReconfigureVMFlag	整数		0	VM 再構成前のオプション処理実施有 無 0 : オプション処理を実施しない 1 : オプション処理を実施する
vDCA_PostReconfigureVMFla g	整数		0	VM 再構成後のオプション処理実施有 無 0 : オプション処理を実施しない 1 : オプション処理を実施する
vDCA_RebootAfterReconfigur eVM	整数		0	構成情報収集（再起動）を行うかど うか 0 : 構成情報収集(再起動)を行わない 1 : 構成情報収集(再起動)を行う

3.1.30 VM 削除(エージェントあり)

- シナリオ名

DeleteAgentVM

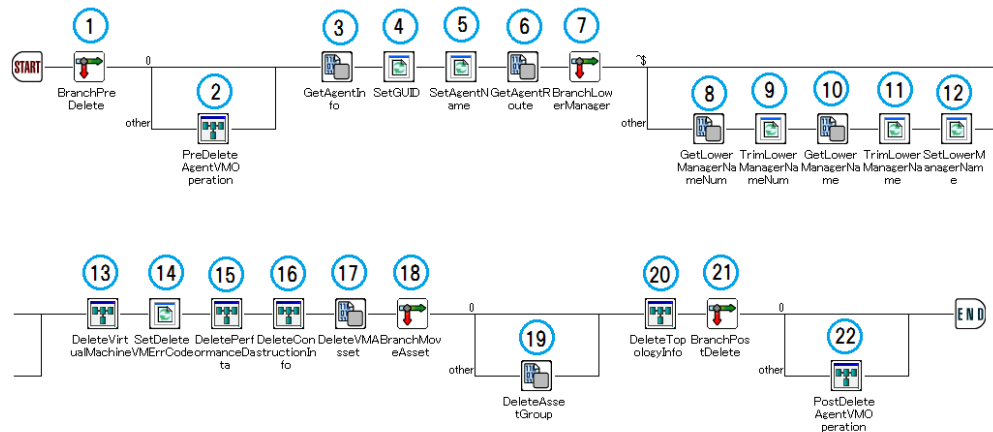
- 処理概要

VM を削除する。性能情報及び構成情報も削除する。

- 実行条件

削除対象の VM が存在していること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	VM 削除前処理を行うか判断※オプション機能を使用する場合は、other ルートのシナリオを実行		
2	VM 削除処理の前にオプション用の処理を実行(サブシナリオ PreDeleteAgentVMOperation を実行)	フロー停止	
3	エージェント情報の取得	フロー停止	エージェントがマネージャに接続できていない。VM テンプレートの誤りが考えられる。VM 削除のサービスリクエストで VM を削除し、再度サービスリクエストする。
4	GUID の格納		
5	エージェント名の格納		
6	エージェントの経路情報からマネージャ名及び下位マネージャ名を取得	フロー停止	データベースサーバへの接続失敗、検索タイムアウト。 データベースの起動、エージェントの接続を確認し、継続実行する。
7	VM 監視サーバに繋がっているか判断		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
8	VM 監視サーバ名を取得	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。 実行結果を確認し、継続実行する。
9			
10		フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。 実行結果を確認し、継続実行する。
11			
12			
13	VM 削除(サブシナリオ DeleteVM(Sub)を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
14	VM 削除時の HTTP ステータスコードをローカルオブジェクトに設定		
15	性能情報の削除(サブシナリオ DeletePerformanceData を実行)	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。 実行結果を確認し、呼び出し先のマネージャの状態を確認後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。 または、ポート番号の指定誤り(1-65535 の範囲外)の場合は、ポート番号を設定後、継続実行する。
16	管理サーバ用の構成情報の削除(サブシナリオ DeleteConstructionInfo を実行)	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。 実行結果を確認し、呼び出し先のマネージャの状態を確認後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
17	ライセンスキーの削除	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、フローを継続実行する。
18	資産グループを削除するかどうかで判断		
19	資産グループを削除	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、フローを継続実行する。
20	トポロジ情報の削除 (サブシナリオ DeleteTopologyInfo を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、フローを継続実行する。
21	VM 削除後処理を行うか判断※オプション機能を使用する場合は、other ルートのシナリオを実行		
22	VM 削除処理の後にオプション用の処理を実行(サブシナリオ PostDeleteAgentVMOperation を実行)	フロー停止	

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
UUID	文字列	○		入力	削除する VM の UUID
AGHostName	文字列	○		入力	ホスト名

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DeleteHostInfo	文字列	○		入力	VM 削除 API(POST/api/jobs/deletehost)を使用するための JSON 形式の文字)
GUID	文字列				GUID
AgentName	文字列				削除する VM のエージェント名
ManagerName	文字列	○		入力	サブシナリオを実行するマネージャ名
DeleteVMErrCode	文字列			出力	VM 削除時の HTTP ステータスコード
LowerManagerName	文字列				VM が VM 監視サーバに接続されている場合は、VM 監視サーバ名を設定する。
LowerManagerNameNum	文字列				VM が VM 監視サーバに接続されている場合は、VM 監視サーバ名の文字数を設定する。
TenantID	文字列			入力	テナント ID (資産グループ名)
MoveAsset	整数		0	入力	資産グループを削除するかどうか 0 : 資産グループを削除しない 1 : 資産グループを削除する

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	説明
vDCA_PreDeleteVMFlag	整数		0	VM 削除前のオプション処理実施有無 0 : オプション処理を実施しない 1 : オプション処理を実施する
vDCA_PostDeleteVMFlag	整数		0	VM 削除後のオプション処理実施有無 0 : オプション処理を実施しない 1 : オプション処理を実施する

3.1.31 SSC 運用グループ作成

- シナリオ名

CreateSSCOperationGroup

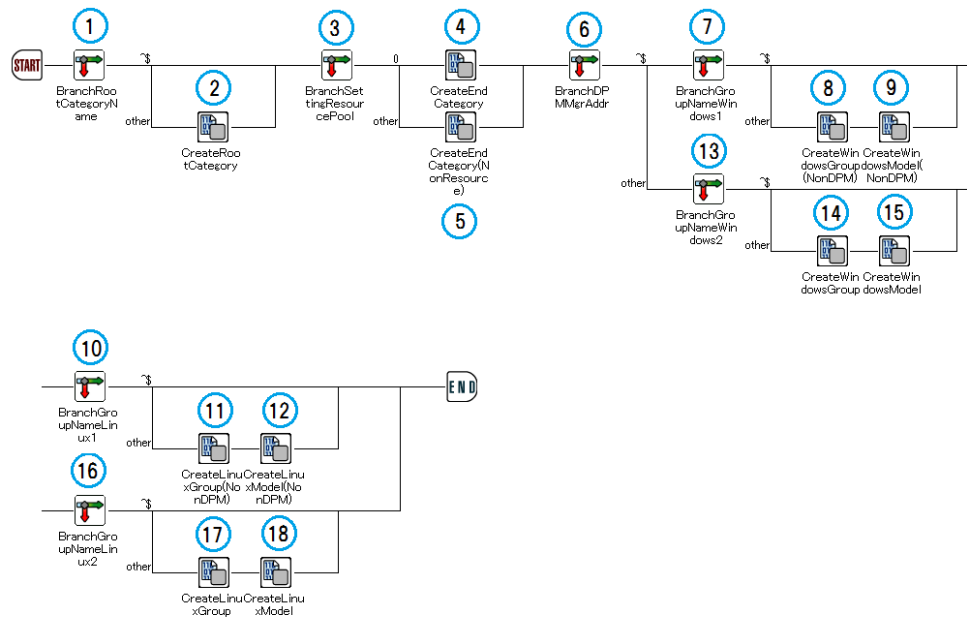
- 処理概要

SSC のグループを作成し、リソースプールを割り当てる。

- 実行条件

割り当てられるリソースプールが存在すること。

・ フロー図



・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ルートカテゴリの作成を判断		
2	ルートカテゴリを作成		
3	作成するカテゴリにリソースプールを設定するかどうか判断		
4	カテゴリの作成		
5	カテゴリの作成(リソースプールの設定なし)		
6	DPM が使用されているか判断		
7	Windows グループを作成するか判断		
8	Windows グループを作成		
9	Windows グループに Windows モデルを作成		
10	Linux グループを作成するか判断		
11	Linux グループを作成		
12	Linux グループに Linux モデルを作成		
13	Windows グループを作成するか判断		
14	Windows グループを作成		
15	Windows グループに Windows モデルを作成		
16	Linux グループを作成するか判断		
17	Linux グループを作成		
18	Linux グループに Linux モデルを作成		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
RootCategoryName	文字列			入力	ルートカテゴリ名(呼び出し元で設定)
EndCategoryName	文字列			入力	最下位カテゴリ名(呼び出し元で設定)
GroupNameWindows	文字列			入力	Windows グループ名(呼び出し元で設定)
GroupNameLinux	文字列			入力	Linux グループ名(呼び出し元で設定)
ModelName	文字列			入力	モデル名(呼び出し元で設定)
ModelType	文字列			入力	モデル種別(呼び出し元で設定)
ResourcePoolName	文字列			入力	割り当てるリソースプール名(呼び出し元で設定)
DPMMgrIPAddress	文字列			入力	DPM マネージャの IP アドレス(呼び出し元で設定)
SettingResourcePool	整数		0	入力	作成するカテゴリにリソースプールを設定するかどうか(呼び出し元で設定) 0 : リソースプールを設定する 1 : リソースプールを設定しない

- グローバルオブジェクト一覧

なし

3.1.32 事業者管理 VLAN 取得

- シナリオ名

SendVLANInfo

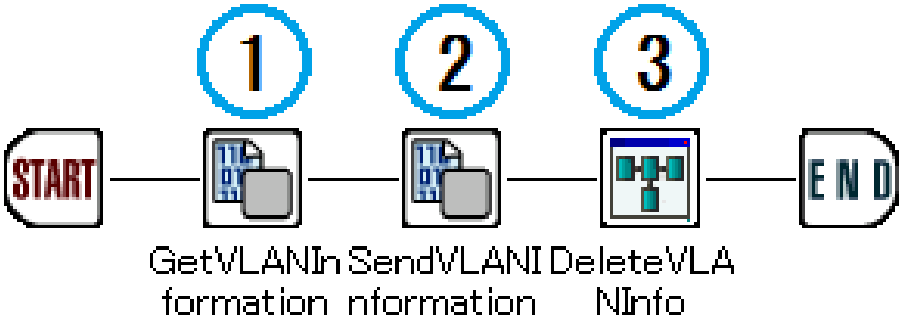
- 処理概要

事業者管理 VLAN 情報を取得する。

- 実行条件

テナント管理 VLAN が自動払い出しであること。

- フロー図



・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	VM の VLAN 情報を取得し、ファイルに出力 NW オートメーションを行わない場合にエラーとしない		
2	VM の VLAN 情報を管理サーバへ転送	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、フローを継続実行する。
3	管理サーバへ転送したファイルを削除(サブシナリオ DeleteTemporaryFile を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、フローを継続実行する。

・ ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
TenantID	文字列	○		入力	テナント ID
UUID	文字列	○		入力	UUID
ManagerName	文字列	○		入力	管理サーバ名

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

・ グローバルオブジェクト一覧

なし

3.1.33 Linux サブスクリプションのアクティベーション

・ シナリオ名

LinuxSubscriptionActivation

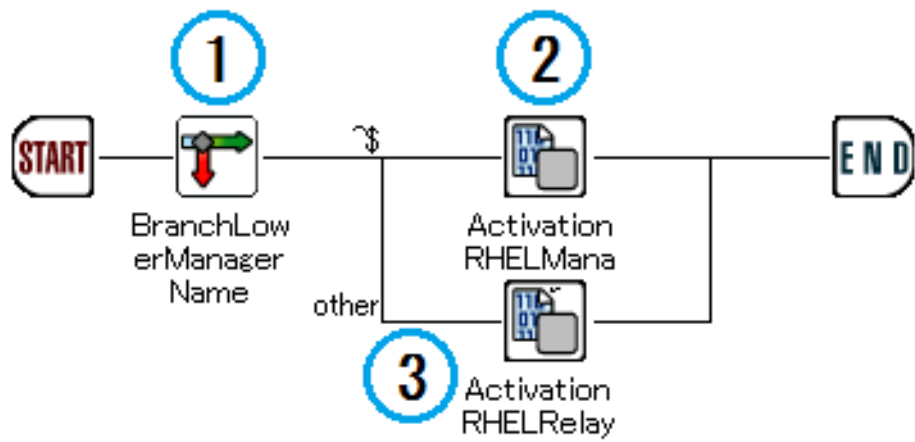
・ 処理概要

生成した VM の OS アクティベーションを実施する。

・ 実行条件

RedHatNetwork にライセンスが登録されていること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	エージェントの接続先が VM 監視サーバか管理サーバかを判断		
2	アクティベーションを実行 (管理サーバにエージェントが接続されている場合)		
3	アクティベーションを実行 (VM 監視サーバにエージェントが接続されている場合)		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
LowerManagerName	文字列			入力	シナリオを実行するマネージャ名 (呼び出し元で設定)
AGHostName	文字列			入力	エージェントホスト名(呼び出し元で設定)
AgentName	文字列			入力	エージェント名(呼び出し元で設定)

- グローバルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	説明
vDCA_RHNPassword	文字列			Red Hat Network のログインパスワード
vDCA_RHNUserName	文字列			Red Hat Network のログイン名

3.1.34 VM 生成(エージェントなし)

- シナリオ名

CreateAgentlessVM

- 処理概要

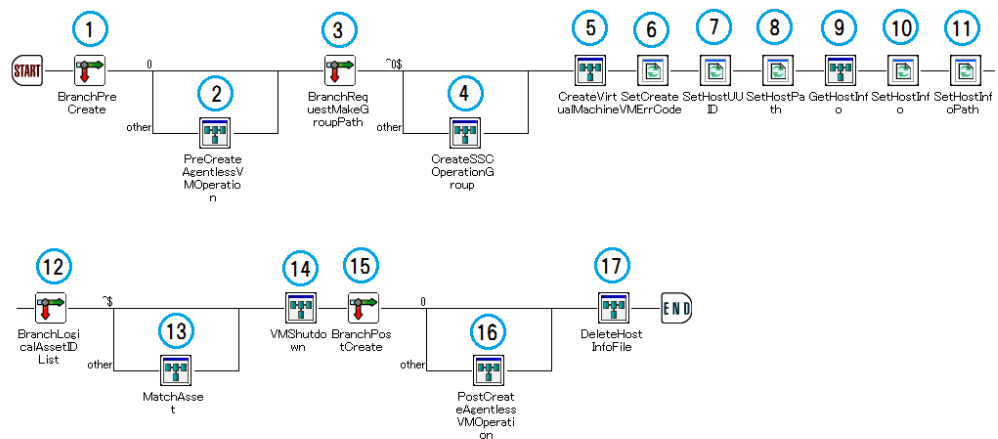
VM の生成、ライセンスキーの紐付けを行う

※VM 生成(エージェントなし)では Windows の OS アクティベーション、Linux のサブスクリプションアクティベーションは実行しません。本シナリオで VM 生成を行った場合、手動でのアクティベーションが必要となります。

- 実行条件

リソースプールに、生成する VM を作成できるだけの空きがあること

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	VM 生成前のオプション処理を実行するかどうか判断		
2	VM 生成前のオプション処理を実行(サブシナリオ PreCreateAgentlessVMOperation を実行)	フロー停止	
3	SSC 運用グループを作成するかどうかで判断		
4	SSC の運用グループを作成(サブシナリオ CreateSSCOperationGroup を実行)	フロー停止	広域管理サーバと管理サーバが接続されていない可能性がある。接続状況を確認後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
5	VM の生成を実行(サブシナリオ CreateVM(Sub)を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
6	VM 生成時の HTTP ステータスコードを設定		
7	生成した VM の UUID を設定		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
8	生成した VM のホストパスを設定		
9	生成した VM のホスト情報を取得(サブシナリオ GetHostInfo を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
10	VM のホスト情報を設定		
11	VM のホスト情報が出力されたファイルのパスを設定		
12	ライセンスキーの紐付けを行うかどうか判断		
13	ライセンスキーの紐付けを実行(サブシナリオ MatchAsset を実行)	フロー停止	ライセンスキー番号、インデックスが不正。サービスリクエストの誤りであれば、VM 削除のサービスリクエストで VM を削除し、再度サービスリクエストする。そうでなければ、エラーに対処し、継続実行する。
14	VM の停止(サブシナリオ VMShutdown を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、生成した VM を削除する。また、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
15	VM 生成後のオプション処理を実行するかどうか判断		
16	VM 生成後のオプション処理を実行(PostCreateAgentlessVMOOperation を実行)	フロー停止	
17	ホスト情報が記載されたファイルを削除(サブシナリオ DeleteTemporaryFile を実行)	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。 実行結果を確認し、管理サーバの状態を確認後、VM を削除する。また、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
ManagerName	文字列	○		入力	管理サーバ名
CreateHostInfo	文字列	○		入力	SSC の VM 作成 API を使用するための JSON 形式の文字列
HostUUID	文字列			出力	生成した VM の UUID
OSType	文字列			入力	OS 種別(本バージョンでは使用しません) 1 : Windows 2 : Linux
LogicalAssetIDList	文字列			入力	ライセンスキーの ID リスト
LogicalAssetIndexList	文字列			入力	ライセンスキーのインデックスリスト
HostPath	文字列			出力	SSC に登録されたホストパス
CreateVMErrCode	文字列			出力	VM 生成時の HTTP ステータスコード

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
ResourcePoolName	文字列			入力	SSC の運用グループパスに割り当てるリソースプール名
HostInfo	文字列			出力	生成した VM のホスト情報
RootCategoryName	文字列			入力	SSC の運用グループに設定するルートカテゴリ名
EndCategoryName	文字列			入力	SSC の運用グループに設定するカテゴリ名
HostInfoFilePath	文字列				生成した VM のホスト情報が格納されたファイルパス
GroupNameWindows	文字列			入力	WindowsVM が格納される SSC の運用グループ名
GroupNameLinux	文字列			入力	LinuxVM が格納される SSC の運用グループ名
ModelName	文字列			入力	SSC の運用グループに設定するモデル名
ModelType	文字列			入力	SSC の運用グループに設定するモデル種別
DPMMgrIPAddress	文字列			入力	DPM Manager の IP アドレス
RequestMakeGroupPath	文字列			入力	SSC 運用グループを作成するかどうか 0 : 作成不要 1 : 作成必要

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	説明
vDCA_PreCreateVMFlag	整数		0	VM 生成前のオプション処理実施有無 0 : オプション処理を実施しない 1 : オプション処理を実施する
vDCA_PostCreateVMFlag	整数		0	VM 生成後のオプション処理実施有無 0 : オプション処理を実施しない 1 : オプション処理を実施する
vDCA_SSCSettingResource	整数		0	作成するカテゴリにリソースプールを設定するかどうか 0 : リソースプールを設定する 1 : リソースプールを設定しない

3.1.35 VM 削除(エージェントなし)

- シナリオ名

DeleteAgentlessVM

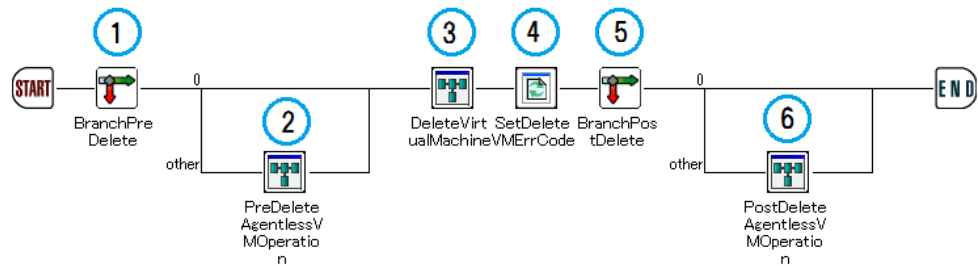
- 処理概要

VM の削除を行う

- 実行条件

削除対象の VM が存在していること

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	VM 削除前のオプション処理を行うかどうか判断		
2	VM 削除前のオプション処理を実行 (サブシナリオ PreDeleteAgentlessVMOperation を実行)	フロー停止	
3	VM を削除 (サブシナリオ DeleteVM(Sub) を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処を行う。
4	VM 削除時の HTTP ステータスコードを設定		
5	VM 削除後のオプション処理を行うかどうか判断		
6	VM 削除後のオプション処理を実行 (サブシナリオ PostDeleteAgentlessVMOperation を実行)	フロー停止	

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
ManagerName	文字列	○		入力	管理サーバ名
DeleteHostInfo	文字列	○		入力	SSC の VM 削除 API を使用するための JSON 形式の文字列
DeleteVMErrCode	文字列			出力	VM 削除時の HTTP ステータスコード

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	説明
vDCA_PreDeleteVMFlag	整数		0	VM 削除前のオプション処理実施有無 0：オプション処理を実施しない 1：オプション処理を実施する
vDCA_PostDeleteVMFlag	整数		0	VM 削除後のオプション処理実施有無 0：オプション処理を実施しない 1：オプション処理を実施する

3.1.36 VM 生成後オプション処理(エージェントなし)

- ・ シナリオ名

PostCreateAgentlessVMOperation

- ・ 処理概要

VM 生成(エージェントなし)後のオプション処理を行う

- ・ 実行条件

特になし

- ・ フロー図

なし

※VM 生成(エージェントなし)後に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「vDCA_PostCreateVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.1.37 VM 削除後オプション処理(エージェントなし)

- ・ シナリオ名

PostDeleteAgentlessVMOperation

- ・ 処理概要

VM 削除(エージェントなし)後のオプション処理を行う

- ・ 実行条件

特になし

- ・ フロー図

なし

※VM 削除(エージェントなし)後に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「vDCA_PostDeleteVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.1.38 VM 生成後オプション処理

- シナリオ名

PostCreateVMOperation

- 処理概要

VM 生成後のオプション処理を行う

- 実行条件

特になし

- フロー図

なし

※VM 生成後に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「vDCA_PostCreateVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.1.39 VM 再構成(エージェントなし)

- シナリオ名

ReconfigureAgentlessVM

- 処理概要

VM の再構成を行う

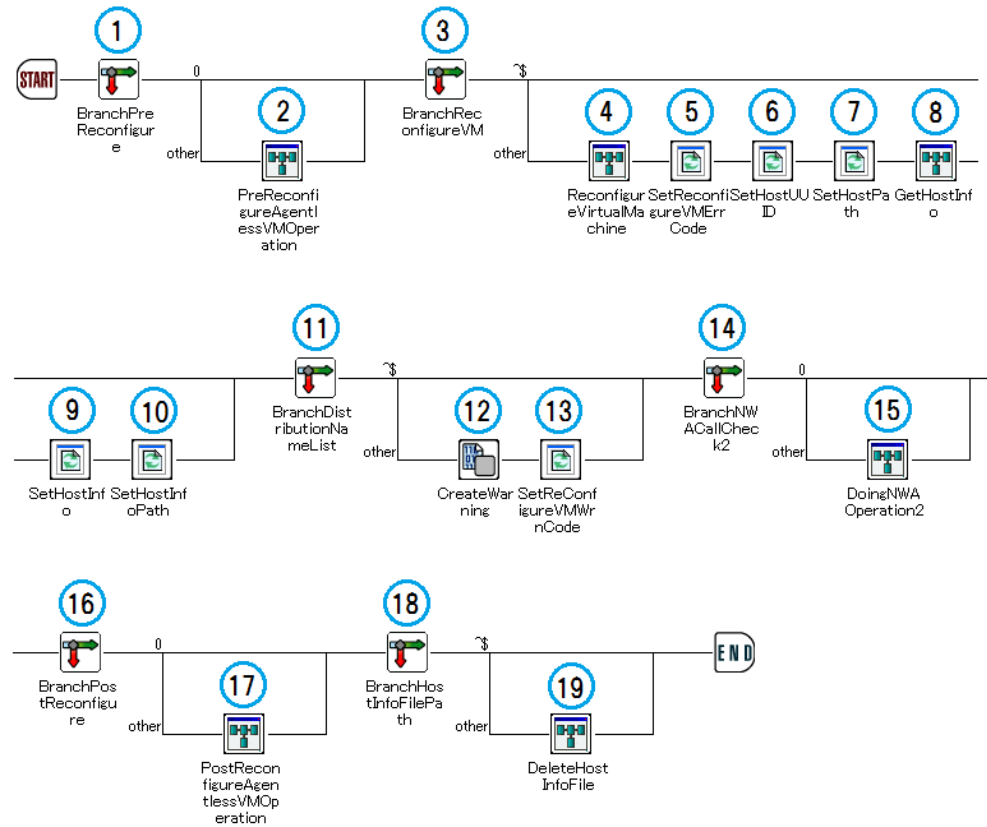
また、NW オートメーション機能を使用する場合は、Pod の縮退を行う

※VM 再構成(エージェントなし)ではソフトウェア配布は行いません。

- 実行条件

再構成対象となる VM が存在すること

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	VM 再構成前処理を行うか判断		
2	VM 再構成処理の前にオプション用の処理を実行(サブシナリオ PreReconfigureAgentVMOperation を実行)	フロー停止	
3	VM 再構成の要求かどうか判断		
4	VM 再構成を実行(サブシナリオ ReconfigureVM(Sub)を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
5	VM 再構成時の HTTP ステータスコードを設定		
6	再構成した VM の UUID を設定		
7	再構成した VM のホストパスを設定		
8	再構成した VM のホスト情報を取得(サブシナリオ GetHostInfo を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、再度サービスリクエストする
9	VM のホスト情報を設定		
10	VM のホスト情報が出力されたファイルのパスを設定		
11	MW 配布が指定されているかどうか判断		
12	部品を警告終了		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
	※VM 再構成(エージェントなし)ではソフトウェア配布は実行しないため、ソフトウェア配布を指定している場合は警告終了		
13	警告コードを設定		
14	NW オートメーションのシナリオを呼び出すかどうか判断		
15	VM 用 NW の Pod 間連携による縮退を実行（サブシナリオ DoingNWAOperation を実行）	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照し対処後、再度サービスリクエストする。
16	VM 再構成後のオプション処理を行うか判断		
17	VM 再構成後のオプション処理を実行 (サブシナリオ PostReconfigureAgentlessVMOOperation を実行)	フロー停止	
18	VM のホスト情報が記載されたファイルが存在するかどうか判断		
19	ホスト情報が記載されたファイルを削除	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。 実行結果を確認し、管理サーバの状態を確認後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力*2	説明
TenantID	文字列			入力	テナント ID
ManagerName	文字列	○		入力	管理サーバ名
ReConfigureHostInfo	文字列			入力	SSC の VM 再構成 API を使用するための JSON 形式の文字列
HostUUID	文字列	○		入出力	再構成した VM の UUID
DistributionNameList	文字列				配布のタスク名※VM 再構成(エージェントなし)ではソフトウェアの配布は行いません。
HostPath	文字列			出力	SSC に登録されたホストパス
ReConfigureVMErrCode	文字列			出力	VM 再構成時の HTTP ステータスコード
HostInfo	文字列			出力	SSC ホスト情報取得 API の JSON 形式の実行結果
HostInfoFilePath	文字列				再構成した VM のホスト情報が格納されたファイルパス
ReConfigureVMWrnCode	整数		0	出力	VM 再構成時の警告コード 0：ソフトウェア配布が指定されていない

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力*2	説明
					1: ソフトウェア配布が指定されている
DCResourceReserveID	文字列			入力	DC リソースの予約 ID
NWACallCheck	整数		0	入力	NW オートメーションシナリオの呼び出しチェック 0: 呼び出さない 1: 呼び出す
ParentFlowID	文字列			入力	親シナリオ ReconfigureVM のシナリオ ID
ParentInstanceDate	文字列			入力	親シナリオ ReconfigureVM のインスタンス日付
ParentInstanceID	文字列			入力	親シナリオ ReconfigureVM のインスタンス ID
ShutdownOnReconfigureVM	整数		0	入力	VM 停止を行うかどうか(呼び出し元が設定) 0: VM 停止しない 1: VM 停止する

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

*2 入出力欄に入力の記載のないローカルオブジェクトは、値を設定すると誤動作を起こす可能性があります。

- グローバルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	説明
vDCA_PreReconfigureVMFlag	整数		0	VM 再構成前のオプション処理実施有無 0: オプション処理を実施しない 1: オプション処理を実施する
vDCA_PostReconfigureVMFlag	整数		0	VM 再構成後のオプション処理実施有無 0: オプション処理を実施しない 1: オプション処理を実施する

3.1.40 VM 再構成前オプション処理

- シナリオ名

PreReconfigureVMOperation

- 処理概要

VM 再構成前のオプション処理を行う

- 実行条件

特になし

- フロー図

なし

※VM 再構成前に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「vDCA_PreReconfigureVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.1.41 VM 再構成前オプション処理(エージェントなし)

- シナリオ名

PreReconfigureAgentlessVMOperation

- 処理概要

VM 再構成(エージェントなし)前のオプション処理を行う

- 実行条件

特になし

- フロー図

なし

※VM 再構成(エージェントなし)前に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「vDCA_PreReconfigureVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.1.42 VM 削除前オプション処理(エージェントなし)

- シナリオ名

PreDeleteAgentlessVMOperation

- 処理概要

VM 削除(エージェントなし)前のオプション処理を行う

- 実行条件

特になし

- フロー図

なし

※VM 削除(エージェントなし)前に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「vDCA_PreDeleteVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.1.43 VM 生成前オプション処理

- シナリオ名

PreCreateVMOperation

- 処理概要

VM 生成前のオプション処理を行う

- 実行条件

特になし

- フロー図

なし

※VM 生成前に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「vDCA_PreCreateVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.1.44 VM 生成前オプション処理(エージェントなし)

- シナリオ名

PreCreateAgentlessVMOperation

- 処理概要

VM 生成(エージェントなし)前のオプション処理を行う

- 実行条件

特になし

- フロー図

なし

※VM 生成(エージェントなし)前に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「vDCA_PreCreateVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.1.45 VM 再構成後オプション処理

- シナリオ名

PostReconfigureVMOperation

- 処理概要

VM 再構成後のオプション処理を行う

- 実行条件

特になし

- フロー図

なし

※VM 再構成後に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「vDCA_PostReconfigureVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.1.46 VM 再構成後オプション処理(エージェントなし)

- シナリオ名

PostReconfigureAgentlessVMOperation

- 処理概要

VM 再構成(エージェントなし)後のオプション処理を行う

- 実行条件

特になし

- フロー図

なし

※VM 再構成(エージェントなし)後に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「vDCA_PostReconfigureVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.1.47 VM 削除前オプション処理

- シナリオ名

PreDeleteVMOperation

- 処理概要

VM 削除前のオプション処理を行う

- 実行条件

特になし

- フロー図

なし

※VM 削除前に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「vDCA_PreDeleteVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.1.48 VM 削除後オプション処理

- シナリオ名

PostDeleteVMOperation

- 処理概要

VM 削除後のオプション処理を行う

- 実行条件

特になし

- フロー図

なし

※VM 削除後に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「vDCA_PostDeleteVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.1.49 UUID 取得

- シナリオ名

GetUUID

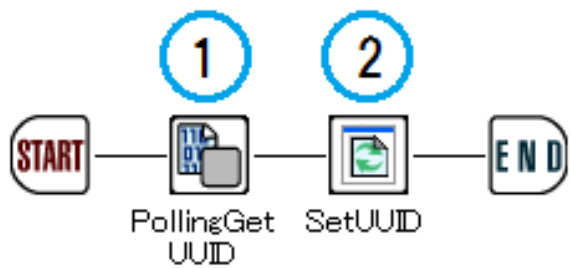
- 処理概要

指定したマシンの UUID を取得する

- 実行条件

特になし

- フロー図



• 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	指定した VM の UUID を取得	フロー停止	ワークフローを確認し、原因を取り除いた後継続実行する。
2	取得した UUID を設定		

• ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
GroupName	文字列	○		入力	SSC 上の VM が格納される運用グループ名
AGHostName	文字列	○		入力	ホスト名
UUID	文字列			出力	取得した UUID

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

• グローバルオブジェクト一覧

なし

3.2 VM テンプレート

本節では、VM テンプレートに関連するワークフローテンプレートの詳細について記載します。

3.2.1 VM テンプレート作成

• シナリオ名

CreateTemplate

• 処理概要

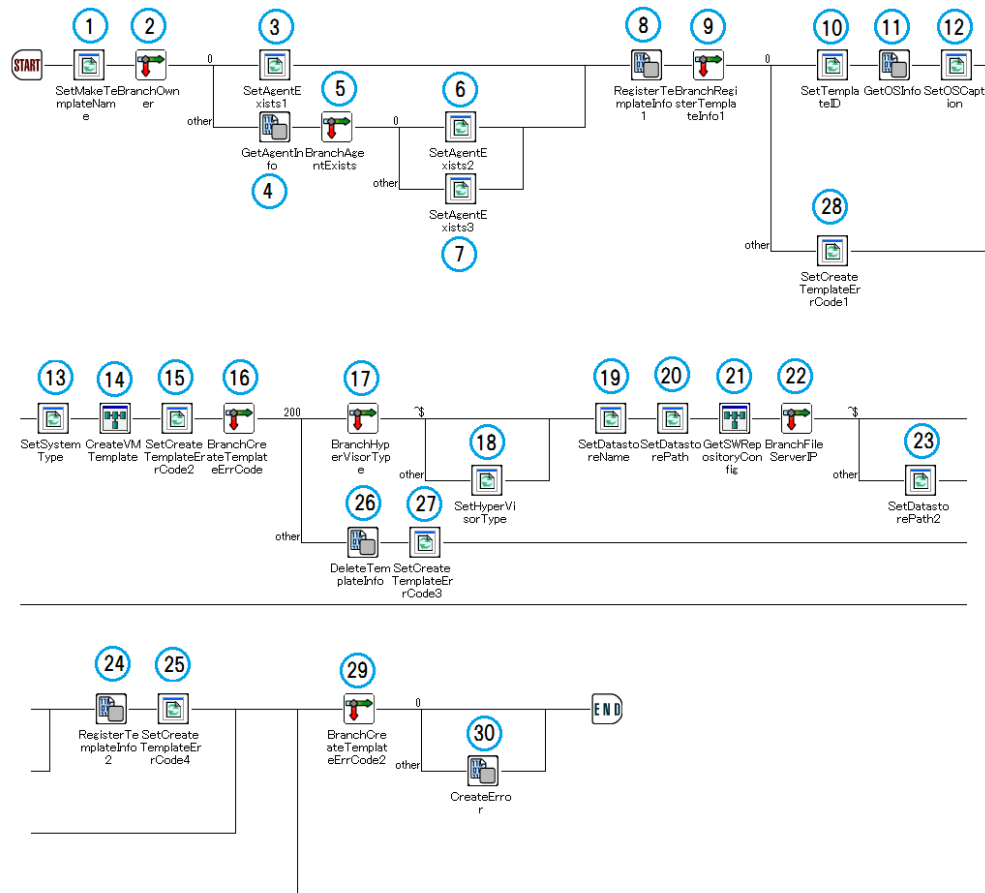
VM テンプレートの作成を行う

- 実行条件

リソースプールに、VM テンプレートを作成できるだけの空きがあること

マスタ VM が停止状態であること

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	SSC に登録する VM テンプレート名を設定		
2	マスタ VM の所有者を判断		
3	エージェント存在情報にエージェントありを設定		
4	マスタ VM のエージェント情報を取得	フロー停止	データベース接続失敗時。 エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
5	マスタ VM にエージェントがインストールされているかどうかを判断		
6	エージェント存在情報にエージェントありを設定		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
7	エージェント存在情報にエージェントなしを設定		
8	VM テンプレート情報をデータベースに登録	継続実行	データベース接続失敗時、または既に同名の VM テンプレートが存在している場合。 エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
9	既に作成済みのテンプレート名かどうかを確認		
10	VM テンプレート ID を設定		
11	マスタ VM の OS 情報を取得(*1)		
12	マスタ VM の OS キャプションを設定		
13	マスタ VM のシステムタイプを設定		
14	VM テンプレート作成を実行（サブシナリオ CreateTemplate(Sub)を実行）	継続実行	実行結果を確認し、エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
15	VM テンプレート作成時のエラーコードを設定		
16	VM テンプレート作成時のエラーコードを判断		
17	VM テンプレート作成時に仮想化基盤種別が取得できているかどうかで判断		
18	仮想基盤種別を設定		
19	データストア名を設定		
20	データストアの格納パスを設定		
21	ソフトウェアリポジトリの環境設定を取得	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
22	ソフトウェアリポジトリの環境設定を取得できたかどうか判断		
23	データストアの格納パスを設定		
24	VM テンプレート情報をデータベースに登録	フロー停止	データベース接続失敗時。 エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
25	VM テンプレート作成時のエラーコードを設定		
26	VM テンプレート情報をデータベースから削除	フロー停止	データベース接続失敗時。 エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
27	VM テンプレート作成時のエラーコードを設定		
28	VM テンプレート作成時のエラーコードを設定		
29	VM テンプレート作成が成功したかどうか判断		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
30	部品を異常終了 ※VM テンプレート作成に失敗した場合、異常終了	フロー停止	「異常終了時の対処」を参照し、VM テンプレート作成、VM テンプレート作成(Sub)のワークフローテンプレートで異常終了している部品の実行結果を確認後、再度サービスリクエストする。

*1 OS 情報を管理対象マシンの構成情報から取得します。VM テンプレートを作成する仮想化基盤が Hyper-V、KVM で OS 情報 (OS キャプション、システムタイプ) が取得できなかった場合、VM テンプレートが作成できない場合があります。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
ManagerName	文字列	*2		入力	管理サーバ名
TenantID	文字列	○		入力	テナント ID
Owner	整数	○	0	入力	マスタ VM の所有者 0 : IaaS 事業者 1 : テナント管理者 ※IaaS 事業者(0)が設定されている場合、マスタ VM にエージェントがインストールされている VM テンプレートとして管理します。
VMTemplateName	文字列	○		入力	IaaS 事業者またはテナント管理者が指定した VM テンプレート名
UUID	文字列	○		入力	マスタ VM の UUID ※存在しないマスタ VM の UUID が指定された場合、VM テンプレートの作成に失敗します。
HostPath	文字列	○		入力	マスタ VM のホストパス※存在しないホストパスが指定された場合、VM テンプレートの作成に失敗します。
SnapshotName	文字列			入力	スナップショット名 (本バージョンでは使用しません)
TemplateType	整数		0	入力	VM テンプレートの種別 1 : FullClone 2 : DifferentialClone 3 : DiskClone (本バージョンでは使用しません)
TemplateID	文字列			出力	作成した VM テンプレートの ID
MakeTemplateName	文字列			出力	作成した VM テンプレート名 (SSC に登録した VM テンプレート名)
CreateTemplateErrCode	文字列		0	出力	VM テンプレート作成時のエラーコード 0 : エラーなし

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
					1: 指定した VM テンプレート名が既に存在する 2: その他エラー
AgentExists	整数		0		エージェントの有無情報 0: エージェントなし 1: エージェントあり
DatastoreName	文字列				データストア名
DatastorePath	文字列				データストアパス
SetAdminPassword	整数		0	入力	管理者パスワード設定情報 0: 管理者パスワードを設定しない 1: 管理者パスワードを設定する
AdminPassword	文字列			入力	管理者パスワード※ SetAdminPassword に 1 を設定し管理者パスワードを指定した場合、有効です。
FileServerIP	文字列				ソフトウェアリポジトリファイルサーバの IP アドレス
HyperVisorType	文字列		0		仮想化基盤種別 0: 種別無し (未設定) 1: VMware 2: Hyper-V 3: KVM
OSCaption	文字列				マスタ VM の OS キャプション
SystemType	文字列				マスタ VM のシステムタイプ

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

*2 本パラメータは、サービスガバナーにより、自動で指定されます。サービスガバナーを経由せず、シナリオコマンド等で実行する場合は、本パラメータを指定してください。

- グローバルオブジェクト一覧

なし

- 異常終了時の対処

シナリオ実行部品が異常終了している場合は、部品の結果画面を開き、以下の情報を元に実行先サブシナリオのインスタンスを特定し、結果を確認してください。

- [実行定義]タブ

- * 実行先マネージャ名: <サブシナリオを実行したマネージャ名>

- * シナリオ名: <実行したサブシナリオ名>

- [実行結果]タブ

- * インスタンス開始日時: <サブシナリオが実行された日時>

* インスタンス ID : <サブシナリオのインスタンス ID>

* 結果詳細 :

また、アクション部品の失敗時は、部品の結果画面を開き、[コマンド結果]タブ、[コマンド出力]タブなどの情報も参考にしてください。

以下、ワークフローテンプレートの部品失敗時の主な原因と対処について記載します。

- VM テンプレートの登録に失敗する(実行先のサブシナリオの RegisterVMTemplate 部品で失敗していた場合)

* 原因

リクエストされた VM テンプレート名と同じ名前の VM テンプレートが既に存在している。

* 対処

VM テンプレート名はテナント内でユニークな名前にする必要があります。サービスリクエストの内容を見直してください。

- VM テンプレートの作成に失敗する(実行先サブシナリオの CreateVMTemplate 部品で失敗していた場合)

* 原因

VM テンプレート作成を行うための環境設定に不備。

リクエスト内容に不備がある。

* 対処

VM テンプレートの環境設定について見直してください。VM テンプレートの環境設定は『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『第7章 VM テンプレート作成』を参照してください。

管理サーバに監視端末を接続して、サブシナリオ「CreateTemplate(Sub)」の「CreateTemplate」部品の実行結果を確認するか、管理サーバの SSC の管理コンソールに接続し、失敗したジョブの詳細を確認し指定に不備のあるパラメータを特定してください。

3.2.2 VM テンプレート一覧取得

- シナリオ名

GetTemplateList

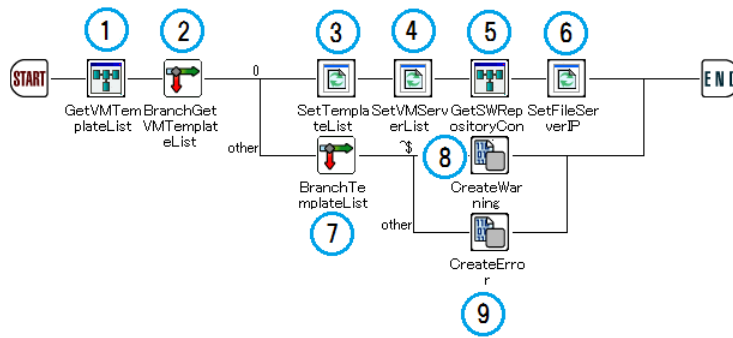
- 処理概要

VM テンプレート一覧の取得を行う

- 実行条件

特になし

・ フロー図



・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	VM テンプレートの一覧を取得 (サブシナリオ GetTemplateList(Sub)を実行)	継続実行	
2	VM テンプレートの一覧取得の実行結果で判断		
3	VM テンプレート一覧を設定		
4	VM サーバ情報一覧を設定		
5	ソフトウェアリポジトリの環境設定を取得できたかどうか判断 (サブシナリオ GetSWRepositoryConfig を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、再度コマンド*1 を実行する。
6	ソフトウェアリポジトリファイルサーバの IP アドレスを設定		
7	VM テンプレートの一覧の取得有無で判断		
8	部品を警告終了		
9	部品を異常終了	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、再度コマンド*1 を実行する。

*1 コマンドプロンプトで以下のどちらかの形式のコマンドを実行します。

```
> cd C:\ProgramFiles (x86)\NEC\vDCA\GM\FW\Manager\bin\
> SwRepositoryMgrCmd.exe collect template <シナリオ ID> [/M <管理サーバ名>]
[/T <テンプレート名>]
```

(1 行で入力します)

コマンド引数 <シナリオ ID> には、VM テンプレート一覧取得ワークフローのシナリオ ID を指定してください。

```
> SwRepositoryMgrCmd.exe collect template /P <シナリオ名> [/M <管理サーバ名>]
[/T <テンプレート名>]
```

(1 行で入力します)

コマンド引数 <シナリオ名> には、VM テンプレート一覧取得ワークフローのシナリオ名をフルパスで指定してください。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
ManagerName	文字列	○		入力	管理サーバ名
TemplateList	文字列			出力	VM テンプレートの一覧
VMServerList	文字列			出力	VM サーバ情報の一覧
FileServerIP	文字列			出力	ソフトウェアリポジトリファイルサーバの IP アドレス

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

なし

3.2.3 VM テンプレート削除

- シナリオ名

DeleteTemplate

- 処理概要

VM テンプレートの削除を行う

- 実行条件

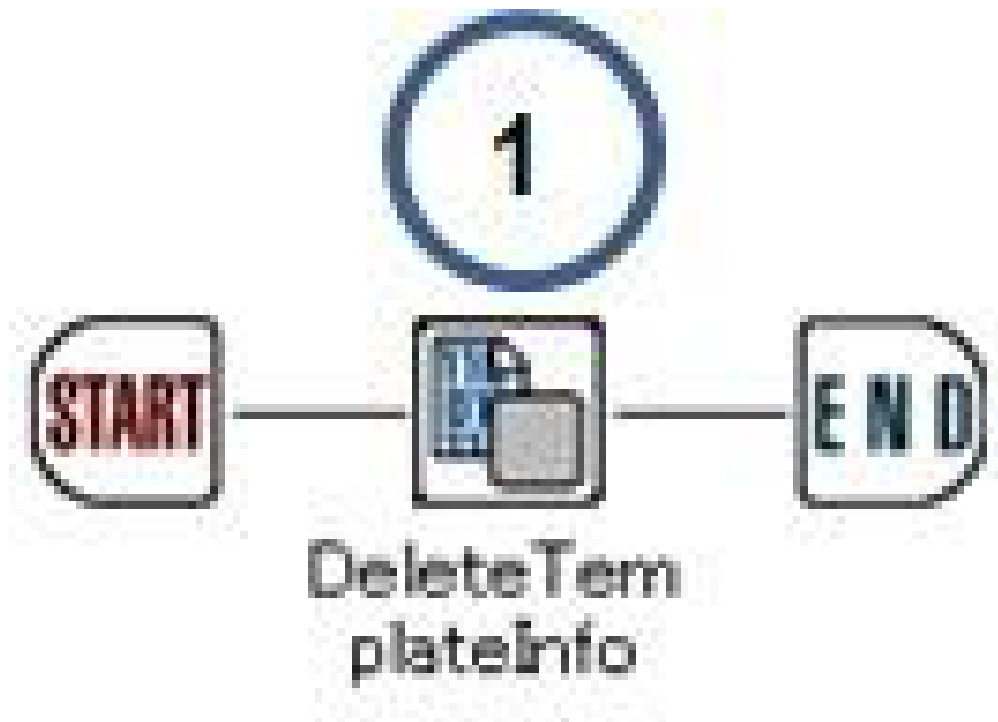
削除対象となる VM テンプレートが存在していること

削除対象の VM テンプレートから作成された VM が存在しないこと

注

削除対象の VM テンプレートから作成された VM が存在する場合、VM テンプレートの削除に失敗します。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	VM テンプレートと VM テンプレートの情報を削除	フロー停止	実行結果*1を確認し、エラーの対処後、再度サービスリクエストする。詳細については「異常終了時の対処」を参照。

*1 実行結果には異常終了した管理サーバ名と VM テンプレート削除時の HTTP ステータスコードを表示します。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
TenantID	文字列			入力	テナント ID (本バージョンでは使用しません)
TemplateID	文字列			入力	VM テンプレート ID (本バージョンでは使用しません)
TemplateName	文字列	○		入力	VM テンプレート名※存在しない VM テンプレートを指定した場合、VM テンプレートの削除に失敗します。
DeleteTemplateErrCode	文字列		0	出力	VM テンプレート削除の HTTP ステータスコード(本バージョンでは 0 固定)
DeleteTemplateReqScenario Path	文字列		Automation^%Automatic^%VMTe		DeleteTemplateReq のシナリオパス

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
			mplate^ %SubSc enario^ %Delete Templat eReq		

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧

なし

- ・ 異常終了時の対処

アクション部品の失敗時は、部品の結果画面を開き、[コマンド結果]タブ、[コマンド出力]タブなどの情報も参考にしてください。

以下、ワークフローテンプレートの部品失敗時の主な原因と対処について記載します。

- VM テンプレート情報の削除に失敗する(DeleteTemplateInfo 部品で失敗していた場合)

- * 原因

リクエスト内容に不備がある。

- * 対処

管理サーバに監視端末を接続して、サブシナリオ「DeleteTemplate(Sub)」の「DeleteTemplate」部品の実行結果を確認するか、管理サーバのSSCの管理コンソールに接続し、失敗したジョブの詳細を確認し指定に不備のあるパラメータを特定してください。

3.2.4 VM テンプレート作成(Sub)

- ・ シナリオ名

CreateTemplate(Sub)

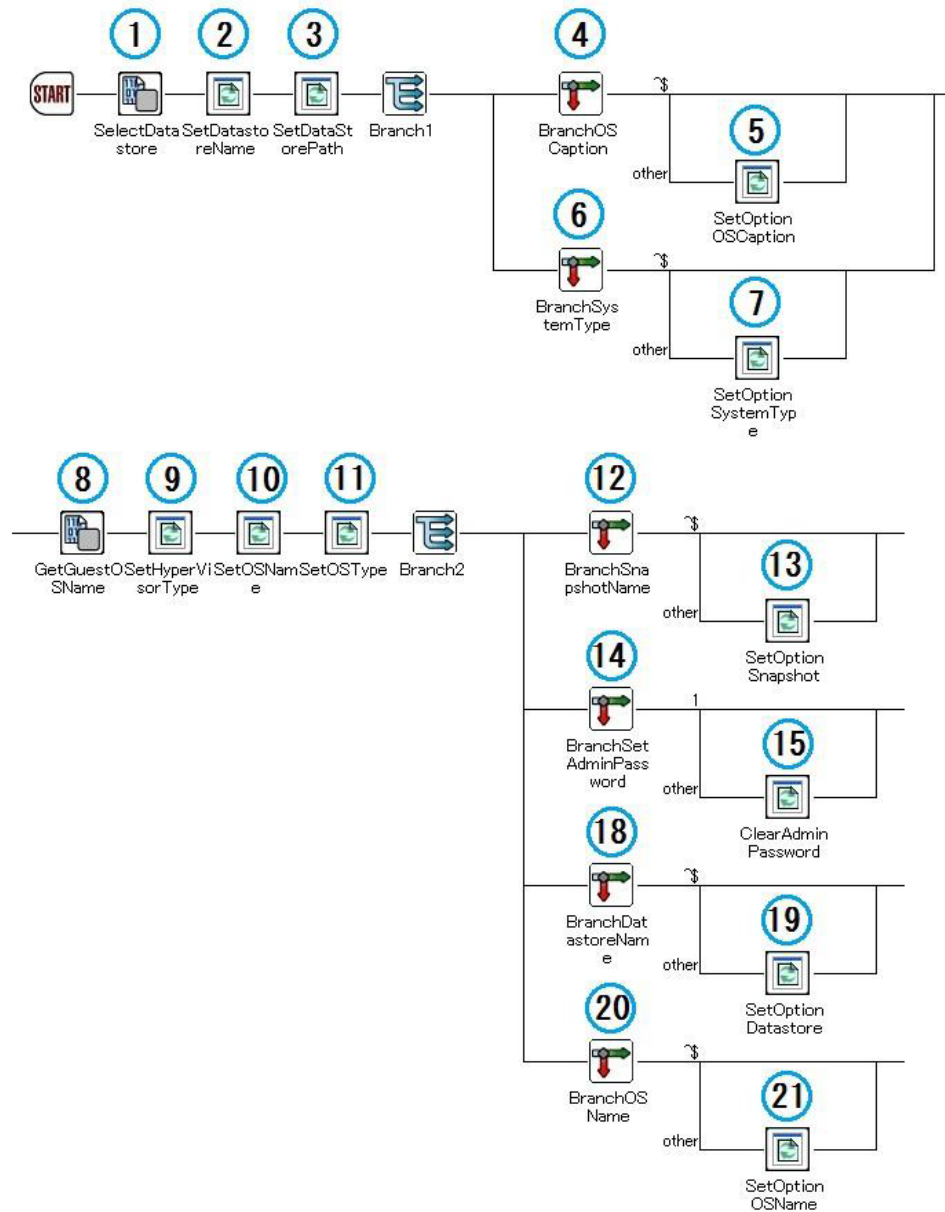
- ・ 処理概要

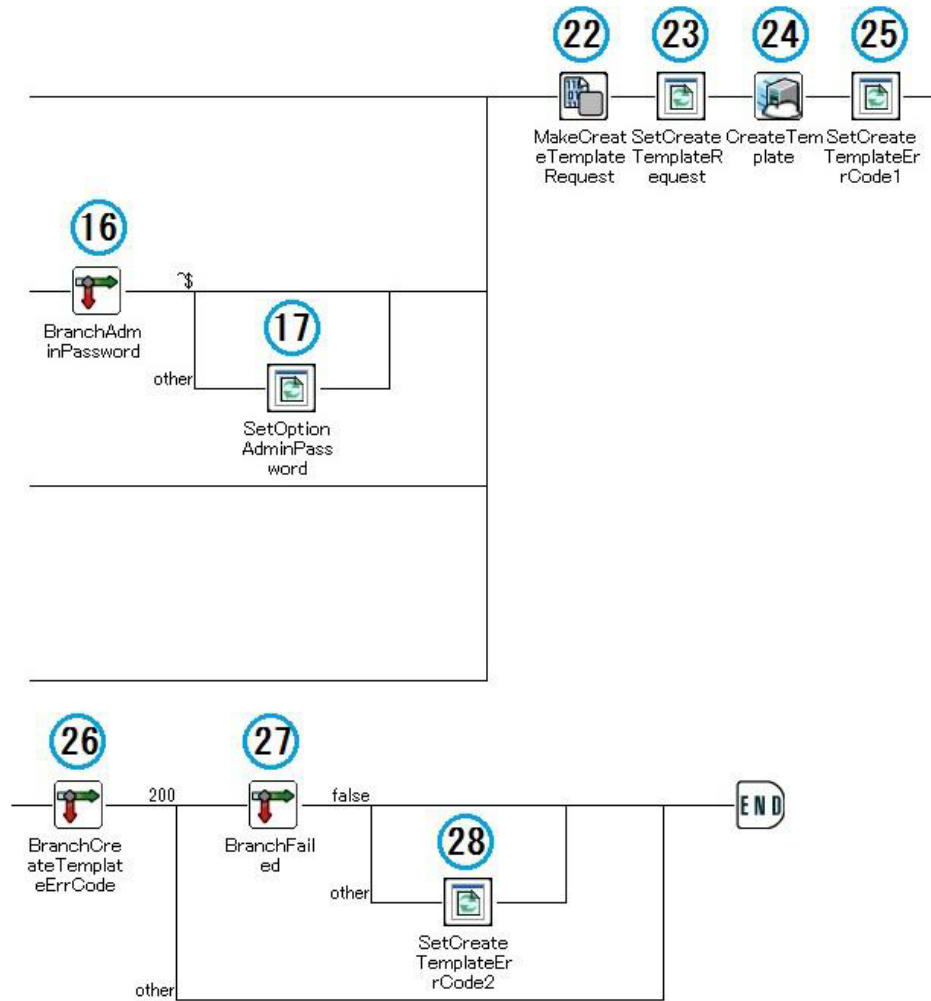
VM テンプレートの作成を行う

- ・ 実行条件

リソースプールに、VM テンプレートを作成できるだけの空きがあること

- ・ フロー図





- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	VM テンプレートを格納するデータストアを決定	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
2	データストア名を設定		
3	データストアパスを設定		
4	VM テンプレート作成時の OS 名を取得するため、マスタ VM の OS キャプション、システムタイプを設定		
5			
6			
7			
8	VM テンプレート作成時の OS 名を取得	フロー停止	メモリ確保失敗時。もしくは、起動プロセス上限数により実行できなかった場合。 管理サーバの状態を確認後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
9	仮想基盤種別を設定		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
10	OS 名を設定		
11	OS 種別を設定		
12	SSC へ VM テンプレート作成を要求するためのリクエストを作成するため、スナップショット名(※)、管理者パスワード、データストア名、OS 名を設定 ※本バージョンでは使用しません。		
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22	SSC へ VM テンプレート作成を要求するためのリクエストを作成	フロー停止	メモリ確保失敗時。もしくは、起動プロセス上限数により実行できなかった場合。 管理サーバの状態を確認後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
23	SSC へ VM テンプレート作成を要求するためのリクエストを設定		
24	SSC に VM テンプレートの作成を要求	継続実行	実行結果を確認し、エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
25	VM テンプレート作成時の HTTP ステータスコードを設定		
26	VM テンプレート作成時の HTTP ステータスコードを確認		
27	SSC のジョブが完了したかどうか判断		
28	VM テンプレート作成時のエラーコードを設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
UUID	文字列	○		入力	マスタ VM の UUID
HostPath	文字列	○		入力	マスタ VM のホストパス
SnapshotName	文字列			入力	スナップショット名※本バージョンでは使用しません。
TemplateType	整数		0	入力	VM テンプレートの種別 1 : FullClone 2 : DifferentialClone 3 : DiskClone ※本バージョンでは使用しません。
TemplateID	文字列			出力	作成した VM テンプレートの ID

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
MakeTemplateName	文字列			出力	作成した VM テンプレート名 (SSC に登録した VM テンプレート名)
CreateTemplateErrCode	文字列		0	出力	VM テンプレート作成時のエラーコード 0 : エラーなし 1 : 指定した VM テンプレート名が既に存在する 2 : その他エラー
CreateTemplateRequest					SSC へ VM テンプレート作成を要求するためのリクエスト
DatastoreName	文字列			出力	データストア名
DatastorePath	文字列			出力	データストアパス
SetAdminPassword	整数		0	入力	管理者パスワード設定情報 0 : 管理者パスワードを設定しない 1 : 管理者パスワードを設定する
AdminPassword	文字列			入力	管理者パスワード
OSName	文字列				マスタ VM の OS 名
OptionSnapshot	文字列				VM テンプレート作成を要求するためのリクエストにスナップショット名を設定するためのオプション※本バージョンでは使用しません。
OptionAdminPassword	文字列				VM テンプレート作成を要求するためのリクエストに管理者パスワードを設定するためのオプション
OptionDatastore	文字列				VM テンプレート作成を要求するためのリクエストにデータストア名を設定するためのオプション
OptionOSName	文字列				VM テンプレート作成を要求するためのリクエストに OS 名を設定するためのオプション
HyperVisorType	文字列		0	出力	仮想化基盤種別 0 : 種別無し (未設定) 1 : VMware 2 : Hyper-V 3 : KVM
OSType	文字列		0		OS 種別 1 : Windows 2 : Linux
OSCaption	文字列			入力	マスタ VM の OS キャプション
SystemType	文字列			入力	マスタ VM のシステム種別
OptionOSCaption	文字列				OS 名を取得するためにマスタ VM の OS キャプションを指定するためのオプション

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
OptionSystemType	文字列				OS 名を取得するためにマスタ VM のシステムタイプを指定するためのオプション

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧

なし

3.2.5 VM テンプレート登録

- ・ シナリオ名

RegisterTemplate

- ・ 処理概要

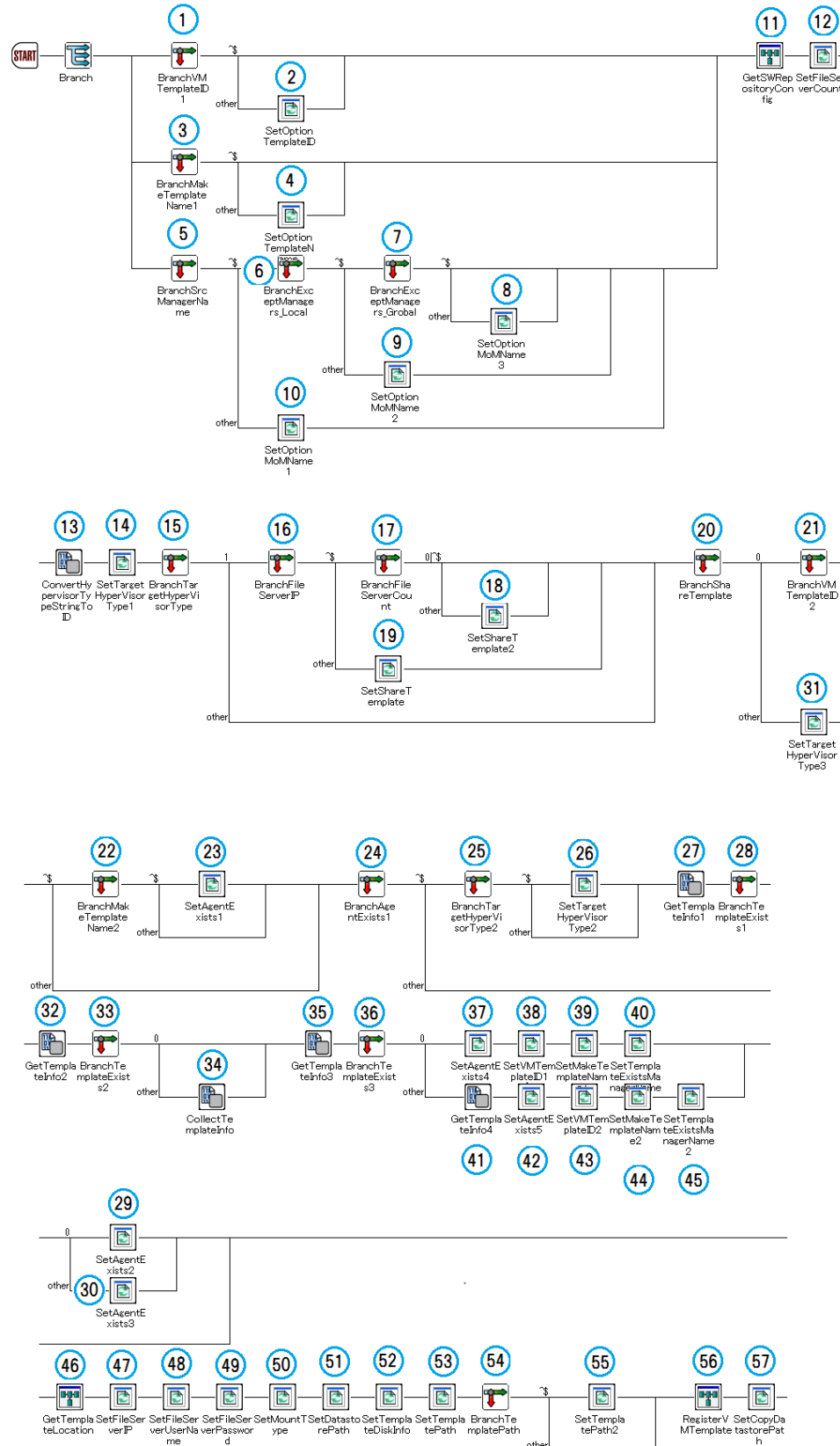
VM テンプレート機能により、VM テンプレートを登録する

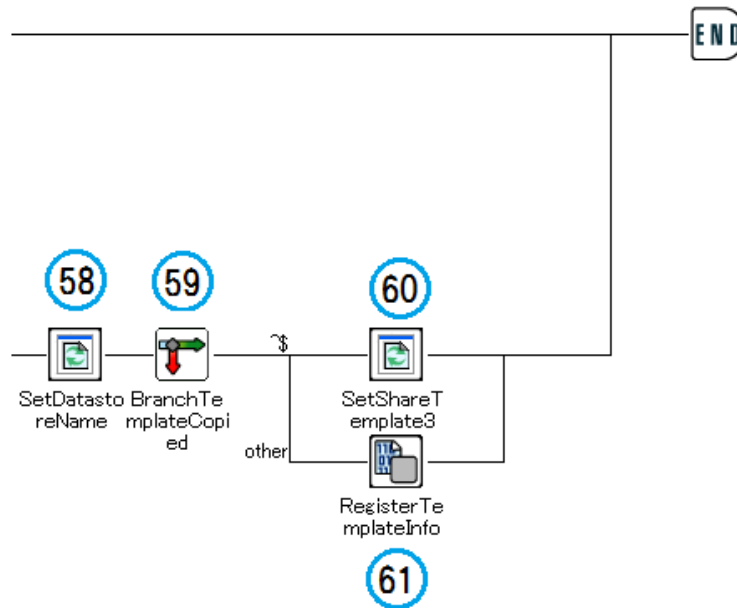
- ・ 実行条件

リソースプールに、VM テンプレートを作成できるだけの空きがあること

登録対象となる VM テンプレートが存在すること

- ・ フロー図





• 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	VM テンプレートの情報を取得するため、VM テンプレート ID、VM テンプレート名(SSC に登録されている VM テンプレート名)を設定		
2			
3			
4			
5	VM テンプレートコピー元管理サーバ、または VM テンプレートの共有対象から除外する管理サーバを設定		
6			
7			
8			
9			
10			
11	ソフトウェアリポジトリ環境情報を取得 (サブシナリオ GetSWRepositoryConfig を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
12	ソフトウェアリポジトリファイルサーバ数を設定		
13	仮想化基盤の文字列を ID に変換	フロー停止	仮想化基盤種別を表す文字列が不正の場合。 メモリ確保失敗時。もしくは、起動プロセス上限数により実行できなかった場合。 管理サーバの状態を確認後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
14	VM テンプレート登録先の仮想化基盤種別を設定		
15	仮想化基盤種別で判断		
16	ソフトウェアリポジトリファイルサーバが登録されているかどうか (FileServerIP) で判断		
17	ソフトウェアリポジトリファイルサーバの登録数(FileServerCount)で判断		
18	テンプレート共有設定有のため 1 を設定		
19	テンプレート共有設定有のため 1 を設定		
20	テンプレート共有設定の有無で判断		
21	VM テンプレート ID を確認		
22	VM テンプレート名を確認		
23	エージェントの有無情報を設定		
24	VM テンプレートにエージェントが存在しているかどうか判断		
25	VM テンプレート登録先の仮想化基盤種別が設定されているか確認		
26	VM テンプレート登録先の仮想化基盤種別に種別無しを設定		
27	VM テンプレートの情報をデータベースから取得	フロー停止	データベース接続失敗時。 エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
28	VM テンプレートの情報がデータベースに存在しているかどうか判断		
29	エージェントの有無情報を設定		
30			
31	VM テンプレート登録先の仮想化基盤種別に VMware(1)を設定		
32	同じ仮想化基盤種別の VM テンプレートの情報をデータベースから取得 ※VM テンプレートのコピー元管理サーバが指定されている場合は指定された管理サーバのテンプレートを取得する。共有対象から除外する管理サーバが設定されている場合は設定された管理サーバを除外して取得する。両方指定されている場合は、VM テンプレートのコピー元管理サーバを優先する。	フロー停止	データベース接続失敗時、VM テンプレートに関する設定が不正。 VM テンプレートコピー元管理サーバまたは共有対象から除外する管理サーバの値が不正。 実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
33	VM テンプレートの情報がデータベースに存在しているかどうか判断		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
34	VM テンプレートの情報を収集	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
35	同じ仮想化基盤種別の VM テンプレートの情報をデータベースから取得 ※VM テンプレートのコピー元管理サーバが指定されている場合は指定された管理サーバのテンプレートを取得する。共有対象から除外する管理サーバが設定されている場合は設定された管理サーバを除外して取得する。両方指定されている場合は、VM テンプレートのコピー元管理サーバを優先する。	フロー停止	データベース接続失敗時、VM テンプレートに関する設定が不正。 VM テンプレートコピー元管理サーバまたは共有対象から除外する管理サーバの値が不正。 実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
36	VM テンプレートの情報がデータベースに存在しているかどうか判断		
37	エージェントの有無情報を設定		
38	VM テンプレート ID を設定		
39	VM テンプレート名を設定		
40	VM テンプレートが存在する管理サーバ名を設定		
41	仮想化基盤種別なしの VM テンプレートの情報をデータベースから取得 ※VM テンプレートのコピー元管理サーバが指定されている場合は指定された管理サーバのテンプレートを取得する。VM テンプレートの共有対象から除外する管理サーバが設定されている場合は設定された管理サーバを除外して取得する。両方指定されている場合は、VM テンプレートのコピー元管理サーバを優先する。	フロー停止	データベース接続失敗時。 VM テンプレートが存在しない場合。 エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。 ※仮想化基盤が異なる VM テンプレートを指定して VM テンプレート共有を実施している可能性があります。
42	エージェントの有無情報を設定		
43	VM テンプレート ID を設定		
44	VM テンプレート名を設定		
45	VM テンプレートが存在する管理サーバ名を設定		
46	VM テンプレートの所在を取得 (サブシナリオ GetTemplateLocation を実行)	フロー停止	VM テンプレートに関する設定が不正。 実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
47	ソフトウェアリポジトリファイルサーバの IP アドレスを設定		
48	ソフトウェアリポジトリファイルサーバのユーザ名を設定		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
49	ソフトウェアリポジトリファイルサーバのパスワードを設定		
50	ソフトウェアリポジトリファイルサーバのマウントタイプを設定		
51	VM テンプレートが格納されているデータストアパスを設定		
52	VM テンプレートのディスク情報を設定		
53	VM テンプレートのフォルダ名を設定		
54	VM テンプレートのフォルダ名で判断		
55	VM テンプレート名を設定		
56	VM テンプレートを登録 (サブシナリオ RegisterTemplate(Sub)を実行)	フロー停止	VM テンプレートに関する設定が不正。 実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
57	登録先のデータストアパスを設定		
58	登録先のデータストア名を設定		
59	VM テンプレートの登録が実行されたかどうか判断		
60	テンプレート共有が行われていない(0)を設定		
61	管理サーバに登録された VM テンプレートの情報をデータベースに登録	フロー停止	データベース接続失敗時。 エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力*2	説明
ManagerName	文字列	○		入力	管理サーバ名
VMTemplateID	文字列			入力	VM テンプレート ID
MakeTemplateName	文字列			入力	VM テンプレート名(SSC に登録されている VM テンプレート名)
AgentExists	文字列			出力	エージェントの有無情報 0 : エージェントなし 1 : エージェントあり
DatastorePath	文字列				VM テンプレートが登録されているデータストアパス
FileServerIP	文字列				ソフトウェアリポジトリファイルサーバの IP アドレス
FileServerUserName	文字列				ソフトウェアリポジトリファイルサーバのユーザ名

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力*2	説明
FileServerPassword	文字列				ソフトウェアリポジトリファイルサーバのパスワード
CopyDatastorePath	文字列				登録先のデータストアパス
DatastoreName	文字列				登録先のデータストア名
TemplateDiskInfo	文字列				VM テンプレートのディスク情報
TemplateExistsManagerName	文字列			入力	VM テンプレートが存在する管理サーバ名 VM テンプレートのコピー元管理サーバ名
MountType	文字列				ソフトウェアリポジトリファイルサーバのマウントタイプ
OptionTemplateID	文字列				VM テンプレートの情報を取得するための VM テンプレート ID のオプション
OptionTemplateName	文字列				VM テンプレートの情報を取得するための VM テンプレート名のオプション
FileServerCount	文字列				ソフトウェアリポジトリファイルサーバ数
UnuseManager_SWRepository	文字列				VM テンプレートの共有対象から除外する管理サーバ
OptionMoMName	文字列				VM テンプレートの情報を取得するための管理サーバ情報を指定するオプション
TargetHyperVisorType	文字列		VMware		VM テンプレート共有先管理サーバが管理する仮想化基盤の種別 0 : 種別無し 1 : VMware ※本バージョンでは VMware 固定です。
ShareTemplate	文字列		0		テンプレート共有が行われたかどうか 0 : テンプレート共有が行われていない 1 : テンプレート共有が行われた
GetTemplateListScenarioPath	文字列		Automation^ %Automatic^ %VMTemplate^ %GetTemplateList		GetTemplateList のシナリオパス
TemplatePath	文字列				VM テンプレートのフォルダ名

- *1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。
- *2 入出力欄に入力の記載のないローカルオブジェクトは、値を設定すると誤動作を起こす可能性があります。

- ・ グローバルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	説明
vDCA_UnuseManager_SWRepository	文字列			テンプレートコピー対象外とする管理サーバ ※複数指定する場合はカンマ(,)区切りで指定してください。

3.2.6 VM テンプレート登録(Sub)

- ・ シナリオ名

RegisterTemplate(Sub)

- ・ 処理概要

VM テンプレート機能により、管理サーバに VM テンプレートを登録する

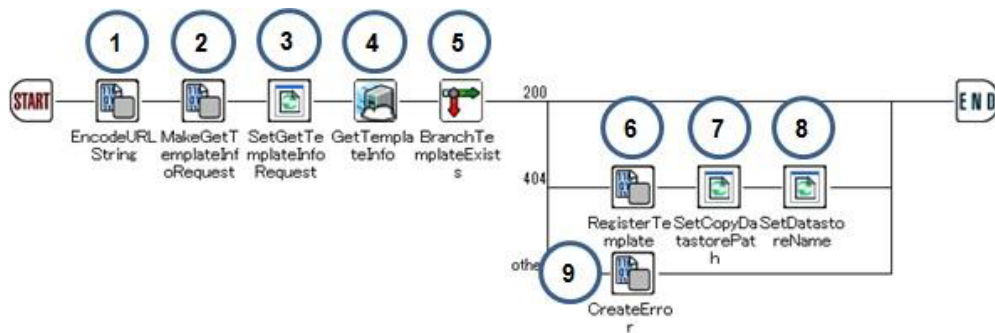
- ・ 実行条件

リソースプールに、VM テンプレートを作成できるだけの空きがあること

登録対象となる VM テンプレートが存在すること

管理サーバにソフトウェアリポジトリファイルサーバが登録されていること

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	URL 文字列に変換	フロー停止	メモリ確保失敗時。もしくは、起動プロセス上限数により実行できなかった場合。 管理サーバの状態を確認後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
2	SSC へ VM テンプレートの情報を取得するためのリクエストを作成	フロー停止	メモリ確保失敗時。もしくは、起動プロセス上限数により実行できなかった場合。 管理サーバの状態を確認後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
3	SSC へ VM テンプレートの情報を取得するためのリクエストを設定		
4	SSC に VM テンプレート情報の取得を要求	継続実行	
5	管理サーバに登録対象の VM テンプレートが存在しているかどうか判断		
6	VM テンプレートを登録	フロー停止	VM テンプレートに関する設定が不正。実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。 ※部品が警告終了となっている場合は、VM テンプレートが SSC に登録されていない可能性があるため、SSC で収集を行ってください。
7	登録先のデータストアパスを設定		
8	登録先のデータストア名を設定		
9	部品を異常終了※SSC からのレスポンスが「VM テンプレートが存在しない」以外のエラーだった場合、異常終了	フロー停止	4 の実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
MakeTemplateName	文字列	○		入力	VM テンプレート名(SSC に登録されている VM テンプレート名)
DatastorePath	文字列	○		入力	VM テンプレートが登録されているデータストアパス
FileServerIP	文字列	○		入力	ソフトウェアリポジトリファイルサーバの IP アドレス
FileServerUserName	文字列	○		入力	ソフトウェアリポジトリファイルサーバのユーザ名
FileServerPassword	文字列	○		入力	ソフトウェアリポジトリファイルサーバのパスワード
CopyDatastorePath	文字列			出力	登録先のデータストアパス
DatastoreName	文字列			出力	登録先のデータストア名
GetTemplateInfoRequest	文字列				SSC へ VM テンプレートの情報を取得するためのリクエスト
TemplateDiskInfo	文字列	○		入力	VM テンプレートのディスク情報
MountType	文字列	○		入力	ソフトウェアリポジトリファイルサーバのマウントタイプ

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
TemplatePath	文字列	○		入力	VM テンプレート格納先のフォルダ名

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧
なし

3.2.7 VM テンプレート一覧取得(Sub)

- シナリオ名

GetTemplateList(Sub)

- 処理概要

VM テンプレートの一覧の取得を行う

- 実行条件

特になし

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	SSC へ VM テンプレートの一覧取得を要求するためのリクエストを作成	フロー停止	メモリ確保失敗時。もしくは、起動プロセス上限数により実行できなかった場合。 管理サーバの状態を確認後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
2	SSC へ VM テンプレートの一覧取得を要求するためのリクエストを設定		
3	SSC に VM テンプレートの一覧取得を要求	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
4	VM テンプレートの一覧を設定		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
5	VM サーバ情報の一覧を取得	フロー停止	メモリ確保失敗時。もしくは、起動プロセス上限数により実行できなかった場合。 管理サーバの状態を確認後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
6	VM サーバ情報一覧を設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
GetTemplateListRequest	文字列				SSC へ VM テンプレートの一覧取得を要求するためのリクエスト
TemplateList	文字列			出力	VM テンプレートの一覧
VMServerList	文字列			出力	VM サーバ情報の一覧

- グローバルオブジェクト一覧

なし

3.2.8 VM テンプレート削除要求

- シナリオ名

DeleteTemplateReq

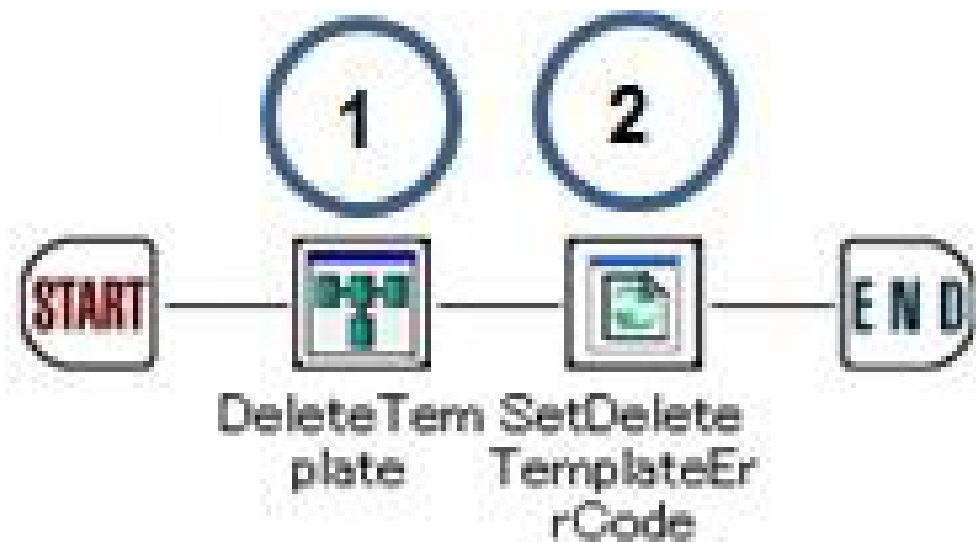
- 処理概要

VM テンプレートの削除を要求する

- 実行条件

特になし

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	VM テンプレートを削除(サブシナリオ DeleteTemplate(Sub)を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、VM テンプレートを手動で削除する。
2	VM テンプレート削除時の HTTP ステータスコードを設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
ManagerName	文字列	○		入力	管理サーバ名
MakeTemplateName	文字列	○		入力	削除する VM テンプレート名 (SSC に登録している VM テンプレート名)
DeleteTemplateErrCode	文字列			出力	VM テンプレート削除時の HTTP ステータスコード

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

なし

3.2.9 VM テンプレート削除(Sub)

- シナリオ名

DeleteTemplate(Sub)

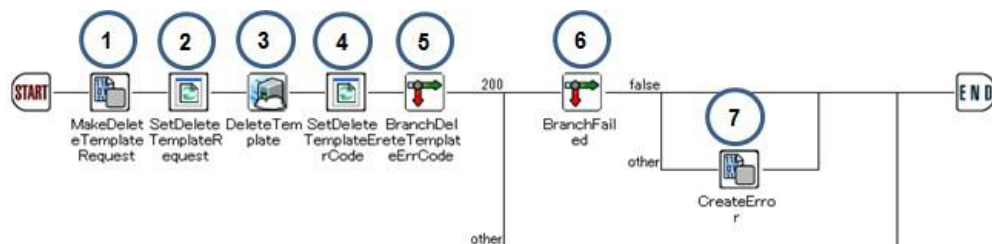
- 処理概要

VM テンプレートの削除を行う

- 実行条件

特になし

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	SSC へ VM テンプレートの削除を要求するためのリクエストを作成	フロー停止	メモリ確保失敗時。もしくは、起動プロセス上限数により実行できなかった場合。 管理サーバの状態を確認後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
2	SSC へ VM テンプレートの削除を要求するためのリクエストを設定		
3	SSC に VM テンプレート削除を要求	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
4 5	VM テンプレート削除時の HTTP ステータスコードを設定		
6	SSC のジョブが完了したかどうか判断		
7	SSC のジョブが完了しなかった場合は異常終了	フロー停止	VM テンプレートの削除に失敗。エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
MakeTemplateName	文字列	○		入力	削除する VM テンプレート名 (SSC に登録している VM テンプレート名)
GetTemplateListRequest	文字列				SSC へ VM テンプレートの削除を要求するためのリクエスト
DeleteTemplateErrCode	文字列			出力	VM テンプレート削除時の HTTP ステータスコード

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

なし

3.2.10 VM テンプレート所在取得

- シナリオ名

GetTemplateLocation

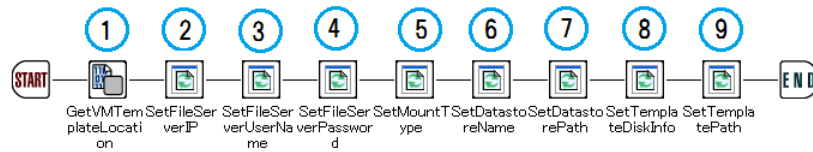
- 処理概要

VM テンプレートの格納先情報の取得を行う

- 実行条件

特になし

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	VM テンプレートの格納先情報を取得	フロー停止	メモリ確保失敗時、起動プロセス上限数により実行できなかった場合。また、VM テンプレートに関する設定が不正。 実行結果を確認し、エラーの対処後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
2	ソフトウェアリポジトリファイルサーバの IP アドレスを設定		
3	ソフトウェアリポジトリファイルサーバのユーザ名を設定		
4	ソフトウェアリポジトリファイルサーバのパスワードを設定		
5	ソフトウェアリポジトリファイルサーバのマウント種別を設定		
6	VM テンプレートが格納されているデータストア名を設定		
7	VM テンプレートが格納されているデータストアパスを設定		
8	VM テンプレートのディスク情報を設定		
9	VM テンプレートが格納されているフォルダ名を設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
MakeTemplateName	文字列	○		入力	VM テンプレート名 (SSC に登録している VM テンプレート名)
DatastoreName	文字列			出力	VM テンプレートが格納されているデータストア名
DatastorePath	文字列			出力	VM テンプレートが格納されているデータストアパス
TemplateDiskInfo	文字列			出力	VM テンプレートのディスク情報

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
FileServerIP	文字列			出力	ソフトウェアリポジトリファイルサーバの IP アドレス
FileServerUserName	文字列			出力	ソフトウェアリポジトリファイルサーバのユーザ名
FileServerPassword	文字列			出力	ソフトウェアリポジトリファイルサーバのパスワード
MountType	文字列			出力	ソフトウェアリポジトリファイルサーバのマウント種別
TemplatePath	文字列			出力	VM テンプレートが格納されているフォルダ名

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧

なし

3.3 物理サーバ

本節では、物理サーバのプロビジョニングに使用するワークフローテンプレートの詳細について記載します。

3.3.1 物理サーバ払い出し

- ・ シナリオ名

ProvisionPhysicalServer

- ・ 処理概要

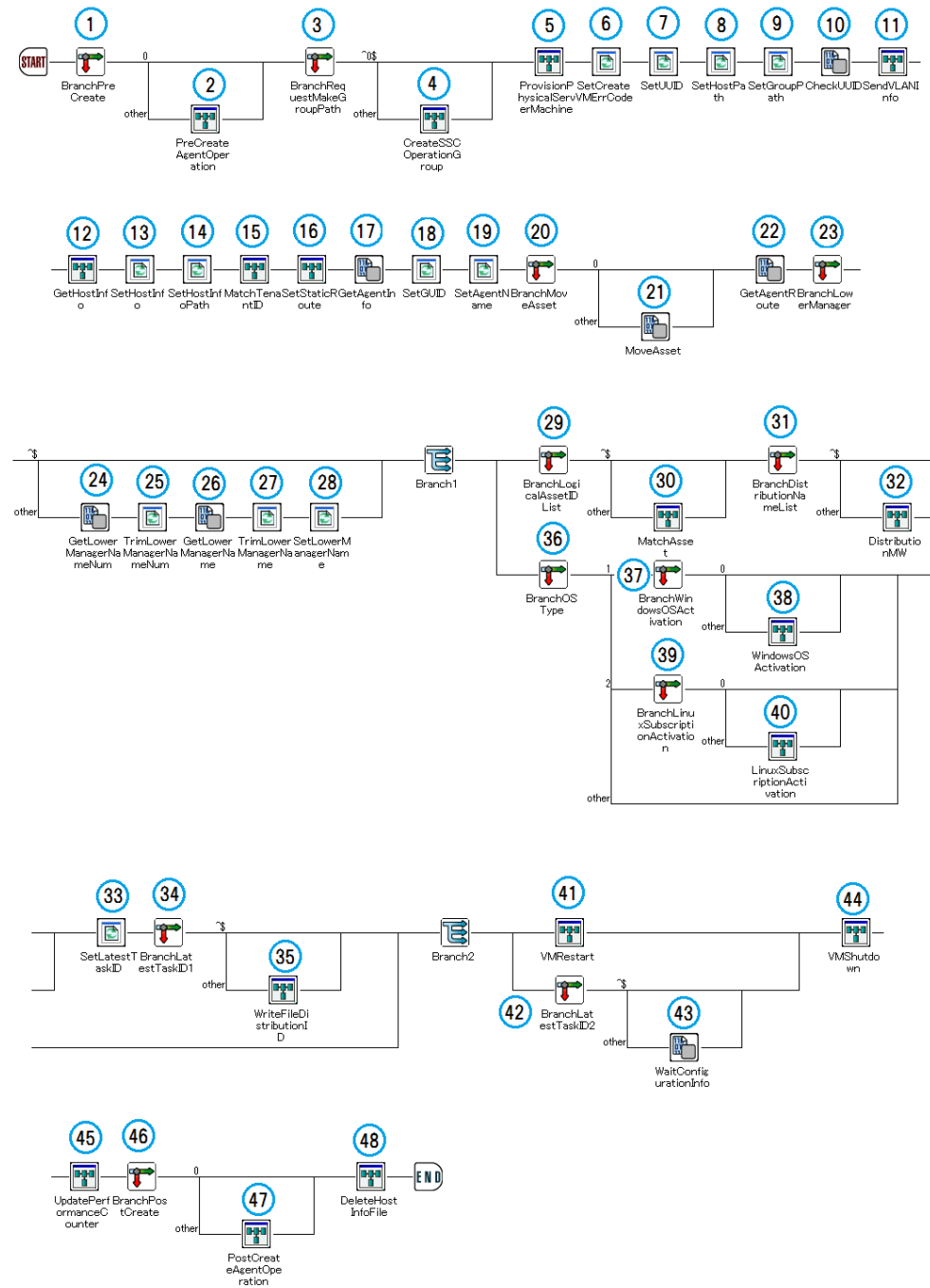
物理サーバを払い出し、スタティックルートの設定、ライセンスキーの紐付け、ソフトウェアの配布を行う。

- ・ 実行条件

他に同じテナント ID で、物理サーバ払い出し、物理サーバ再構成、物理サーバ削除オートメーションが動作していないこと。

他に同じテナント ID で NW 系オートメーションが動作していないこと。

- ・ フロー図



• 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	物理サーバ生成前処理を行うか判断 ※オプション機能を使用する場合は、 other ルートのシナリオを実行		
2	物理サーバ生成処理の前にオプション用の処理を実行(サブシナリオ PreCreateAgentOperation を実行)	フロー停止	

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
3	SSC の運用グループを作成するかどうかで判断		
4	SSC の運用グループを作成(サブシナリオ CreateSSCOperationGroup を実行)	フロー停止	広域管理サーバと管理サーバが接続されていない可能性がある。接続状況を確認後、再度サービスリクエストする。
5	物理サーバ払い出し(サブシナリオ ProvisionPhysicalServer(Sub_GM)を実行)	フロー停止	マシン削除、機器の復旧、DC リソース管理の予約キャンセル後、再度サービスリクエストする。詳細は「異常終了時の復旧手順」を参照。
6	物理サーバ払い出し時の HTTP ステータスコードをローカルオブジェクトに設定		
7	払い出した物理サーバの UUID を格納		
8	払い出した物理サーバのホストパスを格納		
9	払い出した物理サーバのグループパスを格納		
10	UUID の重複チェック	フロー停止	「物理サーバの削除手順」を参照し、重複する UUID の物理サーバを削除後、再度サービスリクエストする。
11	VLAN 情報を取得し、ファイルに出力したファイルを管理サーバへファイル転送 (サブシナリオ SendVLANInfo を実行)	フロー停止	マシン削除、機器の復旧後、再度サービスリクエストする。
12	払い出した物理サーバのホスト情報を取得(サブシナリオ GetHostInfo を実行)	フロー停止	マシン削除、機器の復旧後、再度サービスリクエストする。
13	払い出した物理サーバのホスト情報を格納		
14	払い出した物理サーバのホスト情報が出力されたファイルのパスを格納		
15	テナント ID の設定(サブシナリオ MatchTenantID を実行)	フロー停止	マシン削除、機器の復旧後、再度サービスリクエストする。
16	管理サーバとエージェントが通信するためにスタティックルートを設定 (サブシナリオ SetStaticRoute を実行)	フロー停止	マシン削除、機器の復旧後、再度サービスリクエストする。※エラーの対処内容は保守にお問い合わせください。
17	エージェント情報の取得	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、マシン削除、機器の復旧、登録情報の削除後に、再度サービスリクエストする。
18	GUID の格納		
19	エージェント名の格納		
20	資産移動を行うかどうかで判断		
21	資産移動を実行	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、マシン削除、機器の復旧、登録情報の

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
			削除後に、再度サービスリクエストする。
22	エージェントの経路情報からマネージャ名及び下位マネージャ名を取得	フロー停止	データベースへの接続に失敗した場合や、検索タイムアウトの場合が考えられる。 データベースのサービスが起動しているか確認する。 上記対処後、「異常終了時の復旧手順」を参照し、再度サービスリクエストする。
23	VM 監視サーバに繋がっているか判断		
24	VM 監視サーバ名を取得	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、マシン削除、機器の復旧、登録情報の削除後に、再度サービスリクエストする。
25			
26			
27			
28			
29	ライセンスキーの紐付けを行うか判断		
30	ライセンスキーの紐付け(サブシナリオ MatchAsset を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、マシン削除、機器の復旧、登録情報の削除後に、再度サービスリクエストする。
31	ソフトウェア配布を行うか判断		
32	ソフトウェア配布(サブシナリオ DistributionMW を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、マシン削除、機器の復旧、登録情報の削除後に、再度サービスリクエストする。
33	配布タスク ID を格納		
34	配布処理が行われたか確認		
35	配布識別 ID をファイルに記載(サブシナリオ WriteFileDistributionID を実行)	フロー停止	
36	アクティベーションをするために、OS 種別を判断		
37	Windows の OS アクティベーションを実施するか判断		
38	Windows の OS アクティベーションを実施(サブシナリオ WindowsOSActivation を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、マシン削除、機器の復旧、登録情報の削除後に、再度サービスリクエストする。
39	Linux のサブスクリプションのアクティベーションを実施するか判断		
40	Linux のサブスクリプションのアクティベーションを実施(サブシナリオ LinuxSubscriptionActivation を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、マシン削除、機器の復旧、登録情報の削除後に、再度サービスリクエストする。

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
41	物理サーバ再起動(サブシナリオ VMRestart を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、マシン削除、機器の復旧、登録情報の削除後に、再度サービスリクエストする。
42	配布処理が行われたか確認		
43	構成情報収集の待ち合わせ	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、マシン削除、機器の復旧、登録情報の削除後に、再度サービスリクエストする。 構成情報収集の待ち合わせでタイムアウトしている場合は、「 3.1.28 VM生成(エージェントあり) (72 ページ) 」の「構成情報収集の待ち合わせ時間変更手順」に従って、待ち合わせ時間を延長してください。
44	物理サーバ停止(サブシナリオ VMShutdown を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、マシン削除、機器の復旧、登録情報の削除後に、再度サービスリクエストする。
45	物理サーバ監視設定更新(サブシナリオ UpdatePerformanceCounter(Sub)を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、マシン削除、機器の復旧、登録情報の削除後に、再度サービスリクエストする。
46	物理サーバ生成後処理を行うか判断 ※オプション機能を使用する場合は、other ルートのシナリオを実行		
47	物理サーバ生成処理の後にオプション用の処理を実行(サブシナリオ PostCreateAgentOperation を実行)	フロー停止	
48	ホスト情報が記載されたファイルを削除(サブシナリオ DeleteTemporaryFile を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、マシン削除、機器の復旧、登録情報の削除後に、再度サービスリクエストする。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
CreateHostInfo2	文字列	○		入力	物理サーバ作成 API(POST /api/jobs/createhost)を使用するための JSON 形式の文字
TenantID	文字列	○		入力	テナント ID
UUID	文字列			出力	払い出した物理サーバの UUID
HostPath	文字列			出力	SSC に登録されたホストパス 指定する場合最初に「/」を付けてください。
AGHostName	文字列	○		入力	ホスト名
AgentName	文字列				払い出した物理サーバのエージェント名
GUID	文字列				払い出した物理サーバの GUID

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
ManagerName	文字列	○		入力	サブシナリオを実行するマネージャ名
HostInfo	文字列			出力	払い出した物理サーバのホスト情報(SSC ホスト情報取得 API の結果。JSON 形式)
LatestTaskID	文字列				配布のタスク ID
HostInfoFilePath	文字列				払い出した物理サーバのホスト情報が格納されたファイルパス
LowerManagerName	文字列				払い出した物理サーバが VM 監視サーバに接続されている場合は、VM 監視サーバ名を設定する。
EndCategoryName	文字列			入力	SSC 運用グループに設定するカテゴリ名 (サービスガバナーで設定)
LowerManagerNameNum	文字列				払い出した物理サーバが VM 監視サーバに接続されている場合は、VM 監視サーバ名の文字数を設定する。
RootCategoryName	文字列			入力	SSC 運用グループに設定するルートカテゴリ名
LogicalAssetIDList	文字列			入力	ライセンスキーの ID
LogicalAssetIndexList	文字列			入力	ライセンスキーのインデックス
DistributionNameList	文字列			入力	配布のタスク名
DistributionVerList	文字列			入力	配布のバージョン名
OSType	整数		0	入力	OS 種別(1:Windows、2:Linux)
DCResourceReserveID	文字列			入力	リソース管理予約 ID
ProvisionPhysicalServerReq	文字列			出力	物理サーバ払い出しを判別するためのローカルオブジェクト(本バージョンでは使用しません)
CreateVMErrCode	文字列			出力	払い出した物理サーバの HTTP ステータスコード
GroupPath	文字列			出力	払い出した物理サーバのグループ名
MoveAsset	整数		0	入力	資産移動を行うかどうか 0: 資産移動を行わない 1: 資産移動を行う
SpecifiedManager	文字列			入力	接続先 VM 監視サーバ名
RequestMakeGroupPath	文字列			入力	SSC 運用グループを作成するかどうか 0: 作成不要 1: 作成必要

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	説明
vDCA_PreCreateVMFlag	整数		0	物理サーバ生成前のオプション処理実施有無 0：オプション処理を実施しない 1：オプション処理を実施する
vDCA_PostCreateVMFlag	整数		0	物理サーバ生成後のオプション処理実施有無 0：オプション処理を実施しない 1：オプション処理を実施する
vDCA_Windows_OSActivation	整数		0	Windows の OS のアクティベーション実施有無
vDCA_RHEL_SubscriptionActivation	整数		0	Red Hat のサブスクリプションのアクティベーション実施有無
vDCA_SSCSettingResource	整数		0	作成するカテゴリグループにリソースプールを設定するかどうか 0：リソースプールを設定する 1：リソースプールを設定しない

- 異常終了時の復旧手順

ワークフローの異常終了時は、以下の手順で復旧を行ってください。管理サーバの確認や SSC の操作を行う場合は、ローカルオブジェクト「ManagerName」で指定されている管理サーバに接続してください。

まず、DC リソースの予約が成功しているか確認します。

サブシナリオ「ProvisionPhysicalServer(Sub_GM)」の[ReserveResourceGroup]アクション部品のオプションに値があるか確認します。

→ 値が無い場合は、物理マシンの予約に失敗しています。他にそのテナント向けに物理サーバ・NW オートメーションが動作していないか、払い出す物理マシンの残り数、パラメータを確認し、障害原因を取り除きサービスポータルから再実行して下さい。

→ 値がある場合は、物理マシンの予約に成功しています。

[ReserveResourceGroup]が、エラーになっている場合はディスクボリュームの予約に失敗しています。払い出すディスクボリュームの残り数、パラメータを確認し、障害原因を取り除き、以降に記載がある「DC リソース管理の予約キャンセル/物理サーバ払い出しコミット」の予約キャンセルを実行したのちサービスポータルから再実行して下さい。

サブシナリオ「ProvisionPhysicalServer(Sub_MoM)」の[AssignMachine]の前で異常終了している場合も同様に、「機器の復旧」を実施し、予約キャンセルを実行したのち、パラメータを再確認し、サービスポータルから再実行して下さい。

1. 後述の「機器の復旧」を実施し、物理サーバの削除を行う。
2. SSC でのマシン払い出しに成功しているか確認します。

(サブシナリオ「ProvisionPhysicalServer(Sub_MoM)」の[AssignMachine]部品の状態を確認します)

→正常終了の場合は後述の「DC リソース管理の物理サーバ払い出しコミット」を実行し、3 へ。

→正常終了以外の場合は、管理サーバの SSC の管理コンソールに接続し、払い出し失敗したマシンの情報削除後に、後述の「DC リソース管理の予約キャンセル」を行う。完了後、5 へ。

3. 払い出したマシンが vDC(管理サーバ/VM 監視サーバ)に接続できているか確認します。

「GetAgentInfo」部品が正常終了し、統合トポロジビューに払い出したマシンが登録されているか確認します。払い出したマシンが vDC に接続されている場合は、「異常終了時の登録情報削除手順」に従って登録された情報の削除を行います。登録されていない場合は、次に進みます。

4. DC リソース管理のクリーンアップ作業として、サービスポータルから物理サーバ削除を実行します。物理サーバ削除シナリオが実行されますので、それを停止し、[「3.3.4 物理サーバ削除 \(150 ページ\)」](#)の「DC リソース管理の予約コミット」を実施し、DC リソース管理をクリーンアップします。

5. 異常終了の原因対処後、物理サーバ払い出しのサービスリクエストを再実行します。

- 機器の復旧

- [物理サーバ用 L2SW の VLAN 設定]

L2SW のポートベース VLAN の削除を行います。

1. テナントに払い出された物理サーバを、広域管理サーバの[DC リソースビュー] - [<管理グループ>] - [<物理サーバ>]ノードで確認します。
2. 物理サーバに対する L2SW のポートを、機器設定の物理サーバ用 L2SW のインタフェース情報で確認します。
3. インタフェースに VLAN が設定されているため、対象の L2SW の装置マニュアルを参照して、機器から VLAN 設定を削除します。

- [SSC の物理サーバ設定]

1. 管理サーバの SSC の管理コンソールに接続し、復旧対象の物理サーバのホストに対して「割り当て解除」を実行し、物理サーバを共通プールに戻してください。
2. 「g_<ホスト名>」で作成された物理サーバ用の運用グループを削除してください。

- 異常終了時の登録情報削除手順

ワークフローの状態を確認し、実行に失敗した部品以降の処理を実施してください。

1. 広域管理サーバの監視端末に接続し、「ProvisionPhysicalServer」シナリオのインスタンス一覧から実行失敗したインスタンスを選択し、右クリックメニューから「ローカルオブジェクト一覧」を選択します。

2. ローカルオブジェクト一覧の以下の情報を確認します。

- UUID
- AgentName
- GUID
- ManagerName
- LowerManagerName

3. ローカルオブジェクト「ManagerName」で指定された管理サーバの監視端末に接続し、以下のシナリオを順に手動で実行します。手動実行の方法は、「MCOperations マニュアル」(chm ヘルプ)を参照してください。

各シナリオ実行時には、入力として2で確認したローカルオブジェクトの設定値を指定してください。

- [VM] - [SubScenario] - [DeletePerformanceData]
- [VM] - [SubScenario] - [DeleteConstructionInfo]
- [VM] - [SubScenario] - [DeleteTopologyInfo]

4. 広域管理サーバのコマンドプロンプトを起動し、作業ディレクトリを「<GM のインストールパス>\Manager\bin」配下へ移動後に以下のコマンドを実行してください。<UUID>には、2で確認した値を入力してください。

```
> AsLogicalAssetCmd.exe /d <UUID>
```

5. 「DC リソースビュー」 - 「ソフトウェアリポジトリ」 - 「<ソフトウェアグループ>」ノードの「ライセンスキー一覧」から、払い出したライセンスキーを選択し、右クリックメニューの「ライセンスキーインデックス検索(S)」を選択します。
6. 「紐付け資産 ID」に2で確認した UUID を指定して検索を行い、検索結果で表示されたライセンスの右クリックメニューから「紐付け解除(U)」を選択します。

注

手順 5,6 は、[MatchAsset]部品を実行している場合に実施します。払い出しに成功した全ライセンスキーに対して実施してください。

• DC リソース管理の予約キャンセル/物理サーバ払い出しコミット

ワークフローテンプレートの異常時の状態により、DC リソース管理の予約キャンセル/物理サーバ払い出しコミットを行う必要が有ります。

広域管理サーバのコマンドプロンプトを起動し、「<GM インストールパス>\Manager\bin\NWAutomation」配下にて各コマンドを実行してください。

コマンドの入力パラメータは、ワークフローのローカルオブジェクト、ローカルオブジェクト「ManagerName」で指定された管理サーバの SSC 管理コンソールなどから確認してください。

- 予約キャンセル

```
> nwa_controller.bat -dccommand -mode cancel -rid <予約 ID> -tid <テナント ID>
```

- 物理サーバ払い出しコミット

```
> nwa_controller.bat -dccommand -physicalsv -mode commit -rid <予約 ID> -tid <テナント ID> -uuid <物理サーバの UUID> -groupname <物理サーバの SSC 上のグループパス> -hostname <物理サーバの SSC 上のホスト名> -machinename <物理サーバの SSC 上のマシン名> -psvinfo
```

- 物理サーバの削除手順

1. 広域管理サーバの監視端末に接続し、「ProvisionPhysicalServer」シナリオのインスタンス一覧から「UUID 重複チェック」部品が異常終了したインスタンスを選択してください。

「UUID 重複チェック」部品をクリックし、[コマンド出力]タブから UUID と GUID、エージェント名を確認します。

[コマンド出力]

UUID=<UUID>

GUID=<GUID>

AgentName=<エージェント名>

HostName=<ホスト名>

※コマンド出力に複数の UUID および GUID、エージェント名が表示されている場合は、2~4 の手順を取得した情報毎に実施してください。

2. 広域管理サーバのコマンドプロンプトを起動し、作業ディレクトリを「<GM のインストールパス>\Manager\bin」配下へ移動後、以下のコマンドを実行してください。<GUID>には、1 で確認した値を入力してください。

出力メッセージから管理サーバ名と VM 監視サーバ名を確認します。

```
> MCOSearchWfdbCmd.exe GETAGROUTE -G <GUID> -T 3600 -I 60
```

[出力メッセージ]

RM1=<VM 監視サーバ名>@<管理サーバ名>

MGR=<広域管理サーバ名>

3. 2 で確認した<管理サーバ名>の監視端末を起動し、以下のシナリオを順に手動で実行します。

各シナリオ実行時には、入力として 1,2 で確認した値を指定してください。

- [VM] - [SubScenario] - [DeletePerformanceData]

- * AgentName=<エージェント名>
- * GUID=<GUID>
- * LowerManagerName=<VM 監視サーバ名>
- [VM] - [SubScenario] - [DeleteConstructionInfo]
 - * GUID=<GUID>
 - * LowerManagerName=<VM 監視サーバ名>
- [VM] - [SubScenario] - [DeleteTopologyInfo]
 - * AgentName=<エージェント名>
 - * GUID=<GUID>
 - * LowerManagerName=<VM 監視サーバ名>

4. 広域管理サーバのコマンドプロンプトを起動し、作業ディレクトリを「<GM のインストールパス>\Manager\bin」配下へ移動後、以下のコマンドを実行してください。<UUID>には、1 で確認した値を入力してください。

```
> AsLogicalAssetCmd.exe /d <UUID>
```

- 異常終了時の対処

シナリオ実行部品が異常終了している場合は、部品の結果画面を開き、以下の情報を元に実行先サブシナリオのインスタンスを特定し、結果を確認してください。

- [実行定義]タブ
 - * 実行先マネージャ名 : <サブシナリオを実行したマネージャ名>
 - * シナリオ名 : <実行したサブシナリオ名>
- [実行結果]タブ
 - * インスタンス開始日時 : <サブシナリオが実行された日時>
 - * インスタンス ID : <サブシナリオのインスタンス ID>
 - * 結果詳細 :

また、アクション部品の失敗時は、部品の結果画面を開き、[コマンド結果]タブ、[コマンド出力]タブなどの情報も参考にしてください。

以下、ワークフローテンプレートの部品失敗時の主な原因と対処について記載します。

- 物理サーバの払い出しに失敗する(ProvisionPhysicalServerMachine 部品で失敗していた場合)
 - * 原因

SSC に対して発行するリクエスト内容(ローカルオブジェクト「CreateHostInfo2」に指定されているリクエスト内容)に不備がある。

- * 対処

広域管理サーバのサブシナリオ「ProvisionPhysicalServer(Sub_GM)」、管理サーバのサブシナリオ「ProvisionPhysicalServer(Sub_MoM)」の実行結果を確認し、指定に不備のあるパラメータを特定してください。

- エージェントと管理サーバ/VM 監視サーバの接続に失敗する(SetStaticRoute 部品で失敗していた場合)

- * 原因

エージェントと管理サーバ/VM 監視サーバ間が事業者管理 LAN での通信ができない

- * 対処

以下を確認し、必要に応じて修正してください。

- + [SSC の設定]

- SSC の管理コンソールに接続し、設定ミスがないか確認する。

- + [OS イメージの設定]

- 『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『第7章 VM テンプレート作成』を参照し、使用する物理マシンの OS イメージの設定を確認する。

- + [ネットワーク設定]

- 『vDC Automation インストレーションガイド』の付録を参照し、ポート番号などの使用状況に問題がないか確認する。
 - 広域管理サーバの[DC リソースビュー] - [管理グループ] - [事業者管理 VLAN]ノードを選択し、テナントに払い出しされた事業者管理 VLAN の IP アドレスの範囲や VLAN 名などを確認する。NW オートメーションのライセンスが登録されているか確認する。
 - 管理サーバの事業者管理 VLAN の IP アドレスが使用可能な状態にあるか確認する。(NIC が無効化されていないか、イベントログにネットワーク関連のエラーが出ていないか、等)

- + [サービスリクエスト]

- サービスリクエストで NIC に指定している VLAN や IP アドレスがグローバルオブジェクトに設定しているサブネットに含まれているか、確認する。

- エージェント情報の取得に失敗する。(GetAgentInfo 部品で失敗していた場合)

- * 原因

払い出したマシンのエージェントとマネージャ(管理サーバ/VM 監視サーバ)が接続できておらず、構成情報が登録されていない。

(高負荷状態などにより)マシンの構成情報の登録処理に時間がかかっている。

* 対処

以下を確認し、必要に応じて修正してください。

- + 広域管理サーバに監視端末を接続し、資産管理ビューに払い出したマシンが登録されていない場合は、エージェントとマネージャの接続に失敗しているため、「SetStaticRoute 部品で失敗している場合」同様に、ネットワーク設定を確認する。
- + エージェントがマネージャに接続できている場合は、負荷などにより構成情報登録処理に時間を要していると思われるため、資産管理ビューにマシンの構成情報が登録されるのを待ち合わせる。(資産管理ビューに作成したマシンの情報が登録され、構成情報などが参照できるようになるまで待ち合わせる)

- ライセンスの紐付けに失敗する。(MatchAsset 部品で失敗していた場合)

* 原因

サービスリクエストで指定されたライセンスキーが登録されていない、またはライセンス数が不足している。

サービスリクエストで指定した「LogicalAssetIDList」、「LogicalAssetIndexList」の内容が、『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『1.5 vDC Automation の環境構築における注意事項』の制限事項を満たしていない。

* 対処

以下の内容を確認し必要に応じて修正してください。

- + サービスリクエストで指定した、ローカルオブジェクト「LogicalAssetIDList」、「LogicalAssetIndexList」内容が『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『1.5 vDC Automation の環境構築における注意事項』の文字数制限を超えていないか確認する。
- + 広域管理サーバに監視端末を接続し、[DC リソースビュー]-[ソフトウェアリポジトリ]配下のライセンスの登録、使用状況を確認し、指定されたライセンスキー、インデックスが使用できる状態か確認する。

- ソフトウェアの配布に失敗する。(DistributionMW 部品で失敗していた場合)

* 原因

サービスリクエストで指定されたソフトウェアのパッケージ/バージョンが登録されていない。

サービスリクエストで指定した「DistributionVerList」、「DistributionNameList」の内容が、『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『1.5 vDC Automation の環境構築における注意事項』の制限事項を満たしていない。

* 対処

以下の内容を確認し必要に応じて修正してください。

- + サービスリクエストで指定した、ローカルオブジェクト「DistributionVerList」、「DistributionNameList」内容が『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『1.5 vDC Automation の環境構築における注意事項』の文字数制限を超えていないか確認する。
- + 広域管理サーバに監視端末を接続し、[DC リソースビュー]-[ソフトウェアリポジトリ]配下のソフトウェアグループノードを選択する。「ソフトウェア一覧」タブに表示されるソフトウェアの右クリックメニューで「配布パッケージ一覧」を選択し、パッケージ/バージョンが登録され、指定されたソフトウェアが配布できる状態か確認する。
- VM 監視設定の更新に失敗する場合。(UpdatePerformanceCounter 部品で失敗していた場合)
 - * 原因
監視定義のインポートが行われていない。
 - * 対処
以下を確認し、必要に応じて修正してください。
 - + 『vDC Automation インストレーションガイド』の『2.15.6 管理サーバ性能監視の監視定義設定』、『2.16.6 VM 監視サーバ性能監視の監視定義設定』を参照し、監視定義をインポートします。

3.3.2 物理サーバ払い出し(Sub_GM)

- ・ シナリオ名

ProvisionPhysicalServer(Sub_GM)

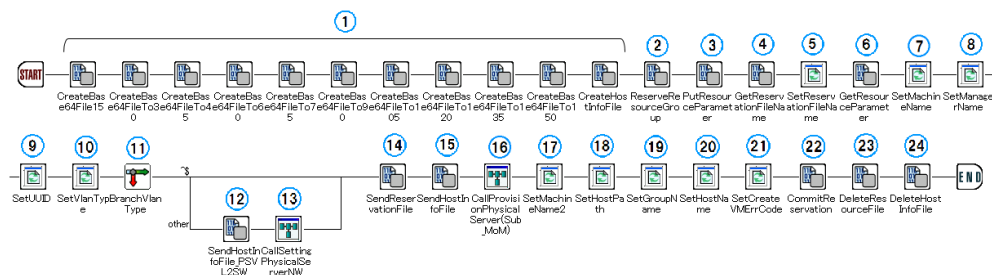
- ・ 処理概要

物理サーバの払い出しを行う。

- ・ 実行条件

特になし

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト CreateHostInfo をファイルに出力する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
2	論理ディスク用リソースグループを予約する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
3	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
4	予約情報ファイルのファイル名を取得する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
5	GetReservationFileName の実行結果から ReservationFileName を取得する		
6	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
7	GetResourceParameter の実行結果から MachineName を取得する		
8	GetResourceParameter の実行結果から ManagerName を取得する		
9	GetResourceParameter の実行結果から UUID を取得する		
10	GetResourceParameter の実行結果から VlanType を取得する		
11	VlanType で分岐		
12	CreateHostInfo ファイルを ManagerName に転送する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
13	GM のネットワークオートメーションの物理サーバ用 NW 設定シナリオを実行する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
14	リソース予約情報ファイルを ManagerName に転送する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
15	CreateHostInfo ファイルを ManagerName に転送する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
16	MoM の物理サーバ払い出し (Sub_MoM)を実行する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
17	CallProvisionPhysicalServer(Sub_MoM) のローカルオブジェクトから MachineName を取得する		
18	CallProvisionPhysicalServer(Sub_MoM) の実行結果から HostPath を取得する		
19	CallProvisionPhysicalServer(Sub_MoM) の実行結果から GroupName を取得する		
20	CallProvisionPhysicalServer(Sub_MoM) の実行結果から HostName を取得する		
21	CallProvisionPhysicalServer(Sub_MoM) の実行結果から CreateVMErrCode を取得する		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
22	Controller の commit で予約をコミットする	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
23	リソース情報ファイルを削除する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
24	ホスト情報ファイルを削除する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
CreateHostInfo	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
DCResourceReserveID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
TenantID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
ManagerName	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
OSType	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
ReservationFileName	文字列			入力	シナリオ内で設定
VlanType	文字列			入力	リソース予約情報
UUID	文字列			入力	リソース予約情報
MachineName	文字列			入力	リソース予約情報
HostPath	文字列			入力	サブシナリオで設定
GroupName	文字列			入力	サブシナリオで設定
HostName	文字列			入力	サブシナリオで設定
CreateVMErrCode	文字列		1	入力	サブシナリオで設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

なし

3.3.3 物理サーバ払い出し(Sub_MoM)

- シナリオ名

ProvisionPhysicalServer(Sub_MoM)

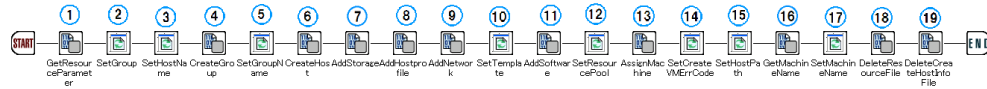
- 処理概要

物理サーバの払い出しを行う。

- 実行条件

特になし

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
2	GetResourceParameter の実行結果から Group を取得する		
3	GetResourceParameter の実行結果から HostName を取得する		
4	グループの作成	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
5	CreateGroup の実行結果から GroupName を取得する		
6	ホストの作成	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
7	ストレージの設定	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
8	ホスト情報の設定	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
9	ネットワークの設定	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
10	GetResourceParameter の実行結果から Template を取得する		
11	OS イメージのソフトウェア設定	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
12	GetResourceParameter の実行結果から ResourcePool を取得する		
13	物理マシンの割り当て	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
14	CreateVMErrCode に 0 を入れる (VM 払い出しとの互換のため)		
15	HostPath に GroupName/HostName を設定する		
16	物理マシン名を取得する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
17	GetMachineName の実行結果から MachineName を取得する		
18	予約情報ファイルを削除する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
19	ホスト情報ファイルを削除する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
TenantID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
ReservationFileName	文字列			入力	シナリオ内で設定
OSType	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
MachineName	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
Group	文字列			入力	CreateHostInfo から取得
HostName	文字列			入力	CreateHostInfo から取得
Template	文字列			入力	CreateHostInfo から取得
ResourcePool	文字列			入力	CreateHostInfo から取得
GroupName	文字列			入力	シナリオで設定
HostPath	文字列			入力	物理マシンの割り当て結果
CreateVMErrCode	文字列		1	入力	シナリオで設定
UUID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

なし

3.3.4 物理サーバ削除

- シナリオ名

DeletePhysicalServer

- 処理概要

物理サーバを削除する。性能情報及び構成情報も削除する。

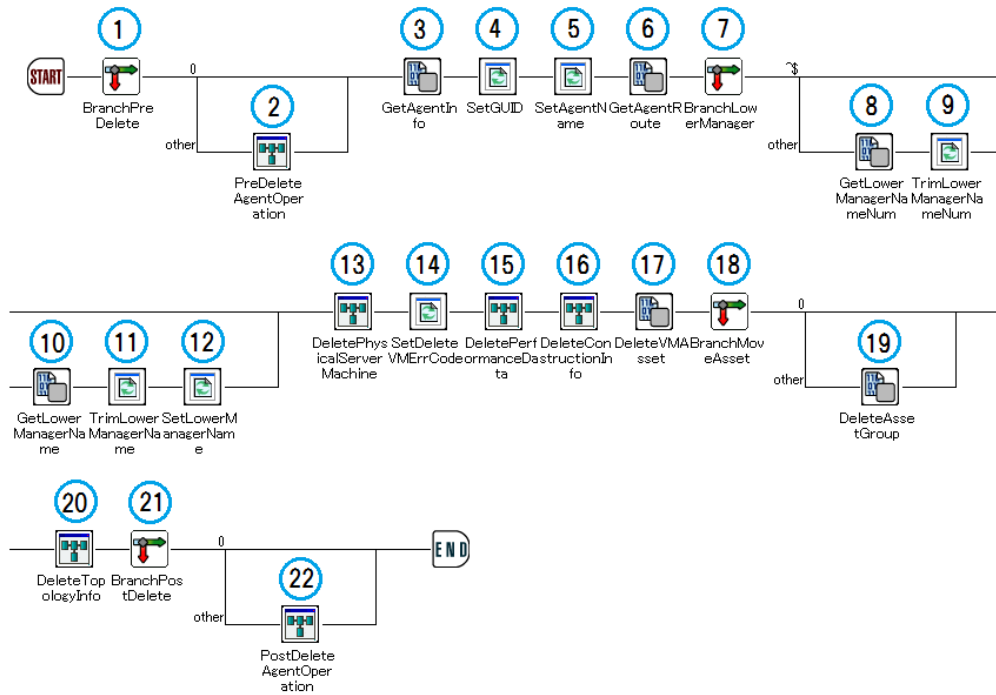
- 実行条件

削除対象の物理サーバが存在していること。

他に同じテナント ID で、物理サーバ払い出し、物理サーバ再構成、物理サーバ削除オートメーションが動作していないこと。

他に同じテナント ID で NW 系オートメーションが動作していないこと。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	物理サーバ削除前処理を行うか判断 ※オプション機能を使用する場合は、 other ルートのシナリオを実行		
2	物理サーバ削除処理の前にオプション用の処理を実行(サブシナリオ PreDeleteAgentOperation を実行)	フロー停止	
3	エージェント情報の取得	フロー停止	エージェントがマネージャに接続できていない。または指定されたマシンの情報(ホスト名、UUID)が間違っている。エージェント/マネージャ間の接続や入力パラメータを確認し、再度サービスリクエストする。
4	GUID の格納		
5	エージェント名の格納		
6	エージェントの経路情報からマネージャ名及び下位マネージャ名を取得	フロー停止	データベースへの接続に失敗した場合や、検索タイムアウトの場合が考えられる。データベースのサービスが起動しているか確認する。 上記対処後、再度サービスリクエストする。
7	VM 監視サーバに繋がっているか判断		
8	VM 監視サーバ名を取得	フロー停止	ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。実行結果を確認し、呼び出し先のマネージャの状態を確認後、再度サービスリクエストする。
9			
10			
11			

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
12			
13	物理サーバ削除(サブシナリオ DeletePhysicalServer(Sub)を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、機器の復旧、DC リソース管理の予約コミット、登録情報の削除を行う。
14	物理サーバ削除時の HTTP ステータスコードをローカルオブジェクトに設定		
15	性能情報の削除(サブシナリオ DeletePerformanceData を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、登録情報の削除を行う。
16	管理サーバ用の構成情報の削除(サブシナリオ DeleteConstructionInfo を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、登録情報の削除を行う。
17	ライセンスキーの削除	フロー停止	データベースへの接続に失敗した場合や、検索タイムアウトの場合が考えられる。データベースのサービスが起動しているか確認する。 上記対処後、「異常終了時の登録情報削除手順」を参照し、登録情報の削除を行う。
18	資産グループを削除するかどうかで判断		
19	資産グループを削除	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、資産グループおよび登録情報の削除を行う。
20	トポロジ情報の削除 (サブシナリオ DeleteTopologyInfo を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、登録情報の削除を行う。
21	物理サーバ削除後処理を行うか判断 ※オプション機能を使用する場合は、other ルートのシナリオを実行		
22	物理サーバ削除処理の後にオプション用の処理を実行(サブシナリオ PostDeleteAgentOperation を実行)	フロー停止	

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
UUID	文字列	○		入力	削除する物理サーバの UUID
AGHostName	文字列	○		入力	ホスト名
DeleteHostInfo2	文字列	○		入力	物理サーバ削除 API(POST /api/jobs/deletehost)を使用するための JSON 形式の文字)
GUID	文字列				GUID
AgentName	文字列				削除する物理サーバのエージェント名
ManagerName	文字列	○		入力	サブシナリオを実行するマネージャ名

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
LowerManagerName	文字列				物理サーバが VM 監視サーバに接続されている場合は、VM 監視サーバ名を設定する。
LowerManagerNameNum	文字列				物理サーバが VM 監視サーバに接続されている場合は、VM 監視サーバ名の文字数を設定する。
DCResourceReserveID	文字列			入力	リソース予約番号
TenantID	文字列			入力	削除する物理サーバのテナント ID
DeletePhysicalServerReq	文字列			出力	物理サーバ削除を判別するためのローカルオブジェクト(本バージョンでは使用しません)
DeleteVMErrCode	文字列			出力	物理サーバ削除の HTTP ステータスコード
MoveAsset	整数		0	入力	資産グループを削除するかどうか 0：資産グループを削除しない 1：資産グループを削除する

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	説明
vDCA_PreDeleteVMFlag	整数		0	物理サーバ削除前のオプション処理実施有無 0：オプション処理を実施しない 1：オプション処理を実施する
vDCA_PostDeleteVMFlag	整数		0	物理サーバ削除後のオプション処理実施有無 0：オプション処理を実施しない 1：オプション処理を実施する

- 異常終了時の復旧手順

ワークフローの異常終了時は、以下の手順で復旧を行ってください。管理サーバの確認や SSC の操作を行う場合は、ローカルオブジェクト「ManagerName」で指定されている管理サーバに接続してください。

まず、DC リソースの予約が成功しているか確認します。

サブシナリオ「DeletePhysicalServer(Sub_GM)」の[PutResourceParameter]アクション部品のオプションで、-rid の後ろに数値があるか確認します。

→ 値が無い場合は、物理マシンの予約に失敗していますので、他にそのテナント向けに物理サーバ・NW オートメーションが動作していないか、物理マシン UUID が正しいか確認します。それらを確認したのちサービスポータルから再実行して下さい。

→ 値がある場合は、それが予約 ID になります。以降の復旧手順を行います。

1. SSC でのマシン削除に成功しているか確認します。

(「DeletePhysicalServerMachine」 部品の状態を確認します。)

→正常終了の場合は、「異常終了時の登録情報削除手順」に従って、登録された情報の削除を行います。

→正常終了以外の場合は、後述の「機器の復旧」、「DC リソース管理の予約コミット」を実施してください。完了後、登録情報の削除を行います。

2. 後述の「空のワークフロー定義の作成」に従って作成したワークフローの ID を指定して、サービスリクエストを実行します。(サービスリクエストを正常終了させます)

- 異常終了時の登録情報削除手順

ワークフローの状態を確認し、実行に失敗した部品以降の処理を実施してください。

1. 広域管理サーバの監視端末に接続し、「DeletePhysicalServer」シナリオのインスタンス一覧から実行失敗したインスタンスを選択し、右クリックメニューから「ローカルオブジェクト一覧」を選択します。
2. ローカルオブジェクト一覧の以下の情報を確認します。

- UUID
- GUID
- AgentName
- ManagerName
- LowerManagerName

3. ローカルオブジェクト「ManagerName」で指定された管理サーバの監視端末に接続し、以下のシナリオを順に手動で実行します。手動実行の方法は、「MCOperations マニュアル」(chm ヘルプ)を参照してください。

各シナリオ実行時には、入力として 2 で確認したローカルオブジェクトの設定値を指定してください。

- [VM] - [SubScenario] - [DeletePerformanceData]
- [VM] - [SubScenario] - [DeleteConstructionInfo]
- [VM] - [SubScenario] - [DeleteTopologyInfo]

4. 広域管理サーバのコマンドプロンプトを起動し、作業ディレクトリを「<GM のインストールパス>\Manager\bin」配下へ移動後に以下のコマンドを実行してください。<UUID>には、2 で確認した値を入力してください。

```
> AsLogicalAssetCmd.exe /d <UUID>
```


5. 「DC リソースビュー」 - 「ソフトウェアリポジトリ」 - 「<ソフトウェアグループ>」ノードの「ライセンスキー一覧」から、払い出したライセンスキーを選択し、右クリックメニューの「ライセンスキーインデックス検索(S)」を選択します。
6. 「紐付け資産 ID」に2で確認した UUID を指定して検索を行い、検索結果で表示されたライセンスの右クリックメニューから「紐付け解除(U)」を選択します。
7. 広域管理サーバの監視端末に接続し、削除したい資産グループノードを右クリックし、「資産グループ削除」を選択します。この時、資産グループ配下にサブグループまたは資産が存在しないことを確認してください。

注

手順 5,6 は、広域管理サーバ上でマシンに払い出した全ライセンスキーに対して実施してください。

• DC リソース管理の予約コミット

ワークフローテンプレートの異常時の状態により DC リソース管理の予約コミットを行う必要が有ります。

広域管理サーバのコマンドプロンプトを起動し、「<GM インストールパス>\Manager\bin\NWAutomation」配下にてコマンドを実行してください。

コマンドの入力パラメータは、ワークフローのローカルオブジェクトから確認してください。

- 予約コミット

```
> nwa_controller.bat -dccommand -mode commit -rid <予約 ID> -tid <テナント ID>
```

• 機器の復旧

- [物理サーバ用 L2SW の VLAN 設定]

L2SW のポートベース VLAN の削除を行います。

1. テナントに払い出された物理サーバを、広域管理サーバの[DC リソースビュー] - [<管理グループ>] - [<物理サーバ>]ノードで確認します。
2. 物理サーバに対する L2SW のポートを、機器設定の物理サーバ用 L2SW のインタフェース情報で確認します。
3. インタフェースに VLAN が設定されているため、対象の L2SW の装置マニュアルを参照して、機器から VLAN 設定を削除します。

- [SSC の物理サーバ設定]

1. 管理サーバの SSC の管理コンソールに接続し、復旧対象の物理サーバのホストに対して「割り当て解除」を実行し、物理サーバを共通プールに戻してください。

2. 「g_<ホスト名>」で作成された物理サーバ用の運用グループを削除してください。

- 空のワークフロー定義の作成

物理サーバ削除のワークフローの異常終了時、復旧手順として手動で登録情報の削除を行った場合は、サービスリクエストを正常終了させるために、空のワークフロー定義を作成し、実行します。

以下の手順に従って、ワークフローの定義を作成してください。

注

本手順は、「VM 削除」、「物理サーバ削除」ともに共通の手順です。いずれかの復旧処理で空のワークフロー定義を作成している場合は新規に作成する必要はありません。

1. 広域管理サーバに監視端末を接続する
 2. 「設定(S)」 - 「定義モード(C)」を選択し、定義モードを取得する。
 3. シナリオ制御ビューを選択し、右クリックメニューから「シナリオ追加(S)」を選択する
 4. 「新規シナリオ」画面で、シナリオ名、説明に任意の名前、説明を入力し、「OK」を押す
 5. 作成したシナリオ名のノードを選択し、右クリックメニューから「有効(B)」を選択し、シナリオを有効化する。
- 異常終了時の対処

シナリオ実行部品が異常終了している場合は、部品の結果画面を開き、以下の情報を元に実行先サブシナリオのインスタンスを特定し、結果を確認してください。

- [実行定義]タブ

- * 実行先マネージャ名 : <サブシナリオを実行したマネージャ名>
- * シナリオ名 : <実行したサブシナリオ名>

- [実行結果]タブ

- * インスタンス開始日時 : <サブシナリオが実行された日時>
- * インスタンス ID : <サブシナリオのインスタンス ID>
- * 結果詳細 :

また、アクション部品の失敗時は、部品の結果画面を開き、[コマンド結果]タブ、[コマンド出力]タブなどの情報も参考にしてください。

以下、ワークフローテンプレートの部品失敗時の主な原因と対処について記載します。

- エージェント情報の取得に失敗する。(GetAgentInfo 部品で失敗していた場合)
 - * 原因

払い出したマシンのエージェントとマネージャ(管理サーバ/VM 監視サーバ)が接続できておらず、構成情報が登録されていない。

(高負荷状態などにより)マシンの構成情報の登録処理に時間がかかっている。

指定されたマシンの情報(ホスト名、UUID)が間違っている。

* 対処

以下を確認し、必要に応じて修正してください。

- + 広域管理サーバに監視端末を接続し、資産管理ビューに払い出したマシンが登録されていない場合は、エージェントとマネージャの接続に失敗しているため、ネットワーク設定、マネージャ/エージェントの設定を参照し、接続状態を確認する。
 - + マシンがマネージャに接続できている場合は、負荷などにより構成情報登録処理に時間を要していると思われるため、資産管理ビューにマシンの構成情報が登録されるのを待ち合わせる。(資産管理ビューに作成したマシンの情報が登録され、構成情報などが参照できるようになるまで待ち合わせる)
 - + ローカルオブジェクトに指定しているホスト名、UUID の指定が正しいか確認する。
- SSC へのマシン削除要求に失敗する(DeletePhysicalServerMachine 部品で失敗していた場合)

* 原因

SSC に対して発行したリクエスト内容(ローカルオブジェクト「DeleteHostInfo2」に指定されているリクエスト内容)に不備がある。

* 対処

広域管理サーバのサブシナリオ「DeletePhysicalServer(Sub_GM)」、管理サーバのサブシナリオ「DeletePhysicalServer (Sub_MoM)」の実行結果を確認し、指定に不備のあるパラメータを特定してください。

3.3.5 物理サーバ削除(Sub_GM)

- シナリオ名

DeletePhysicalServer(Sub_GM)

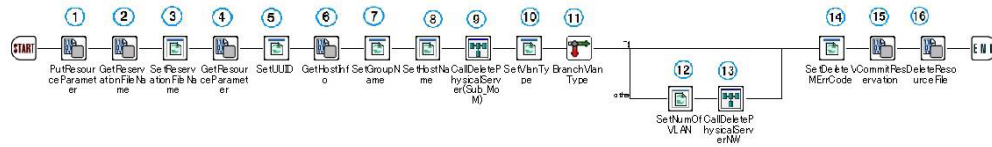
- 処理概要

物理サーバの削除を行う。

- 実行条件

特になし

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
2	予約情報ファイルのファイル名を取得する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
3	GetReservationFileName の実行結果から ReservationFileName を取得する	フロー停止	
4	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
5	GetResourceParameter の実行結果から UUID を取得する	フロー停止	
6	DB の中身を読んでホストパスを取得する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
7	GetHostPath の実行結果から GroupName を取得する	フロー停止	
8	GetHostInfo の実行結果から HostName を取得する	フロー停止	
9	MoM の物理サーバ削除(Sub_MoM)シナリオを実行する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
10	GetResourceParameter の実行結果から VlanType を取得する	フロー停止	
11	VlanType で分岐	フロー停止	
12	PutResourceParameter の実行結果から NumOfVLAN を取得する	フロー停止	
13	GM のネットワークオートメーションの物理サーバ用 NW 削除シナリオを実行する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
14	CallDeletePhysicalServer(Sub_MoM)の実行結果から DeleteVMErrCode を取得する	フロー停止	
15	Controller の commit で予約をコミットする	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
16	リソース情報ファイルを削除する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
DeleteHostInfo	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
DCResourceReserveID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
TenantID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
ManagerName	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
UUID	文字列			入力	シナリオ内で設定
GroupName	文字列			入力	リソース予約情報
HostName	文字列			入力	リソース予約情報
ReservationFileName	文字列			入力	シナリオ内で設定
DeleteVMErrCode	文字列		1	入力	サブシナリオで設定
NumOfVLAN	文字列			入力	シナリオ内で設定
VlanType				入力	シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

なし

3.3.6 物理サーバ削除(Sub_MoM)

- シナリオ名

DeletePhysicalServer(Sub_MoM)

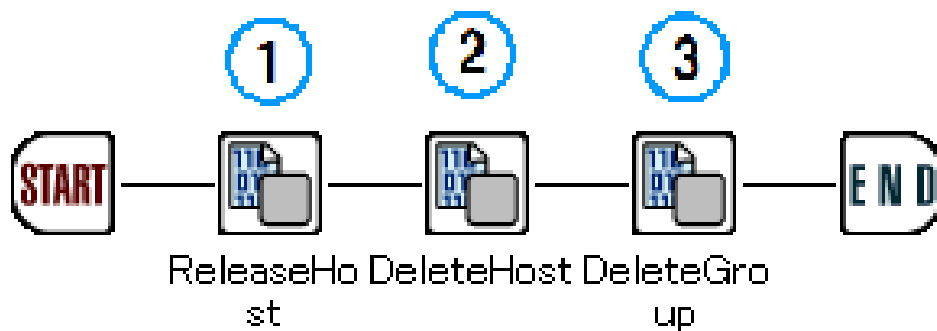
- 処理概要

物理サーバの削除を行う。

- 実行条件

特になし

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	マシンの割り当て解除	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
2	ホストの削除	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
3	グループの削除	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
GroupName	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
HostName	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
DeleteVMErrCode	文字列		0	入力	物理サーバ削除シナリオの実行結果コード

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

なし

3.3.7 物理サーバ再構成

- シナリオ名

ReconfigurePhysicalServer

- 処理概要

物理サーバを再構成し、ライセンスキーの紐付け、ソフトウェアの配布、性能監視設定の更新を行う。

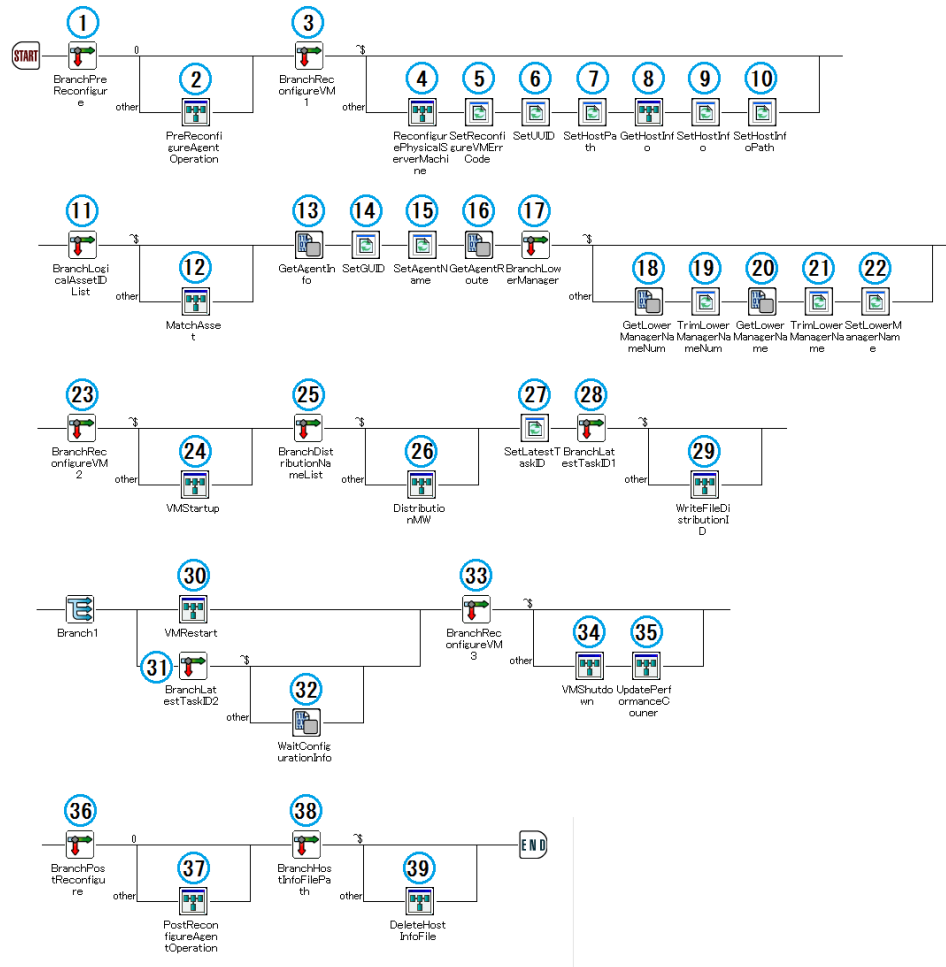
- 実行条件

物理サーバ払い出しを実行していること。

他に同じテナント ID で、物理サーバ払い出し、物理サーバ再構成、物理サーバ削除オートメーションが動作していないこと。

他に同じテナント ID で NW 系オートメーションが動作していないこと。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	物理サーバ再構成前処理を行うか判断※オプション機能を使用する場合は、other ルートのシナリオを実行		
2	物理サーバ再構成処理の前にオプション用の処理を実行(サブシナリオ PreReconfigureAgentOperation を実行)	フロー停止	
3	再構成の要求判断※再構成情報がなければ実行しない。(物理サーバ再構成時に、マシン構成が変更されない場合もある。)		
4	物理サーバ再構成(サブシナリオ ReconfigurePhysicalServer(Sub_GM)を実行)	フロー停止	実行結果を確認し、エラーの対処後、DC リソース管理の予約をコミット/キャンセルのどちらかを実施してから再度サービスリクエストする。
5	物理サーバ再構成時の HTTP ステータスコードをローカルオブジェクトに設定		
6	再構成した物理サーバの UUID を格納		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
7	再構成した物理サーバのホストパスを格納		
8	再構成した物理サーバのホスト情報を取得(サブシナリオ <code>GetHostInfo</code> を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、再度サービスリクエストする。
9	物理サーバのホスト情報を格納		
10	物理サーバのホスト情報が出力されたファイルのパスを格納		
11	ライセンスキーの紐付けを行うか判断		
12	ライセンスキーの紐付け(サブシナリオ <code>MatchAsset</code> を実行)	フロー停止	ライセンスキー番号、インデックスが不正。実行結果を確認し、エラーの対処後、再度サービスリクエストする。
13	エージェント情報の取得	フロー停止	エージェントがマネージャに接続できていない。または指定されたマシンの情報(ホスト名、UUID)が間違っている。 エージェント/マネージャ間の接続や入力パラメータを確認する。 上記対処後、「異常終了時の復旧手順」を参照し、再度サービスリクエストする。
14	GUID の格納		
15	エージェント名の格納		
16	エージェントの経路情報からマネージャ名及び下位マネージャ名を取得	フロー停止	データベースへの接続に失敗した場合や、検索タイムアウトの場合が考えられる。 データベースのサービスが起動しているか確認する。 上記対処後、「異常終了時の復旧手順」を参照し、再度サービスリクエストする。
17	VM 監視サーバに繋がっているか判断		
18	VM 監視サーバ名を取得	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、再度サービスリクエストする。
19			
20			
21			
22			
23	スペックの変更を伴う構成変更を行ったか判断		
24	物理サーバ起動(サブシナリオ <code>VMStartup</code> を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、再度サービスリクエストする。
25	ソフトウェア配布を行うか判断		
26	ソフトウェア配布(サブシナリオ <code>DistributionMW</code> を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、再度サービスリクエストする。

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
27	配布タスク ID を格納		
28	配布処理が行われたか確認		
29	配布識別 ID をファイルに記載 (サブシナリオ WriteFileDistributionID を実行)	フロー停止	
30	物理サーバ再起動(サブシナリオ VMRestart を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、再度サービスリクエストする。
31	配布処理が行われたか確認		
32	構成情報収集の待ち合わせ	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、再度サービスリクエストする。 構成情報収集の待ち合わせでタイムアウトしている場合は、「 3.1.28 VM 生成(エージェントあり) (72 ページ) 」の「構成情報収集の待ち合わせ時間変更手順」に従って、待ち合わせ時間を延長してください。
33	物理サーバの再構成が行われたか判断 ※ソフトウェア配布のみなど、マシンの構成が変更されない場合もある。マシンの構成が変更されない場合は、性能情報監視の再設定は必要ない。		
34	物理サーバ停止(サブシナリオ VMShutdown を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、再度サービスリクエストする。
35	VM 監視設定更新(サブシナリオ UpdatePerformanceCounter(Sub)を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、再度サービスリクエストする。
36	物理サーバ再構成後処理を行うか判断※オプション機能を使用する場合は、other ルートのシナリオを実行		
37	物理サーバ再構成処理の後にオプション用の処理を実行(サブシナリオ PostReconfigureAgentOperation を実行)	フロー停止	
38	物理サーバのホスト情報が記載されたファイルが存在するか確認		
39	ホスト情報が記載されたファイルを削除(サブシナリオ DeleteTemporaryFile を実行)	フロー停止	「異常終了時の復旧手順」を参照し、再度サービスリクエストする。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
UUID	文字列	○		入出力	再構成した物理サーバの UUID
HostPath	文字列			出力	ホストパス(ネットワーク設定で使用)
AGHostName	文字列	○		入力	ホスト名

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
AgentName	文字列				再構成した物理サーバのエージェント名
GUID	文字列				再構成する物理サーバの GUID
ManagerName	文字列	○		入力	サブシナリオを実行するマネージャ名
LatestTaskID	文字列				配布のタスク ID
HostInfoFilePath	文字列				再構成した物理サーバのホスト情報が格納されたファイルパス
ReConfigureVMErrCode	文字列			出力	物理サーバ再構成の HTTP ステータスコード
ReConfigureHostInfo2	文字列			入力	物理サーバ再構成 API(POST /api/jobs/ s reconfigurehost)を使用するための JSON 形式の文字)
LowerManagerName	文字列				物理サーバが VM 監視サーバに接続されている場合は、VM 監視サーバ名を設定する。
LowerManagerNameNum	文字列				物理サーバが VM 監視サーバに接続されている場合は、VM 監視サーバ名の文字数を設定する。
LogicalAssetIDList	文字列			入力	ライセンスキーの ID
LogicalAssetIndexList	文字列			入力	ライセンスキーのインデックス
DistributionNameList	文字列			入力	配布のタスク名
DistributionVerList	文字列			入力	配布のバージョン名
HostInfo	文字列			出力	再構成した物理サーバのホスト情報(SSC ホスト情報取得 API の結果。JSON 形式)
DCResourceReserveID	文字列			入力	リソース管理予約 ID
TenantID	文字列			入力	再構成する物理サーバのテナント ID
ReconfigurePhysicalServerReq	文字列			出力	物理サーバ再構成を判別するためのローカルオブジェクト(本バージョンでは使用しません)

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	説明
vDCA_PreReconfigureVMFlag	整数		0	物理サーバ再構成前のオプション処理実施有無 0：オプション処理を実施しない 1：オプション処理を実施する
vDCA_PostReconfigureVMFlag	整数		0	物理サーバ再構成後のオプション処理実施有無 0：オプション処理を実施しない

変数名	属性	必須	初期値	説明
				1: オプション処理を実施する

- 異常終了時の復旧手順

ワークフローの異常終了時は、以下の手順で復旧を行ってください。管理サーバの確認や SSC の操作を行う場合は、ローカルオブジェクト「ManagerName」で指定されている管理サーバに接続してください。

まず、DC リソースの予約が成功しているか確認します。

サブシナリオ「ReconfigurePhysicalServer(Sub_GM)」の[PutResourceParameter]アクション部品のオプションで、-rid の後ろに数値があるか確認します。

→ 値が無い場合は、物理マシンの予約に失敗していますので、他にそのテナント向けに物理サーバ・NW オートメーションが動作していないか、物理マシン UUID が正しいか確認します。それらを確認したのちサービスポータルから再実行して下さい。

→ 値ある場合は、それが予約 ID になります。以降の復旧手順を行います。

- SSC でのマシン再構成を実施/成功しているか確認します。

(「ReconfigurePhysicalServerMachine」部品の状態を確認します)

→ 正常終了の場合、実行していない場合は 2 へ

→ 異常終了の場合は、後述の DC リソース管理の予約コミットまたはキャンセルを実施し、4 へ

- ライセンスキーの紐付けを実施/成功しているか確認します。

(「MatchAsset」部品の状態を確認します)

→ 正常終了/異常終了している場合は、登録成功したライセンスキーに対して、後述のライセンスキーの紐付け解除を実施します。

→ 正常終了の場合、実行していない場合は 3 へ

→ 異常終了の場合は 4 へ

- ソフトウェアの配布を実行/成功しているか確認します。

(「DistributionMW」部品の状態を確認します)

→ 正常終了している場合、複数のソフトウェアの配布を行い途中で異常終了している場合は、対象のマシンにログインし、配布に成功したソフトウェアを手動でアンインストールします。

- 異常終了の原因対処後、物理サーバ再構成のサービスリクエストを再実行します。

- DC リソース管理の予約キャンセル

ワークフローテンプレートの異常時の状態により、DC リソース管理の予約キャンセルを行う必要が有ります。

広域管理サーバのコマンドプロンプトを起動し、「<GM インストールパス>\Manager\bin\NWAutomation」配下にて各コマンドを実行してください。

コマンドの入力パラメータは、ワークフローのローカルオブジェクト、ローカルオブジェクト「ManagerName」で指定された管理サーバの SSC 管理コンソールなどから確認してください。

- 予約キャンセル

```
> nwa_controller.bat -dccommand -mode cancel -rid <予約 ID> -tid <テナント ID>
```

- ライセンスキーの紐付け解除

1. 広域管理サーバの監視端末に接続し、「ReconfigurePhysicalServer」シナリオのインスタンス一覧から実行失敗したインスタンスを選択し、右クリックメニューから「ローカルオブジェクト一覧」を選択します。
2. ローカルオブジェクト一覧の以下の情報を確認します。

- UUID
- LogicalAssetIDList
- LogicalAssetIndexList

3. 「DC リソースビュー」 - 「ソフトウェアリポジトリ」 - 「<ソフトウェアグループ>」ノードの「ライセンスキー一覧」から、払い出したライセンスキーを選択し、右クリックメニューの「ライセンスキーインデックス検索(S)」を選択します。
4. 「紐付け資産 ID」に 2 で確認した UUID を指定して検索を行い、検索結果で表示されたライセンスのうち、「LogicalAssetIDList」、「LogicalAssetIndexList」の設定値に合致するものを選択し、右クリックメニューから「紐付け解除(U)」を実施します。

※「MatchAsset」部品が異常終了している場合は、登録成功したものだけを選択し、紐付け解除してください。

- 異常終了時の対処

シナリオ実行部品が異常終了している場合は、部品の結果画面を開き、以下の情報を元に実行先サブシナリオのインスタンスを特定し、結果を確認してください。

- [実行定義]タブ

- * 実行先マネージャ名：<サブシナリオを実行したマネージャ名>
- * シナリオ名：<実行したサブシナリオ名>

- [実行結果]タブ

- * インスタンス開始日時：<サブシナリオが実行された日時>
- * インスタンス ID：<サブシナリオのインスタンス ID>
- * 結果詳細：

また、アクション部品の失敗時は、部品の結果画面を開き、[コマンド結果]タブ、[コマンド出力]タブなどの情報も参考にしてください。

以下、ワークフローテンプレートの部品失敗時の主な原因と対処について記載します。

- SSC へのマシン再構成要求に失敗する(ReconfigurePhysicalServerMachine 部品で失敗していた場合)

- * 原因

SSC に対して発行したリクエスト内容(ローカルオブジェクト「ReConfigureHostInfo2」に指定されているリクエスト内容)に不備がある。

- * 対処

広域管理サーバのサブシナリオ「ProvisionPhysicalServer(Sub_GM)」、管理サーバのサブシナリオ「ProvisionPhysicalServer(Sub_MoM)」の実行結果を確認し、指定に不備のあるパラメータを特定してください。

- ライセンスの紐付けに失敗する。(MatchAsset 部品で失敗していた場合)

- * 原因

サービスリクエストで指定されたライセンスキーが登録されていない、またはライセンス数が不足している。

サービスリクエストで指定した「LogicalAssetIDList」、「LogicalAssetIndexList」の内容が、『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『1.5 vDC Automation の環境構築における注意事項』の制限事項を満たしていない。

- * 対処

以下の内容を確認し必要に応じて修正してください。

- + サービスリクエストで指定した、ローカルオブジェクト「LogicalAssetIDList」、「LogicalAssetIndexList」内容が『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『1.5 vDC Automation の環境構築における注意事項』の文字数制限を超えていないか確認する。
- + 広域管理サーバに監視端末を接続し、[DC リソースビュー]-[ソフトウェアリポジトリ]配下のライセンスの登録、使用状況を確認し、指定されたライセンスキー、インデックスが使用できる状態か確認する。

- エージェント情報の取得に失敗する(GetAgentInfo 部品で失敗していた場合)

- * 原因

エージェントとマネージャ(管理サーバ/VM 監視サーバ)が接続できておらず、構成情報が登録されていない。

(高負荷状態などにより)マシンの構成情報の登録処理に時間がかかっている。

指定されたマシンの情報(ホスト名、UUID)が間違っている。

- * 対処

以下の内容を確認し必要に応じて修正してください。

- + 広域管理サーバに監視端末を接続し、資産管理ビューにマシンが登録されていない場合は、エージェントとマネージャの接続に失敗しているため、ネットワーク設定、マネージャ/エージェントの設定を参照し、接続状態を確認する。
 - + マシンがマネージャに接続できている場合は、負荷などにより構成情報登録処理に時間を要していると思われるため、資産管理ビューにマシンの構成情報が登録されるのを待ち合わせる。(資産管理ビューに作成したマシンの情報が登録され、構成情報などが参照できるようになるまで待ち合わせる)
 - + ローカルオブジェクトに指定しているホスト名、UUID の指定が正しいか確認する。
- ソフトウェアの配布に失敗する。(DistributionMW 部品で失敗していた場合)

* 原因

サービスリクエストで指定されたソフトウェアのパッケージ/バージョンが登録されていない。

サービスリクエストで指定した「DistributionVerList」、「DistributionNameList」の内容が、『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『1.5 vDC Automation の環境構築における注意事項』の制限事項を満たしていない。

* 対処

以下の内容を確認し必要に応じて修正してください。

- + サービスリクエストで指定した、ローカルオブジェクト「DistributionVerList」、「DistributionNameList」内容が『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『1.5 vDC Automation の環境構築における注意事項』の文字数制限を超えていないか確認する。
 - + 広域管理サーバに監視端末を接続し、[DC リソースビュー]-[ソフトウェアリポジトリ]配下のソフトウェアグループノードを選択する。「ソフトウェア一覧」タブに表示されるソフトウェアの右クリックメニューで「配布パッケージ一覧」を選択し、パッケージ/バージョンが登録され、指定されたソフトウェアが配布できる状態か確認する。
- 監視設定の更新に失敗する場合。(UpdatePerformanceCounter 部品で失敗していた場合)

* 原因

監視定義のインポートが行われていない。

* 対処

以下を確認し、必要に応じて修正してください。

- + 『vDC Automation インストレーションガイド』の『2.15.6 管理サーバ性能監視の監視定義設定』、『2.16.6 VM 監視サーバ性能監視の監視定義設定』を参照し、監視定義をインポートします。

3.3.8 物理サーバ再構成(Sub_GM)

- シナリオ名

ReconfigurePhysicalServer(Sub_GM)

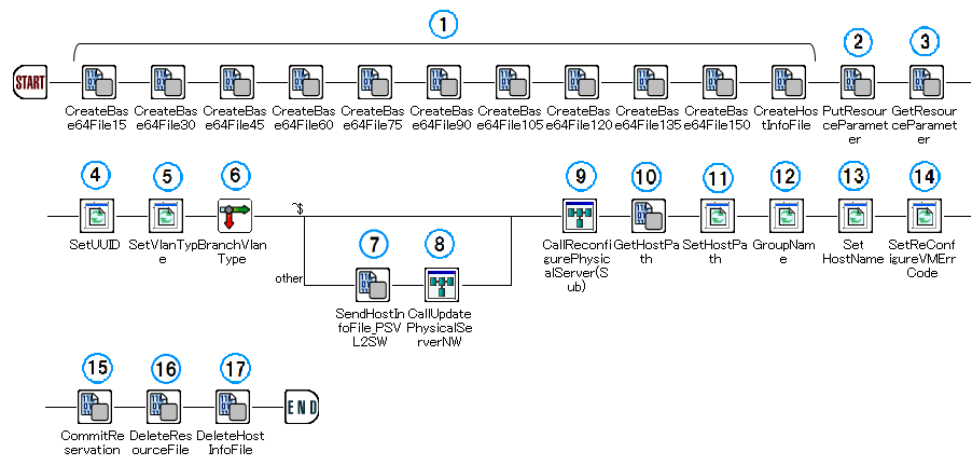
- 処理概要

物理サーバの再構成を行う。

- 実行条件

特になし

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト DeleteHostInfo をファイルに出力する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
2	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
3	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
4	GetResourceParameter の実行結果から UUID を取得する		
5	GetResourceParameter の実行結果から VlanType を取得する		
6	VlanType で分岐		
7	CreateHostInfo ファイルを ManagerName に転送する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
8	GM のネットワークオートメーションの物理サーバ用 NW 更新シナリオを実行する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
9	MoM の物理サーバ再構成 MoM を実行する。	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
10	DB の中身を読んでホストパスを取得する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
11	GetHostPath の実行結果から HostPath を取得する		
12	GetHostPath の実行結果から GroupName を取得する		
13	GetHostPath の実行結果から HostName を取得する		
14	CallDeletePhysicalServer(Sub_MoM)の実行結果から ReConfigureVMErrCode を取得		
15	Controller の commit で予約をコミットする	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
16	リソース情報ファイルを削除する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
17	ホスト情報ファイルを削除する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
TenantID	文字列			入力	ガバナ
ReConfigureVMErrCode	文字列			入力	サブシナリオ
DCResourceReserveID	文字列			入力	ガバナ
ReConfigureHostInfo	文字列			入力	ガバナ
AGHostName	文字列			入力	ガバナ
UUID	文字列			入力	ガバナ
HostPath	文字列				シナリオ内
LogicalAssetID1	文字列			入力	ガバナ
LogicalAssetID2			文字列	入力	ガバナ
LogicalAssetID3	文字列			入力	ガバナ
LogicalAssetID4	文字列			入力	ガバナ
LogicalAssetID5	文字列			入力	ガバナ
LogicalAssetID6	文字列			入力	ガバナ
LogicalAssetID7	文字列			入力	ガバナ
LogicalAssetID8	文字列			入力	ガバナ
LogicalAssetID9	文字列			入力	ガバナ
LogicalAssetID10			文字列	入力	ガバナ

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DistributionName1	文字列			入力	ガバナ
DistributionName2	文字列			入力	ガバナ
DistributionName3	文字列			入力	ガバナ
DistributionName4	文字列			入力	ガバナ
DistributionName5	文字列			入力	ガバナ
DistributionName6	文字列			入力	ガバナ
DistributionName7	文字列			入力	ガバナ
DistributionName8	文字列			入力	ガバナ
DistributionName9	文字列			入力	ガバナ
DistributionName10	文字列			入力	ガバナ
DistributionVer1	文字列			入力	ガバナ
DistributionVer2	文字列			入力	ガバナ
DistributionVer3	文字列			入力	ガバナ
DistributionVer4	文字列			入力	ガバナ
DistributionVer5	文字列			入力	ガバナ
DistributionVer6	文字列			入力	ガバナ
DistributionVer7	文字列			入力	ガバナ
DistributionVer8	文字列			入力	ガバナ
DistributionVer9	文字列			入力	ガバナ
DistributionVer10	文字列			入力	ガバナ

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

なし

3.3.9 物理サーバ再構成(Sub_MoM)

- シナリオ名

ReconfigurePhysicalServer(Sub_MoM)

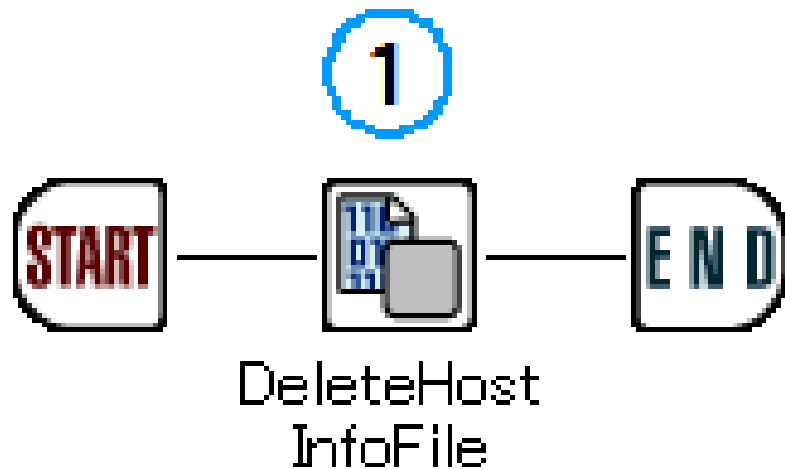
- 処理概要

物理サーバの再構成を行う。

- 実行条件

特になし

- フロー図



・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ホスト情報ファイルを削除する	フロー停止	

・ ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列			入力	ガバナ

^{*1} 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.3.10 物理サーバ追加前処理

・ シナリオ名

PreCreateAgentOperation

・ 処理概要

物理サーバ追加前のオプション処理を行います。

・ 実行条件

特になし

・ フロー図

なし

※物理サーバ追加前に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「vDCA_PreCreateVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.3.11 物理サーバ追加後処理

- シナリオ名

PostCreateAgentOperation

- 処理概要

物理サーバ追加後のオプション処理を行います。

- 実行条件

特になし

- フロー図

なし

※物理サーバ追加後に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「PostCreateVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.3.12 物理サーバ削除前処理

- シナリオ名

PreDeleteAgentOperation

- 処理概要

物理サーバ削除前のオプション処理を行います。

- 実行条件

特になし

- フロー図

なし

※物理サーバ削除前に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「PreDeleteVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.3.13 物理サーバ削除後処理

- シナリオ名

PostDeleteAgentOperation

- 処理概要

物理サーバ削除後のオプション処理を行います。

- 実行条件

特になし

- フロー図

なし

※物理サーバ削除後に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「PostDeleteVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.3.14 物理サーバ再構成前処理

- シナリオ名

PreReconfigureAgentOperation

- 処理概要

物理サーバ再構成前のオプション処理を行います。

- 実行条件

特になし

- フロー図

なし

※物理サーバ再構成前に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「PreReconfigureVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.3.15 物理サーバ再構成後処理

- シナリオ名

PostReconfigureAgentOperation

- 処理概要

物理サーバ再構成後のオプション処理を行います。

- 実行条件

特になし

- フロー図

なし

※物理サーバ再構成後に処理を追加したい場合は、本テンプレートをカスタマイズし、グローバルオブジェクト「PostReconfigureVMFlag」に「1」を設定します。

また、オプションフローを追加する場合は、シナリオ実行部品を配置して追加したオプションフローを呼び出すように設定を行います。

3.4 ソフトウェアリポジトリ

本節では、ソフトウェアリポジトリに関連するワークフローテンプレートの詳細について記載します。

3.4.1 ソフトウェアリポジトリ環境設定取得

- シナリオ名

GetSWRepositoryConfig

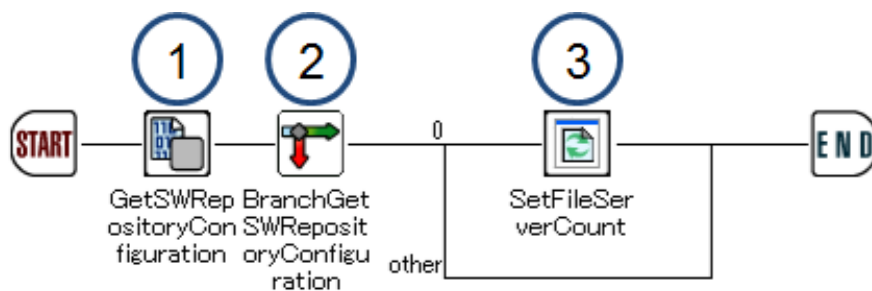
- 処理概要

ソフトウェアリポジトリの環境設定を取得する

- 実行条件

特になし

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ソフトウェアリポジトリの環境設定を取得	フロー停止	メモリ確保失敗時。もしくは、起動プロセス上限数により実行できなかった場合。マシンの状態を確認後、親シナリオの呼び出し元部品を継続実行する。
2	ソフトウェアリポジトリの環境設定が取得できたかどうか判断		
3	ソフトウェアリポジトリファイルサーバ数を設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須	初期値	入出力	説明
FileServerIP	文字列				ソフトウェアリポジトリファイルサーバの IP アドレス ※本バージョンでは使用しません。
FileServerUserName	文字列				ソフトウェアリポジトリファイルサーバのユーザ名 ※本バージョンでは使用しません。
FileServerPassword	文字列				ソフトウェアリポジトリファイルサーバのパスワード ※本バージョンでは使用しません。
MountType	文字列				ソフトウェアリポジトリファイルサーバのマウントタイプ ※本バージョンでは使用しません。
FileServerCount	文字列		0	出力	ソフトウェアリポジトリファイルサーバ数

- グローバルオブジェクト一覧

なし

3.5 ネットワーク

本節では、ネットワーク機器制御に使用するワークフローテンプレートの詳細について記載します。

3.5.1 テナント NW 作成

- シナリオ名

CreateTenantNW

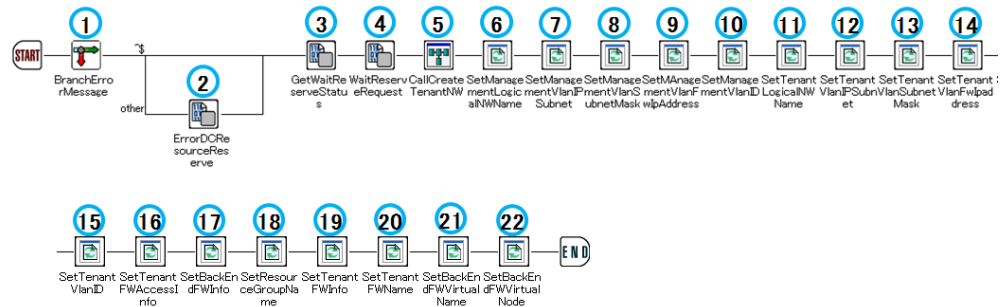
- 処理概要

事業者管理 VLAN、テナント管理 VLAN を作成する。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
3	シナリオ同時実行制御を行うためのパラメータを取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	シナリオ同時実行制御を行う。リソースが競合する先行シナリオの完了まで待ち合わせる。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
5	GM のテナント NW 作成(Set)シナリオを呼び出す。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	CallCreateTenantNW の実行結果のローカルオブジェクトから ManagementLogicalNWName を取得		
7	CallCreateTenantNW の実行結果のローカルオブジェクトから ManagementVlanIPSubnet を取得		
8	CallCreateTenantNW の実行結果のローカルオブジェクトから ManagementVlanSubnetMask を取得		
9	CallCreateTenantNW の実行結果のローカルオブジェクトから ManagementVlanFwIPAddress を取得		
10	CallCreateTenantNW の実行結果のローカルオブジェクトから ManagementVlanID を取得		
11	CallCreateTenantNW の実行結果のローカルオブジェクトから TenantLogicalNWName を取得		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
12	CallCreateTenantNW の実行結果のローカルオブジェクトから TenantVlanIPSubnet を取得		
13	CallCreateTenantNW の実行結果のローカルオブジェクトから TenantVlanSubnetMask を取得		
14	CallCreateTenantNW の実行結果のローカルオブジェクトから TenantVlanFwIpAddress を取得		
15	CallCreateTenantNW の実行結果のローカルオブジェクトから TenantVlanID を取得		
16	CallCreateTenantNW の実行結果のローカルオブジェクトから TenantFWAccessInfo を取得		
17	CallCreateTenantNW の実行結果のローカルオブジェクトから BackEndFWInfo を取得		
18	CallCreateTenantNW の実行結果のローカルオブジェクトから ResourceGroupName を取得		
19	CallCreateTenantNW の実行結果のローカルオブジェクトから TenantFWInfo を取得		
20	CallCreateTenantNW の実行結果のローカルオブジェクトから TenantFWName を取得		
21	CallCreateTenantNW の実行結果のローカルオブジェクトから BackEndFWVirtualName を取得		
22	CallCreateTenantNW の実行結果のローカルオブジェクトから BackEndFWVirtualNode を取得		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
BackEndFWInfo	文字列			出力	リソース予約情報
BackEndFWVirtualName	文字列			出力	リソース予約情報
BackEndFWVirtualNode	文字列			出力	リソース予約情報
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定 ※エラーメッセージの詳細は、「 3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ) 」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
ManagementLogicalNWName	文字列			出力	リソース予約情報
ManagementVlanFwIpAddress	文字列			出力	リソース予約情報
ManagementVlanID	文字列			出力	リソース予約情報
ManagementVlanIPSubnet	文字列			出力	リソース予約情報
ManagementVlanSubnetMask	文字列			出力	リソース予約情報
ResourceGroupName	文字列			出力	リソース予約情報
TenantFWAccessInfo	文字列			出力	リソース予約情報
TenantFWInfo	文字列			出力	リソース予約情報
TenantFWName	文字列			出力	リソース予約情報
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
TenantLogicalNWName	文字列			出力	リソース予約情報
TenantVlanFwIpAddress	文字列			出力	リソース予約情報
TenantVlanID	文字列			出力	リソース予約情報
TenantVlanIPSubnet	文字列			出力	リソース予約情報
TenantVlanSubnetMask	文字列			出力	リソース予約情報

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.2 テナント NW 作成(Set)

- ・ シナリオ名

CreateTenantNW(Set)

- ・ 処理概要

事業者管理 VLAN、テナント管理 VLAN を作成する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
6	Controller の GetResourceCommand で UNC_Num を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
7	GetResourceParameter_ReturnParameter M の実行結果から UNC_LoopCounter を取得		
8	GM の UNC 情報設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
9	事業者管理 VLAN 用予約情報ファイルが存在するか調べる		
10	CheckManagementFile の終了コードで分岐		
11	事業者管理 VLAN 用予約情報ファイルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
12	VlanType に ManagementVLAN を設定		
13	GM の VLAN 作成シナリオを実行(事業者管理 VLAN の作成)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
14	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
15	GetResourceParameter_BFWGUID の実行結果から ManagementVlanFwIpAddress を取得		
16	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
17	GetResourceParameter_BFWGUID を終了コードで分岐		
18	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
19	GetResourceParameter_ReturnParameter M2 の実行結果から BackEndFWInfo を取得		
20	GetResourceParameter_ReturnParameter M2 の実行結果から BackEndFWVirtualName を取得		
21	GetResourceParameter_ReturnParameter M2 の実行結果から BackEndFWVirtualNode を取得		
22	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
23	GetResourceParameter_ReturnParameter M3 の実行結果から ManagementLogicalNWName を取得		
24	GetResourceParameter_ReturnParameter M3 の実行結果から ManagementVlanID を取得		
25	GetResourceParameter_ReturnParameter M3 の実行結果から ResourceGroupName を取得		
26	GetResourceParameter_ReturnParameter M3 の実行結果から ManagementVlanIPSubnet を取得		
27	GetResourceParameter_ReturnParameter M3 の実行結果から ManagementVlanSubnetMask を取得		
28	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルが存在するか調べる		
29	CheckTenantFile の終了コードで分岐		
30	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
31	DevType に TFW を設定		
32	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
33	GetGUID_TFW の実行結果から TenantNWGUID を取得し GUID に設定する		
34	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
35	GetResourceParameterManagerNameTFW の実行結果から ManagerNameTFW を取得し ManagerName に設定		
36	ManagerName で分岐		
37	Mode に Create を設定		
38	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
39	GetResourceParameter_TFWAuthFlag の実行結果から TFWAuthFlag を取得		
40	ローカルオブジェクト TFWAuthFlag で分岐		
41	Section に "CREATE_VDOMCREATE_ACCOUNT_LDAP" を設定		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
42	Section に "CREATE_VDOMCREATE_ACCOUNT_LOCAL" を設定		
43	Section に "CREATE_VDOM" を設定		
44	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
45	VlanType に TenantVLAN を設定		
46	GM の VLAN 作成シナリオを実行 (テナント管理 VLAN の作成)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
47	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
48	GetResourceParameter_ReturnParameter T の実行結果から TenantFWAccessInfo を取得する		
49	GetResourceParameter_ReturnParameter T の実行結果から TenantVlanFwIpAddress を取得する。		
50	GetResourceParameter_ReturnParameter T の実行結果から TenantFWName を取得する。		
51	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
52	GetResourceParameter_TFWGUID の実行結果から DeviceGUID を取得する。		
53	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
54	GetResourceParameter_ReturnParameter T2 の実行結果から TenantFWInfo を取得		
55	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
56	GetResourceParameter_ReturnParameter T3 の実行結果から TenantLogicalNWName を取得		
57	GetResourceParameter_ReturnParameter T3 の実行結果から TenantVlanID を取得		
58	GetResourceParameter_ReturnParameter T3 の実行結果から TenantLogicalNWName を取得		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
59	GetResourceParameter_ReturnParameter T3 の実行結果から TenantVlanSubnetMask を取得		
60	VLAN MAP ファイルの有無をチェッ ク		
61	CheckVlanMapFile の終了コードで分 岐		
62	Controller の commit で予約をコミッ ト(VlanMapList 指定)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワー クフロー失敗時の対処方法 (390 ペー ジ)」を参照
63	Controller の commit で予約をコミッ ト	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワー クフロー失敗時の対処方法 (390 ペー ジ)」を参照
64	MoM から転送された実行結果ログを 標準出力	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワー クフロー失敗時の対処方法 (390 ペー ジ)」を参照
65	GetResultLog の実行結果を NWAResult に設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
BackEndFWInfo	文字列			出力	予約結果として通知
BackEndFWVirtualName	文字列			出力	予約結果として通知
BackEndFWVirtualNode	文字列			出力	予約結果として通知
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバ ナーが設定
DeviceGUID	文字列				シナリオ内で設定
DevType	文字列				シナリオ内で設定
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバ ナーが設定 ※エラーメッセージの詳細は、 「3.5.47 予約エラー判定 (322 ペー ジ)」の「ガバナエラーコード一覧」 を参照してください。
GUID	文字列				シナリオ内で設定
ManagementLogicalNWName	文字列			出力	予約結果として通知
ManagementVlanFwIpAddress	文字列			出力	予約結果として通知
ManagementVlanID	文字列			出力	予約結果として通知
ManagementVlanIPSubnet	文字列			出力	予約結果として通知
ManagementVlanSubnetMask	文字列			出力	予約結果として通知
ManagerName	文字列				シナリオ内で設定
Mode	文字列				シナリオ内で設定

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
NWResult	文字列				シナリオ内で設定
ResourceGroupName	文字列				シナリオ内で設定
Section	文字列				シナリオ内で設定
TenantFWAccessInfo	文字列			出力	予約結果として通知
TenantFWInfo	文字列			出力	予約結果として通知
TenantFWName	文字列			出力	予約結果として通知
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
TenantLogicalNWName	文字列			出力	予約結果として通知
TenantVlanFwIpAddress	文字列			出力	予約結果として通知
TenantVlanID	文字列			出力	予約結果として通知
TenantVlanIPSubnet	文字列			出力	予約結果として通知
TenantVlanSubnetMask	文字列			出力	予約結果として通知
TFWAuthFlag	文字列				シナリオ内で設定
UNC_LoopCounter	文字列				シナリオ内で設定
VlanType	文字列				シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.3 VLAN 作成

- ・ シナリオ名

CreateVLAN

- ・ 処理概要

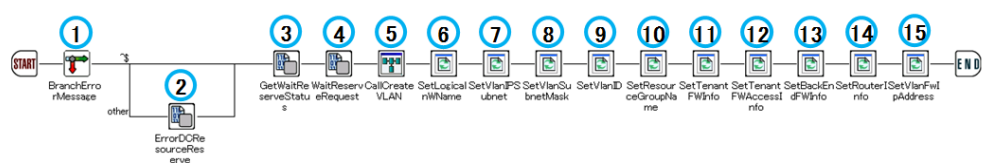
VLAN を個別指定で作成する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

本シナリオ実行前にテナント NW 作成シナリオを実行していないこと。

- ・ フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
3	シナリオ同時実行制御を行うためのパラメータを取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	シナリオ同時実行制御を行う。リソースが競合する先行シナリオの完了まで待ち合わせる。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
5	GM の VLAN 作成(Set)シナリオを呼び出す。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	CallCreateVLAN の実行結果のローカルオブジェクトから LogicalNWName を取得		
7	CallCreateVLAN の実行結果のローカルオブジェクトから VlanIPSubnet を取得		
8	CallCreateVLAN の実行結果のローカルオブジェクトから VlanSubnetMask を取得		
9	CallCreateVLAN の実行結果のローカルオブジェクトから VlanID を取得		
10	CallCreateVLAN の実行結果のローカルオブジェクトから ResourceGroupName を取得		
11	CallCreateVLAN の実行結果のローカルオブジェクトから TenantFWInfo を取得		
12	CallCreateVLAN の実行結果のローカルオブジェクトから TenantFWAccessInfo を取得		
13	CallCreateVLAN の実行結果のローカルオブジェクトから BackEndFWInfo を取得		
14	CallCreateVLAN の実行結果のローカルオブジェクトから RouterInfo を取得		
15	CallCreateVLAN の実行結果のローカルオブジェクトから VlanFwIpAddress を取得		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
BackEndFWInfo	文字列			出力	リソース予約情報
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定 ※エラーメッセージの詳細は、「 3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ) 」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
LogicalNWName	文字列			出力	リソース予約情報
ResourceGroupName	文字列			出力	リソース予約情報
RouterInfo	文字列			出力	リソース予約情報
TenantFWAccessInfo	文字列			出力	リソース予約情報
TenantFWInfo	文字列			出力	リソース予約情報
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
VlanFwIpAddress	文字列			出力	リソース予約情報
VlanID	文字列			出力	リソース予約情報
VlanIPSubnet	文字列			出力	リソース予約情報
VlanSubnetMask	文字列			出力	リソース予約情報

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.4 VLAN 作成(Set)

- ・ シナリオ名

CreateVLAN(Set)

- ・ 処理概要

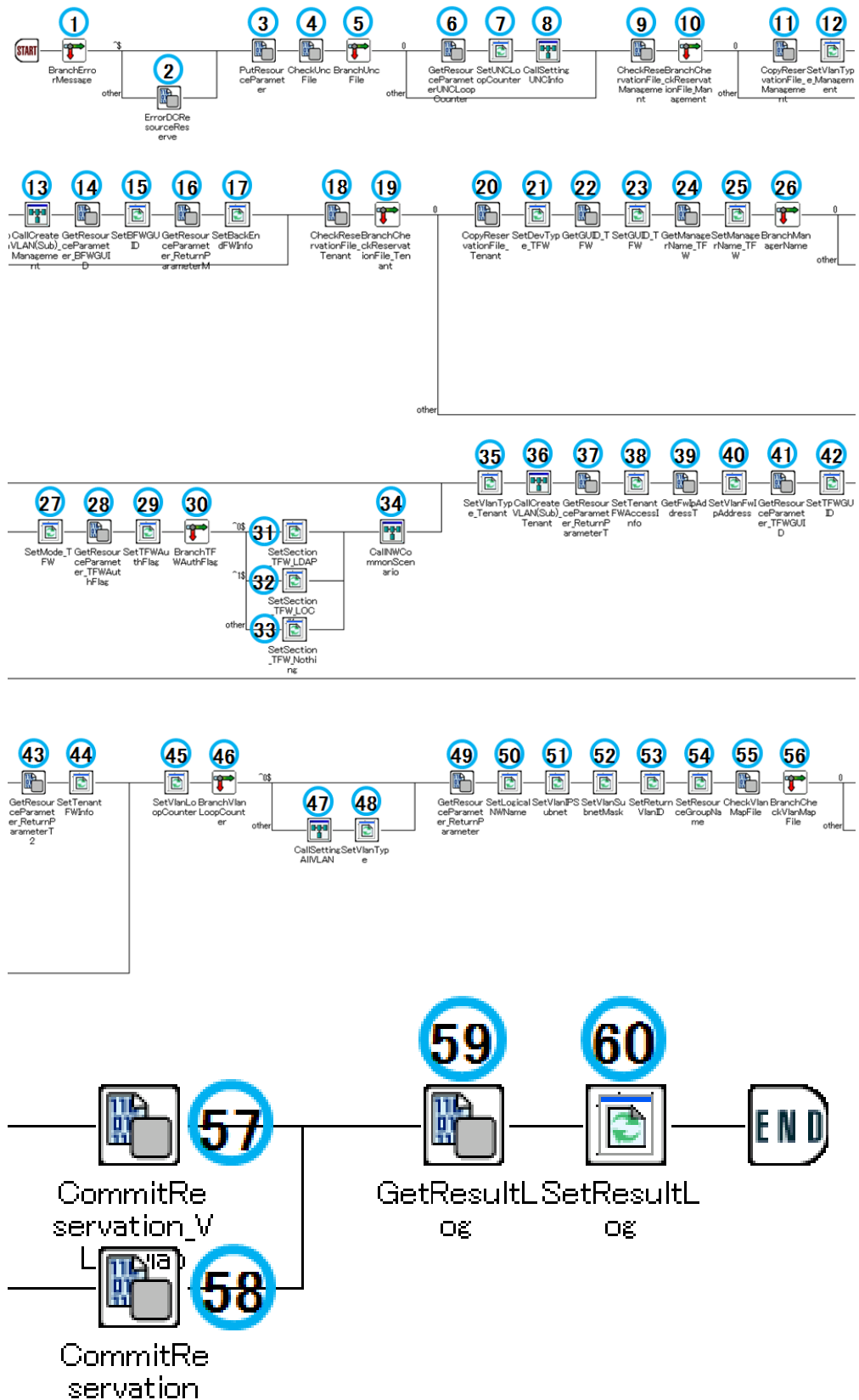
VLAN を個別指定で作成する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

本シナリオ実行前にテナント NW 作成シナリオを実行していないこと。

- ・ フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
3	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	UNC 用の定義ファイルの有無を確認する。		
5	CheckUncFile の終了コードで分岐		
6	Controller の GetResourceCommand で UNC_Num を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
7	GetResourceParameter_ReturnParameter M の実行結果から UNC_LoopCounter を取得		
8	GM の UNC 情報設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	事業者管理 VLAN 用予約情報ファイルが存在するか調べる		
10	CheckManagementFile の終了コードで分岐		
11	事業者管理 VLAN 用予約情報ファイルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
12	VlanType に ManagementVLAN を設定		
13	GM の VLAN 作成(Sub)シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
14	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
15	GetResourceParameter_BFWGUID の実行結果から DeviceGUID を取得		
16	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得		
17	GetResourceParameter_ReturnParameter M の実行結果から BackEndFWInfo を取得		
18	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルの有無を確認		
19	アクション部品 CheckReservationFile_Tenant の結果で分岐		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
20	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
21	DevType に TFW を設定		
22	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
23	GetGUID_TFW の実行結果から TenantNWGUID を取得し、GUID に設定する。		
24	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
25	GetManagerName_TFW の実行結果から TManagerName_GUID を取得し、GUID に設定する。		
26	ローカルオブジェクトの ManagerName で分岐		
27	Mode に Create を設定		
28	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
29	GetResourceParameter_TFWAuthFlag の実行結果から TFWAuthFlag を取得		
30	ローカルオブジェクト TFWAuthFlag で分岐		
31	Section に "CREATE_VDOM CREATE_ACCOUNT_LDAP" を設定		
32	Section に "CREATE_VDOM CREATE_ACCOUNT_LOCAL" を設定		
33	Section に "CREATE_VDOM" を設定		
34	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
35	VlanType に TenantVLAN を設定		
36	GM の VLAN 作成(Sub)シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
37	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
38	GetResourceParameter_ReturnParameter T の実行結果から TenantFWAccessInfo を取得		
39	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
40	GetFwIpAddressT の実行結果から FwIpAddressList を取得し、VlanFwIpAddress に設定		
41	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
42	GetResourceParameter_TFWGUID の実行結果からの DeviceGUID を取得		
43	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
44	GetResourceParameter_ReturnParameter T2 の実行結果から TenantFWInfo を取得		
45	PutResourceParameter の実行結果から NumOfVALN を取得し、VlanLoopCounter に設定		
46	ローカルオブジェクト VlanLoopCounter で分岐		
47	GM の全 VLAN 設定を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
48	CallSettingAllVLAN の実行結果のローカルオブジェクトから VlanType を取得		
49	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
50	GetResourceParameter_ReturnParameter の実行結果から LogicalNWName を取得		
51	GetResourceParameter_ReturnParameter の実行結果から IPSubnet を取得し、VlanIPSubnet に設定		
52	GetResourceParameter_ReturnParameter の実行結果から SubnetMask を取得し、VlanSubnetMask に設定		
53	GetResourceParameter_ReturnParameter の実行結果から VlanID を取得し、ReturnVlanID に設定		
54	GetResourceParameter_ReturnParameter の実行結果から ResourceGroupName を取得		
55	VLAN MAP ファイルの有無をチェック		
56	CheckVlanMapFile の終了コードで分岐		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
57	Controller の commit で予約をコミット (VlanMapList 指定)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
58	Controller の commit で予約をコミットする	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
59	MoM から転送された実行結果ログを標準出力する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
60	GetResultLog の実行結果を NWAResult に設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
BackEndFWInfo	文字列			出力	予約結果として通知
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
DeviceGUID	文字列				シナリオ内で設定
DevType	文字列				シナリオ内で設定
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
GUID	文字列				シナリオ内で設定
LogicalNWName	文字列			出力	予約結果として通知
ManagementVlanFwIpAddress	文字列			出力	予約結果として通知
ManagerName	文字列				シナリオ内で設定
Mode	文字列				シナリオ内で設定
NWAResult	文字列				シナリオ内で設定
ResourceGroupName	文字列				シナリオ内で設定
ReturnVlanID	文字列				シナリオ内で設定
RouterInfo	文字列			出力	予約結果として通知
Section	文字列				シナリオ内で設定
TenantFWAccessInfo	文字列			出力	予約結果として通知
TenantFWInfo	文字列			出力	予約結果として通知
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
TFWAuthFlag	文字列				シナリオ内で設定
UNC_LoopCounter	文字列				シナリオ内で設定
VlanFwIpAddress	文字列			出力	予約結果として通知
VlanID	文字列			出力	予約結果として通知
VlanIPSubnet	文字列			出力	予約結果として通知
VlanLoopCounter	文字列				シナリオ内で設定

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
VlanSubnetMask	文字列			出力	予約結果として通知
VlanType	文字列				シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.5 SSL-VPN 設定

- ・ シナリオ名

SettingSSL-VPN

- ・ 処理概要

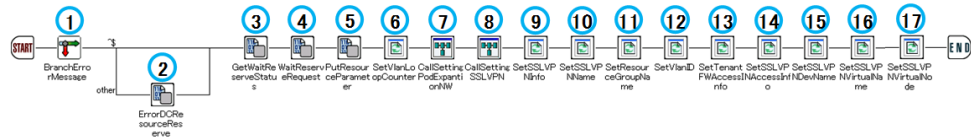
SSL-VPN を設定する。

SSL-VPN は L2 フォワーディング方式を利用する。

- ・ 実行条件

SSL-VPN 装置はテナント共有の装置であること。

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
3	シナリオ同時実行制御を行うためのパラメータを取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	シナリオ同時実行制御を行う。リソースが競合する先行シナリオの完了まで待ち合わせる。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
5	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
6	PutResourceParameter の実行結果から NumOfVALN を取得し VlanLoopCounter に設定		
7	GM のポッド拡張設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
8	GM の SSL-VPN 設定(Set)シナリオを呼び出す。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	CallSettingSSLVPN の実行結果のローカルオブジェクトから SSLVPNInfo を取得		
10	CallSettingSSLVPN の実行結果のローカルオブジェクトから SSLVPNName を取得		
11	CallSettingSSLVPN の実行結果のローカルオブジェクトから ResourceGroupName を取得		
12	CallSettingSSLVPN の実行結果のローカルオブジェクトから TenantVlanID を取得		
13	CallSettingSSLVPN の実行結果のローカルオブジェクトから TenantFWAccessInfo を取得		
14	CallSettingSSLVPN の実行結果のローカルオブジェクトから SSLVPNAccessInfo を取得		
15	CallSettingSSLVPN の実行結果のローカルオブジェクトから SSLVPNDivName を取得		
16	CallSettingSSLVPN の実行結果のローカルオブジェクトから SSLVPNVirtualName を取得		
17	CallSettingSSLVPN の実行結果のローカルオブジェクトから SSLVPNVirtualNode を取得		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定 ※エラーメッセージの詳細は、「3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ)」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
ResourceGroupName	文字列			出力	リソース予約情報

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
SSLVPNAccessInfo	文字列			出力	リソース予約情報
SSLVPNDevName	文字列			出力	リソース予約情報
SSLVPNInfo	文字列			出力	リソース予約情報
SSLVPNName	文字列			出力	リソース予約情報
SSLVPNVirtualName	文字列			出力	リソース予約情報
SSLVPNVirtualNode	文字列			出力	リソース予約情報
TenantFWAccessInfo	文字列			出力	リソース予約情報
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
TenantVlanID	文字列			出力	リソース予約情報
VlanLoopCounter	文字列				シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.6 SSL-VPN 設定(Set)

- シナリオ名

SettingSSL-VPN(Set)

- 処理概要

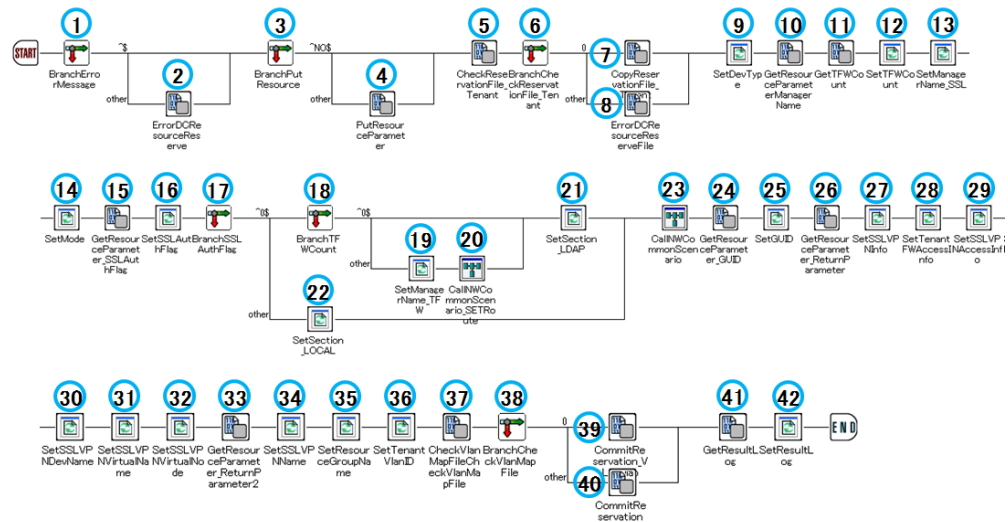
SSL-VPN を設定する。

SSL-VPN は L2 フォワーディング方式を利用する。

- 実行条件

SSL-VPN 装置はテナント共有の装置であること。

- フロー図



• 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
3	ローカルオブジェクト DO_PUTRESOURCE で分岐		
4	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
5	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルの有無を確認		
6	アクション部品 CheckReservationFile_Tenant の結果で分岐		
7	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
8	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	DevType に SSL を設定		
10	Controller の GetResourceCommand でグループの ManagerName を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
11	Controller の GetResourceCommand を実行し TFWCount を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
12	GetTFWCount の実行結果から TFWCount を取得		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
13	GetResourceParameter の実行結果から ManagerNameSSL を取得する		
14	Mode に Create を設定		
15	Controller の GetResourceCommand を実行し SSLAuthFlag を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
16	GetResourceParameter_SSLAuthFlag の実行結果から SSLAuthFlag を取得する。		
17	ローカルオブジェクト SSLAuthFlag で分岐		
18	ローカルオブジェクト TFWCount で分岐		
19	GetResourceParameter の実行結果から ManagerNameTFW を取得する		
20	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
21	Section に "CREATE_VIF SET_IPV4_ADDRESS SET_SSL_VPN" を設定		
22	Section に "CREATE_VIF SET_IPV4_ADDRESS SET_SSL_VPN_LOCAL_AUTH" を設定		
23	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
24	Controller の GetResourceCommand を実行し DeviceGUID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
25	GetTFWCount の実行結果から DeviceGUID を取得		
26	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
27	GetResourceParameter_ReturnParameter の実行結果から SSLVPNInfo を取得		
28	GetResourceParameter_ReturnParameter の実行結果から TenantFWAccessInfo を取得		
29	GetResourceParameter_ReturnParameter の実行結果から SSLVPNAccessInfo を取得		
30	GetResourceParameter_ReturnParameter の実行結果から SSLVPNDivName を取得		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
31	GetResourceParameter_ReturnParameter の実行結果から SSLVPNVirtualName を取得		
32	GetResourceParameter_ReturnParameter の実行結果から SSLVPNVirtualNode を取得		
33	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
34	GetResourceParameter_ReturnParameter の実行結果から SSLVPNName を取得		
35	GetResourceParameter_ReturnParameter 2 の実行結果から ResourceGroupName を取得		
36	GetResourceParameter_ReturnParameter 2 の実行結果から TenantVlanID を取得		
37	VLANMAP 設定の有無を確認		
38	CheckVlanMapFile の終了コードで分岐		
39	Controller の commit で VLANMAP ファイル指定を指定して予約をコミット	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
40	Controller の commit で予約をコミット	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
41	MoM から転送された実行結果ログを標準出力	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
42	GetResultLog の実行結果を NWAResult に設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
DeviceGUID	文字列				シナリオ内で設定
DevType	文字列				シナリオ内で設定
DO_PUTRESOURCE	文字列		YES		呼び出し元シナリオが設定
ErrorMessage	文字列			入力	呼び出し元シナリオが設定
ManagerName	文字列				シナリオ内で設定
Mode	文字列				シナリオ内で設定
NWAResult	文字列				シナリオ内で設定
ResourceGroupName	文字列				シナリオ実行時にサービスガバナーが設定

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
Section	文字列				シナリオ内で設定
SSLAUTHFlag	文字列				シナリオ内で設定
SSLVPNAccessInfo	文字列				リソース予約情報
SSLVPNDevName	文字列				リソース予約情報
SSLVPNInfo	文字列				リソース予約情報
SSLVPNName	文字列				リソース予約情報
SSLVPNVirtualName	文字列				リソース予約情報
SSLVPNVirtualNode	文字列				リソース予約情報
TenantFWAccessInfo	文字列				リソース予約情報
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
TenantVlanID	文字列				リソース予約情報
TFWCount	文字列				シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.7 NAT 設定

- ・ シナリオ名

SettingNAT

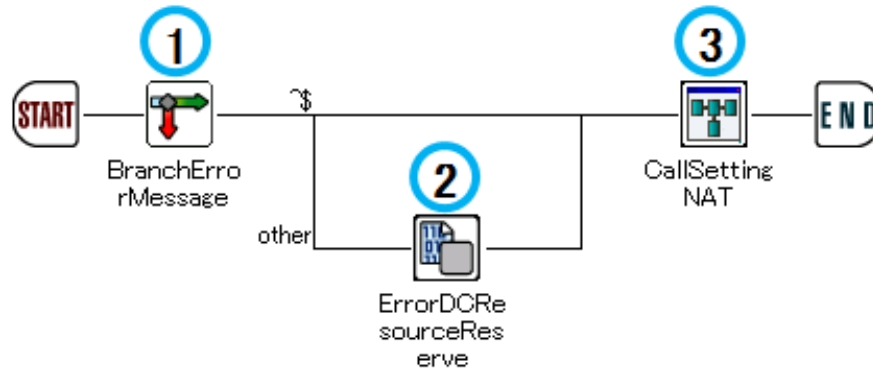
- ・ 処理概要

NAT を設定する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
3	GM の NAT 設定(Set)シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定 ※エラーメッセージの詳細は、「3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ)」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
GlobalIP	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
LocalIP	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定

^{*1} 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.8 NAT 設定(Set)

- シナリオ名

SettingNAT(Set)

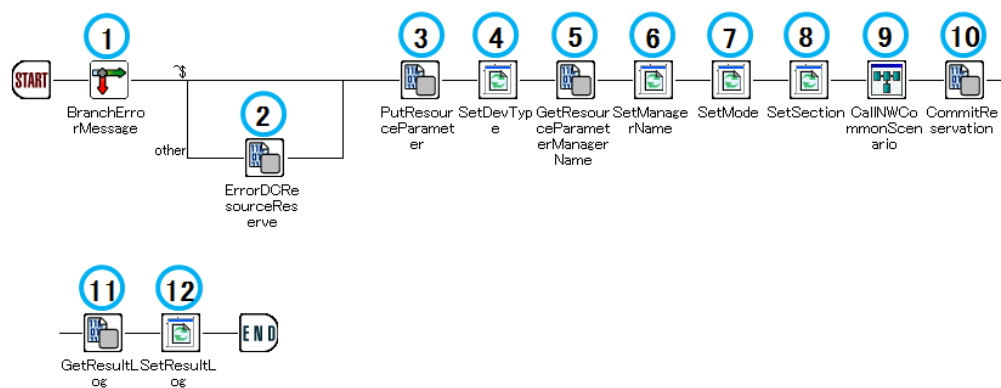
- 処理概要

NAT を設定する。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
3	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	DevType に SSL を設定		
5	Controller の GetResourceCommand でグループの ManagerName を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	GetResourceParameter の実行結果から ManagerName を取得		
7	Mode に Create を設定		
8	Section に CREATE_NAT_RULE を設定		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
9	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
10	Controller の commit で予約をコミット	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
11	MoM から転送された実行結果ログを標準出力	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
12	GetResultLog の実行結果を NWAResult に設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
DevType	文字列				シナリオ内で設定
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
GlobalIP	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
LocalIP	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
ManagerName	文字列				シナリオ内で設定
Mode	文字列				シナリオ内で設定
NWAResult	文字列				シナリオ内で設定
Section	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定

^{*1} 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.9 テナント LB 作成

- シナリオ名

CreateTenantLB

- 処理概要

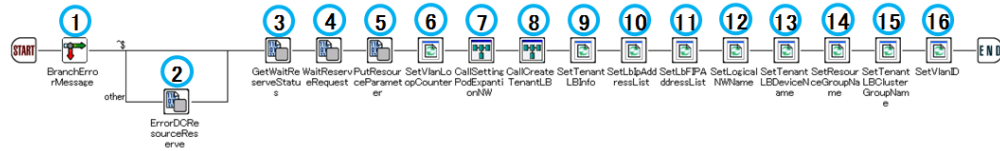
テナント LB を作成する。

本シナリオでは作成時に、上下側に VLAN I/F を作成し、論理的に 2arm としている。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
3	シナリオ同時実行制御を行うためのパラメータを取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	シナリオ同時実行制御を行う。リソースが競合する先行シナリオの完了まで待ち合わせる。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
5	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	PutResourceParameter の実行結果から NumOfVLAN を取得し VlanLoopCounter に設定		
7	GM のポッド拡張設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
8	GM のテナント LB(Set)シナリオを呼び出す。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	CallCreateTenantLB の実行結果のローカルオブジェクトから TenantLBInfo を取得		
10	CallCreateTenantLB の実行結果のローカルオブジェクトから LbIpAddressList を取得		
11	CallCreateTenantLB の実行結果のローカルオブジェクトから LbFIPAddressList を取得		
12	CallCreateTenantLB の実行結果のローカルオブジェクトから LogicalNwName を取得		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
13	CallCreateTenantLB の実行結果のローカルオブジェクトから TenantLBDeviceName を取得		
14	CallCreateTenantLB の実行結果のローカルオブジェクトから ResourceGroupName を取得		
15	CallCreateTenantLB の実行結果のローカルオブジェクトから TenantLBClusterGroupName を取得		
16	CallCreateTenantLB の実行結果のローカルオブジェクトから VlanID を取得		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定 ※エラーメッセージの詳細は、「 3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ) 」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
LbFIPAddressList	文字列			出力	リソース予約情報
LbIpAddressList	文字列			出力	リソース予約情報
LogicalNWName	文字列			出力	リソース予約情報
NodeGUID	文字列				未使用
ResourceGroupName	文字列			出力	リソース予約情報
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定
TenantLBClusterGroupName	文字列			出力	リソース予約情報
TenantLBDeviceName	文字列			出力	リソース予約情報
TenantLBInfo	文字列			出力	リソース予約情報
VlanID	文字列			出力	リソース予約情報
VlanLoopCounter	文字列				シナリオ内で設定

^{*1} 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.10 テナント LB 作成(Set)

- シナリオ名

CreateTenantLB(Set)

- 処理概要

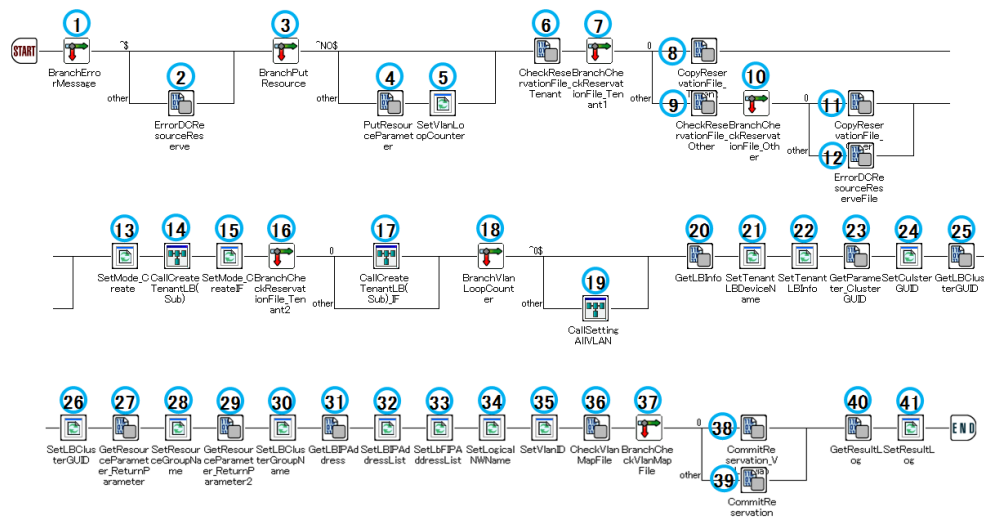
テナント LB を作成する。

本シナリオでは作成時に、上下側に VLAN I/F を作成し、論理的に 2arm としている。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
3	ローカルオブジェクト DO_PUTRESOURCE で分岐		
4	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
5	PutResourceParameter の実行結果から NumOfVLAN を取得し VlanLoopCounter に設定		
6	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルの有無を確認		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
7	アクション部品 CheckReservationFile_Tenant の結果で分岐		
8	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	1 番目の VLAN 用予約情報ファイルが存在するか調べる		
10	CheckReservationFile_Other の終了コードで分岐		
11	1 番目の VLAN 用予約情報ファイルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
12	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
13	Mode に Create を設定		
14	GM のテナント LB 作成(Sub)シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
15	Mode に CreateIF を設定		
16	アクション部品 CheckReservationFile_Tenant の結果で分岐		
17	GM のテナント LB 作成(Sub)シナリオを実行(IF 作成)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
18	ローカルオブジェクト VlanLoopCounter で分岐		
19	GM の全 VLAN 設定を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
20	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
21	GetLBInfo の実行結果から LBDeviceName を取得		
22	GetLBInfo の実行結果から TenantLBInfo を取得		
23	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
24	GetParameter_ClusterGUID の実行結果から GUID を取得		
25	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
26	GetLBClusterGUID の実行結果から GUID を取得		
27	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
28	GetResourceParameter_ReturnParameter の実行結果から ResourceGroupName を取得		
29	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
30	GetResourceParameter_ReturnParameter 2 の実行結果から TenantLBClusterGroupName を取得		
31	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
32	GetLBIPAddress の実行結果から LblpAddressList を取得		
33	GetLBIPAddress の実行結果から LbFIPAddressList を取得		
34	GetLBIPAddress の実行結果から LogicalNWName を取得		
35	GetLBIPAddress の実行結果から VlanID を取得		
36	VLANMAP ファイルの有無を確認		
37	CheckVlanMapFile の終了コードで分岐		
38	Controller の commit で VLANMAP ファイル指定を指定して予約をコミット	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
39	Controller の commit で予約をコミット	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
40	MoM から転送された実行結果ログを標準出力	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
41	GetResultLog の実行結果を NWAResult に設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定
DO_PUTRESOURCE	文字列		YES	入力	呼び出し側で、PutResource を実施済みの場合に NO を設定する。

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
GUID					シナリオ内で設定
LbFIPAddressList	文字列			出力	予約結果として通知
LbIpAddressList	文字列			出力	予約結果として通知
LogicalNWName	文字列				リソース予約情報
Mode	文字列				シナリオ内で設定
NWarResult	文字列				シナリオ内で設定
ResourceGroupName	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
TenantLBCLusterGroupName	文字列			出力	予約結果として通知
TenantLBDeviceName	文字列			出力	予約結果として通知
TenantLBInfo	文字列				リソース予約情報
VlanID	文字列			出力	予約結果として通知
VlanLoopCounter	文字列	○			リソース予約情報

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.11 テナント LB 作成(Sub)

- ・ シナリオ名

CreateTenantLB(Sub)

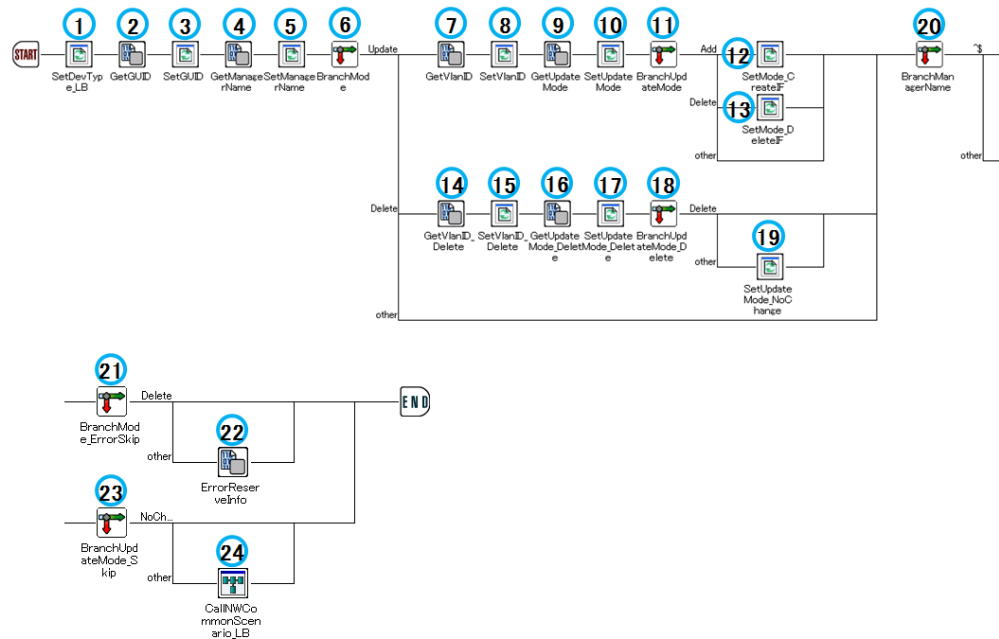
- ・ 処理概要

テナント LB 作成の装置作成、またはテナント LB 更新の装置更新を行う。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	DevType に LB を設定		
2	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
3	GetGUID の実行結果から TenantNWGUID を取得し GUID に設定		
4	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
5	GetManagerName の実行結果から ManagerName_GUID を取得し ManagerName に設定		
6	ローカルオブジェクト Mode で分岐		
7	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
8	GetVlanID の実行結果から VlanID を取得		
9	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
10	GetUpdateMode の実行結果から UpdateMode を取得		
11	ローカルオブジェクト UpdateMode で分岐		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
12	Mode に CreateIF を設定		
13	Mode に DeleteIF を設定		
14	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
15	GetVlanID_Delete の実行結果から VlanID を取得		
16	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
17	GetUpdateMode_Delete の実行結果から UpdateMode を取得		
18	ローカルオブジェクト UpdateMode で分岐		
19	Mode に NoChange を設定		
20	ローカルオブジェクト ManagerName で分岐		
21	ローカルオブジェクト Mode で分岐		
22	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
23	ローカルオブジェクト UpdateMode で分岐		
24	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定
DevType	文字列				シナリオ内で設定
GUID	文字列				シナリオ内で設定
LogicalName	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
ManagerName	文字列				リソース予約情報
Mode	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
Section	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定
UpdateMode	文字列				リソース予約情報
VlanID	文字列				シナリオ内で設定
VlanLoopIndex	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.12 物理サーバ用 NW 設定

- ・ シナリオ名

SettingPhysicalServerNW

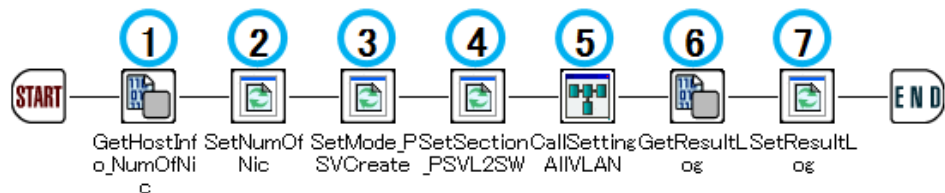
- ・ 処理概要

物理サーバ用の L2SW、FW を設定する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ホスト情報ファイルに対して Controller の GetResourceCommand を実行し NumOfNic を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
2	GetHostInfo_NumOfNic の実行結果から NumOfNic を取得		
3	Mode に PSVCreate を設定		
4	Section に SET_VLANTAG_L2SW を設定		
5	GM の全 VLAN 設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	MoM から転送された実行結果ログを標準出力	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
7	GetResultLog の実行結果を NWAResult に設定		

- ・ ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
DevType	文字列				シナリオ内で設定
ManagerName	文字列				未使用
Mode	文字列				シナリオ内で設定
NumOfNic	文字列				ホスト情報
NWAResult	文字列				シナリオ内で設定
Section	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.13 ポッド拡張設定

- シナリオ名

SettingPodExpansionNW

- 処理概要

ポッド(Pod)拡張を設定する。

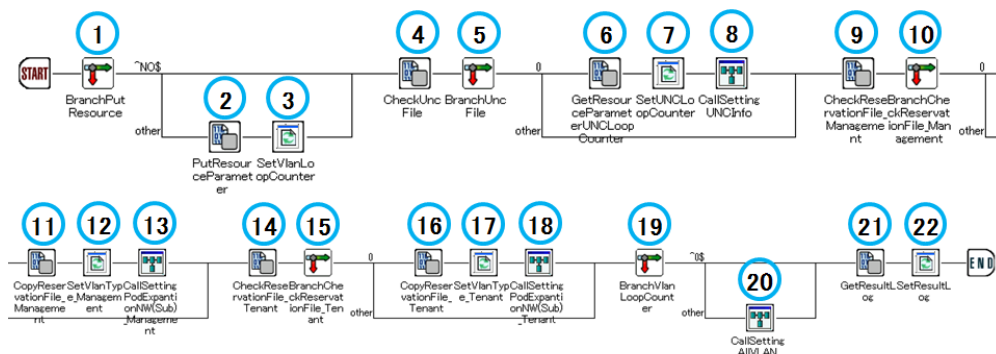
- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

L2SW に PFC/PFS を利用していること。

Pod 拡張設定用の事前設定(vlan-connect enable) がされていること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト DO_PUTRESOURCE で分岐		
2	Controller の PutResourceCommand を 実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワーク フロー失敗時の対処方法（390 ペー ジ）」を参照
3	PutResourceParameter の実行結果から NumOfVALN を取得し VlanLoopCounter に設定		
4	UNC 用の定義ファイルの有無を確認 する。		
5	CheckUncFile の終了コードで分岐		
6	Controller の GetResourceCommand で UNC_Num を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワーク フロー失敗時の対処方法（390 ペー ジ）」を参照
7	GetResourceParameter_ReturnParameter M の実行結果から UNC_LoopCounter を取得		
8	GM の UNC 情報設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワーク フロー失敗時の対処方法（390 ペー ジ）」を参照
9	事業者管理 VLAN 用予約情報ファイ ルの有無を確認		
10	アクション部品 CheckReservationFile_Management の 結果で分岐		
11	事業者管理 VLAN 用予約情報ファイ ルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワーク フロー失敗時の対処方法（390 ペー ジ）」を参照
12	VlanType に ManagementVLAN を設定		
13	GM の Pod 拡張設定(Sub)シナリオを 実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワーク フロー失敗時の対処方法（390 ペー ジ）」を参照
14	テナント管理 VLAN 用予約情報ファ イルの有無を確認		
15	アクション部品 CheckReservationFile_Tenant の結果で 分岐		
16	テナント管理 VLAN 用予約情報ファ イルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワーク フロー失敗時の対処方法（390 ペー ジ）」を参照
17	VlanType に TenantVLAN を設定する		
18	GM の Pod 拡張設定(Sub)シナリオを 実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワーク フロー失敗時の対処方法（390 ペー ジ）」を参照
19	ローカルオブジェクト VlanLoopCounter で分岐		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
20	GM の全 VLAN 設定を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
21	MoM から転送された実行結果ログを標準出力	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
22	GetResultLog の実行結果を NWAResult に設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
ConfigMode	文字列		CREATE		初期値を使用
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
DO_PUTRESOURCE	文字列		YES	入力	呼び出し側で、PutResource を実施済みの場合に NO を設定する。
ManagerName	文字列				シナリオ内で設定
NWAResult	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
UNC_LoopCounter	文字列				シナリオ内で設定
VlanLoopCounter	文字列				シナリオ内で設定
VlanType	文字列				シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.14 ポッド縮退設定

- シナリオ名

SettingPodContractionNW

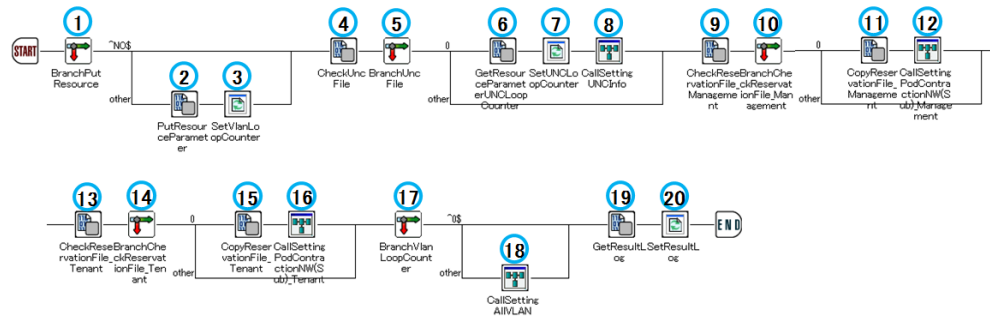
- 処理概要

ポッド(Pod)縮退を設定する。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図



・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	リソース予約情報を取得するか判断		
2	リソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390ページ）」を参照
3	予約された VLAN 数をローカルオブジェクトに格納		
4	UNC の予約確認	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390ページ）」を参照
5	UNC のプロビジョニングを行うか判断		
6	予約された UNC の機器数を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390ページ）」を参照
7	予約された UNC の機器数をローカルオブジェクトに格納		
8	UNC のプロビジョニングを実行(GMのサブシナリオ SettingUNCInfo を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390ページ）」を参照
9	事業者管理 VLAN の予約確認		
10	事業者管理 VLAN の設定を行うか判断		
11	事業者管理 VLAN の削除準備	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390ページ）」を参照
12	事業者管理 VLAN のネットワークを縮退(GMのサブシナリオ SettingPodContractionNW(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390ページ）」を参照
13	テナント管理 VLAN の予約確認		
14	テナント管理 VLAN の設定を行うか判断		
15	テナント管理 VLAN の削除準備	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390ページ）」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
16	テナント管理 VLAN のネットワークを縮退(GM のサブシナリオ SettingPodContractionNW(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
17	事業者管理 VLAN、テナント管理 VLAN 以外の VLAN が予約されているか判断		
18	各 VLAN のネットワークを縮退(GM のサブシナリオ SettingAllVLAN を実行)		
19	管理サーバから転送された実行結果ログを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
20	管理サーバから転送された実行結果ログをローカルオブジェクトに格納		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
ConfigMode	文字列		UPDATE_DEL		UNC に対するプロビジョニングの実行モード。呼び出し元シナリオが設定。
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	DC リソースの予約 ID。呼び出し元シナリオが設定。
DO_PUTRESOURCE	文字列		YES		リソース予約情報取得を実行するフラグ。呼び出し元シナリオが設定。
NWarResult	文字列				実行結果ログ格納用。シナリオ内で設定。
TenantID	文字列	○		入力	テナント ID。シナリオ実行時にサービスガバナーが設定。
UNC_LoopCounter	文字列				UNC 用ループカウンタ。シナリオ内で設定。
VlanLoopCounter	文字列				VLAN 用のループカウンタ。シナリオ内で設定。

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.15 テナント FW 作成

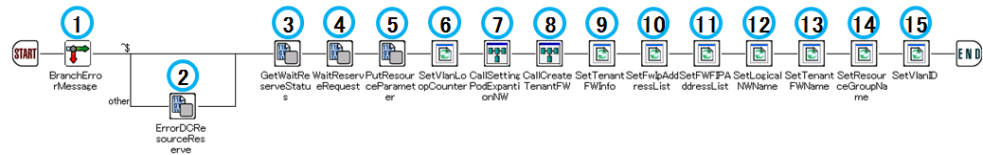
- シナリオ名
CreateTenantFW
- 処理概要

テナント FW を作成する。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
3	シナリオ同時実行制御を行うためのパラメータを取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	シナリオ同時実行制御を行う。リソースが競合する先行シナリオの完了まで待ち合わせる。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
5	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	PutResourceParameter の実行結果から NumOfVALN を取得し VlanLoopCounter に設定		
7	GM のポッド拡張設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
8	GM のテナント FW 作成(Set)シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	CallCreateTenantFW の実行結果のローカルオブジェクトから TenantFWInfo を取得		
10	CallCreateTenantFW の実行結果のローカルオブジェクトから FwIpAddressList を取得		
11	CallCreateTenantFW の実行結果のローカルオブジェクトから FWFIPAddressList を取得		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
12	CallCreateTenantFW の実行結果のローカルオブジェクトから LogicalNWName を取得		
13	CallCreateTenantFW の実行結果のローカルオブジェクトから TenantFWName を取得		
14	CallCreateTenantFW の実行結果のローカルオブジェクトから ResourceGroupName を取得		
15	CallCreateTenantFW の実行結果のローカルオブジェクトから VlanID を取得		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定 ※エラーメッセージの詳細は、「 3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ) 」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
FWFIPAddressList	文字列			出力	リソース予約情報
FwIpAddressList	文字列			出力	リソース予約情報
LogicalNWName	文字列			出力	リソース予約情報
ResourceGroupName	文字列			出力	リソース予約情報
TenantFWInfo	文字列			出力	リソース予約情報
TenantFWName	文字列			出力	リソース予約情報
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
VlanID	文字列			出力	リソース予約情報
VlanLoopCounter	文字列				シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.16 テナント FW 作成(Set)

- シナリオ名

CreateTenantFW(Set)

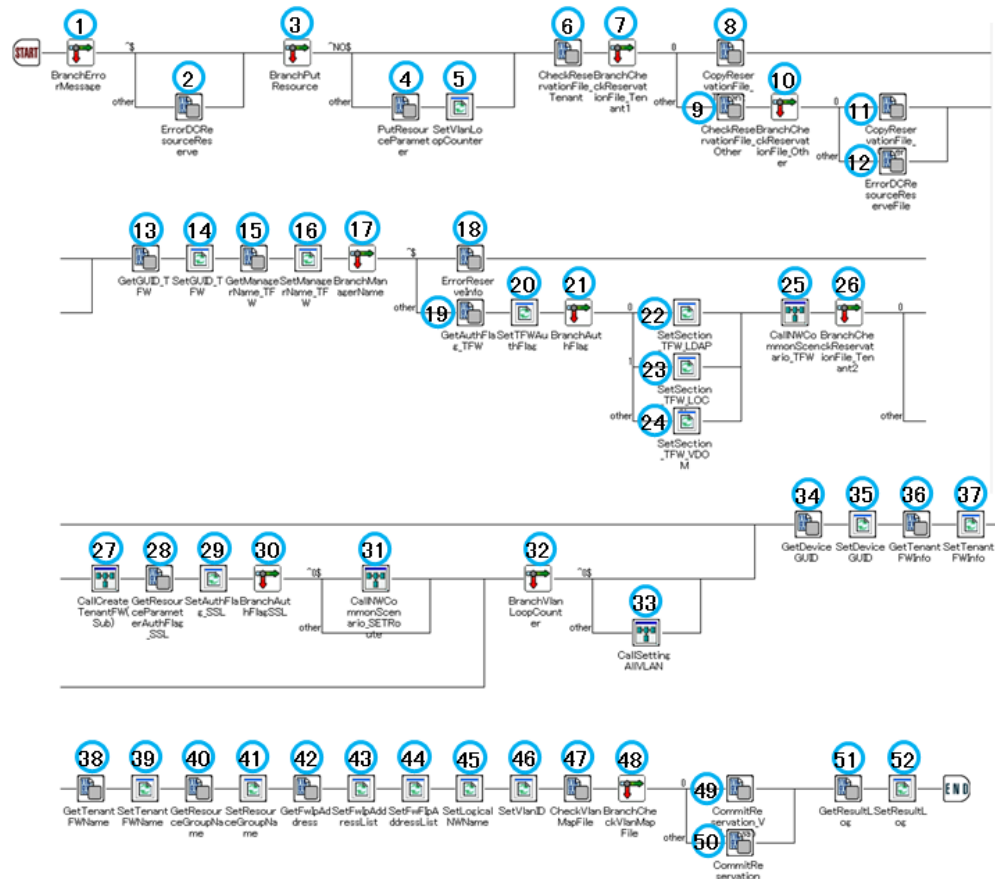
- 処理概要

テナントFWを作成する。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
3	ローカルオブジェクト DO_PUTRESOURCE で分岐		
4	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
5	PutResourceParameter の実行結果から NumOfVALN を取得し VlanLoopCounter に設定		
6	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルが存在するか調べる		
7	CheckReservationFile_Tenant の終了コードで分岐		
8	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	1 番目の VLAN 用予約情報ファイルが存在するか調べる		
10	CheckReservationFile_Other の終了コードで分岐		
11	1 番目の VLAN 用予約情報ファイルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
12	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
13	予約情報ファイルから TenantNWGUID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
14	GetGUID_TFW の実行結果から TenantNWGUID を取得し GUID に設定		
15	予約情報ファイルから ManagerName_GUID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
16	GetManagerName_TFW の実行結果から ManagerName_GUID を取得し ManagerName に設定		
17	ローカルオブジェクト ManagerName で分岐		
18	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
19	予約情報ファイルから TFWAuthFlag を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
20	GetAuthFlag_TFW の実行結果から TFWAuthFlag を取得し AuthFlag に設定		
21	ローカルオブジェクト AuthFlag で分岐		
22	Section に "CREATE_VDOM CREATE_ACCOUNT_LDAP" を設定		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
23	Section に "CREATE_VDOM CREATE_ACCOUNT_LOCAL" を設定		
24	Section に "CREATE_VDOM" を設定		
25	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
26	CheckReservationFile_Tenant 終了コードで分岐		
27	GM のテナント FW 作成(Sub)シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
28	Controller の GetResourceCommand で SSLAAuthFlag を取得する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
29	GetResourceParameterAuthFlag_SSL の 実行結果から SSLAuthFlag を取得して AuthFlagSSL を設定		
30	ローカルオブジェクト AuthFlagSSL で分岐		
31	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行(SetRoute)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
32	ローカルオブジェクト VlanLoopCounter で分岐		
33	GM の全 VLAN 設定を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
34	Controller の GetResourceCommand で 返却用パラメータを取得する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
35	GetDeviceGUID の実行結果から DeviceGUID を取得		
36	Controller の GetResourceCommand で 返却用パラメータを取得する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
37	GetTenantFWInfo の実行結果から TenantFWInfo を取得		
38	Controller の GetResourceCommand で 返却用パラメータを取得する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
39	GetTenantFWName の実行結果から TenantFWName を取得		
40	Controller の GetResourceCommand で 返却用パラメータを取得する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
41	GetResourceGroupName の実行結果から ResourceGroupName を取得		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
42	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
43	GetFwIpAddress の実行結果から FwIpAddressList を取得		
44	FwIpAddressList の値を FWFIPAddressList に設定		
45	GetFwIpAddress の実行結果から LogicalNWName を取得		
46	GetFwIpAddress の実行結果から VlanID を取得		
47	VLANMAP ファイルの有無を確認		
48	CheckVlanMapFile の終了コードで分岐		
49	Controller の commit で VLANMAP ファイル指定を指定して予約をコミット	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
50	Controller の commit で予約をコミット	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
51	MoM から転送された実行結果ログを標準出力	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
52	GetResultLog の実行結果を NWAResult に設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
AuthFlag	文字列				シナリオ内で設定
AuthFlagSSL	文字列				シナリオ内で設定
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
DeviceGUID	文字列				シナリオ内で設定
DO_PUTRESOURCE	文字列		YES	入力	呼び出し側で、PutResource を実施済みの場合に NO を設定する。
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
FWFIPAddressList	文字列			出力	予約結果として通知
FwIpAddressList	文字列			出力	予約結果として通知
GUID	文字列				シナリオ内で設定
LogcalNWName	文字列			出力	予約結果として通知
ManagerName	文字列				シナリオ内で設定
NWAResult	文字列				シナリオ内で設定
ResourceGroupName	文字列			出力	予約結果として通知

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
Section	文字列				シナリオ内で設定
TenantFWInfo	文字列			出力	予約結果として通知
TenantFWName	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
VlanID	文字列			出力	予約結果として通知
VlanLoopCounter	文字列				シナリオ内で設定
VlanLoopIndex	数値		0		シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.17 テナント FW 作成(Sub)

- ・ シナリオ名

CreateTenantFW(Sub)

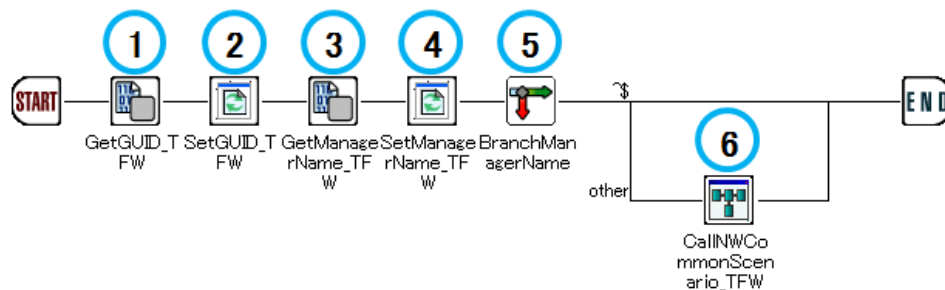
- ・ 処理概要

テナント FW を作成する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	予約情報ファイルから TenantNWGUID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
2	GetGUID_TFW の実行結果から TenantNWGUID を取得し GUID に設定		
3	予約情報ファイルから ManagerName_GUID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
4	GetManagerName_TFW の実行結果から ManagerName_GUID を取得し ManagerName に設定		
5	ローカルオブジェクト ManagerName で分岐		
6	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
GUID	文字列				シナリオ内で設定
ManagerName	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.18 テナント FW 更新

- シナリオ名

UpdateTenantFW

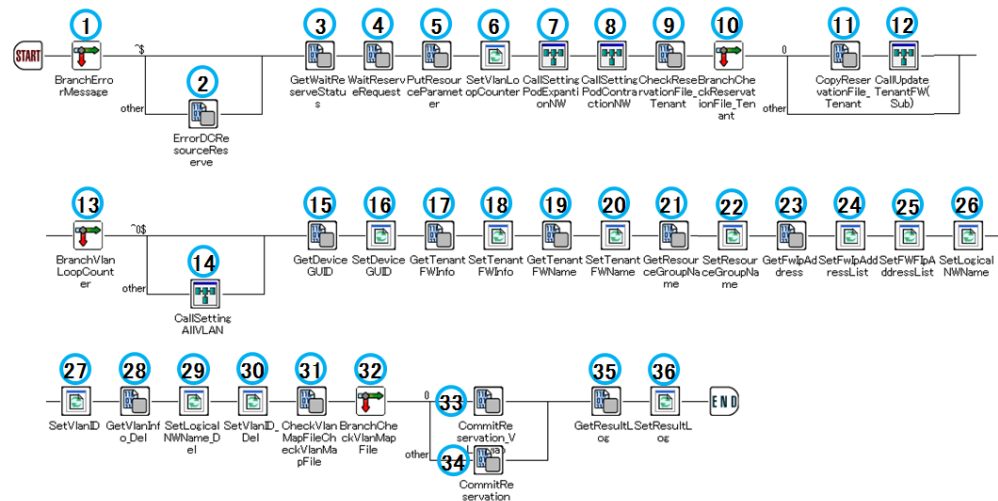
- 処理概要

テナント FW を更新する。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図



• 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
3	シナリオ同時実行制御を行うためのパラメータを取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
4	シナリオ同時実行制御を行う。リソースが競合する先行シナリオの完了まで待ち合わせる。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
5	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
6	PutResourceParameter の実行結果から NumOfVALN を取得し VlanLoopCounter に設定		
7	GM のポッド拡張設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
8	GM のポッド縮退設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
9	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルが存在するか調べる		
10	CheckReservationFile_Tenant の終了コードで分岐		
11	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
12	テナント FW 更新(Sub)シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
13	ローカルオブジェクト VlanLoopCounter で分岐		
14	GM の全 VLAN 設定を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
15	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
16	GetDeviceGUID の実行結果から DeviceGUID を取得		
17	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
18	GetTenantFWInfo の実行結果から TenantFWInfo を取得		
19	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
20	GetTenantFWName の実行結果から TenantFWName を取得		
21	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
22	GetResourceGroupName の実行結果から ResourceGroupName を取得		
23	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
24	GetFwIpAddress の実行結果から FwIpAddressList を取得		
25	FwIpAddressList の値を FWFIPAddressList に設定		
26	GetFwIpAddress の実行結果から LogicalNWName を取得		
27	GetFwIpAddress の実行結果から VlanID を取得		
28	GetFWDelVlanInfo.bat を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
29	GetVlanInfo_Del の実行結果から LogicalNWName_Del を取得		
30	GetVlanInfo_Del の実行結果から VlanID_Del を取得		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
31	VLANMAP 情報ファイルの有無を確認		
32	アクション部品 CheckVlanMapFile の結果で分岐		
33	Controller の commit で予約をコミット、VLANMAP 情報を更新	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
34	Controller の commit で予約をコミット	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
35	MoM から転送された実行結果ログを標準出力	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
36	GetResultLog の実行結果を NWAResult に設定		

• ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定
DeviceGUID	文字列				シナリオ内で設定
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定 ※エラーメッセージの詳細は、「3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ)」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
FWFIPAddressList	文字列			出力	リソース予約情報
FwIpAddressList	文字列			出力	リソース予約情報
LogicalNWName	文字列			出力	リソース予約情報
LogicalNWName_Del	文字列			出力	リソース予約情報
NWAResult	文字列				シナリオ内で設定
ResourecGroupName	文字列			出力	リソース予約情報
TenantFWInfo	文字列			出力	リソース予約情報
TenantFWName	文字列			出力	リソース予約情報
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定
VlanID	文字列			出力	リソース予約情報
VlanID_Del	文字列			出力	リソース予約情報
VlanLoopCounter	文字列				シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.19 テナント FW 更新(Sub)

- ・ シナリオ名

UpdateTenantFW(Sub)

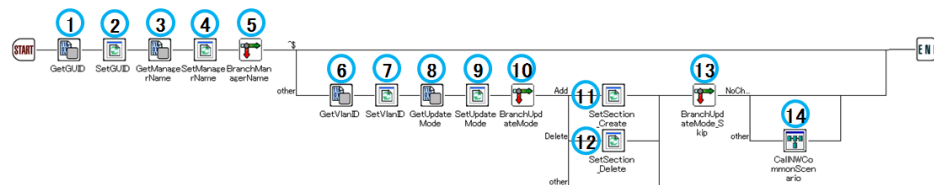
- ・ 処理概要

テナント FW を更新する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	予約情報ファイルから TenantNWGUID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
2	GetGUID の実行結果から TenantNWGUID を取得し GUID に設定		
3	予約情報ファイルから ManagerName_GUID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
4	GetManagerName の実行結果から ManagerName_GUID を取得し ManagerName に設定		
5	ローカルオブジェクト ManagerName で分岐		
6	予約情報ファイルから VlanID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
7	GetVlanID の実行結果から VlanID を取得		
8	予約情報ファイルから UpdateMode を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
9	GetUpdateMode の実行結果から UpdateMode を取得		
10	ローカルオブジェクト UpdateMode で分岐		
11	Section に "CREATE_VIF SET_IPV4_ADDRESS" を設定		
12	Section に "DELETE_VIF" を設定		
13	ローカルオブジェクト UpdateMode で分岐		
14	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオが設定
GUID	文字列				シナリオ内で設定
LogicalName	文字列				未使用
ManagerName	文字列				シナリオ内で設定
Section	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオが設定
UpdateMode	文字列				シナリオ内で設定
VlanID	文字列				シナリオ内で設定
VlanLoopIndex	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定

^{*1} 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.20 テナント LB 更新

- シナリオ名

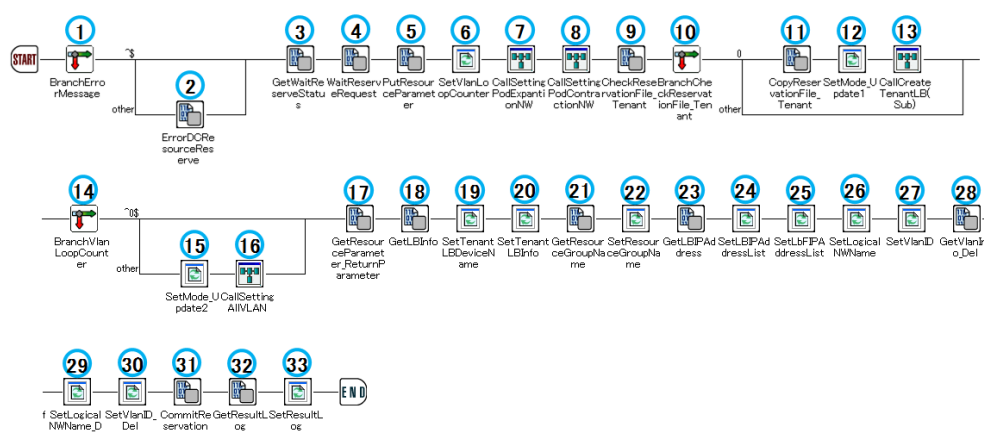
UpdateTenantLB

- 処理概要

テナント LB を更新する。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。



部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
3	シナリオ同時実行制御を行うためのパラメータを取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
4	シナリオ同時実行制御を行う。リソースが競合する先行シナリオの完了まで待ち合わせる。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
5	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
6	PutResourceParameter の実行結果から NumOfVALN を取得し VlanLoopCounter に設定		
7	GM のポッド拡張設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
8	GM のポッド縮退設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
9	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルが存在するか調べる		
10	CheckReservationFile_Tenant の終了コードで分岐		
11	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
12	Mode に Update を設定		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
13	GM のテナント LB 作成(Sub)シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
14	ローカルオブジェクト VlanLoopCounter で分岐		
15	Mode に Update を設定		
16	GM の全 VLAN 設定を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
17	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
18	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
19	GetLBInfo の実行結果から LBDeviceName を取得し TenantLBDeviceName を取得		
20	GetLBInfo の実行結果から LBName を取得し TenantLBInfo を取得		
21	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
22	GetResourceGroupName の実行結果から ResourceGroupName を取得		
23	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
24	GetLBIPAddress の実行結果から LbIpAddressList を取得		
25	GetLBIPAddress の実行結果から LbFIPAddressList を取得		
26	GetLBIPAddress の実行結果から LogicalNWName を取得		
27	GetLBIPAddress の実行結果から VlanID を取得		
28	GetFWDelVlanInfo.bat を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
29	GetVlanInfo_Del の実行結果から LogicalNWName_Del を取得		
30	GetVlanInfo_Del の実行結果から VlanID_Del を取得		
31	Controller の commit で予約をコミット	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
32	MoM から転送された実行結果ログを標準出力	フロー停止	「 3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ) 」を参照
33	GetResultLog の実行結果をNWAResult に設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定 ※エラーメッセージの詳細は、「 3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ) 」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
LbFIPAddressList	文字列			出力	リソース予約情報
LbIpAddressList	文字列			出力	リソース予約情報
LogicalNWName	文字列			出力	リソース予約情報
LogicalNWName_Del	文字列			出力	リソース予約情報
Mode	文字列				シナリオ内で設定
NWAResult	文字列				シナリオ内で設定
ResourecGroupName	文字列			出力	リソース予約情報
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
TenantLBDeviceName	文字列			出力	リソース予約情報
TenantLBInfo	文字列			出力	リソース予約情報
VlanID	文字列			出力	リソース予約情報
VlanID_Del	文字列			出力	リソース予約情報
VlanLoopCounter	文字列				シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.21 NAT 設定削除

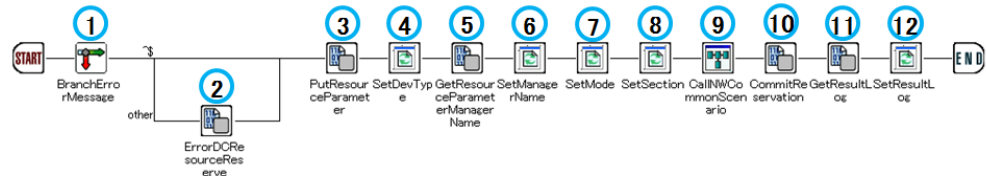
- シナリオ名
DeleteNAT
- 処理概要

NAT 設定を削除する

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
3	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	DevType に SSL を設定		
5	Controller の GetResourceCommand でグループの ManagerName を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	GetResourceParameter の実行結果から ManagerName を取得		
7	Mode に Delete を設定		
8	Section に DELETE_NAT を設定		
9	MoM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
10	Controller の commit で予約をコミット	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
11	MoM から転送された実行結果ログを標準出力	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
12	GetResultLog の実行結果を NWarResult に設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DevType	文字列				シナリオ内で設定
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定 ※エラーメッセージの詳細は、 「 3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ) 」の「ガバナエラーコード一覧」 を参照してください。
GlobalIP	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定
LocalIP	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定
ManagerName	文字列				シナリオ内で設定
Mode	文字列				シナリオ内で設定
NWAResult	文字列				シナリオ内で設定
Section	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.22 テナント LB 削除

- ・ シナリオ名

DeleteTenantLB

- ・ 処理概要

テナント LB を削除する

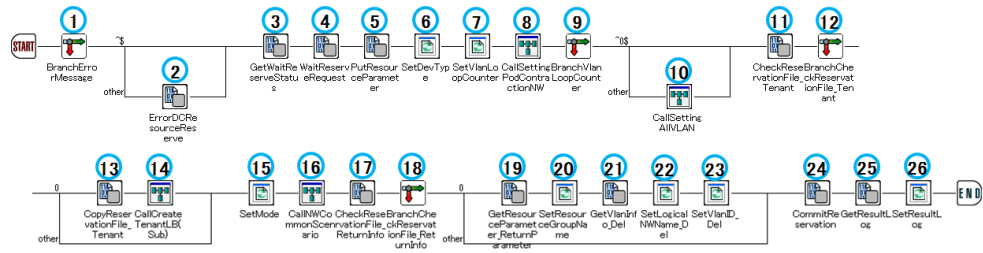
本シナリオでは、業務 LAN の接続を想定している。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

テナント NW 作成シナリオが実行され、テナント LB が作成されていること。

- ・ フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
3	シナリオ同時実行制御を行うためのパラメータを取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	シナリオ同時実行制御を行う。リソースが競合する先行シナリオの完了まで待ち合わせる。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
5	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	DevType に LB を設定		
7	PutResourceParameter の実行結果から NumOfVALN を取得し VlanLoopCounter に設定する		
8	GM のポッド縮退設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	ローカルオブジェクト VlanLoopCounter で分岐		
10	GM の全 VLAN 設定を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
11	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルの有無を確認		
12	アクション部品 CheckReservationFile_Tenant の結果で分岐		
13	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
14	GM の全 VLAN 設定を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
15	Mode に Delete を設定		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
16	MoM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
17	払い出し情報ファイルの有無を確認		
18	アクション部品 CheckReservationFile_ReturnInfo の結果で分岐		
19	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
20	GetResourceParameter_ReturnParameter の実行結果から ResourceGroupName を取得		
21	GetFWDelVlanInfo.bat を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
22	GetVlanInfo_Del の実行結果から LogicalNWName_Del を取得		
23	GetVlanInfo_Del の実行結果から VlanID_Del を取得		
24	Controller の commit で予約をコミット	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
25	MoM から転送された実行結果ログを標準出力	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
26	GetResultLog の実行結果を NWAResult に設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定
DevType	文字列				シナリオ内で設定
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定 ※エラーメッセージの詳細は、「3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ)」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
LogicalNWName_Del	文字列			出力	シナリオ内で設定
ManagerName	文字列				シナリオ内で設定
Mode	文字列				シナリオ内で設定
NWAResult	文字列				シナリオ内で設定
ResourceGroupName	文字列			出力	シナリオ内で設定
Section	文字列				シナリオ内で設定

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
VlanID_Del	文字列			出力	シナリオ内で設定。
VlanLoopCounter	文字列				シナリオ内で設定。

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.23 テナント FW 削除

- ・ シナリオ名

DeleteTenantFW

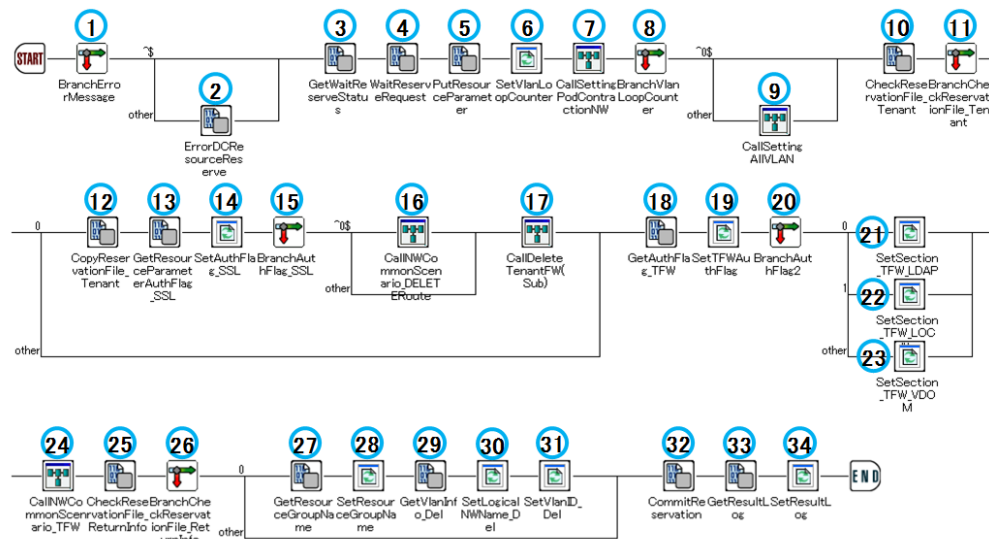
- ・ 処理概要

テナント FW を削除する

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
3	シナリオ同時実行制御を行うためのパラメータを取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	シナリオ同時実行制御を行う。リソースが競合する先行シナリオの完了まで待ち合わせる。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
5	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	PutResourceParameter の実行結果から NumOfVALN を取得し VlanLoopCounter に設定		
7	ネットワークを縮小(GM のシナリオ SettingPodContractionNW を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
8	ローカルオブジェクト VlanLoopCounter で分岐		
9	GM の全 VLAN 設定を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
10	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルの有無を確認	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
11	アクション部品 CheckReservationFile_Tenant の結果で分岐		
12	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
13	Controller の GetResourceCommand で SSLAuthFlag を取得する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
14	GetResourceParameterAuthFlag_SSL の実行結果から SSLAuthFlag を取得して AuthFlagSSL を設定		
15	ローカルオブジェクト AuthFlagSSL で分岐		
16	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行>DeleteRoute)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
17	GM のテナント FW 削除(Sub)シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
18	予約情報ファイルから TFWAuthFlag を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
19	GetAuthFlag_TFW の実行結果から TFWAuthFlag を取得し AuthFlag に設定		
20	ローカルオブジェクト AuthFlag で分岐		
21	Section に "DELETE_ACCOUNT_LDAP DELETE_VDOM" を設定		
22	Section に "DELETE_ACCOUNT_LOCAL DELETE_VDOM" を設定		
23	Section に "DELETE_VDOM" を設定		
24	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
25	払い出し情報の存在確認		
26	払い出し情報の存在確認の結果で判断		
27	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
28	GetResourceGroupName の実行結果から ResourceGroupName を取得		
29	削除した VLAN 情報の取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
30	GetVlanInfo_Del の実行結果から LogicalNWName_Del を取得		
31	GetVlanInfo_Del の実行結果から VlanID_Del を取得		
32	Controller の commit で予約をコミット	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
33	MoM から転送された実行結果ログを標準出力	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
34	GetResultLog の実行結果を NWAResult に設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
AuthFlag	文字列				シナリオ内で設定
AuthFlagSSL	文字列				シナリオ内で設定
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定 ※エラーメッセージの詳細は、「 3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ) 」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
LogicalNWName_Del	文字列			出力	シナリオ内で設定
NWarResult	文字列				シナリオ内で設定
ResourceGroupName	文字列			出力	シナリオ内で設定
Section	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定
VlanID_Del	文字列			出力	シナリオ内で設定
VlanLoopCounter	文字列				シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.24 テナント FW 削除(Sub)

- ・ シナリオ名

DeleteTenantFW(Sub)

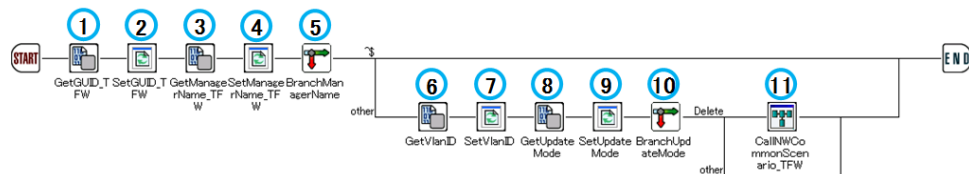
- ・ 処理概要

テナント FW を削除する

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	予約情報ファイルから TenantNWGUID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
2	GetGUID_TFW の実行結果から TenantNWGUID を取得し GUID に設定		
3	予約情報ファイルから ManagerName_GUID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	GetManagerName_TFW の実行結果から ManagerName_GUID を取得し ManagerName に設定		
5	ローカルオブジェクト ManagerName で分岐		
6	予約情報ファイルから VlanID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
7	GetVlanID の実行結果から VlanID を取得		
8	予約情報ファイルから UpdateMode を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	GetUpdateMode の実行結果から UpdateMode を取得		
10	ローカルオブジェクト UpdateMode で分岐		
11	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定
GUID	文字列				シナリオ内で設定
ManagerName	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定
UpdateMode	文字列				シナリオ内で設定
VlanID	文字列				シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.25 汎用装置作成

- シナリオ名

CreateGeneralDev

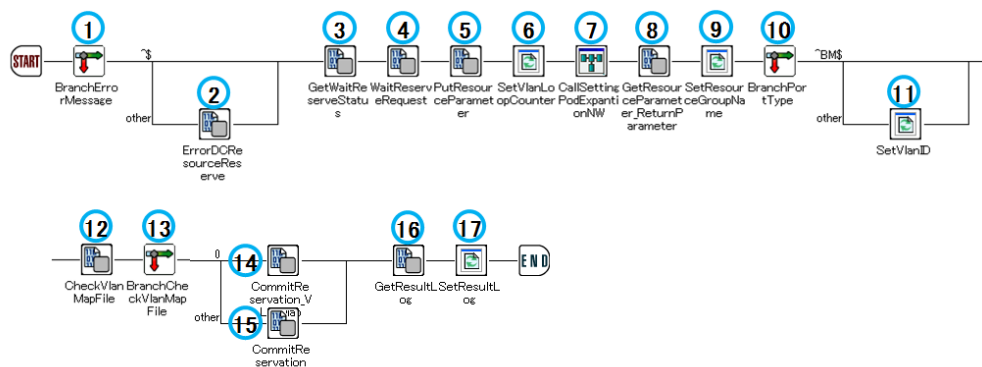
- 処理概要

汎用装置を作成する。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
3	シナリオ同時実行制御を行うためのパラメータを取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
4	シナリオ同時実行制御を行う。リソースが競合する先行シナリオの完了まで待ち合わせる。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
5	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
6	PutResourceParameter の実行結果から NumOfVALN を取得し VlanLoopCounter に設定		
7	GM のポッド拡張設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
8	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	GetResourceParameter_ReturnParameter の実行結果から ResourceGroupName を取得		
10	ローカルオブジェクト CreateNW_PortType1 で分岐		
11	GetResourceParameter_ReturnParameter の実行結果から VlanID を取得		
12	VLANMAP ファイルが存在するか調べる		
13	CheckVlanMapFile の終了コードで分岐		
14	Controller の commit で予約をコミット、VLANMAP 情報の更新を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
15	Controller の commit で予約をコミット	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
16	MoM から転送された実行結果ログを標準出力	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
17	GetResultLog の実行結果を NWAResult に設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
CreateNW_PortType1	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定 ※エラーメッセージの詳細は、「3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ)」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
NWAResult	文字列				シナリオ内で設定
ResourceGroupName	文字列			出力	リソース予約情報
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
VlanID	文字列			出力	リソース予約情報
VlanLoopCounter	文字列				シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.26 汎用装置削除

- ・ シナリオ名

DeleteGeneralDev

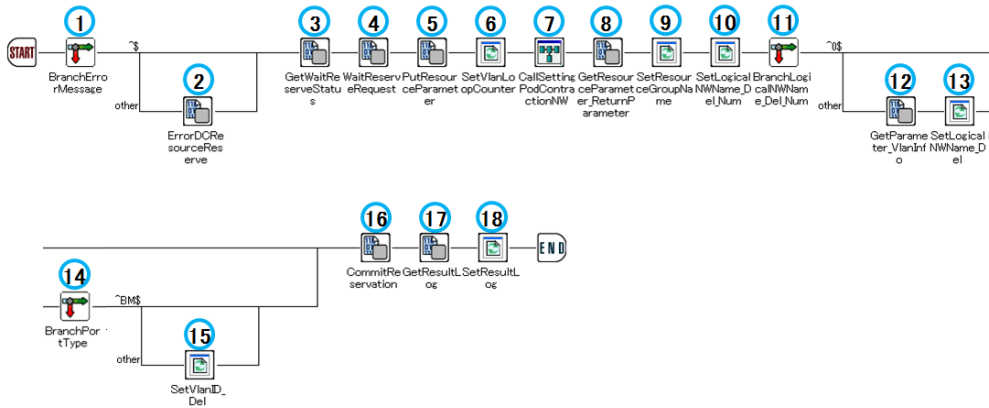
- ・ 処理概要

汎用装置を削除する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
3	シナリオ同時実行制御を行うためのパラメータを取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
4	シナリオ同時実行制御を行う。リソースが競合する先行シナリオの完了まで待ち合わせる。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
5	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	PutResourceParameter の実行結果から VlanLoopCounter を取得		
7	ネットワークを縮小(GM のシナリオ SettingPodContractionNW を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
8	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	GetResourceParameter_ReturnParameter の実行結果から ResourceGroupName を取得		
10	GetResourceParameter_ReturnParameter の実行結果から LogicalNWName_Del_Num を取得		
11	ローカルオブジェクト LogicalNWName_Del_Num で分岐		
12	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
13	GetParameter_VlanInfo の実行結果から LogicalNWName_Del を取得		
14	ローカルオブジェクト DeleteNW_PortType1 で分岐		
15	GetParameter_VlanInfo の実行結果から VlanID_Del を取得		
16	Controller の commit で予約をコミット	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
17	MoM から転送された実行結果ログを標準出力	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
18	GetResultLog の実行結果を NWAResult に設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定
DeleteNW_PortType1	文字列				シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定 ※エラーメッセージの詳細は、 「3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ)」を参照

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
					ジ)」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
LogicalNWName_Del	文字列			出力	シナリオ内で設定
LogicalNWName_Del_Num	文字列				シナリオ内で設定
NWAResult	文字列				シナリオ内で設定
ResourceGroupName	文字列			出力	リソース予約情報
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定
UNC_LoopCounter	文字列				未使用
VlanID	文字列				リソース予約情報
VlanID_Del	文字列			出力	シナリオ内で設定
VlanLoopCounter	文字列				シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.27 DC 間 NW への接続用 VLAN 作成

- ・ シナリオ名

CreateConnectPort

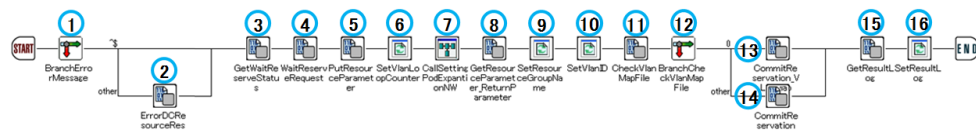
- ・ 処理概要

DC 間 NW への接続用 VLAN を作成する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	エラーメッセージが設定されているか判断		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
2	部品の強制終了※予約に失敗した場合、強制終了	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
3	シナリオ同時実行制御を行うためのパラメータを取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	シナリオ同時実行制御を行う。リソースが競合する先行シナリオの完了まで待ち合わせる。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
5	リソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	予約された VLAN 数をローカルオブジェクトに格納		
7	ネットワークを拡張(GM のシナリオ SettingPodExpantionNW を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
8	払い出し情報の取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	シナリオ実行対象のリソース管理グループ名をローカルオブジェクトに格納		
10	VLAN ID をローカルオブジェクトに格納		
11	VLANMAP 設定の有無を確認		
12	VLANMAP 設定が行われたか判断		
13	リソース情報の確定、VLANMAP 情報の更新を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
14	リソース情報の確定を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
15	管理サーバから転送された実行結果ログを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
16	管理サーバから転送された実行結果ログをローカルオブジェクトに格納		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	DC リソースの予約 ID。シナリオ実行時にサービスガバナーが設定。
ErrorMessage	文字列			入力	サービスガバナーのエラーメッセージ。シナリオ実行時にサービスガバナーが設定。 ※エラーメッセージの詳細は、 「3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ)」を参照

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
					ジ)」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
NWarResult	文字列				実行結果ログ格納用。シナリオ内で設定。
ResourceGroupName	文字列			出力	リソース管理グループ名。シナリオ内で設定。
TenantID	文字列	○		入力	テナント ID。シナリオ実行時にサービスガバナーが設定。
VlanID	文字列			出力	VLAN ID。シナリオ内で設定。
VlanLoopCounter	文字列				VLAN 用のループカウンタ。シナリオ内で設定。

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.28 DC 間 NW への接続用 VLAN 削除

- ・ シナリオ名

DeleteConnectPort

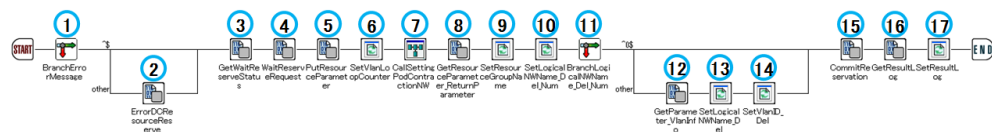
- ・ 処理概要

DC 間 NW への接続用 VLAN を削除する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	エラーメッセージが設定されているか判断		
2	部品の強制終了※予約に失敗した場合、強制終了	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
3	シナリオ同時実行制御を行うためのパラメータを取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	シナリオ同時実行制御を行う。リソースが競合する先行シナリオの完了まで待ち合わせる。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
5	リソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	予約された VLAN 数をローカルオブジェクトに格納		
7	ネットワークを縮退(GM のシナリオ SettingPodContractionNW を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
8	払い出し情報の取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	シナリオ実行対象のリソース管理グループ名をローカルオブジェクトに格納		
10	削除対象の VLAN 数をローカルオブジェクトに格納		
11	VLAN 削除を行ったか判断		
12	削除した VLAN 情報の取得		
13	削除した論理ネットワーク名のリストをローカルオブジェクトに格納		
14	削除した VLAN ID のリストをローカルオブジェクトに格納		
15	リソース情報の確定を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
16	管理サーバから転送された実行結果ログを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
17	管理サーバから転送された実行結果ログをローカルオブジェクトに格納		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	DC リソースの予約 ID。シナリオ実行時にサービスガバナーが設定。
ErrorMessage	文字列			入力	サービスガバナーのエラーメッセージ。シナリオ実行時にサービスガバナーが設定。 ※エラーメッセージの詳細は、 「3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ)」を参照

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
					ジ)」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
LogicalNWName_Del	文字列			出力	削除対象の論理ネットワーク名。シナリオ内で設定。
LogicalNWName_Del_Num	文字列				削除対象の VLAN 数。シナリオ内で設定。
NWResult	文字列				実行結果ログ格納用。シナリオ内で設定。
ResourceGroupName	文字列			出力	リソース管理グループ名。シナリオ内で設定。
TenantID	文字列	○		入力	テナント ID。シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定。
UNC_LoopCounter	文字列	○			UNC 用のループカウンタ。未使用。
VlanID	文字列				VLAN ID。未使用。
VlanID_Del	文字列			出力	削除対象の VLAN ID。シナリオ内で設定。
VlanLoopCounter	文字列				VLAN 用のループカウンタ。シナリオ内で設定。

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.29 テナント FW ポリシー設定

- ・ シナリオ名

SettingFWPolicy

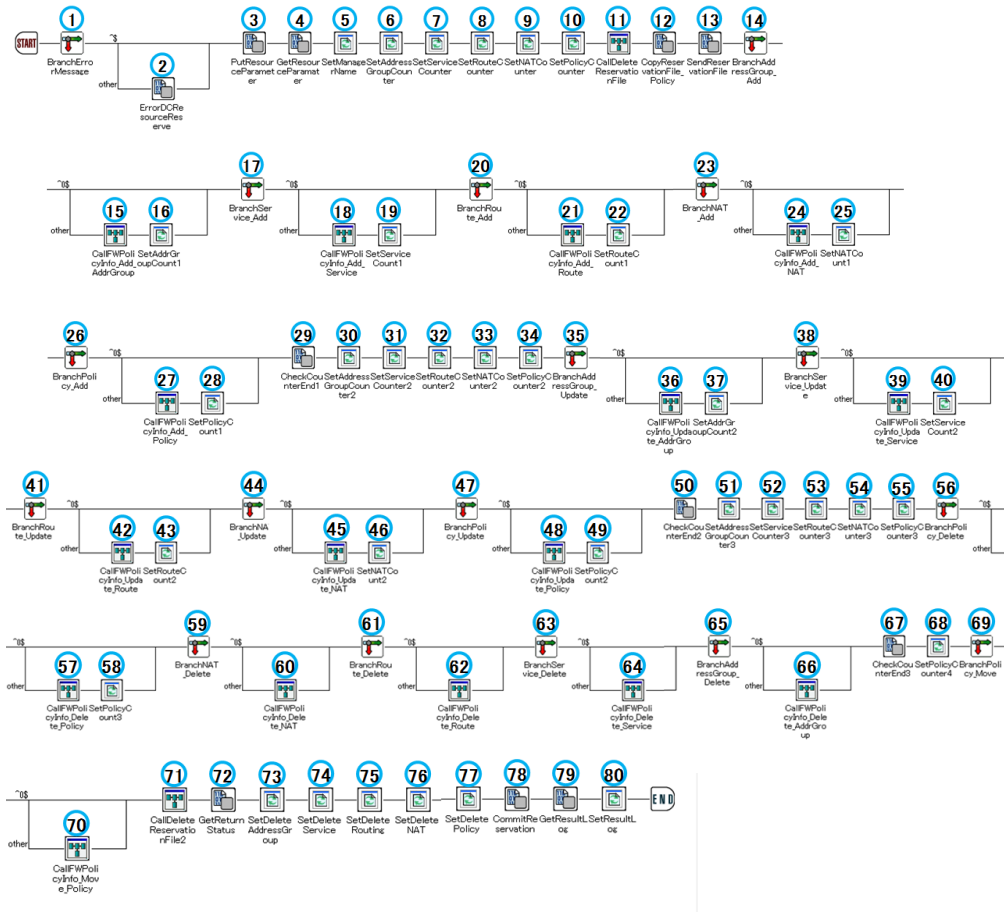
- ・ 処理概要

テナント FW に対し、ポリシーを設定する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



• 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	エラーメッセージが設定されているか判断		
2	部品の強制終了※予約に失敗した場合、強制終了	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390ページ）」を参照
3	リソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390ページ）」を参照
4	リソース予約情報から FW ポリシーに関する情報を抽出	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390ページ）」を参照
5	テナント FW 機器を管理する管理サーバ名をローカルオブジェクトに格納		
6	アドレスグループのデータ数をローカルオブジェクトに格納		
7	サービスのデータ数をローカルオブジェクトに格納		
8	経路情報のデータ数をローカルオブジェクトに格納		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
9	NAT のデータ数をローカルオブジェクトに格納		
10	ポリシーールのデータ数をローカルオブジェクトに格納		
11	管理サーバ上のリソース予約情報ファイルを削除(MoM のサブシナリオ DeleteReservationFile を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
12	ポリシー情報ファイルをリソース予約情報ファイルとしてリネーム	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
13	リソース予約情報ファイルを管理サーバに転送する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
14	アドレスグループの作成を行うか判断		
15	管理サーバに対してアドレスグループの作成を実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(AddrGrp)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
16	作成したアドレスグループ数をローカルオブジェクトに格納		
17	サービスの作成を行うか判断		
18	管理サーバに対してサービスの作成を実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Service)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
19	作成したサービス数をローカルオブジェクトに格納		
20	経路情報の作成を行うか判断		
21	管理サーバに対して経路情報の作成を実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Route)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
22	作成した経路情報数をローカルオブジェクトに格納		
23	NAT の作成を行うか判断		
24	管理サーバに対して NAT の作成を実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(NAT)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
25	作成した NAT 数をローカルオブジェクトに格納		
26	ポリシーールの作成を行うか判断		
27	管理サーバに対してポリシーールの作成を実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Rule)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
28	作成したポリシーール数をローカルオブジェクトに格納		
29	各項目の未設定のデータ数を算出	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
30	アドレスグループの未設定のデータ数をローカルオブジェクトに格納		
31	サービスの未設定のデータ数をローカルオブジェクトに格納		
32	経路情報の未設定のデータ数をローカルオブジェクトに格納		
33	NAT の未設定のデータ数をローカルオブジェクトに格納		
34	ポリシーールの未設定のデータ数をローカルオブジェクトに格納		
35	アドレスグループの更新を行うか判断		
36	管理サーバに対してアドレスグループの更新を実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(AddrGrp)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
37	更新したアドレスグループ数をローカルオブジェクトに格納		
38	サービスの更新を行うか判断		
39	管理サーバに対してサービスの更新を実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Service)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
40	更新したサービス数をローカルオブジェクトに格納		
41	経路情報の更新を行うか判断		
42	管理サーバに対して経路情報の更新を実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Route)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
43	更新した経路情報数をローカルオブジェクトに格納		
44	NAT の更新を行うか判断		
45	管理サーバに対して NAT の更新を実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(NAT)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
46	更新した NAT 数をローカルオブジェクトに格納		
47	ポリシーールの更新を行うか判断		
48	管理サーバに対してポリシーールの更新を実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Rule)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
49	更新したポリシーール数をローカルオブジェクトに格納		
50	各項目の未設定のデータ数を算出	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
51	アドレスグループの未設定のデータ数をローカルオブジェクトに格納		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
52	サービスの未設定のデータ数をローカルオブジェクトに格納		
53	経路情報の未設定のデータ数をローカルオブジェクトに格納		
54	NAT の未設定のデータ数をローカルオブジェクトに格納		
55	ポリシーールの未設定のデータ数をローカルオブジェクトに格納		
56	ポリシーールの削除を行うか判断		
57	管理サーバに対してポリシーールの削除を実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Rule)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
58	削除したポリシーール数をローカルオブジェクトに格納		
59	NAT の削除を行うか判断		
60	管理サーバに対して NAT の削除を実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(NAT)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
61	経路情報の削除を行うか判断		
62	管理サーバに対して経路情報の削除を実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Route)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
63	サービスの削除を行うか判断		
64	管理サーバに対してサービスの削除を実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Service)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
65	アドレスグループの削除を行うか判断		
66	管理サーバに対してアドレスグループの削除を実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(AddrGrp)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
67	ポリシーールの未設定のデータ数を算出	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
68	ポリシーールの未設定のデータ数をローカルオブジェクトに格納		
69	ポリシーールの優先度変更を行うか判断		
70	管理サーバに対してポリシーールの優先度変更を実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Rule)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
71	管理サーバ上のリソース予約情報 ファイルを削除(MoM のサブシナリオ DeleteReservationFile を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
72	返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
73	削除したアドレスグループの ID リストをローカルオブジェクトに格納		
74	削除したサービスの ID リストをローカルオブジェクトに格納		
75	削除した経路情報の ID リストをローカルオブジェクトに格納		
76	削除した NAT の ID リストをローカルオブジェクトに格納		
77	削除したポリシールール ID リストをローカルオブジェクトに格納		
78	リソース情報の確定を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
79	管理サーバから転送された実行結果ログを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
80	管理サーバから転送された実行結果ログをローカルオブジェクトに格納		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
AddressGroupNum	文字列		0		アドレスグループの未設定のデータ数。シナリオ内で設定。
AddrGrpExecCount	文字列		0		設定したアドレスグループのデータ数。シナリオ内で設定。
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	DC リソースの予約 ID。シナリオ実行時にサービスガバナーが設定。
DeleteAddressGroupID	文字列			出力	削除したアドレスグループの ID リスト。シナリオ内で設定。
DeleteNATID	文字列			出力	削除した NAT の ID リスト。シナリオ内で設定。
DeletePolicyID	文字列			出力	削除したポリシールール ID リスト。シナリオ内で設定。
DeleteRoutingID	文字列			出力	削除した経路情報の ID リスト。シナリオ内で設定。
DeleteServiceID	文字列			出力	削除したサービスの ID リスト。シナリオ内で設定。
ErrorMessage	文字列			入力	サービスガバナーのエラーメッセージ。シナリオ実行時にサービスガバナーが設定。 ※エラーメッセージの詳細は、「3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ)」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
ManagerName	文字列				管理サーバ名。シナリオ内で設定。

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
NATExecCount	文字列		0		設定した NAT のデータ数。シナリオ内で設定。
NATNum	文字列		0		NAT の未設定のデータ数。シナリオ内で設定。
NWAResult	文字列				実行結果ログ格納用。シナリオ内で設定。
PolicyExecCount	文字列		0		設定したポリシールールのデータ数。シナリオ内で設定。
PolicyNum	文字列		0		ポリシールールの未設定のデータ数。シナリオ内で設定。
RouteExecCount	文字列		0		設定した経路情報のデータ数。シナリオ内で設定。
RouteNum	文字列		0		経路情報の未設定のデータ数。シナリオ内で設定。
ServiceExecCount	文字列		0		設定したサービスのデータ数。シナリオ内で設定。
ServiceNum	文字列		0		サービスの未設定のデータ数。シナリオ内で設定。
TenantID	文字列	○		入力	テナント ID。シナリオ実行時にサービスガバナーが設定。

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.30 UNC 情報設定

- ・ シナリオ名

SettingUNCInfo

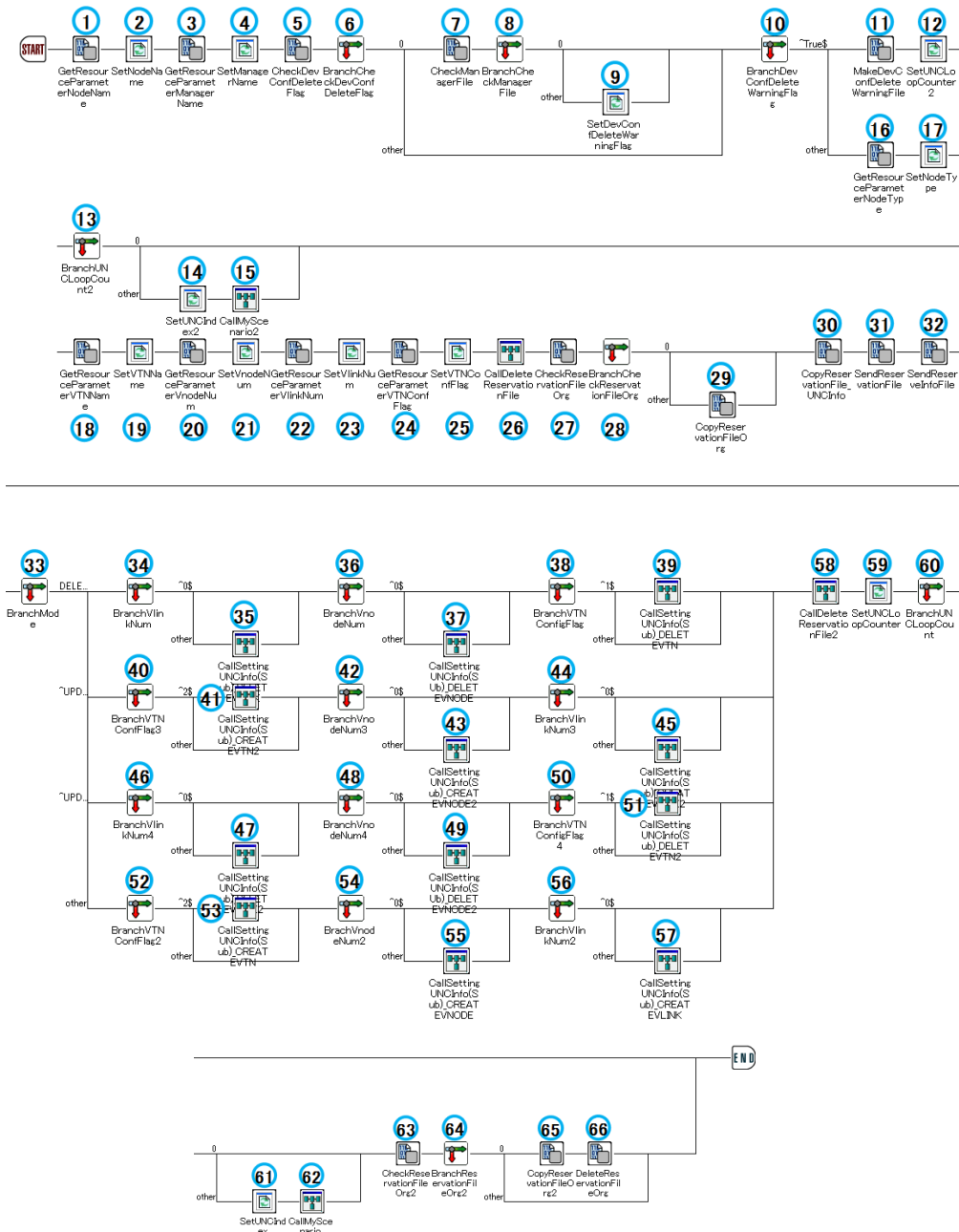
- ・ 処理概要

UNC を設定する

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



• 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	Controller の GetResourceCommand で NodeName を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
2	GetResourceParameter の実行結果から NodeName を取得		
3	Controller の GetResourceCommand で ManagerName を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
4	GetResourceParameter の実行結果から ManagerName を取得		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
5	NWADevConfDeletFlag ファイルが存在するか調べる		
6	CheckDevConfDeleteFlag の終了コードで分岐		
7	強制削除対象かの確認を行う		
8	CheckManagerFile の終了コードで分岐		
9	DevConfDeleteWarningFlag に True を設定		
10	ローカルオブジェクト DevConfDeleteWarningFlag で分岐		
11	NWADevConfDeleteWarning ファイルを作成する		
12	ローカルオブジェクト UNC_LoopCounter をデクリメント		
13	ローカルオブジェクト UNC_LoopCounter で分岐		
14	ローカルオブジェクト UNC_LoopIndex をインクリメント		
15	自シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
16	Controller の GetResourceCommand で NodeType を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
17	GetResourceParameter の実行結果から NodeType を取得		
18	Controller の GetResourceCommand で VTNName を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
19	GetResourceParameter の実行結果から VTNName を取得		
20	Controller の GetResourceCommand で VnodeNum を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
21	GetResourceParameter の実行結果から VnodeNum を取得		
22	Controller の GetResourceCommand で VlinkNum を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
23	GetResourceParameter の実行結果から VlinkNum を取得		
24	Controller の GetResourceCommand で VTNConfFlag を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
25	GetResourceParameter の実行結果から VTNConfFlag を取得		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
26	MoM の予約情報ファイルの削除シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
27	予約情報ファイル (ORG) が存在するか確認		
28	予約情報ファイル (ORG) の状態により分岐		
29	予約情報ファイル (ORG) を元に予約情報を作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
30	予約情報ファイル (UNC) を元に予約情報を作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
31	予約情報ファイル (UNC) を MoM に送信	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
32	シナリオ識別情報ファイルを MoM に送信	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
33	ローカルオブジェクト BranchMode により分岐		
34	ローカルオブジェクト VlinkNum により分岐		
35	UNC 情報設定(Sub)シナリオを DELETE_VLINK 実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
36	ローカルオブジェクト VnodeNum により分岐		
37	UNC 情報設定(Sub)シナリオを DELETE_VNODE で実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
38	ローカルオブジェクト VTNConfigFlag により分岐		
39	UNC 情報設定(Sub)シナリオを DELETE_VTN で実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
40	ローカルオブジェクト VTNConfFlag により分岐		
41	UNC 情報設定(Sub)シナリオを CREATE_VTN で実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
42	ローカルオブジェクト VNodeNum により分岐		
43	UNC 情報設定(Sub)シナリオを UPDATE_VNODE_ADD で実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
44	ローカルオブジェクト VLinkNum により分岐		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
45	UNC 情報設定(Sub)シナリオを CREATE_VLINK で実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
46	ローカルオブジェクト VLinkNum に より分岐		
47	UNC 情報設定(Sub)シナリオを DELETE_VLINK で実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
48	ローカルオブジェクト VNodeNum に より分岐		
49	UNC 情報設定(Sub)シナリオを UPDATE_VNODE_DEL で実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
50	ローカルオブジェクト VTNConfFlag により分岐		
51	UNC 情報設定(Sub)シナリオを DELETE_VTN で実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
52	ローカルオブジェクト VTNConfFlag により分岐		
53	UNC 情報設定(Sub)シナリオを CREATE_VTN で実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
54	ローカルオブジェクト VnodeNum に より分岐		
55	UNC 情報設定(Sub)シナリオを CREATE_VNODE で実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
56	ローカルオブジェクト VlinkNum に より分岐		
57	UNC 情報設定(Sub)シナリオを CREATE_VLINK で実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
58	MoM の予約情報ファイルの削除シナ リオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
59	ローカルオブジェクト UNC_LoopCounter をデクリメント		
60	ローカルオブジェクト UNCLoopCount により分岐		
61	ローカルオブジェクト UNC_LoopIndex をインクリメント		
62	自シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
63	予約情報ファイル (ORG) が存在する か確認		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
64	予約情報ファイル (ORG) の状態により分岐		
65	予約情報ファイル (ORG) を元に予約情報を作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
66	予約情報ファイル (ORG) を削除	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	整数	○	0	入力	呼び出し元シナリオで設定
DevConfDeleteWarningFlag	文字列		False		シナリオ内で設定
LoopCounter	文字列				シナリオ内で設定
LoopIndex	整数		0		シナリオ内で設定
ManagerName	文字列				リソース予約情報
Mode	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
MyScenarioName	文字列		Setting UNCInfo		初期値を使用
NodeName	文字列				リソース予約情報
NodeType	文字列				リソース予約情報
Section	文字列				シナリオ内で設定
UNC_LoopCounter	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定
UNC_LoopIndex	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定
VLinkNum	文字列				シナリオ内で設定
VNodeNum	文字列				シナリオ内で設定
VTNConfFlag	文字列				シナリオ内で設定
VTNName	文字列				リソース予約情報

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.31 UNC 情報設定(Sub)

- シナリオ名

SettingUNCInfo(Sub)

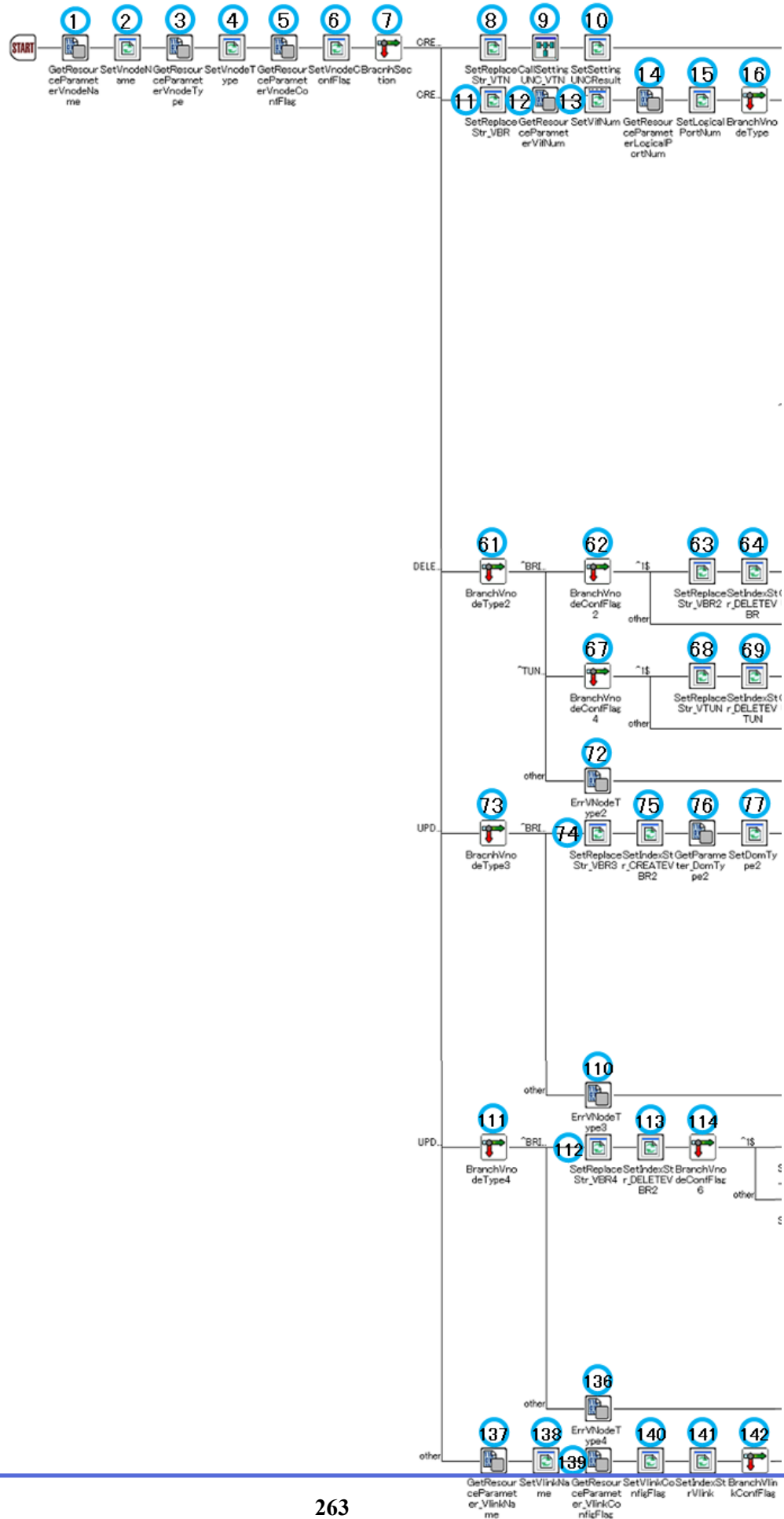
- 処理概要

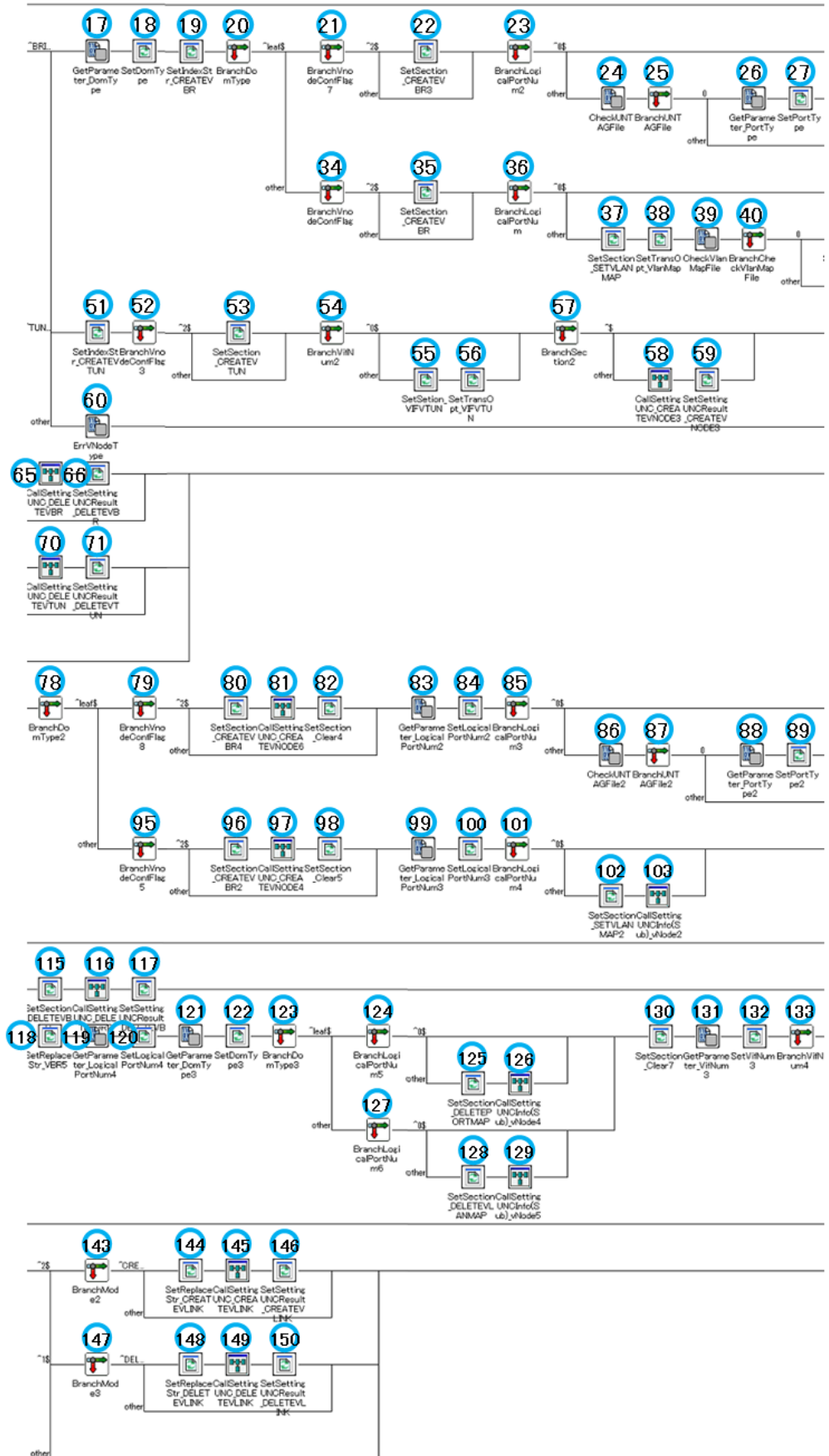
UNC を設定する

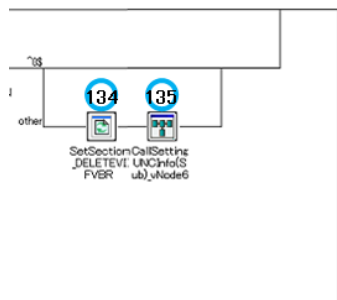
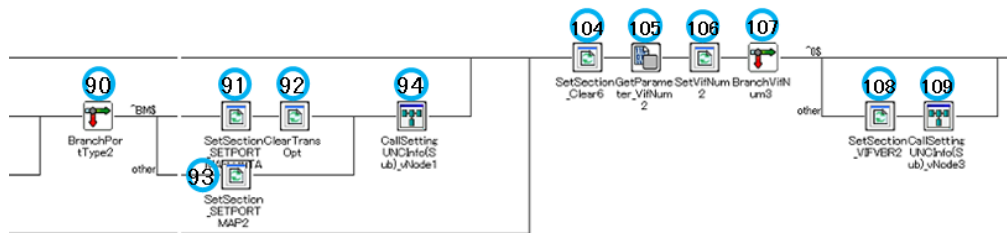
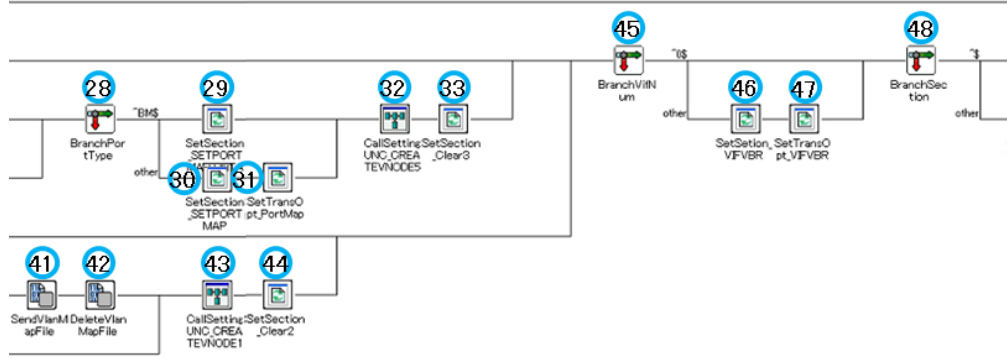
- 実行条件

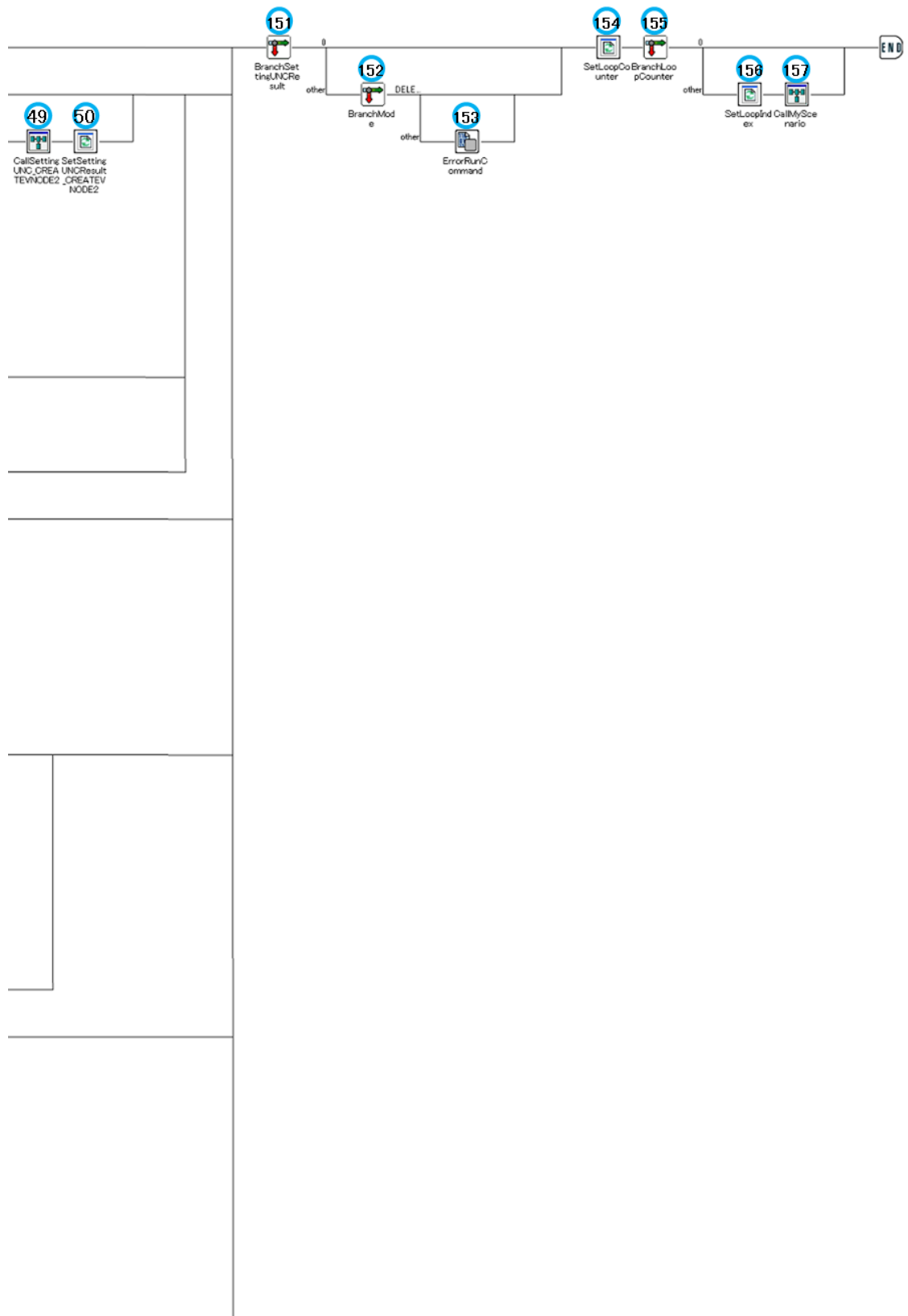
本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図









- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	Controller の GetResourceCommand で VnodeName を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
2	GetResourceParameter の実行結果から VnodeName を取得		
3	Controller の GetResourceCommand で VnodeType を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	GetResourceParameter の実行結果から VnodeType を取得		
5	Controller の GetResourceCommand で VnodeConfFlag を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	GetResourceParameter の実行結果から VnodeConfFlag を取得		
7	ローカルオブジェクト Section により分岐		
8	ローカルオブジェクト ReplaceStr に NodeName を設定		
9	MoM の UNC 設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
10	ローカルオブジェクト SettingUNC_Result に UNC 設定シナリオの実行結果を取得		
11	ローカルオブジェクト ReplaceStr に vNode_VIF_Num を設定		
12	Controller の GetResourceCommand で VifNum を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
13	GetResourceParameter の実行結果から VifNum を取得		
14	Controller の GetResourceCommand で LogicalPortNum を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
15	GetResourceParameter の実行結果から LogicalPortNum を取得		
16	ローカルオブジェクト VnodeType により分岐		
17	Controller の GetResourceCommand で DOM_TYPE を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
18	GetResourceParameter の実行結果から DomType を取得		
19	ローカルオブジェクト IndexStr に LoopIndex を設定		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
20	ローカルオブジェクト DomType により分岐		
21	ローカルオブジェクト vNodeConfigFlag により分岐		
22	ローカルオブジェクト Section_vNode に CREATE_VBR_P4 を設定		
23	ローカルオブジェクト LogicalPortNum により分岐		
24	予約情報ファイル (UNTAG) が存在するか確認		
25	CheckUNTAGFile の実行結果により分岐		
26	Controller の GetResourceCommand で PORT_TYPE を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
27	GetParameter_PortType の実行結果から PortType を取得		
28	ローカルオブジェクト PortType により分岐		
29	ローカルオブジェクト Section_vNode に %&&Section_vNode% SET_PORTMAP_UNTAG を設定		
30	ローカルオブジェクト Section_vNode に %&&Section_vNode% SET_PORTMAP_P4 を設定		
31	ローカルオブジェクト TransOpt に -loopsection SET_PORTMAP_P4 -sectloopobj PORTMAP_NAME CONT_ID_PORT DOM_ID_PORT LPID VLAN_ID を設定		
32	MoM の UNC 設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
33	ローカルオブジェクト Section_vNode の値をクリア		
34	ローカルオブジェクト VnodeConfFlag により分岐		
35	ローカルオブジェクト Section に CREATE_VBR を設定		
36	ローカルオブジェクト LogicalPortNum により分岐		
37	ローカルオブジェクト Section_vNode に SET_VLANMAP を設定		
38	ローカルオブジェクト TransOpt に SET_VLANMAP を設定		
39	予約情報ファイル (VLANMap) が存在するか確認		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
40	予約情報ファイル (VLANMap) の状態により分岐		
41	予約情報ファイル (VLANMap) を MoM に送信	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
42	予約情報ファイル (VLANMap) を削除	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
43	MoM の UNC 設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
44	ローカルオブジェクト Section_vNode に空白を設定		
45	ローカルオブジェクト VifNum により分岐		
46	ローカルオブジェクト Section_vNode に CREATE_VIF_VBR を設定		
47	ローカルオブジェクト TransOpt に CREATE_VIF_VBR を設定		
48	ローカルオブジェクト Section_vNode により分岐		
49	MoM の UNC 設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
50	ローカルオブジェクト SettingUNC_Result に UNC 設定シナリオの結果を取得		
51	ローカルオブジェクト IndexStr に LoopIndex を取得		
52	ローカルオブジェクト VnodeConfFlag により分岐		
53	ローカルオブジェクト Section_vNode に CREATE_VTUN を設定		
54	ローカルオブジェクト VifNum により分岐		
55	ローカルオブジェクト Section_vNode に CREATE_VIF_VTUN を設定		
56	ローカルオブジェクト TransOpt に CREATE_VIF_VTUN を設定		
57	ローカルオブジェクト Section_vNode により分岐		
58	MoM の UNC 設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
59	ローカルオブジェクト SettingUNC_Result に UNC 設定シナリオの結果を取得		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
60	フローを停止する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
61	ローカルオブジェクト VnodeType に より分岐		
62	ローカルオブジェクト VnodeConfFlag により分岐		
63	ローカルオブジェクト ReplaceStr に UNCNODENAME を設定		
64	ローカルオブジェクト IndexStr に LoopIndex を取得		
65	MoM の UNC 設定シナリオを実行 (CREATE_VBR)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
66	ローカルオブジェクト SettingUNC_Result に UNC 設定シナ リオの結果を取得		
67	ローカルオブジェクト VnodeConfFlag により分岐		
68	ローカルオブジェクト ReplaceStr に UNCNODENAME を設定		
69	ローカルオブジェクト IndexStr に LoopIndex を取得		
70	MoM の UNC 設定シナリオを実行 (DELETE_VTUN)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
71	ローカルオブジェクト SettingUNC_Result に UNC 設定シナ リオの結果を取得		
72	フローを停止する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
73	ローカルオブジェクト vNodeType に より分岐		
74	ローカルオブジェクト ReplaceStr に- replace UNCNODENAME= %&&NodeName% UNCVTNNAME= %&&VTNName% UNCVNODENAME=%&&vNodeName % を設定		
75	ローカルオブジェクト IndexStr に- index VBR_NAME=%&&LoopIndex% を設定		
76	Controller の GetResourceCommand で DOM_TYPE を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
77	GetParameter_PortType の実行結果か ら DomType を取得		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
78	ローカルオブジェクト DomType により分岐		
79	ローカルオブジェクト vNodeConfigFlag により分岐		
80	ローカルオブジェクト Section_vNode に CREATE_VBR_P4 を設定		
81	MoM の UNC 設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
82	ローカルオブジェクト Section_vNode の値をクリア		
83	Controller の GetResourceCommand で LogicalPort_Num を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
84	GetParameter_PortType の実行結果から LogicalPortNum を取得		
85	ローカルオブジェクト LogicalPortNum により分岐		
86	予約情報ファイル (UNTAG) が存在するか確認		
87	CheckUNTAGFile2 の実行結果により分岐		
88	Controller の GetResourceCommand で PORT_TYPE を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
89	GetParameter_PortType の実行結果から PortType を取得		
90	ローカルオブジェクト PortType により分岐		
91	ローカルオブジェクト Section_vNode に SET_PORTMAP_UNTAG を設定		
92	ローカルオブジェクト TransOpt の値をクリア		
93	ローカルオブジェクト Section_vNode に SET_PORTMAP_P4 を設定		
94	MoM の UNC 設定シナリオを実行 (vNode)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
95	ローカルオブジェクト vNodeConfigFlag により分岐		
96	ローカルオブジェクト Section_vNode に CREATE_VBR を設定		
97	MoM の UNC 設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
98	ローカルオブジェクト Section_vNode の値をクリア		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
99	Controller の GetResourceCommand で LogicalPort_Num を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
100	GetParameter_PortType の実行結果から LogicalPortNum を取得		
101	ローカルオブジェクト LogicalPortNum により分岐		
102	ローカルオブジェクト Section_vNode に SET_VLANMAP を設定		
103	MoM の UNC 設定シナリオを実行 (vNode)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
104	ローカルオブジェクト Section_vNode の値をクリア		
105	Controller の GetResourceCommand で vNode_VIF_Num を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
106	GetParameter_PortType の実行結果から vIFNum を取得		
107	ローカルオブジェクト vIFNum により分岐		
108	ローカルオブジェクト Section_vNode に CREATE_VIF_VBR を設定		
109	MoM の UNC 設定シナリオを実行 (vNode)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
110	フローを停止する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
111	ローカルオブジェクト vNodeType により分岐		
112	ローカルオブジェクト ReplaceStr に-replace UNCNODENAME=%&&NodeName% UNCVTNAME=%&&VTNName% を設定		
113	ローカルオブジェクト IndexStr に-index VBR_NAME=%&&LoopIndex% を設定		
114	ローカルオブジェクト vNodeConfigFlag により分岐		
115	ローカルオブジェクト Section_vNode に DELETE_VBR を設定		
116	MoM の UNC 設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
117	ローカルオブジェクト SettingUNC_Result に UNC 設定シナリオの結果を取得		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
118	ローカルオブジェクト ReplaceStr に %&&ReplaceStr% UNCVNODENAME= %&&vNodeName% を設定		
119	Controller の GetResourceCommand で LogicalPort_Num を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
120	GetParameter_PortType の実行結果から LogicalPortNum を取得		
121	Controller の GetResourceCommand で DOM_TYPE を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
122	GetParameter_PortType の実行結果から DomType を取得		
123	ローカルオブジェクト DomType により分岐		
124	ローカルオブジェクト LogicalPortNum により分岐		
125	ローカルオブジェクト Section_vNode に UNSET_PORTMAP_P4 を設定		
126	MoM の UNC 設定シナリオを実行 (vNode)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
127	ローカルオブジェクト LogicalPortNum により分岐		
128	ローカルオブジェクト Section_vNode に UNSET_VLANMAP を設定		
129	MoM の UNC 設定シナリオを実行 (vNode)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
130	ローカルオブジェクト Section_vNode の値をクリア		
131	Controller の GetResourceCommand で vNode_VIF_Num を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
132	GetParameter_VifNum3 の実行結果から vIFNum を取得		
133	ローカルオブジェクト vIFNum により分岐		
134	ローカルオブジェクト Section_vNode に DELETE_VIF_VBR を設定		
135	MoM の UNC 設定シナリオを実行 (vNode)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
136	フローを停止する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
137	Controller の GetResourceCommand で VlinkName を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
138	GetResourceParameter の実行結果から VlinkName を取得		
139	Controller の GetResourceCommand で VlinkConfigFlag を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
140	GetResourceParameter の実行結果から VlinkConfigFlag を取得		
141	ローカルオブジェクト IndexStr に LoopIndex を取得		
142	ローカルオブジェクト VlinkConfFlag により分岐		
143	ローカルオブジェクト Mode により分岐		
144	ローカルオブジェクト ReplaceStr に UNCNODENAME を設定		
145	MoM の UNC 設定シナリオを実行 (CREATE_VLINK)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
146	ローカルオブジェクト SettingUNC_Result に UNC 設定シナリオの結果を取得		
147	ローカルオブジェクト Mode により分岐		
148	ローカルオブジェクト ReplaceStr に UNCNODENAME を設定		
149	MoM の UNC 設定シナリオを実行 (DELETE_VLINK)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
150	ローカルオブジェクト SettingUNC_Result に UNC 設定シナリオの結果を取得		
151	ローカルオブジェクト SettingUNCResult により分岐		
152	ローカルオブジェクト Mode により分岐		
153	フローを停止する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
154	ローカルオブジェクト LoopCounter をデクリメント		
155	ローカルオブジェクト LoopCounter により分岐		
156	ローカルオブジェクト LoopIndex をインクリメント		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
157	自シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定
DomType	文字列				シナリオ内で設定
IndexStr	文字列				シナリオ内で設定
LogicalPortConfFlag	文字列				シナリオ内で設定
LogicalPortNum	文字列				シナリオ内で設定
LoopCounter	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定
LoopIndex	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定
ManagerName	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
Mode	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
MyScenarioName	文字列		Setting UNCInfo (Sub)		初期値を使用
NodeName	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
NodeType	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
PortType	文字列				シナリオ内で設定
ReplaceStr	文字列				シナリオ内で設定
ScenarioName	文字列		Setting UNC		初期値を使用
Section	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
Section_vNode	文字列				シナリオ内で設定
SettingUNC_Result	整数		0		シナリオ内で設定
TransOpt	文字列				シナリオ内で設定
UNC_LoopIndex	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定
vIFConfFlag	文字列				シナリオ内で設定
vIFNum	文字列				シナリオ内で設定
vLinkConfigFlag	文字列				シナリオ内で設定
vLinkName	文字列				リソース予約情報
vNodeConfigFlag	文字列				シナリオ内で設定
vNodeName	文字列				リソース予約情報
vNodeType	文字列				リソース予約情報
VTNName	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定

^{*1} 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧なし

3.5.32 UNC 情報 vNode 設定(Sub)

- ・ シナリオ名

SettingUNCInfo(Sub)_vNode

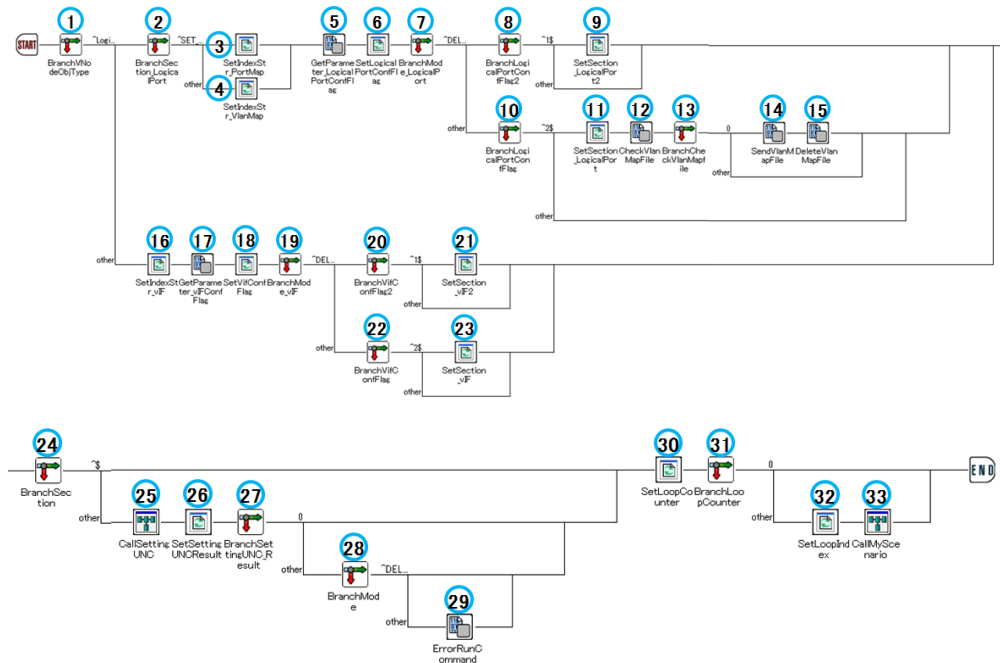
- 处理概要

UNC を設定する。

- 实行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	vNode の種別で判断		
2	設定対象が PortMap か判断		
3	他部品のオプションに使用する文字列を作成		
4	他部品のオプションに使用する文字列を作成		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
5	LogicalPort の設定モードを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	LogicalPort の設定モードをローカルオブジェクトに格納		
7	シナリオの実行モードを判断		
8	削除処理を行うか判断		
9	LogicalPort への設定内容を確定		
10	作成処理を行うか判断		
11	LogicalPort への設定内容を確定		
12	VLANMAP 情報の有無を確認		
13	VLANMAP 情報が存在するか判断		
14	管理サーバに VLANMAP 情報を転送	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
15	VLANMAP 情報を削除		
16	他部品のオプションに使用する文字列を作成		
17	vIF の設定モードを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
18	vIF の設定モードをローカルオブジェクトに格納		
19	シナリオの実行モードを判断		
20	削除処理を行うか判断		
21	vIF への設定内容を確定		
22	作成処理を行うか判断		
23	vIF への設定内容を確定		
24	設定を実行するか判断		
25	UNC のプロビジョニングを実行 (MoM のサブシナリオ SettingUNC を実行)	継続実行	
26	UNC のプロビジョニングの実行結果をローカルオブジェクトに格納		
27	プロビジョニングの実行結果で判断		
28	シナリオの実行モードを判断		
29	部品の強制終了※設定に失敗した場合、強制終了	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
30	ループカウンタを更新		
31	ループを行うか判断		
32	インデックス値を更新		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
33	次の設定を実行(GM のサブシナリオ SettingUNCInfo(Sub)_vNode を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	整数	○	0	入力	DC リソースの予約 ID。呼び出し元シナリオで設定。
IndexStr	文字列				内部処理用。シナリオ内で設定。
LogicalPortConfigFlag	文字列				LogicalPort の設定モード。シナリオ内で設定。
LoopCounter	整数		0	入力	ループ用カウンタ。呼び出し元シナリオで設定、シナリオ内で更新。
LoopIndex	整数		0	入力	ループ用インデックス。呼び出し元シナリオで設定、シナリオ内で更新。
ManagerName	文字列				管理サーバ名。シナリオ内で設定。
Mode	文字列	○		入力	シナリオの実行モード。呼び出し元シナリオで設定。
MyScenarioName	文字列		SettingUNCInfo(Sub)_vNode		内部処理用。初期値を使用。
NodeName	文字列	○		入力	装置名。呼び出し元シナリオで設定。
NodeType	文字列	○		入力	装置種別。呼び出し元シナリオで設定。
ReplaceStr	文字列				内部処理用。シナリオ内で設定。
ScenarioName	文字列	○		入力	内部処理用。呼び出し元シナリオで設定。
Section	文字列				内部処理用。シナリオ内で設定。
SectionName	文字列	○		入力	内部処理用。呼び出し元シナリオで設定。
SettingUNC_Result	整数		0		UNC のプロビジョニングの実行結果。シナリオ内で設定。
TransOpt	文字列	○		入力	内部処理用。呼び出し元シナリオで設定。
vIFConfigFlag	文字列				vIF の設定モード。シナリオ内で設定。
vNodeLoopIndex	整数		0	入力	vNode のループ用インデックス。呼び出し元シナリオで設定。
vNodeName	文字列	○		入力	vNode 名。呼び出し元シナリオで設定。
vNodeObjType	文字列	○		入力	vNode の種別。呼び出し元シナリオで設定。

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
VTNName	文字列	○		入力	VTN 名。呼び出し元シナリオで設定。

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.33 物理サーバ用 NW 削除

- ・ シナリオ名

DeletePhysicalServerNW

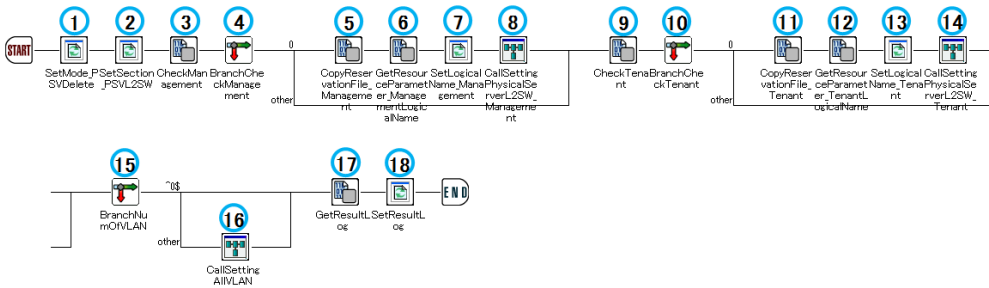
- ・ 処理概要

物理サーバ用の L2SW,FW の設定を削除する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	Mode に PSVDelete を設定		
2	Section に SET_VLANTAG_L2SW を設定		
3	事業者管理 VLAN 用予約情報ファイルの有無を確認	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	CheckManagement の終了コードで分岐		
5	事業者管理 VLAN 用予約情報ファイルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
6	事業者管理 VLAN 用予約情報ファイルから LogicalName を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
7	GetResourceParameter_ManagementLogicalName の実行結果から LogicalName を設定		
8	物理サーバ用 L2SW シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルの有無を確認	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
10	CheckTenant の終了コードで分岐		
11	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
12	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルから LogicalName を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
13	GetResourceParameter_TenantLogicalName の実行結果から LogicalName を設定		
14	物理サーバ用 L2SW シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
15	NumOfVLAN で分岐		
16	GM の全 VLAN 設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
17	MoM から転送された実行結果ログを標準出力	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
18	GetResultLog の実行結果を NWAResult に設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	物理サーバ削除 GM シナリオ
DevType	文字列				シナリオ内で設定
LogicalName	文字列				リソース予約情報
ManagerName	文字列				未使用
Mode	文字列				シナリオ内で設定
NumOfVLAN	文字列	○		入力	物理サーバ削除 GM シナリオ
NWAResult	文字列				シナリオ内で設定
Section	文字列				シナリオ内で設定

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
TenantID	文字列	○		入力	物理サーバ削除 GM シナリオ

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.34 物理サーバ用 NW 更新

- ・ シナリオ名

UpdatePhysicalServerNW

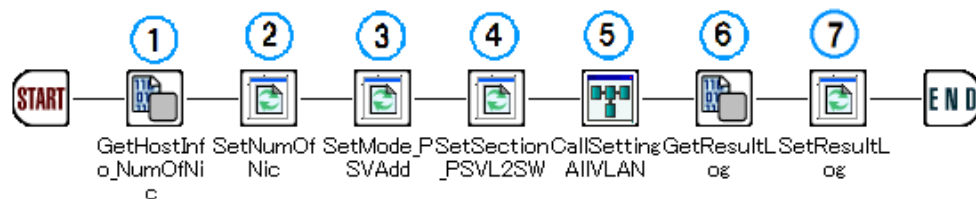
- ・ 処理概要

物理サーバ用の L2SW,FW の設定を更新する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ホスト情報ファイルに対して Controller の GetResourceCommand を実行し NumOfNic を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
2	GetHostInfo_NumOfNic の実行結果から NumOfNic を取得		
3	Mode に PSVAdd を設定		
4	Section に SET_VLANTAG_L2SW を設定		
5	GM の全 VLAN 設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	MoM から転送された実行結果ログを標準出力	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
7	GetResultLog の実行結果を NWAResult に設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
DevType	文字列				未使用（互換のため定義のみ）
ManagerName	文字列				未使用
Mode	文字列				シナリオ内で設定
NumOfNic	文字列				ホスト情報
NWAResult	文字列				シナリオ内で設定
Section	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.35 テナント NW 無効化

- シナリオ名

DisableTenantNW

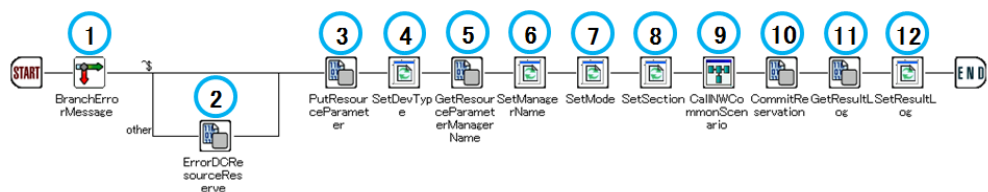
- 処理概要

テナント NW を無効化する。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
3	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	DevType に SSL を設定		
5	Controller の GetResourceCommand でグループの ManagerName を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	GetResourceParameter の実行結果から ManagerName を取得		
7	Mode に Disable を設定		
8	Section に DISABLE_VDOM を設定		
9	MoM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
10	Controller の commit で予約をコミット	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
11	MoM から転送された実行結果ログを標準出力	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
12	GetResultLog の実行結果を NWAResult に設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定
DevType	文字列				シナリオ内で設定
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定 ※エラーメッセージの詳細は、「3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ)」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
ManagerName	文字列				リソース予約情報
Mode	文字列				シナリオ内で設定
NWAResult	文字列				シナリオ内で設定
Section	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.36 テナント NW 有効化

- ・ シナリオ名

EnableTenantNW

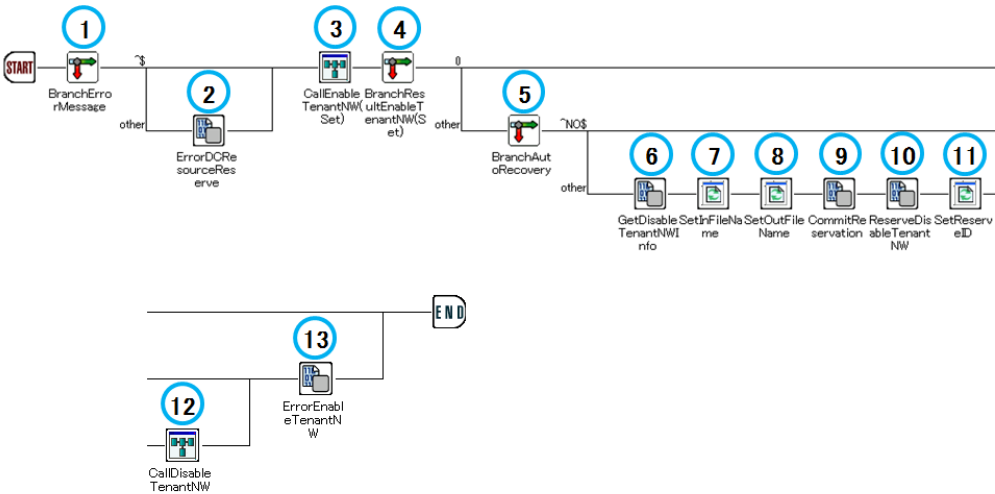
- ・ 処理概要

テナント NW を有効化する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
3	GM のテナント NW 有効化(Set)シナリオを呼び出す。	継続実行	
4	アクション部品 CallEnableTenantNW の結果で分岐		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
5	ローカルオブジェクト AutoRecovery で分岐		
6	予約情報ファイルから NAT 設定解除情報を取得		
7	GetDisableTenantNWInfo の実行結果から InFileName を取得し InJsonFileName に設定		
8	GetDisableTenantNWInfo の実行結果から OutFileName を取得し OutJsonFileName に設定		
9	Controller の commit で予約をコミット	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
10	GM のテナント NW 無効化シナリオ用の予約 ID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
11	ReserveDisableTenantNW の実行結果から ReserveID を取得し DCResourceReserveID_Delete に設定		
12	GM のテナント NW 無効化シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
13	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

• ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
AutoRecovery	整数		0	入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
DCResourceReserveID_Disable	文字列				シナリオ内で設定
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定 ※エラーメッセージの詳細は、「3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ)」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
InJsonFileName	文字列				シナリオ内で設定
OutJsonFileName	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.37 テナント NW 有効化(Set)

- ・ シナリオ名

EnableTenantNW(Set)

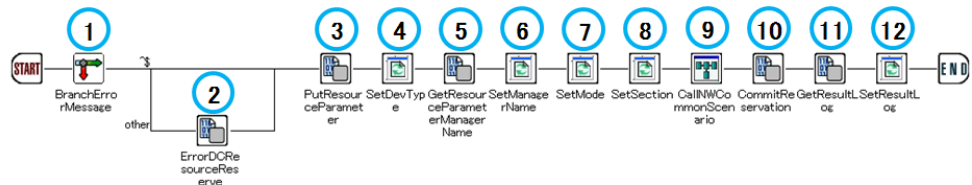
- ・ 処理概要

テナント NW を有効化する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
3	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
4	DevType に SSL を設定		
5	Controller の GetResourceCommand でグループの ManagerName を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
6	GetResourceParameter の実行結果から ManagerName を取得		
7	Mode に Enable を設定		
8	Section に ENABLE_VDOM を設定		
9	MoM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
10	Controller の commit で予約をコミット	フロー停止	「 3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ) 」を参照
11	MoM から転送された実行結果ログを標準出力	フロー停止	「 3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ) 」を参照
12	GetResultLog の実行結果を NWAResult に設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
DevType	文字列				シナリオ内で設定
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定 ※エラーメッセージの詳細は、「 3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ) 」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
ManagerName	文字列				シナリオ内で設定
Mode	文字列				シナリオ内で設定
NWAResult	文字列				シナリオ内で設定
Section	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.38 テナント NW 削除

- シナリオ名

DeleteTenantNW

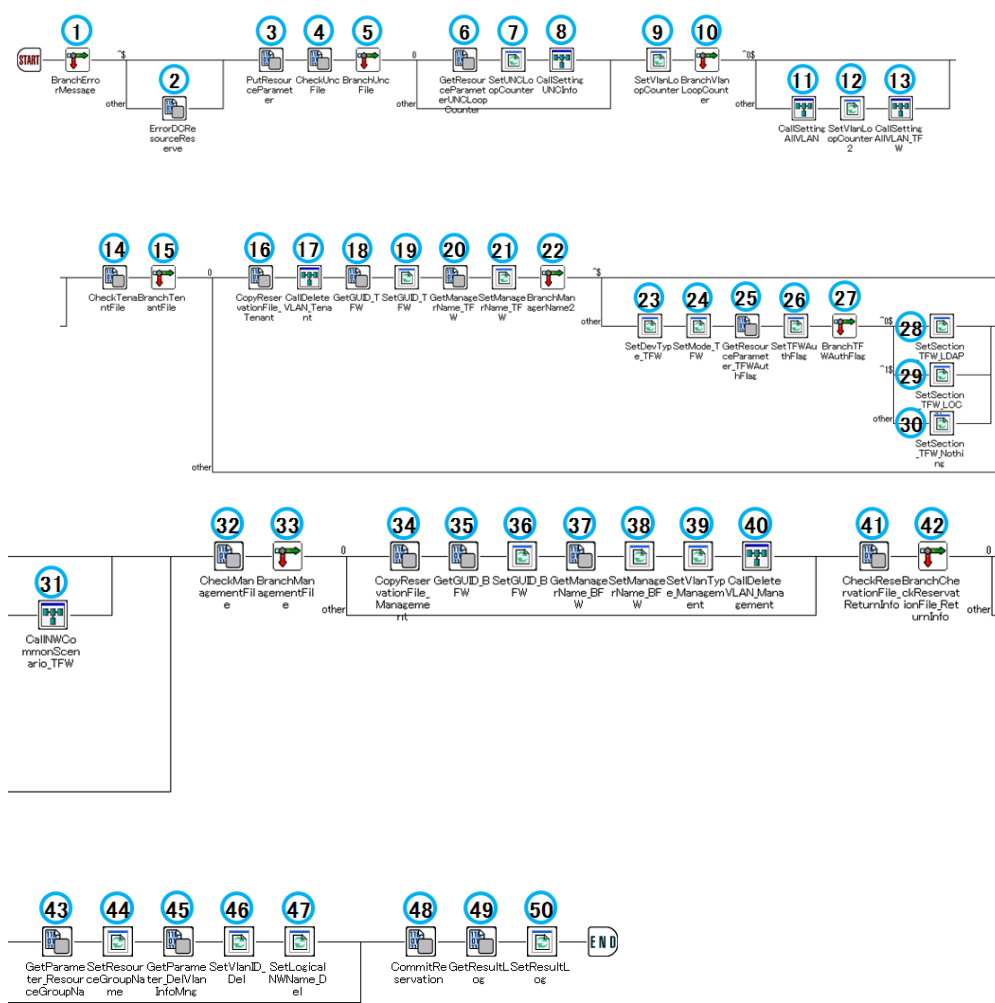
- 処理概要

テナント NW を削除する。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図



• 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
3	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	UNC 用の定義ファイルの有無を確認する。		
5	CheckUncFile の終了コードで分岐		
6	Controller の GetResourceCommand で UNC_Num を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
7	GetResourceParameterUNCLoopCounterの実行結果から UNC_Num を取得し、UNC_LoopCounter に設定する。		
8	GM の UNC 情報設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	PutResourceParameter の実行結果から NumOfVALN を取得し、VlanLoopCounter に設定する。		
10	ローカルオブジェクト VlanLoopCounter で分岐		
11	GM の全 VLAN 設定を実行(事業者管理 VLAN、テナント管理 VLAN 以外の VLAN 削除)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
12	PutResourceParameter の実行結果から NumOfVALN を取得、VlanLoopCounter に設定する。		
13	GM の全 VLAN 設定(テナント FW の仮想インタフェース)を実行 (事業者管理 VLAN、テナント管理 VLAN 以外の VLAN 削除)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
14	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルが存在するか調べる。		
15	CheckTenantFile の終了コードで分岐		
16	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
17	GM の VLAN 削除シナリオを実行(テナント管理 VLAN の削除)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
18	Controller の GetResourceCommand を実行する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
19	GetGUID_TFW の実行結果から TenantNWGUID を取得し、GUID に設定する。		
20	Controller の GetResourceCommand を実行する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
21	GetManagerName_TFW の実行結果から ManagerName_GUID を取得し、ManagerName に設定する。		
22	ManagerName で分岐		
23	DevType に TFW を設定		
24	Mode に Delete を設定		
25	予約情報ファイルから TFWAuthFlag を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
26	GetResourceParameter_TFWAuthFlag の実行結果から TFWAuthFlag を取得		
27	ローカルオブジェクト TFWAuthFlag で分岐		
28	Section に "DELETE_ACCOUNT_LDAP DELETE_VDOM" を設定		
29	Section に "DELETE_ACCOUNT_LOCAL DELETE_VDOM" を設定		
30	Section に "DELETE_VDOM" を設定		
31	GM の NW 機器共通処理シナリオを 実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワー クフロー失敗時の対処方法 (390 ペー ジ)」を参照
32	事業者管理 VLAN 用予約情報ファイ ルが存在するか調べる		
33	CheckManagementFile の終了コードで 分岐		
34	事業者管理 VLAN 用予約情報ファイ ルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワー クフロー失敗時の対処方法 (390 ペー ジ)」を参照
35	Controller の GetResourceCommand を 実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワー クフロー失敗時の対処方法 (390 ペー ジ)」を参照
36	GetGUID_BFW の実行結果から ManagerNameBFW を取得し、GUID に 設定する。		
37	Controller の GetResourceCommand を 実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワー クフロー失敗時の対処方法 (390 ペー ジ)」を参照
38	GetManagerName_BFW の実行結果か ら ManagerName_GUID を取得し、 ManagerName に設定する		
39	VlanType に ManagementVLAN を設定		
40	GM の VLAN 削除シナリオを実行 (事 業者管理 VLAN の削除)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワー クフロー失敗時の対処方法 (390 ペー ジ)」を参照
41	払い出し情報ファイルが存在するか 調べる。		
42	CheckReservationFile_ReturnInfo の終 了コードで分岐		
43	Controller の GetResourceCommand を 実行する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワー クフロー失敗時の対処方法 (390 ペー ジ)」を参照
44	GetParameter_ResourceGroupName の 実行結果から ResourceGroupName を 取得する		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
45	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
46	GetParameter_DelVlanInfoMng の実行結果から VlanID_Del_VlanType を取得し、VlanID_Del に設定する		
47	GetParameter_DelVlanInfoMng の実行結果から LogicalNWName_Del_VlanType を取得し、LogicalNWName_Del に設定する		
48	Controller の commit で予約をコミット	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
49	MoM から転送された実行結果ログを標準出力	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
50	GetResultLog の実行結果を NWAResult に設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
DevType	文字列				シナリオ内で設定
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定 ※エラーメッセージの詳細は、「3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ)」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
GUID	文字列				シナリオ内で設定
LogicalNWName_Del	文字列			出力	シナリオ内で設定
ManagerName	文字列				シナリオ内で設定
Mode	文字列				シナリオ内で設定
NumOfTenantNWDev	文字列				シナリオ内で設定
NWAResult	文字列				シナリオ内で設定
ResourceGroupName	文字列			出力	シナリオ内で設定
Section	文字列				シナリオ内で設定
SSLAuthFlag	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
TFWAuthFlag	文字列				シナリオ内で設定
TFWCount	文字列				シナリオ内で設定
UNC_LoopCounter	文字列				シナリオ内で設定

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
VlanID_Del	文字列			出力	シナリオ内で設定
VlanLoopCounter	文字列				シナリオ内で設定
VlanType	文字列				シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.39 SSL-VPN 解除

- ・ シナリオ名

DeleteSSL-VPN

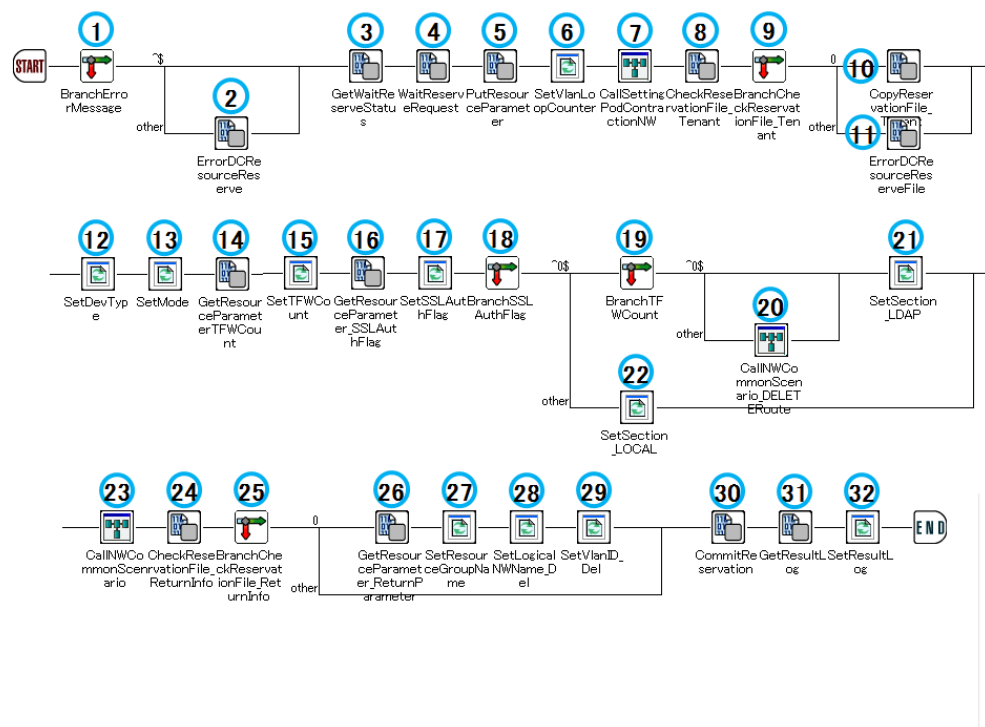
- ・ 処理概要

SSL-VPN の設定を削除する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
3	シナリオ同時実行制御を行うためのパラメータを取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	シナリオ同時実行制御を行う。リソースが競合する先行シナリオの完了まで待ち合わせる。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
5	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	PutResourceParameter の実行結果から VlanLoopCounter を取得		
7	ネットワークを縮小(GM のシナリオ SettingPodContractionNW を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
8	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルが存在するか調べる	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	CheckReservationFile_Tenant の終了コードで分岐		
10	テナント管理 VLAN 用予約情報ファイルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
11	必ず異常終了する部品を配置		
12	DevType に SSL を設定		
13	Mode に Delete を設定		
14	Controller の GetResourceCommand で Device_Num を取得		
15	GetResourceParameterTFWCount の実行結果から Device_Num を取得し TFWCount に設定する		
16	Controller の GetResourceCommand で SSLAuthFlag を取得		
17	GetResourceParameter_SSLAuthFlag の実行結果から SSLAuthFlag を取得		
18	ローカルオブジェクト SSLAuthFlag で分岐		
19	ローカルオブジェクト TFWCount で分岐		
20	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
21	Section に "UNSET_SSL_VPN UNSET_IPV4_ADDRESS DELETE_VIF" を設定		
22	Section に "UNSET_SSL_VPN_LOCAL_AUTH UNSET_IPV4_ADDRESS" を設定		
23	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
24	払い出し情報の存在確認		
25	払い出し情報の存在確認の結果で判断		
26	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
27	GetResourceParameter_ReturnParameter の実行結果から ResourceGroupName を取得		
28	GetResourceParameter_ReturnParameter の実行結果から LogicalNWName_Del を取得		
29	GetResourceParameter_ReturnParameter の実行結果から VlanID_Del を取得		
30	Controller の commit で予約をコミット	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
31	MoM から転送された実行結果ログを標準出力	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
32	GetResultLog の実行結果を NWAResult に設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定
DevType	文字列				シナリオ内で設定
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定 ※エラーメッセージの詳細は、「3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ)」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
LogicalNWName_Del	文字列			出力	シナリオ内で設定
Mode	文字列				シナリオ内で設定
NWAResult	文字列				シナリオ内で設定

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
ResourceGroupName	文字列			出力	シナリオ内で設定
Section	文字列				シナリオ内で設定
SSLAuthFlag	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
TFWCount	文字列				シナリオ内で設定
VlanID_Del	文字列			出力	シナリオ内で設定
VlanLoopCounter	文字列				シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.40 VLAN 削除

- ・ シナリオ名

DeleteVLAN

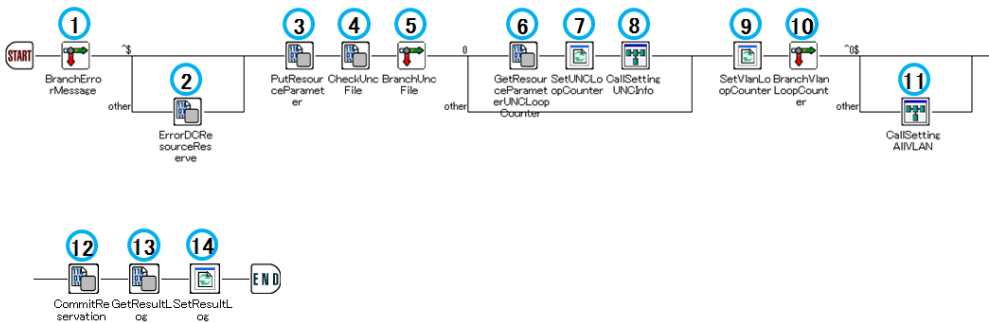
- ・ 処理概要

VLAN を個別指定で削除する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
3	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	UNC 用の定義ファイルの有無を確認する。		
5	CheckUncFile の終了コードで分岐		
6	Controller の GetResourceCommand で UNC_Num を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
7	GetResourceParameterUNCLoopCounter の実行結果から UNC_LoopCounter を取得		
8	GM の UNC 情報設定シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	PutResourceParameter の実行結果から NumOfVALN を取得し VlanLoopCounter に設定		
10	ローカルオブジェクト VlanLoopCounter で分岐		
11	GM の全 VLAN 設定を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
12	Controller の commit で予約をコミット	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
13	MoM から転送された実行結果ログを標準出力	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
14	GetResultLog の実行結果を NWAResult に設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定 ※エラーメッセージの詳細は、「3.5.47 予約エラー判定 (322 ページ)」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。
LogicalNWName	文字列			出力	シナリオ内で設定
NWAResult	文字列				シナリオ内で設定

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
UNC_LoopCounter	文字列				シナリオ内で設定
VlanLoopCounter	文字列				シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧なし

3.5.41 VLAN 削除(Sub)

- ・ シナリオ名

DeleteVLAN(Sub)

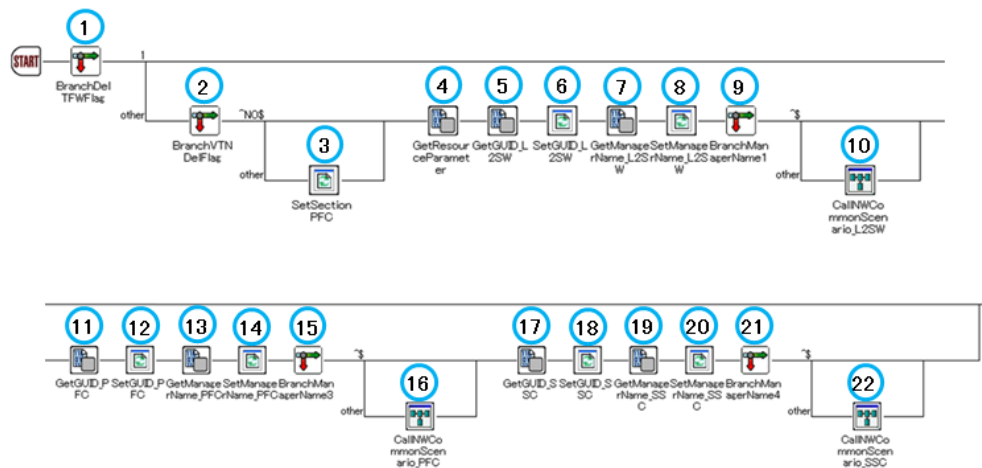
- 処理概要

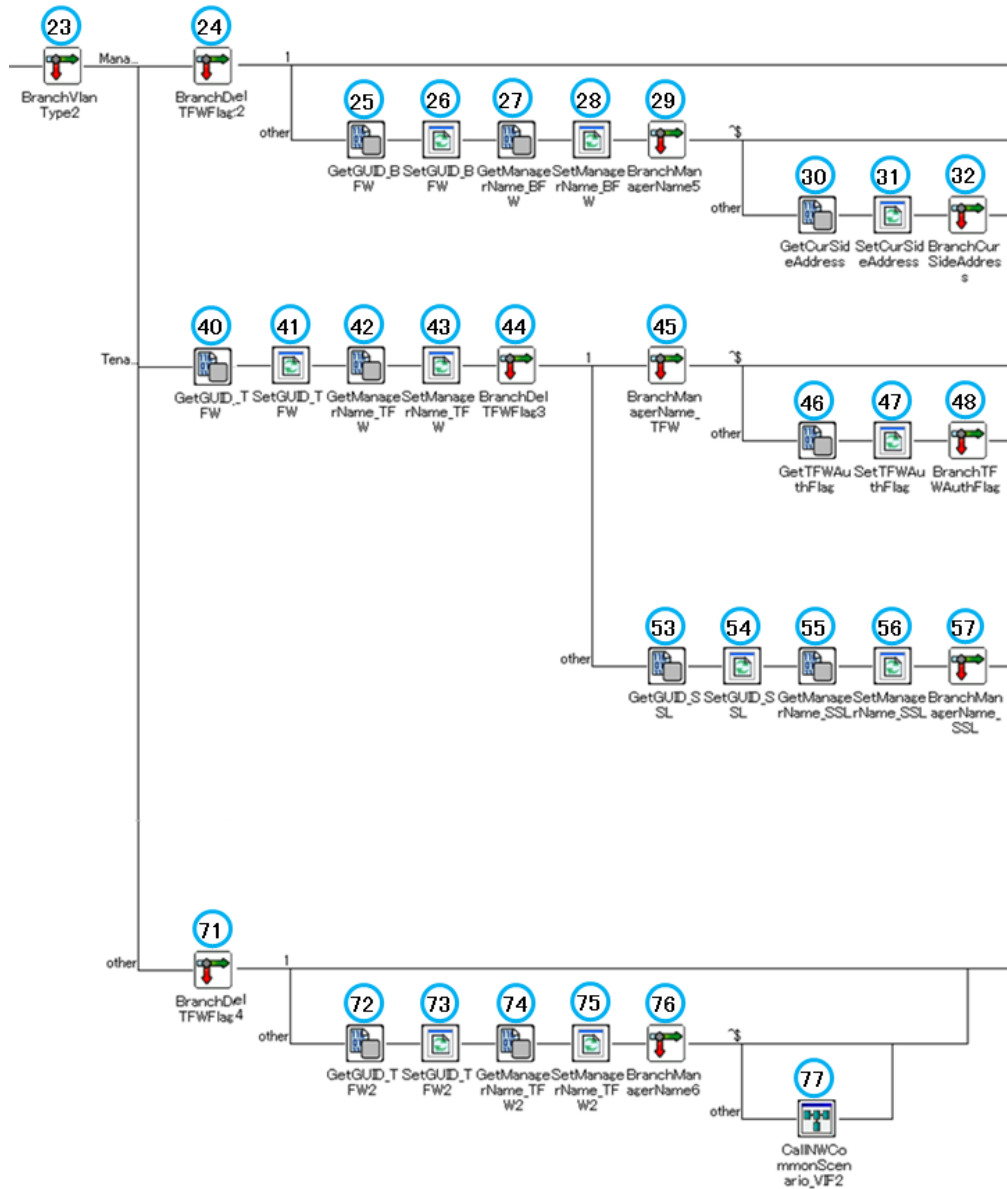
VLAN を個別指定で削除する。

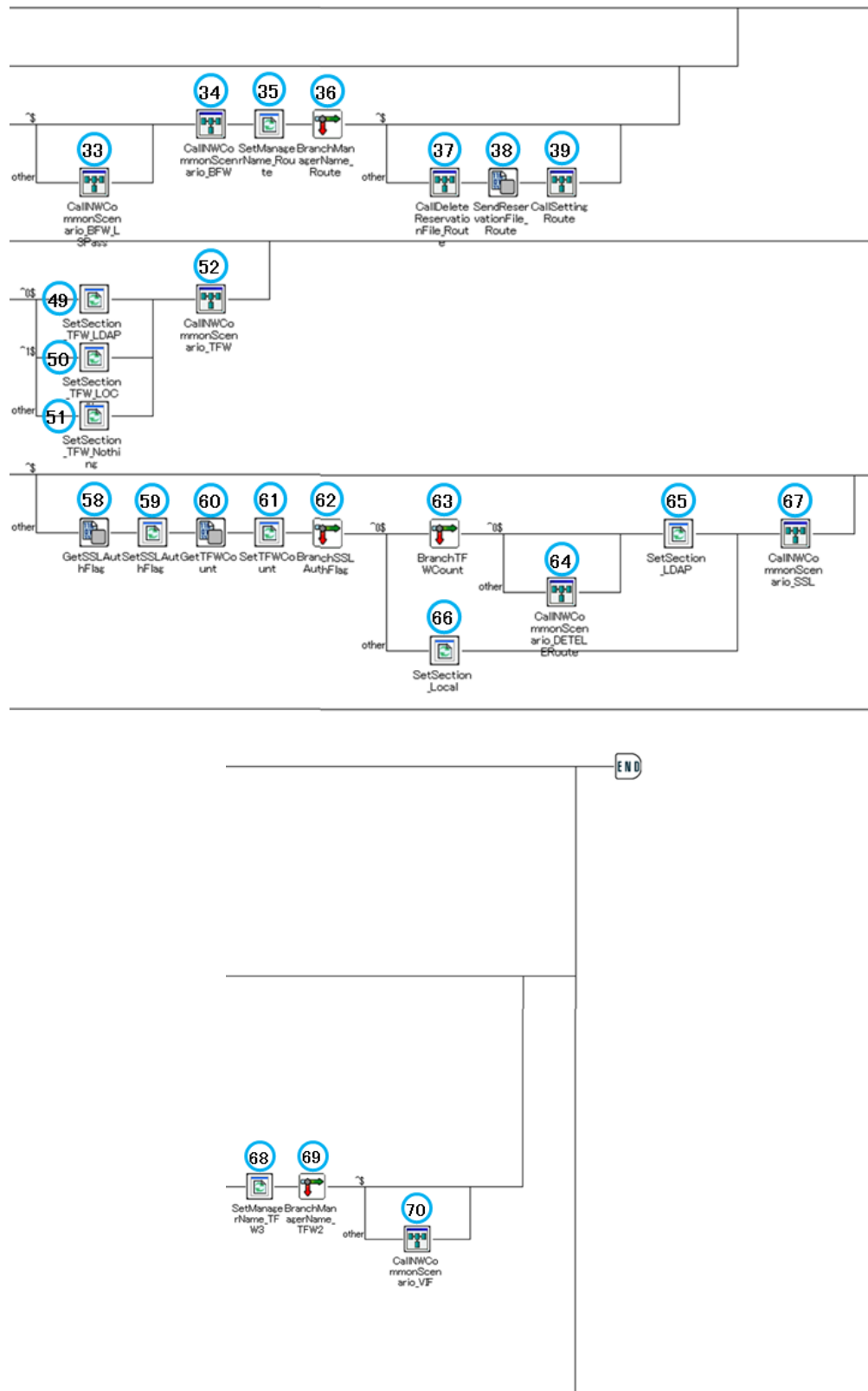
- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図







- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト DeleteTFWFlag で分岐		
2	ローカルオブジェクト VTNDelFlag で分岐		
3	SectionPFC に DELETE_VTN を設定		
4	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
5	Controller の GetResourceCommand で DeviceGUID を取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	GetGUID_L2SW の実行結果から DeviceGUID を取得し、GUID に設定		
7	Controller の GetResourceCommand で ManagerNameL2SW を取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
8	GetManagerName_L2SW の実行結果から ManagerNameL2SW を取得し ManagerName に設定		
9	ManagerName で分岐		
10	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
11	Controller の GetResourceCommand で DeviceGUID を取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
12	GetGUID_PFC の実行結果から DeviceGUID を取得し、GUID に設定		
13	Controller の GetResourceCommand で ManagerNamePFC を取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
14	GetManagerName_PFC の実行結果から ManagerNamePFC を取得し ManagerName に設定		
15	ManagerName で分岐		
16	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
17	Controller の GetResourceCommand で DeviceGUID_SSC を取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
18	GetGUID_SSC の実行結果から DeviceGUID_SSC を取得し、GUID に設定		
19	Controller の GetResourceCommand で ManagerNameSSC を取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
20	GetManagerName_SSC の実行結果から ManagerNameSSC を取得し ManagerName に設定		
21	ManagerName で分岐		
22	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
23	ローカルオブジェクト VlanType で分岐		
24	ローカルオブジェクト DeleteTFWFlag で分岐		
25	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
26	GetGUID_BFW の実行結果から TenantNWGUID を取得し GUID に設定する		
27	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
28	GetResourceParameter の実行結果から ManagerName_GUID を取得し ManagerName に設定		
29	ManagerName で分岐		
30	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
31	GetCurSideAddress の実行結果から CurSideAddress を取得し CurSideAddress に設定		
32	CurSideAddress で分岐		
33	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
34	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
35	GetResourceParameter の実行結果から ManagerNameRoute を取得し ManagerName に設定する		
36	ローカルオブジェクトの ManagerName で分岐		
37	MoM の予約情報ファイル削除処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
38	リソース予約情報ファイルを ManagerName に転送する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
39	MoM の経路情報設定シナリオを実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
40	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
41	GetGUID_TFW の実行結果から TenantNWGUID を取得し GUID に設定する		
42	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
43	GetManagerName_TFW の実行結果から ManagerName_GUID を取得し ManagerName に設定		
44	DeleteTFWFlag で分岐		
45	ManagerName で分岐		
46	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
47	GetTFWAuthFlag の実行結果から TFWAuthFlag を取得し TFWAuthFlag に設定		
48	TFWAuthFlag で分岐		
49	ローカルオブジェクト Section に "DELETE_ACCOUNT_LDAP DELETE_VDOM"を設定		
50	ローカルオブジェクト Section に "DELETE_ACCOUNT_LOCAL DELETE_VDOM"を設定		
51	ローカルオブジェクト Section に "DELETE_VDOM"を設定		
52	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
53	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
54	GetGUID_SSL の実行結果から TenantNWGUID を取得し GUID に設定する		
55	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
56	GetManagerName_SSL の実行結果から ManagerName_GUID を取得し ManagerName に設定		
57	ManagerName で分岐		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
58	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
59	GetSSLAUTHFlag の実行結果から SSLAuthFlag を取得し SSLAuthFlag に設定		
60	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
61	GetTFWCount の実行結果から Device_Num を取得し TFWCount に設定		
62	SSLAUTHFlag で分岐		
63	TFWCount で分岐		
64	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
65	ローカルオブジェクト Section に "UNSET_SSL_VPN UNSET_IPV4_ADDRESS DELETE_VIF"を設定		
66	ローカルオブジェクト Section に "UNSET_SSL_VPN_LOCAL_AUTH UNSET_IPV4_ADDRESS DELETE_VIF"を設定		
67	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
68	GetManagerName_TFW の実行結果から ManagerName_GUID を取得し ManagerName に設定		
69	ManagerName で分岐		
70	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
71	ローカルオブジェクトの DeleteTFWFlag で分岐		
72	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
73	GetGUID_TFW2 の実行結果から TenantNWGUID を取得し GUID に設定する		
74	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
75	GetManagerName_TFW2 の実行結果から ManagerName_GUID を取得し ManagerName に設定する		
76	ManagerName で分岐		
77	MoM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
CurSideAddress	文字列				リソース予約情報
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオ、またはシナリオ実行時にサービスガバナーが設定
DeleteTFWFlag	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定
DevTypeBFW	文字列		BFW		
DevTypeL2SW	文字列		L2SW		
DevTypePFC	文字列		PFC		
DevTypeSSC	文字列		SSC		
GUID	文字列				シナリオ内で設定
ManagerName	文字列				シナリオ内で設定
Mode	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
ModeBFW	文字列		Delete		
ModeL2SW	文字列		Delete		
ModePFC	文字列		Delete		
ModeSSC	文字列		Delete		
NWarResult	文字列				シナリオ内で設定
Section	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
SectionBFW	文字列		UNSET _BACK _END_V DOM		
SectionL2SW	文字列		DELET E_TRU NK_VL ANTAG _L2SW		
SectionPFC	文字列		DELET E_VBR		
SectionSSC	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定
SSLAUTHFlag	文字列				リソース予約情報

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
TenantID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオ、またはシナリオ実行時にサービスガバナーが設定
TFWAuthFlag	文字列				リソース予約情報
TFWCount	文字列				リソース予約情報
VlanLoopIndex	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
VlanType	文字列			入力	呼出し元シナリオ、またはリソース予約情報
VTNDelFlag	文字列		NO		呼び出し元シナリオで設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.42 全 VLAN 設定

- ・ シナリオ名

SettingAllVLAN

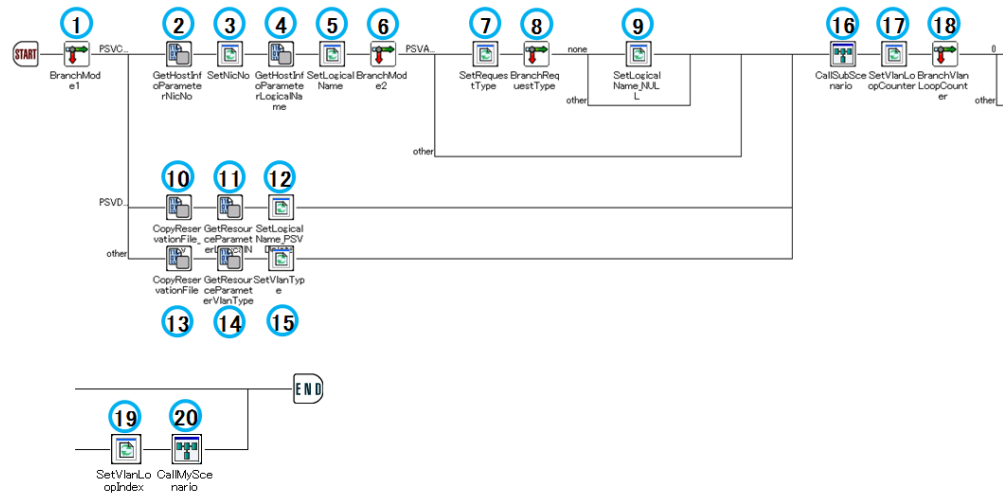
- ・ 処理概要

複数 VLAN に対し設定を行う。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	Mode で分岐		
2	Host 情報ファイルから Controller の GetResourceCommand を実行し NicNo を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
3	GetHostInfoParameterNicNo の実行結果から NicNo を取得し設定		
4	Controller の GetResourceCommand を実行し LogicalName を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
5	GetHostInfoParameterLogicalName の実行結果から LogicalName を取得し設定		
6	Mode で分岐		
7	GetHostInfoParameterLogicalName の実行結果から RequestType を取得し設定		
8	RequestType で分岐		
9	LogicalName の値を空(NULL)にクリアする		
10	ループカウンタに該当する予約情報ファイルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
11	Controller の GetResourceCommand を実行し LogicalName を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
12	GetResourceParameterLogicalName の実行結果から LogicalName を取得し設定		
13	ループカウンタに該当する予約情報ファイルをコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
14	Controller の GetResourceCommand を実行し VlanType を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
15	GetResourceParameterVlanType の実行結果から VlanType を取得し設定		
16	サブシナリオを呼出し	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
17	VlanLoopCounter をデクリメント		
18	VlanLoopCounter で分岐		
19	VlanLoopIndex をインクリメント		
20	自シナリオを呼出し	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
CommitFlag	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定
DeleteTFWFlag	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定
LogicalName	文字列				ホスト情報ファイル (物理サーバの場合)
Mode	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
MyScenarioName	文字列		Setting AllVLAN		内部処理用
NicNo	文字列				ホスト情報ファイル (物理サーバの場合)
RequestType	文字列				ホスト情報ファイル (物理サーバの場合)
ScenarioName	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
Section	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
TenantID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定
UNCSettingFlag	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
VlanLoopCounter	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定
VlanLoopIndex	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定
VlanType	文字列				リソース予約情報

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.43 物理サーバ用 L2SW 設定

- ・ シナリオ名

SettingPhysicalServerL2SW

- ・ 処理概要

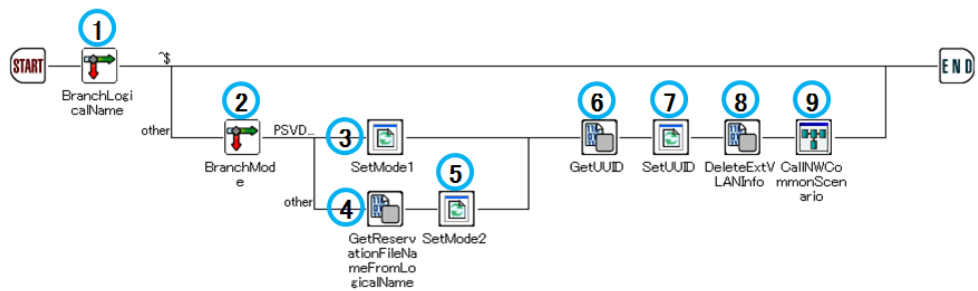
物理サーバ用 L2SW を設定する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

本シナリオ実行前にテナント NW 作成シナリオを実行していないこと。

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト LogicalName で分岐		
2	ローカルオブジェクト Mode で分岐		
3	ローカルオブジェクトの Mode に Delete を設定		
4	対象 SSC 論理 NW 名に該当する VLAN の予約情報ファイル_XX を予約情報ファイルにコピー	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
5	ローカルオブジェクトの Mode に Create を設定		
6	Controller の GetResourceCommand で UUID を取得する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
7	GetUUID の実行結果から UUID を取得し UUID に設定する		
8	処理対象となる装置の情報を取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	MoM の NW 機器共通処理シナリオを実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定
LogicalName	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
ManagerName	文字列				リソース予約情報
Mode	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
NicNo	文字列				呼び出し元シナリオで設定
Section	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
TenantID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定
UUID	文字列				リソース予約情報
VlanLoopIndex	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
VlanType	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定

^{*1} 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.44 ポッド拡張設定(Sub)

- シナリオ名

SettingPodExpantionNW(Sub)

- 処理概要

ポッド(Pod)拡張を設定する。

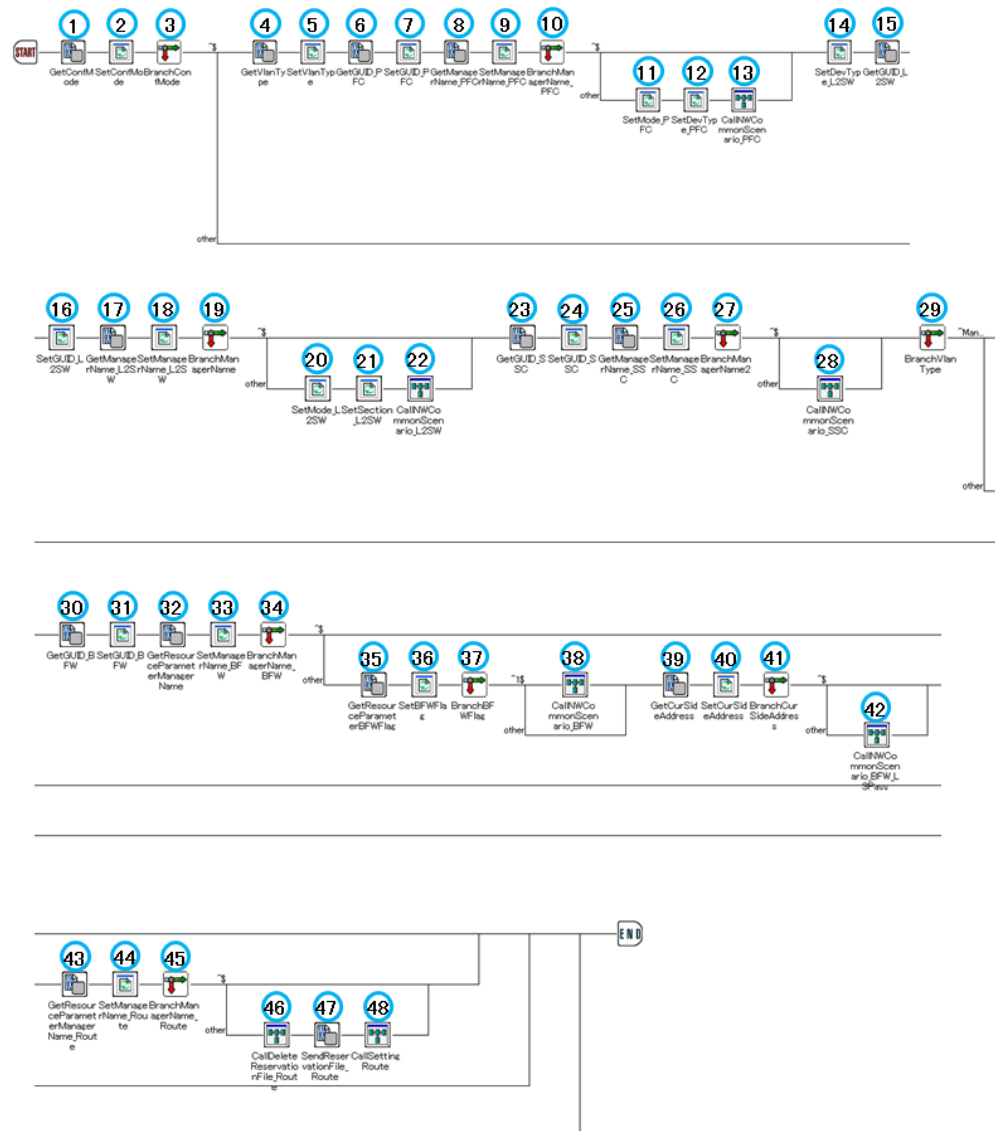
- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

L2SW に PFC/PFS を利用していること。

Pod 拡張設定用の事前設定(vlan-connect enable) がされていること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	Controller の GetResourceCommand で VlanMode を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
2	GetConfMode の実行結果から ConfMode を取得		
3	ローカルオブジェクト ConfMode で分岐		
4	Controller の GetResourceCommand でグループの VlanType を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
5	GetResourceParameter の実行結果から VlanType を取得		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
6	Controller の GetResourceCommand でグループの DeviceGUID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
7	GetGUID_PFC の実行結果から DeviceGUID を取得し GUID に設定する		
8	Controller の GetResourceCommand でグループの ManagerNamePFC を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	GetManagerName_PFC の実行結果から ManagerNamePFC を取得し ManagerName に設定する		
10	ローカルオブジェクト ManagerName で分岐		
11	Mode に Add を設定		
12	DevType に PFC を設定		
13	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
14	DevType に L2SW を設定		
15	Controller の GetResourceCommand でグループの DeviceGUI を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
16	GetGUID_L2SW の実行結果から DeviceGUID を取得し GUID に設定する		
17	Controller の GetResourceCommand でグループの ManagerNameL2SW を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
18	GetManagerName_L2SW の実行結果から ManagerNameL2SW を取得し ManagerName に設定する		
19	ローカルオブジェクト ManagerName で分岐		
20	Mode に Create を設定		
21	Section に SET_VLANTAG_L2SW を設定		
22	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
23	Controller の GetResourceCommand でグループの DeviceGUI を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
24	GetGUID_SSC の実行結果から DeviceGUID を取得し GUID に設定する		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
25	Controller の GetResourceCommand でグループの ManagerNameSSC を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
26	GetResourceParameter の実行結果から ManagerNameSSC を取得し ManagerName に設定		
27	ManagerName で分岐		
28	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
29	ローカルオブジェクト VlanType で分岐		
30	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
31	SetGUID_BFW の実行結果から TenantNWGUID を取得し GUID に設定する		
32	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
33	GetResourceParameterManagerName の実行結果から MManagerName_GUID を取得し ManagerName に設定		
34	ManagerName で分岐		
35	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
36	GetResourceParameterBFWFlag の実行結果から BFW_CreateFlag を取得		
37	BFW_CreateFlag で分岐		
38	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
39	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
40	GetCurSideAddress の実行結果から CurSideAddress を取得		
41	CurSideAddress で分岐		
42	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
43	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
44	GetResourceParameterManagerName_Route の実行結果から		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
	ManagerNameRoute を取得し ManagerName に設定		
45	ManagerName で分岐		
46	MoM の予約情報ファイル削除処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
47	リソース予約情報ファイルを ManagerName に転送する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
48	MoM の経路情報設定シナリオを実行する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
BFWCreateFlag	文字列				シナリオ内で設定
ConfMode	文字列				シナリオ内で設定
CurSideAddress	文字列				シナリオ内で設定
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	呼出し元シナリオ
DevType	文字列				シナリオ内で設定
GUID	文字列				シナリオ内で設定
LogicalName	文字列				未使用
ManagerName	文字列				シナリオ内で設定
Mode	文字列				シナリオ内で設定
Section	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列	○		入力	呼出し元シナリオ
VlanLoopIndex	文字列			入力	呼出し元シナリオ
VlanType	文字列			入力	呼出し元シナリオ

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.45 ポッド縮退設定(Sub)

- シナリオ名

SettingPodContractionNW(Sub)

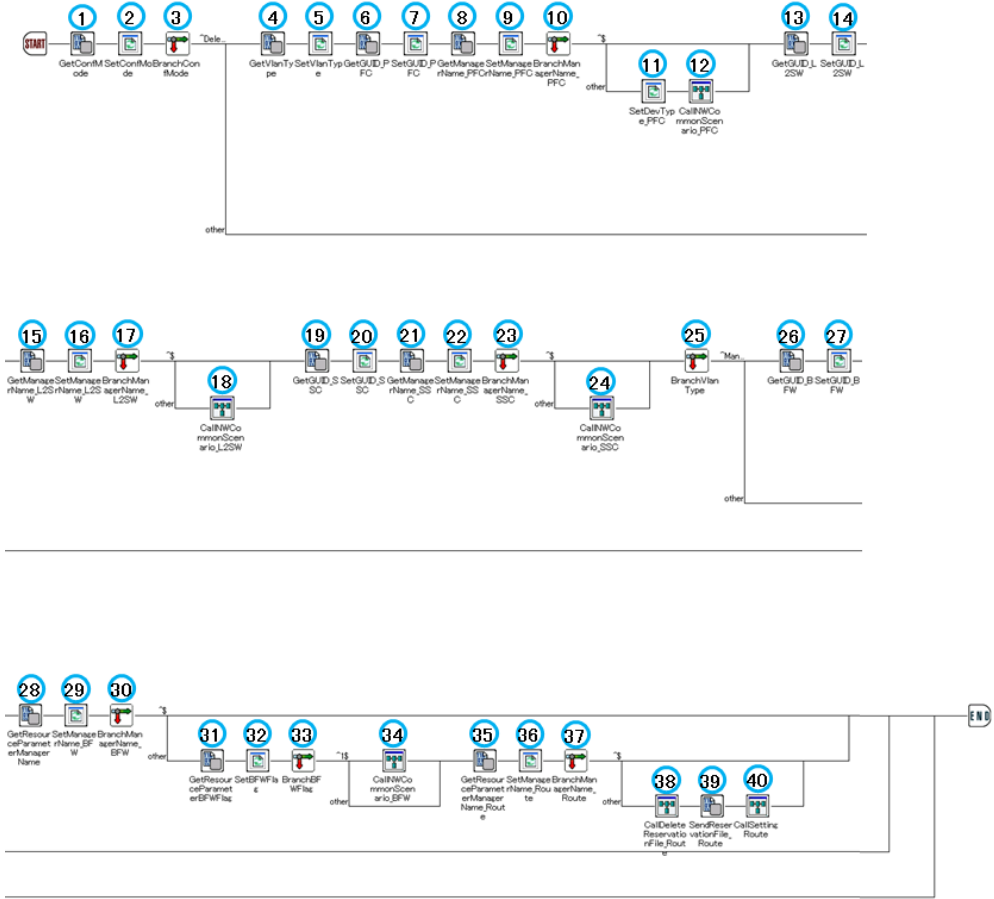
- 処理概要

ポッド(Pod)縮退を設定する。

・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

・ フロー図



・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	実行モードを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390ページ）」を参照
2	実行モードをローカルオブジェクトに格納		
3	縮退処理を行うか判断		
4	VLAN 種別を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390ページ）」を参照
5	VLAN 種別をローカルオブジェクトに格納		
6	PFC の GUID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390ページ）」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
7	PFC の GUID をローカルオブジェクトに格納		
8	PFC を管理する管理サーバ名を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	PFC を管理する管理サーバ名をローカルオブジェクトに格納		
10	PFC へ設定を行うか判断		
11	プロビジョニング対象に PFC を設定		
12	PFC へ設定を行う(GM のサブシナリオ NWCommonScenario を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
13	L2SW 機器の GUID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
14	L2SW 機器の GUID をローカルオブジェクトに格納		
15	L2SW 機器を管理する管理サーバ名を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
16	L2SW 機器を管理する管理サーバ名をローカルオブジェクトに格納		
17	L2SW 機器へ設定を行うか判断		
18	L2SW 機器へ設定を行う(GM のサブシナリオ NWCommonScenario を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
19	仮想 SW の GUID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
20	仮想 SW の GUID をローカルオブジェクトに格納		
21	SSC を管理する管理サーバ名を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
22	SSC を管理する管理サーバ名をローカルオブジェクトに格納		
23	SSC へ設定を行うか判断		
24	SSC へ設定を行う(GM のサブシナリオ NWCommonScenario を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
25	事業者管理 VLAN か判断		
26	バックエンド FW 機器の GUID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
27	バックエンド FW 機器の GUID をローカルオブジェクトに格納		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
28	バックエンド FW 機器を管理する管理サーバ名を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
29	バックエンド FW 機器を管理する管理サーバ名をローカルオブジェクトに格納		
30	バックエンド FW 機器へ設定を行うか判断		
31	バックエンド FW の削除フラグを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
32	バックエンド FW の削除フラグをローカルオブジェクトに格納		
33	バックエンド FW を削除するか判断		
34	バックエンド FW の作成を実行(GM のサブシナリオ NWCommonScenario を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
35	経路情報設定を行う管理サーバ名を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
36	経路情報設定を行う管理サーバ名をローカルオブジェクトに格納		
37	経路情報設定を行うか判断		
38	管理サーバ上のリソース予約情報ファイルを削除(MoM のサブシナリオ DeleteReservationFile を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
39	リソース予約情報ファイルを管理サーバに転送	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
40	管理サーバに対して経路情報設定を実行(MoM のサブシナリオ SettingRoute を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
BFWDeleteFlag	文字列				バックエンド FW の削除フラグ。シナリオ内で設定。
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	DC リソースの予約 ID。呼び出し元シナリオが設定。
DevType	文字列				装置種別。シナリオ内で設定。
GUID	文字列				装置の GUID。シナリオ内で設定。
ManagerName	文字列				管理サーバ名。シナリオ内で設定。
Mode	文字列				実行するプロビジョニングのモード。シナリオ内で設定。
TenantID	文字列	○		入力	テナント ID。呼び出し元シナリオが設定。

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
VlanType	文字列				VLAN 種別。シナリオ内で設定。

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.46 VLAN 作成(Sub)

- ・ シナリオ名

CreateVLAN(Sub)

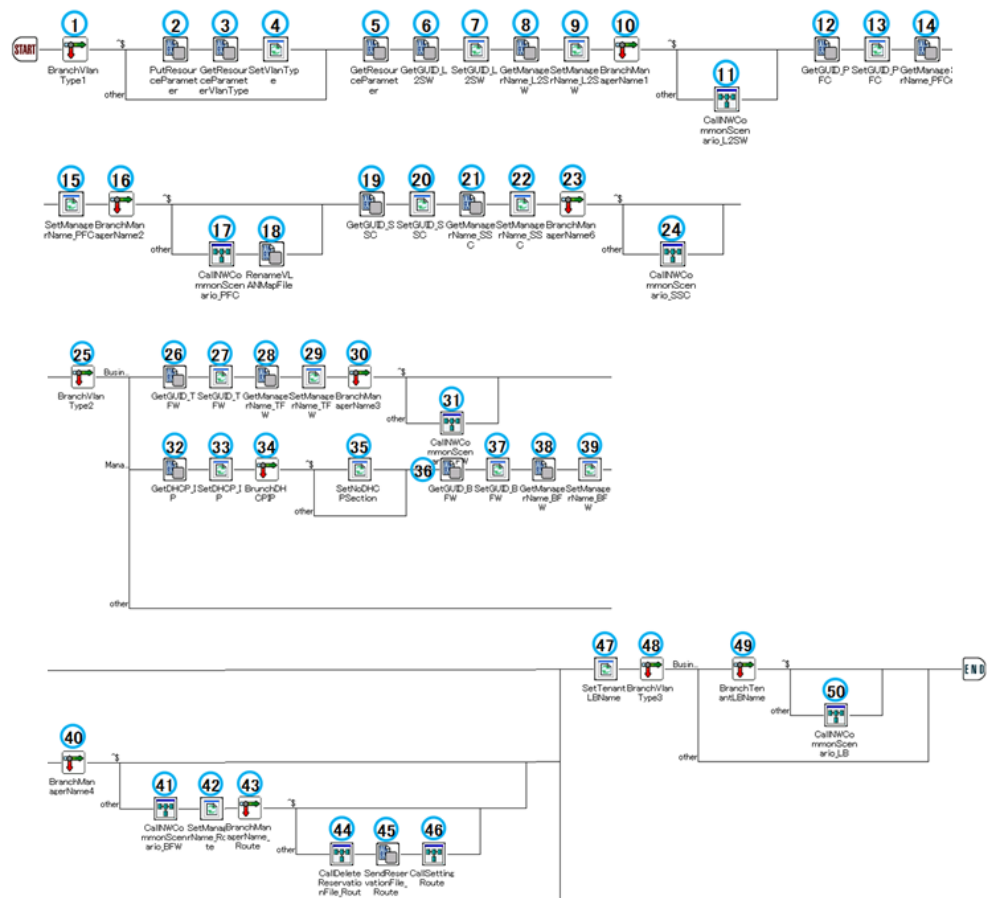
- ・ 処理概要

VLAN（VLAN 内の各装置）を作成する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト VlanType で分岐		
2	Controller の PutResourceCommand を実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
3	Controller の GetResourceCommand でグループの VlanType を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	GetResourceParameterVlanType の実行結果から VlanType を取得		
5	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
7	GetGUID_L2SW の実行結果から DeviceGUID を取得し GUID に設定		
8	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	GetManagerName_L2SW の実行結果から ManagerNameL2SW を取得し ManagerName に設定		
10	ManagerName で分岐		
11	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
12	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
13	GetGUID_PFC の実行結果から DeviceGUID を取得し GUID に設定		
14	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
15	GetManagerName_PFC の実行結果から ManagerNamePFC を取得し ManagerName に設定		
16	ManagerName で分岐		
17	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
18	VLANMap ファイルのファイル名を VlanType、MoM 名付きの名前に変更	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
19	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
20	GetGUID_PFC の実行結果から DeviceGUID を取得し GUID に設定		
21	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
22	GetManagerName_SSC の実行結果から ManagerNameSSC を取得し ManagerName に設定		
23	ManagerName で分岐		
24	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
25	ローカルオブジェクト VlanType で分岐		
26	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
27	GetGUID_TFW の実行結果から TenantNWGUID を取得し GUID に設定する		
28	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
29	GetResourceParameter の実行結果から ManagerNameTFW を取得し ManagerName に設定		
30	ManagerName で分岐		
31	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
32	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
33	GetDHCP_IP の実行結果から NV_DHCP_IP を取得し DHCP_IP に設定する		
34	DHCP_IP で分岐		
35	SectionBFW に "SET_BACKEND_NO_DHCP_VDOM" を設定		
36	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
37	GetGUID_BFW の実行結果から TenantNWGUID を取得し GUID に設定する		
38	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
39	GetManagerName_BFW の実行結果から ManagerNameBFW を取得し ManagerName に設定		
40	ManagerName で分岐		
41	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
42	GetResourceParameter の実行結果から ManagerNameRoute を取得し ManagerName に設定する		
43	ManagerName で分岐		
44	MoM の予約情報ファイル削除処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
45	リソース予約情報ファイルを ManagerName に転送する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
46	MoM の経路情報設定シナリオを実行する。		
47	GetResourceParameter の実行結果から TenantLBName を取得		
48	ローカルオブジェクト VlanType で分岐		
49	ローカルオブジェクト TenantLBName で分岐		
50	GM の NW 機器共通処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオ
DevTypeBFW	文字列		BFW		
DevTypeL2SW	文字列		L2SW		
DevTypeLB	文字列		LB		
DevTypePFC	文字列		PFC		
DevTypeSSC	文字列		SSC		
DevTypeTFW	文字列		TFW		
DHCP_IP	文字列				

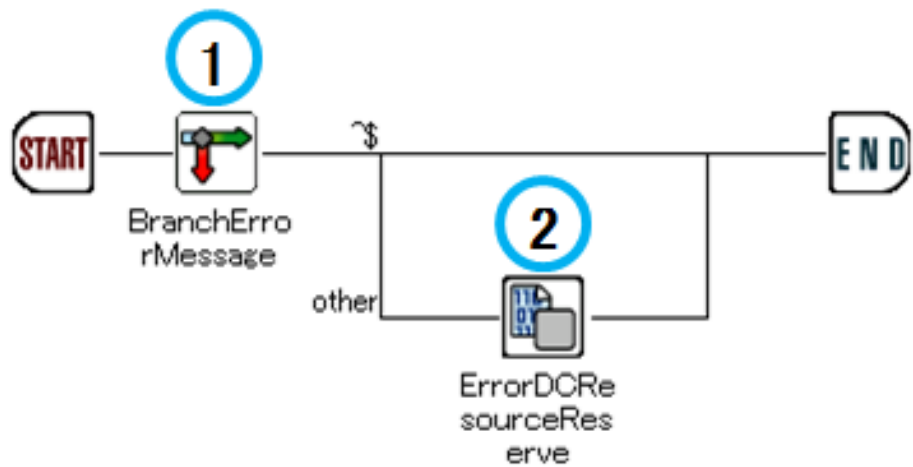
変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
GUID	文字列				
LogicalName	文字列			入力	呼び出し元シナリオ
ManagerName	文字列				リソース予約情報
Mode	文字列			入力	呼び出し元シナリオ
ModeBFW	文字列		Create		
ModeL2SW	文字列		Create		
ModeLB	文字列		Add		
ModePFC	文字列		Create		
ModeSSC	文字列		Create		
ModeTFW	文字列		Add		
Section	文字列			入力	呼び出し元シナリオ
SectionBFW	文字列		SET_B ACKEN D_VDO M		
SectionL2SW	文字列		SET_T RUNK_ VLANT AG_L2 SW		
SectionLB	文字列		CREAT E_VIF SET_IP V4_AD DRESS		
SectionPFC	文字列		SET_V LANM AP		
SectionSSC	文字列				
SectionTFW	文字列		CREAT E_VIF SET_IP V4_AD DRESS		
TenantID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオ
TenantLBName	文字列				リソース予約情報
VlanLoopIndex	文字列			入力	呼び出し元シナリオ
VlanType	文字列				呼び出し元シナリオ、またはリソース予約情報

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.47 予約エラー判定

- シナリオ名
CheckNWAErrorMessage
- 処理概要
事前に行われた予約のエラー判定を行う
- 実行条件
vDCA による予約処理が行われていること。
- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト ErrorMessage で分岐		
2	ErrorMessage の内容を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
ErrorMessage	文字列			入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定 ※エラーメッセージの詳細は、「3.5.47 予約エラー判定（322 ページ）」の「ガバナエラーコード一覧」を参照してください。

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし
- ・ ガバナエラーコード一覧

シナリオ失敗時には、ErrorMessage ローカルオブジェクトにエラーコードが格納されます。

格納されるエラーコードの内容は、次の通りです。

GovernorErrorCode	意味	説明
1	予約失敗	DC リソース管理への予約に失敗した場合に返却される
2	MoM 情報取得失敗	UUID が指定されていない場合、または、指定された UUID から MoM 情報が取得できない場合に返却される
3	ルール選択失敗(リソースグループ選択失敗)	自動選択で、リソースグループの選択に失敗した場合に返却される
4	ルール選択失敗(リソース管理グループ選択失敗)	自動選択で、リソース管理グループの選択に失敗した場合に返却される
5	ルール選択失敗(リソースプール選択失敗)	自動選択で、リソースプールの選択に失敗した場合に返却される

- ・ エラー形式

ErrorMessage ローカルオブジェクトに格納するエラー形式は以下の出力例のように表示します。

```
Selection Failed.
GovernorErrorCode = <GovernorErrorCode>
ReservationErrorCode = <ReservationErrorCode>
```

※<GovernorErrorCode>には、エラーコード一覧の GovernorErrorCode が出力されます。

※<GovernorErrorCode>は、複数出力される場合があります。その場合は、,(カンマ)区切りで出力されます。

※<ReservationErrorCode>には、DC リソース管理から返却されるエラー番号が出力されます。

※ReservationErrorCode は、GovernorErrorCode が 1 の時(予約失敗時)のみ、出力されません。

3.5.48 予約確定処理

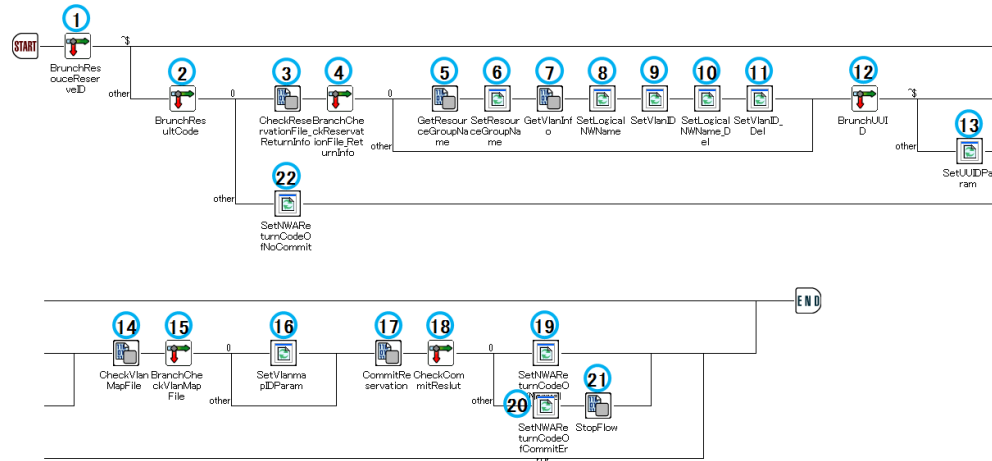
- ・ シナリオ名
CommittingNWAOperation
- ・ 処理概要

予約情報の確定を行う。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト DCResourceReserveID で分岐		
2	ローカルオブジェクト ResultCode で分岐		
3	ReturnInfo ファイルの有無を確認		
4	CheckReservationFile_ReturnInfo の終了コードで分岐		
5	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
6	GetResourceGroupName の実行結果から ResourceGroupName を取得		
7	VLAN 情報の取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
8	GetVlanInfo の実行結果から LogicalNWName を取得		
9	GetVlanInfo の実行結果から VlanID を取得		
10	GetVlanInfo の実行結果から LogicalNWName_Del を取得		
11	GetVlanInfo の実行結果から VlanID_Del を取得		
12	ローカルオブジェクト UUID で分岐		
13	UUIDParam にパラメータ情報を設定		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
14	VLANMAP 情報ファイルの有無を確認		
15	CheckVlanMapFile の終了コードで分岐		
16	予約コミット用のパラメータをローカルオブジェクト VlanMapIDParam に設定		
17	Controller の commit で予約をコミット	継続実行	
18	CommitReservation の実行結果で分岐		
19	NWReturnCode に 0 を設定		
20	NWReturnCode に 0 を設定		
21	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
22	NWReturnCode に 0 を設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
LogicalNWName	文字列				シナリオ内で設定
LogicalNWName_Del	文字列				シナリオ内で設定
NWReturnCode	文字列			出力	シナリオ実行結果を通知で設定
ResourceGroupName	文字列				シナリオ内で設定
ResultCode	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
UUID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定
UUIDParam	文字列				シナリオ内で設定
VlanMapIDParam	文字列				シナリオ内で設定
VlanID	文字列				シナリオ内で設定
VlanID_Del	文字列				シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.49 VM 用 NW の Pod 間連携による拡張

- シナリオ名

DoingNWAOperation

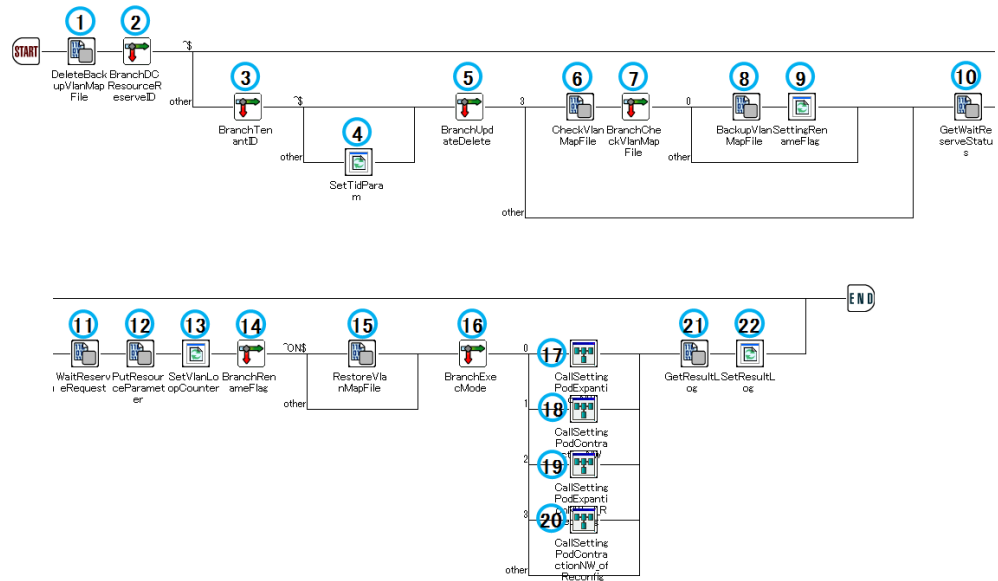
- 処理概要

VM が接続するための Pod 拡張を実施する。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	VLANMap のバックアップファイルを削除	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
2	ローカルオブジェクト DCResourceReserveID で分岐		
3	ローカルオブジェクト TenantID で分岐		
4	ローカルオブジェクト TidParam に -tid %&&TenantID% を設定		
5	ローカルオブジェクト ExecMode で分岐		
6	予約情報ファイル（VLANMap）の有無を確認		
7	CheckVlanMapFile の実行結果で分岐		
8	予約情報ファイル（VLANMap）のバックアップを作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
9	ローカルオブジェクト RenameVlanMapFlag に ON を設定		
10	シナリオ同時実行制御を行うための パラメータを取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
11	シナリオ同時実行制御を行う。リ ソースが競合する先行シナリオの完了まで待ち合わせる。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
12	Controller の PutResourceCommand を 実行しリソース予約情報を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
13	PutResourceParameter の実行結果から NumOfVLAN を取得し VlanLoopCounter に設定		
14	ローカルオブジェクト RenameVlanMapFlag で分岐		
15	バックアップした予約情報ファイル (VLANMap) を戻す		
16	ローカルオブジェクト ExecMode で 分岐		
17	GM のポッド拡張設定シナリオを実 行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
18	GM のポッド縮退設定シナリオを実 行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
19	GM のポッド拡張設定シナリオを UPDATE_ADD で実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
20	GM のポッド縮退設定シナリオを UPDATE_DEL で実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
21	MoM から転送された実行結果ログを 標準出力	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
22	GetResultLog の実行結果を NWarResult に設定		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定
ExecMode	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定
NWarResult	文字列				シナリオ内で設定
ParentFlowID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定
ParentInstanceDate	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
ParentInstanceID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定
RenameVlanMapFlag	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナナーが設定
TidParam	文字列				シナリオ内で設定
VlanLoopCounter	文字列				シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.50 同時実行待ち合わせ

- シナリオ名

WaitNWAOperation

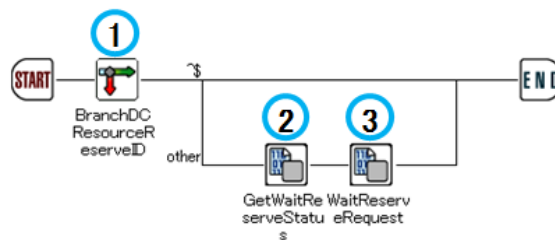
- 処理概要

シナリオの同時実行制御を行う。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	DC リソース管理によるリソース予約が行われているか判断		
2	シナリオ同時実行制御を行うためのパラメータを取得する。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
3	シナリオ同時実行制御を行う。リソースが競合する先行シナリオの完了まで待ち合わせる。	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	DC リソースの予約 ID。呼び出し元シナリオが設定。
ParentFlowID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオのシナリオ ID。呼び出し元シナリオが設定。
ParentInstanceDate	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオのインスタンス ID。呼び出し元シナリオが設定。
ParentInstanceID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオの実行日。呼び出し元シナリオが設定。

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.51 予約情報ファイル削除処理

- シナリオ名

DeleteReservationFile

- 処理概要

予約情報ファイルの削除を行う

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	予約情報ファイルの削除	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	シナリオ実行時にサービスガバナーが設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.52 NW 機器共通処理

- シナリオ名

NWCommonScenario

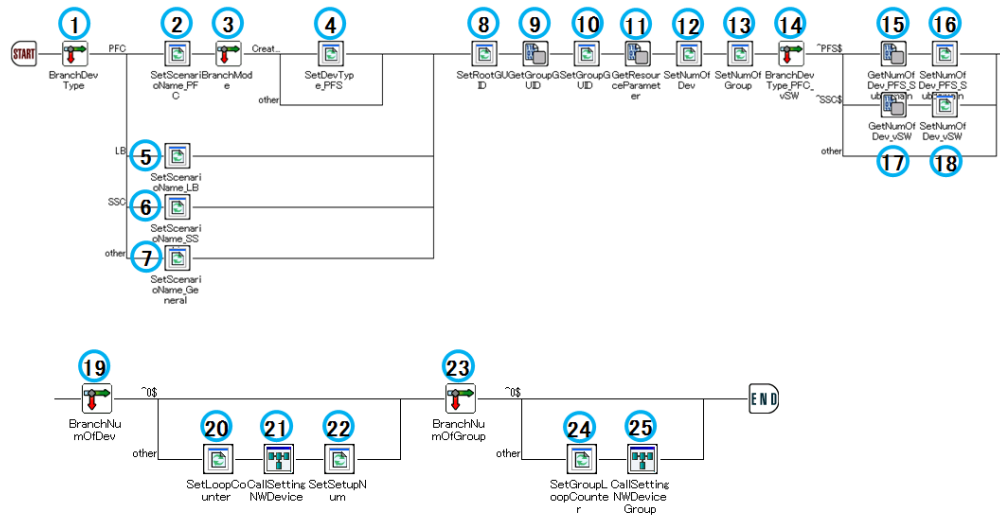
- 処理概要

装置の構成により NW 装置処理、または NW 装置グループ処理を呼び出す。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ローカルオブジェクト DevType で分岐		
2	ScenarioName に SettingPFC を設定		
3	ローカルオブジェクト Mode で分岐		
4	DevType に PFS を設定		
5	ScenarioName に SettingLB を設定		
6	ScenarioName に SettingSSC を設定		
7	ScenarioName に SettingGeneral を設定		
8	RootGUID に DEV-%&&DevType%を設定		
9	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
10	GetGroupGUID の実行結果から GroupGUID を取得		
11	Controller の GetResourceCommand で返却用パラメータを取得する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
12	GetResourceParameter の実行結果から NumOfDev を取得する		
13	GetResourceParameter の実行結果から NumOfGroup を取得する		
14	ローカルオブジェクト DevType で分岐		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
15	PFS のサブドメインの装置数を取得する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
16	GetNumOfDev_PFS_Subdomain の実行結果から NumOfDev を取得する		
17	vSW の装置数を取得する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
18	GetNumOfDev_vSW の実行結果から NumOfDev を取得する		
19	ローカルオブジェクト NumOfDev で分岐		
20	LoopCounter にローカルオブジェクト NumOfDev の値を設定		
21	NW 装置処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
22	CallSettingNWDevice の実行結果から SetupNum を取得		
23	ローカルオブジェクト NumOfGroup で分岐		
24	GroupLoopCounter にローカルオブジェクト NumOfGroup の値を設定		
25	NW 装置グループ処理シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定
DevType	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
GroupDevType	文字列		Cluster G		呼び出し元シナリオで設定
GroupGUID	文字列				シナリオ内で設定
GroupLoopCounter	文字列				シナリオ内で設定
GroupLoopIndex	文字列		0		シナリオ内で設定
LoopCounter	文字列				シナリオ内で設定
LoopIndex	文字列		0		シナリオ内で設定
Mode	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
NicNo	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
NumOfDev	文字列		0		シナリオ内で設定
NumOfGroup	文字列		0		シナリオ内で設定
OKNum	文字列		0		シナリオ内で設定

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
RootGUID	文字列				シナリオ内で設定
ScenarioName	文字列				シナリオ内で設定
Section	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
SetupNum	文字列		0		シナリオ内で設定
TenantID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定
UUID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.53 NW 装置グループ処理

- ・ シナリオ名

SettingNWDeviceGroup

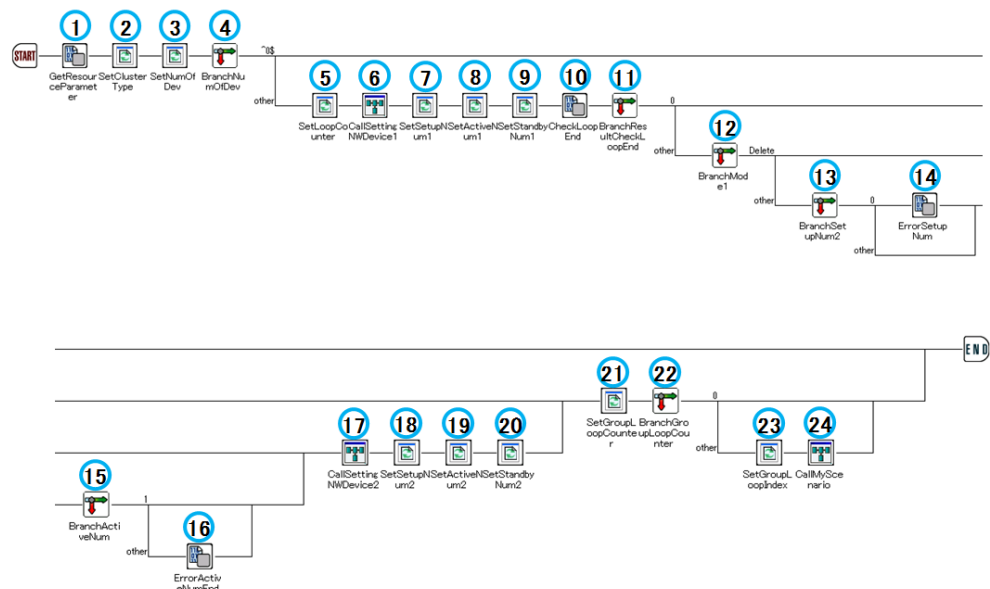
- ・ 処理概要

装置グループを処理（グループの数だけ再帰呼び出し）する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
2	GetResourceParameter の実行結果から ClusterType を取得し設定		
3	GetResourceParameter の実行結果から NumOfDev を取得し設定		
4	NumOfDev で分岐		
5	LoopCounter にローカルオブジェクト NumOfDev の値を設定		
6	NW 装置処理シナリオを呼出し	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
7	CallSettingNWDevice1 の実行結果から SetupNum を取得		
8	CallSettingNWDevice1 の実行結果から ActiveNum を取得		
9	CallSettingNWDevice1 の実行結果から StandbyNum を取得		
10	SetupNum と LoopCounter を比較		
11	CheckLoopEnd の終了コードで分岐		
12	ローカルオブジェクト Mode で分岐する		
13	ローカルオブジェクト SetupNum で分岐する		
14	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
15	ローカルオブジェクト ActiveNum で分岐する		
16	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
17	NW 装置処理シナリオを呼出し	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
18	CallSettingNWDevice2 の実行結果から SetupNum を取得		
19	CallSettingNWDevice2 の実行結果から ActiveNum を取得		
20	CallSettingNWDevice2 の実行結果から StandbyNum を取得		
21	GroupLoopCounter をデクリメント		
22	GroupLoopCounter で分岐		
23	GroupLoopIndex をインクリメント		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
24	自シナリオを呼出し	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390ページ）」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
ActiveNum	文字列				シナリオ内で設定
ClusterType	文字列				リソース予約情報
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定
DevType	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
GroupDevType	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
GroupGUID	文字列				リソース予約情報
GroupLoopCounter	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定
GroupLoopIndex	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定
LoopCounter	文字列			入力	シナリオ内で設定
Mode	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
MyScenarioName	文字列		Setting NWDeviceGroup		初期値を使用
NicNo	文字列				シナリオ内で設定
NumOfDev	文字列				リソース予約情報
OKNum	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
ScenarioName	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
Section	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
SetupNum	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
StandbyNum	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定
UUID	文字列				シナリオ内で設定

^{*1} 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.54 NW 装置処理

- シナリオ名

SettingNWDevice

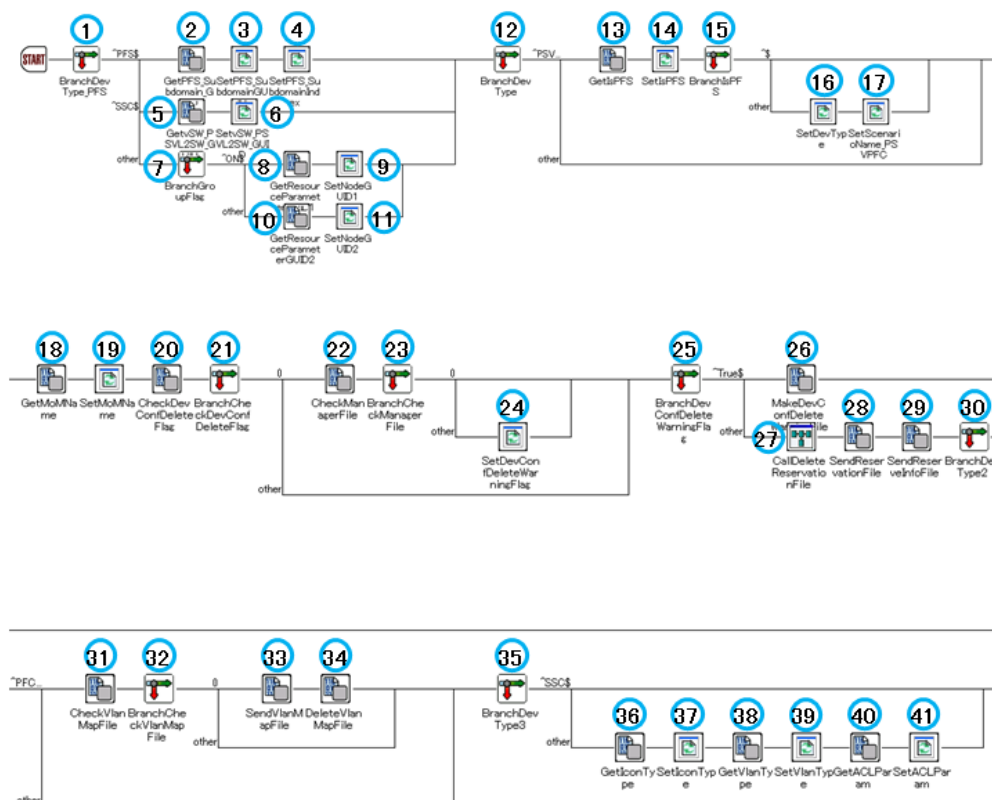
- 処理概要

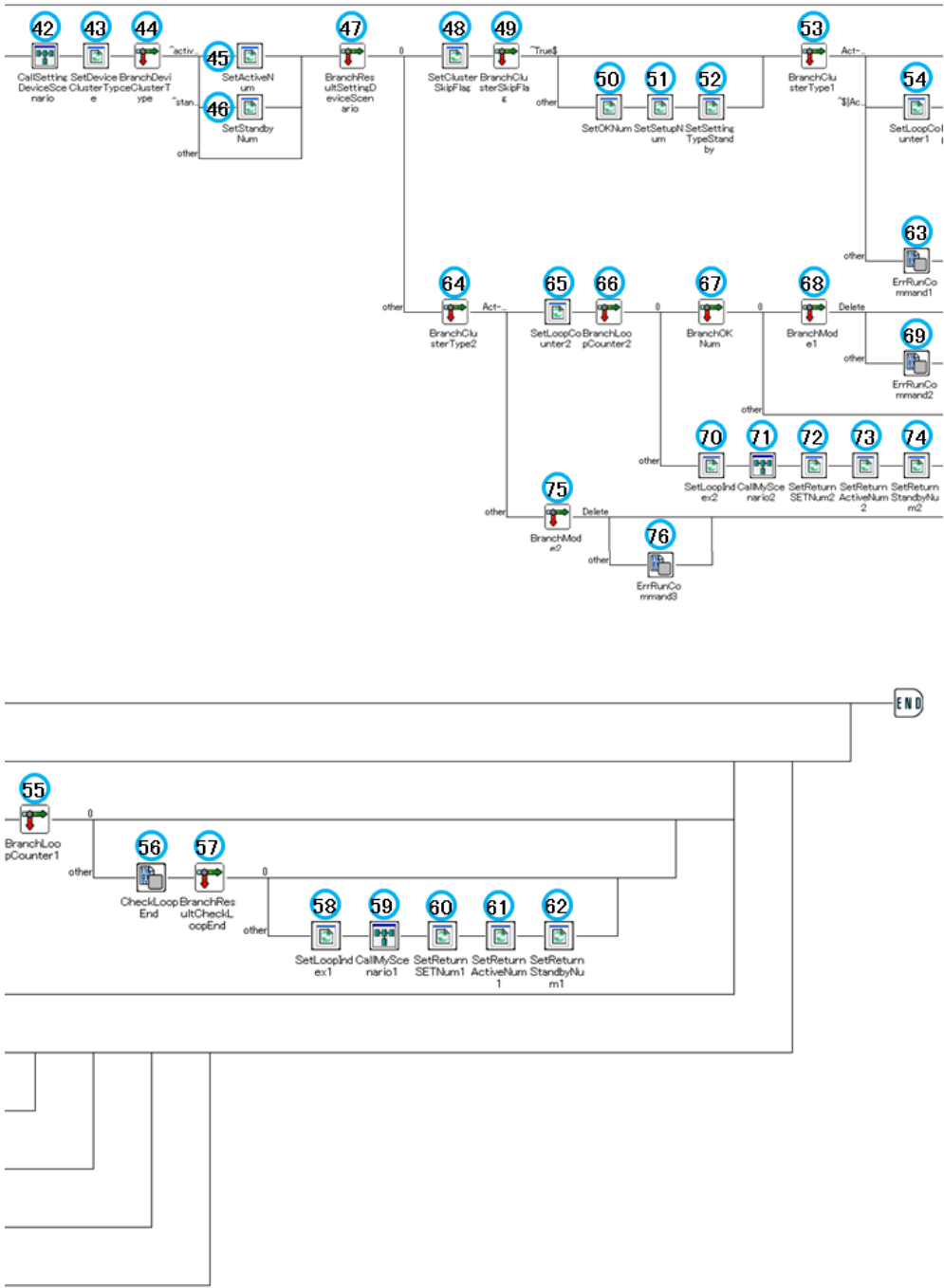
非グループ、またはグループ内の各装置に対して設定シナリオを呼び出す（装置の数だけ再帰呼び出し）。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図





• 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	DevType で分岐		
2	装置の GUID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
3	GUID 取得処理の実行結果から NodeGUID を取得		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
4	GUID 取得処理の実行結果から Subdomain の個数を取得		
5	装置の GUID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	GUID 取得処理の実行結果から NodeGUID を取得		
7	GroupFlag で分岐		
8	Controller の GetResourceCommand で NodeGUID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	GetResourceParameterGUID1 の実行結果から NodeGUID を取得		
10	Controller の GetResourceCommand で DeviceGUID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
11	GetResourceParameterGUID2 の実行結果から NodeGUID を取得		
12	DevType で分岐		
13	Controller の GetResourceCommand で対象が PFS か判断するフラグを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
14	GetIsPFS の実行結果からフラグ IS_PFS を取得		
15	IS_PFS で分岐		
16	DevType に PFC を指定		
17	ScenarioName に SettingPFC を指定		
18	Controller の GetResourceCommand で MoM の GUID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
19	GetMoMName の実行結果から ManagerName を取得		
20	NWADevConfDeleteFlag ファイルが存在するか調べる		
21	CheckDevConfDeleteFlag の終了コードで分岐		
22	強制削除対象かの確認を行う		
23	CheckManagerFile の終了コードで分岐		
24	DevConfDeleteWarningFlag に True を設定		
25	ローカルオブジェクト DevConfDeleteWarningFlag で分岐		
26	NWADevConfDeleteWarning ファイルを作成する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
27	MoM の予約情報ファイル削除シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
28	MoM に予約情報ファイルを送信	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
29	MoM にシナリオ識別情報ファイルを送信	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
30	ローカルオブジェクト DevType で分岐する		
31	予約情報ファイル (VLANMap) の有無を確認		
32	CheckVlanMapFile の実行結果で分岐		
33	MoM に予約情報ファイル (VLANMap) を送信	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
34	予約情報ファイル (VLANMap) を削除	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
35	ローカルオブジェクト DevType で分岐する		
36	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
37	GetIconType の実行結果から IconType を取得し設定		
38	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
39	GetVlanType の実行結果から VlanType を取得し設定		
40	ACL の情報を取得		
41	GetACLParam の実行結果から ACLParam を取得し設定		
42	装置ごとの設定シナリオを呼ぶ	継続実行	
43	CallSettingDeviceScenario の結果確認		
44	DeviceClusterType で分岐		
45	ActiveNum をインクリメント		
46	StandbyNum をインクリメント		
47	CallSettingDeviceScenario の結果で分岐		
48	CallSettingDeviceScenario の結果から ClusterSkipFlag を取得		
49	ClusterSkipFlag で分岐		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
50	OKNum をインクリメント		
51	SetupNum をインクリメント		
52	SettingType に standby を指定		
53	ClusterType で分岐		
54	LoopCounter をデクリメント		
55	LoopCounter で分岐		
56	ループの終了を判定		
57	ループの判定結果で分岐		
58	LoopIndex をインクリメント		
59	自シナリオを呼ぶ	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
60	CallMyScenario1 の実行結果から ReturnSETNum を取得		
61	CallMyScenario1 の実行結果から ReturnACTNum を取得		
62	CallMyScenario1 の実行結果から ReturnSBYNum を取得		
63	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
64	ClusterType で分岐		
65	LoopCounter をデクリメント		
66	LoopCounter で分岐		
67	OKNum で分岐		
68	Mode で分岐		
69	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
70	LoopIndex をインクリメント		
71	自シナリオを呼ぶ	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
72	CallMyScenario2 の実行結果から ReturnSETNum を取得		
73	CallMyScenario2 の実行結果から ReturnACTNum を取得		
74	CallMyScenario2 の実行結果から ReturnSBYNum を取得		
75	Mode で分岐		
76	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
ACLParam	文字列				シナリオ内で設定
ActiveNum	整数		0		シナリオ内で設定
ClusterSkipFlag	文字列		False		呼び出し元シナリオで設定
ClusterType	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定
DevConfDeleteWarningFlag	文字列		False		シナリオ内で設定
DeviceClusterType	文字列				シナリオ内で設定
DevType	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
GroupFlag	文字列		OFF		シナリオ内で設定
GroupGUID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
IconType	文字列				シナリオ内で設定
IS_PFS	文字列				シナリオ内で設定
LoopCounter	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定 シナリオ内で更新
LoopEndCheckValue	文字列		0		シナリオ内で設定
LoopIndex	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定 シナリオ内で更新
ManagerName	文字列				リソース予約情報
Mode	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
MyScenarioName	文字列		Setting NWDev ice		呼び出し元シナリオで設定
NicNo	文字列				シナリオ内で設定
NodeGUID	文字列				リソース予約情報
OKNum	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定 シナリオ内で更新
PFS_SubDomainIndex	文字列		0		シナリオ内で設定
ReturnACTNum	文字列		0		シナリオ内で設定
ReturnSBYNum	文字列		0		シナリオ内で設定
ReturnSETNum	文字列		0		シナリオ内で設定
ScenarioName	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
Section	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
SettingNWDeviceGroup	整数		0		シナリオ内で設定
SettingType	文字列		active		呼び出し元シナリオで設定
SetupNum	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定 シナリオ内で更新
StandbyNum	整数		0		シナリオ内で設定
TenantID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
UUID	文字列				リソース予約情報
VlanType	文字列				シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧なし

3.5.55 NW 装置設定

- ・ シナリオ名

SettingGeneralDevice

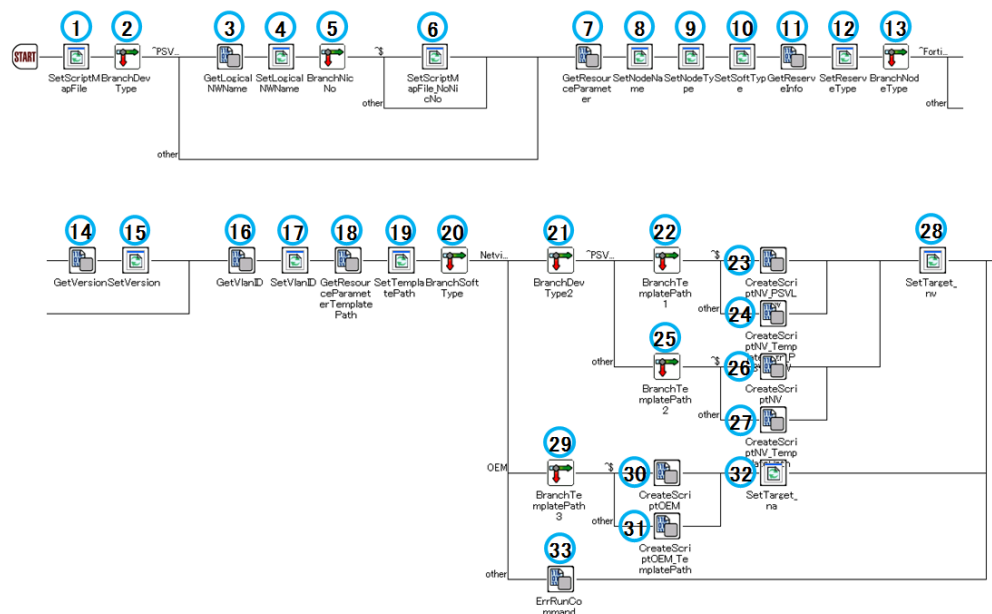
- 处理概要

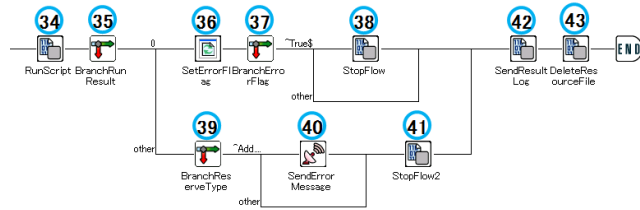
NW 装置を設定(L2SW,TFW,RT,FW,SSL 用)する。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図





- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ScriptMapFile を設定		
2	ローカルオブジェクト DevType で分岐する		
3	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	GetLogicalNWName の実行結果から LogicalNWName を取得し設定		
5	ローカルオブジェクト NicNo で分岐する		
6	ScriptMapFile を設定する		
7	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
8	GetResourceParameter の実行結果から NodeName を取得し設定		
9	GetResourceParameter の実行結果から NodeType を取得し設定		
10	GetResourceParameter の実行結果から SoftType を取得し設定		
11	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
12	GetReserveInfo の実行結果から ReserveType を取得し設定		
13	ローカルオブジェクト NodeType で分岐する		
14	DBDao.exe を使用してデータベースから OperatingSystem.Version を取得する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
15	GetVersion の実行結果から FortigateVersion を取得し設定		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
16	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
17	GetVlanID の実行結果から VlanID を取得し設定		
18	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
19	GetResourceParameterTemplatePath の実行結果から TemplatePath を取得し設定		
20	ローカルオブジェクト SoftType で分岐する		
21	ローカルオブジェクト DevType で分岐する		
22	ローカルオブジェクト TemplatePath で分岐する		
23	Controller の translation を実行し、設定スクリプトを作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
24	Controller の translation を実行し、設定スクリプトを作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
25	ローカルオブジェクト TemplatePath で分岐する		
26	Controller の translation を実行し、設定スクリプトを作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
27	Controller の translation を実行し、設定スクリプトを作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
28	Target に nv を設定		
29	ローカルオブジェクト TemplatePath で分岐する		
30	Controller の translation を実行し、設定スクリプトを作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
31	Controller の translation を実行し、設定スクリプトを作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
32	Target に na を設定		
33	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
34	Controller の RunCommand を実行し、設定スクリプトを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
35	RunScript の実行結果で分岐		
36	RunScript の実行結果から ErrorFlag を取得し設定		
37	ローカルオブジェクト ErrorFlag で分岐する		
38	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
39	ローカルオブジェクト ReserveType で分岐する		
40	エラー情報を送信		
41	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
42	実行結果ログを広域管理サーバに転送	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
43	リソース予約情報ファイルを削除	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
ACLParam	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
DCResourceReserveID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
DevType	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
ErrorFlag	文字列				シナリオ内で設定
FortigateVersion	文字列				シナリオ内で設定
GroupGUID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
IFIndex	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定
LogicalNWName	文字列				シナリオ内で設定
LoopIndex	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定
Mode	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
NicNo	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
NodeGUID	文字列				リソース予約情報
NodeName	文字列				リソース予約情報
NodeType	文字列				リソース予約情報
ReserveType	文字列				シナリオ内で設定
ScriptMapFile	文字列				シナリオ内で設定
Section	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
SoftType	文字列				リソース予約情報
Target	文字列				シナリオ内で設定

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
TemplatePath	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
UUID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
VlanID	文字列				シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.56 PFC 設定

- ・ シナリオ名

SettingPFC

- ・ 処理概要

PFC 装置を設定する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	DevType で分岐		
2	NodeGUID を PFCGUID に設定		
3	Controller の GetResourceCommand で PFC の GUID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
4	GetResourceParameterPFCGUID の実行結果から PFCGUID を取得し設定		
5	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	GetResourceParameter の実行結果から NodeType を取得し設定		
7	GetResourceParameter の実行結果から OfsMap を取得し設定		
8	GetResourceParameter の実行結果から DevType を取得し設定		
9	GetResourceParameter の実行結果から DomainFlag を取得し設定		
10	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
11	GetResourceParameterNodeName の実行結果から NodeName を取得し設定		
12	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
13	GetReserveInfo の実行結果から ReserveType を取得し設定		
14	DevType で分岐		
15	Mode で分岐		
16	Mode に "Delete"を設定		
17	Section に "UNSET_OFSMAP_PORTBASE DELETE_VLINK DELETE_VIF_VEX DELETE_VEX DELETE_VIF_VBR"を 設定		
18	TransOpt に "-loopsection UNSET_OFSMAP_PORTBASE DELETE_VLINK DELETE_VIF_VEX DELETE_VEX DELETE_VIF_VBR - sectloopobj VEX_NAME VIF_VBR_NAME VLINK_NAME VIF_VEX_NAME PORT_NAME" を設 定		
19	Mode に "Create"を設定		
20	Section に "CREATE_VIF_VBR CREATE_VEX CREATE_VIF_VEX		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
	CREATE_VLINK SET_OFSMAP_PORTBASE"を設定		
21	TransOpt に "-loopsection CREATE_VIF_VBR CREATE_VEX CREATE_VIF_VEX CREATE_VLINK SET_OFSMAP_PORTBASE - sectloopobj VEX_NAME VIF_VBR_NAME VLINK_NAME VIF_VEX_NAME PORT_NAME" を設定		
22	Mode で分岐		
23	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
24	GetSubDomainGUID の実行結果から SubDomainGUID を取得し設定		
25	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
26	GetDefaultDomainFlag の実行結果から DefaultDomainFlag を取得し設定		
27	DevType に "SUBDOMAIN" 設定		
28	Section で分岐		
29	SubDomainGUID で分岐		
30	Section に "UNSET_VLANMAP_SUBDOMAIN %&&Section%" を設定		
31	TransOpt に "-loopsection UNSET_VLANMAP_SUBDOMAIN - sectloopobj SUBDOMAIN_NAME VLANMAP_ID" を設定		
32	LoopIndex で分岐		
33	OfsMap で分岐		
34	Section に "DELETE_VLINK DELETE_VEX DELETE_VBR" を設定		
35	TransOpt に "-loopsection DELETE_VLINK DELETE_VEX - sectloopobj VEX_NAME VLINK_NAME" を設定		
36	Mode で分岐		
37	Section に "CREATE_VTN CREATE_VTN CREATE_VBR"" を設定		
38	Section に "" を設定		
39	DeviceType で分岐		
40	DefaultDomainFlag で分岐		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
41	Section に "%&&Section% SET_VTN_OFS_DOMAIN SET_VLANMAP_SUBDOMAIN" を設定		
42	Section に "%&&Section% SET_VLANMAP_SUBDOMAIN" を設定		
43	Section に "%&&Section% SET_VLANMAP" を設定		
44	LoopIndex で分岐		
45	OfsMap で分岐		
46	Section に "%&&Section% SET_VTN_OFS_DOMAIN SET_VLANMAP_SUBDOMAIN" を設定		
47	TransOpt に "-loopsection CREATE_VIF_VBR CREATE_VEX CREATE_VIF_VEX CREATE_VLINK SET_OFSMAP_TRUNK -sectloopobj VEX_NAME VIF_VBR_NAME VLINK_NAME VIF_VEX_NAME TRUNK_PORT" を設定		
48	Section で分岐		
49	Controller の translation を実行し、設定スクリプトを作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
50	Controller の RunCommand を実行し、設定スクリプトを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
51	RunScript の終了コードで分岐		
52	ReserveType で分岐		
53	エラー情報を送信		
54	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
55	VlanMap ファイルの有無を確認		
56	CheckVlanMapFile の終了コードで分岐		
57	VlanMap ファイルを GM へ転送	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
58	ログファイルを GM に転送	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
59	予約 ID のファイルを削除する。		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
DefaultDomainFlag	文字列				シナリオ内で設定
DevType	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
ErrorFlag	文字列				シナリオ内で設定
GroupGUID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
LoopIndex	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定
Mode	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
NodeGUID	文字列				シナリオ内で設定
NodeName	文字列				シナリオ内で設定
NodeType	文字列				シナリオ内で設定
OfsMap	文字列				シナリオ内で設定
PFCGUID	文字列				シナリオ内で設定
PFS_SubDomainIndex	文字列		0	入力	呼び出し元シナリオで設定
ReserveType	文字列				シナリオ内で設定
Section	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
SubDomainGUID	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
TransOpt	文字列				シナリオ内で設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.57 LB 設定

- ・ シナリオ名

SettingLB

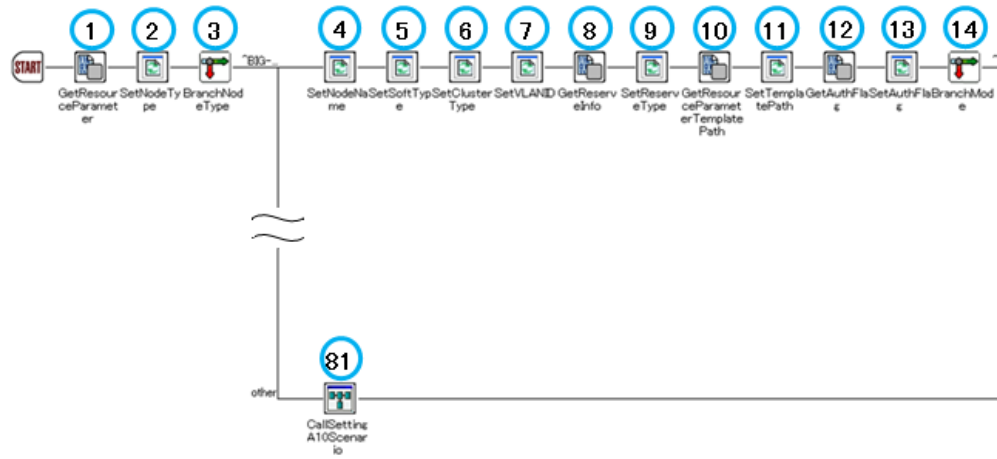
- ・ 処理概要

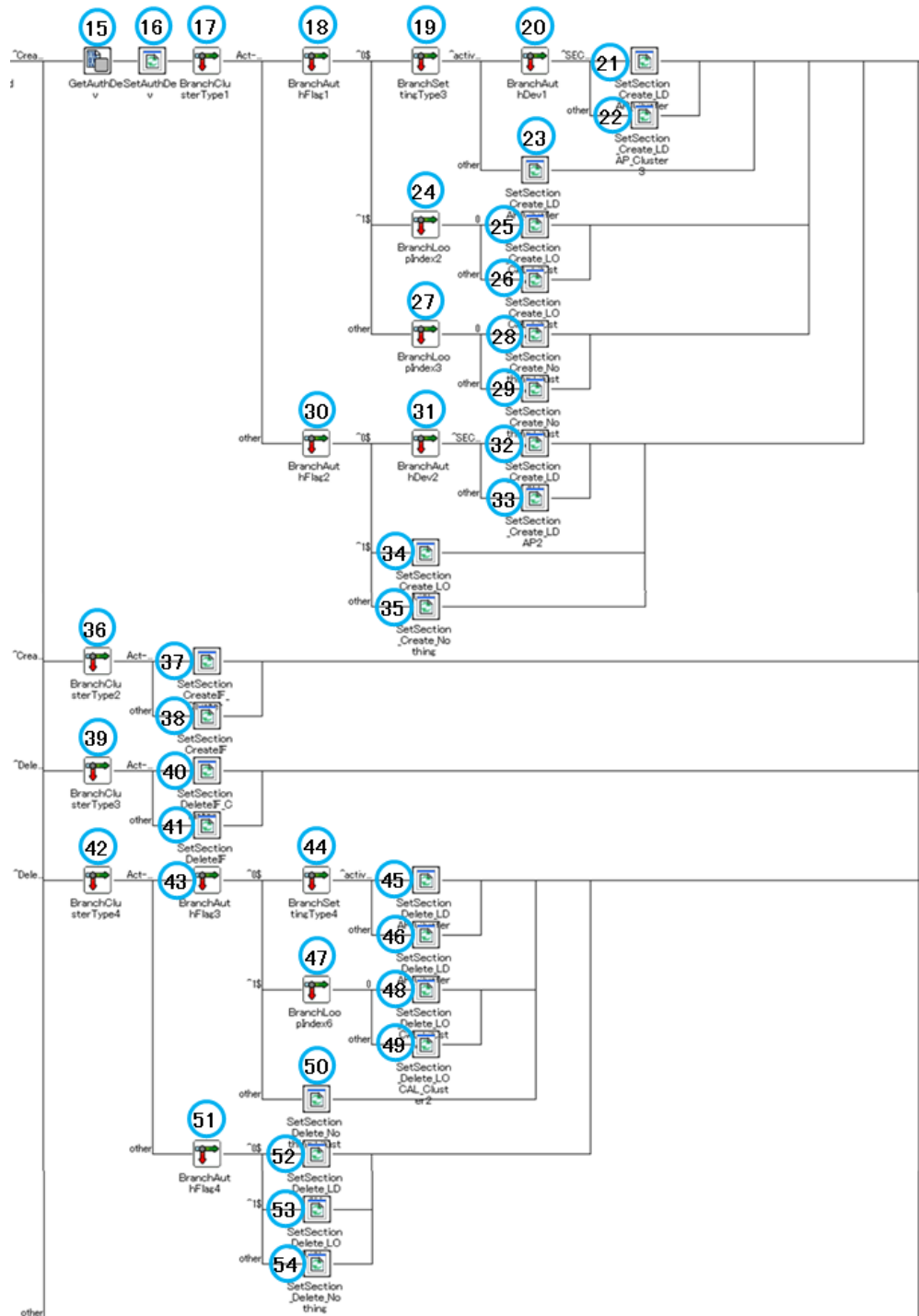
LB 装置を設定する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図





部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
12	Controller の GetResourceCommand を実行して LBAuthFlag を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
13	GetAuthFlag の実行結果から AuthFlag を取得し設定		
14	ローカルオブジェクト Mode で分岐		
15	Controller の GetResourceCommand を実行して NV_DN_NAME を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
16	GetAuthDev の実行結果から AuthDev を取得し設定		
17	ローカルオブジェクト ClusterType で分岐		
18	ローカルオブジェクト AuthFlag で分岐		
19	ローカルオブジェクト SettingType で分岐		
20	ローカルオブジェクト AuthDev で分岐		
21	Section に CREATE_PARTITION_RED CREATE_ACCOUNT_LDAP_SM を設定		
22	Section に CREATE_PARTITION_RED CREATE_ACCOUNT_LDAP を設定		
23	Section に CREATE_PARTITION_RED を設定		
24	ローカルオブジェクト LoopIndex で分岐		
25	Section に CREATE_PARTITION_RED CREATE_ACCOUNT_LOCAL を設定		
26	Section に CREATE_PARTITION_RED を設定		
27	ローカルオブジェクト LoopIndex で分岐		
28	Section に CREATE_PARTITION_RED を設定		
29	Section に CREATE_PARTITION_RED を設定		
30	ローカルオブジェクト AuthFlag で分岐		
31	ローカルオブジェクト AuthDev で分岐		
32	Section に CREATE_PARTITION CREATE_ACCOUNT_LDAP_SM を設定		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
33	Section に CREATE_PARTITION CREATE_ACCOUNT_LDAP を設定		
34	Section に CREATE_PARTITION CREATE_ACCOUNT_LDAP を設定		
35	Section に CREATE_PARTITION を設定		
36	ローカルオブジェクト ClusterType で分岐		
37	Section に CREATE_VIF SET_IPV4_ADDRESS_RED を設定		
38	Section に CREATE_VIF SET_IPV4_ADDRESS を設定		
39	ローカルオブジェクト ClusterType で分岐		
40	Section に UNSET_IPV4_ADDRESS_RED DELETE_VIF を設定		
41	Section に UNSET_IPV4_ADDRESS DELETE_VIF を設定		
42	ローカルオブジェクト ClusterType で分岐		
43	ローカルオブジェクト AuthFlag で分岐		
44	ローカルオブジェクト SettingType で分岐		
45	Section に DELETE_ACCOUNT_LDAP DELETE_PARTITION を設定		
46	Section に DELETE_PARTITION を設定		
47	ローカルオブジェクト LoopIndex で分岐		
48	Section に DELETE_ACCOUNT_LOCAL DELETE_PARTITION を設定		
49	Section に DELETE_PARTITION を設定		
50	Section に DELETE_PARTITION を設定		
51	ローカルオブジェクト AuthFlag で分岐		
52	Section に DELETE_ACCOUNT_LDAP DELETE_PARTITION を設定		
53	Section に DELETE_ACCOUNT_LOCAL DELETE_PARTITION を設定		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
54	Secrtion に DELETE_PARTITION を設定		
55	ローカルオブジェクト SoftType で分岐		
56	ローカルオブジェクト TemplatePath で分岐		
57	Controller の translation を実行し、設定スクリプトを作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
58	Controller の translation を実行し、設定スクリプトを作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
59	Target に nv を設定		
60	ローカルオブジェクト TemplatePath で分岐		
61	ユーザ定義用		
62	ユーザ定義用		
63	Target に na を設定		
64	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
65	Controller の RunCommand を実行し、設定スクリプトを実行	継続実行	
66	RunScript の実行結果を DeviceClusterType に取得		
67	RunScript の実行結果により分岐		
68	RunScript の実行結果から ErrorFlag を取得し設定		
69	ローカルオブジェクト ErrorFlag で分岐		
70	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
71	ローカルオブジェクト ClusterType で分岐		
72	SettingType と DeviceClusterType の値を比較する		
73	CheckClusterSkip の実行結果により分岐		
74	ClusterSkipFlag に True を設定		
75	ローカルオブジェクト ClusterSkipFlag で分岐		
76	ローカルオブジェクト ReserveType で分岐		
77	エラー情報を送信		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
78	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390ページ）」を参照
79	実行結果ファイルを GM へ送信	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390ページ）」を参照
80	予約情報ファイルを削除	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390ページ）」を参照
81	LB 設定（A10）シナリオを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390ページ）」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
ACLParam	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
AuthDev	文字列				シナリオ内で設定
AuthFlag	文字列				リソース予約情報
ClusterSkipFlag	文字列		False		シナリオ内で設定
ClusterType	文字列				リソース予約情報
DCResourceReserveID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
DeviceClusterType	文字列		standby		シナリオ内で設定
DevType	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
ErrorFlag	文字列				シナリオ内で設定
GroupGUID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
LoopIndex	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定
Mode	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
NodeGUID	文字列				リソース予約情報
NodeName	文字列				リソース予約情報
NodeType	文字列				リソース予約情報
ReserveType	文字列				シナリオ内で設定
Section	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
SettingType	文字列		active		呼び出し元シナリオで設定
SetupNum	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
SoftType	文字列				リソース予約情報
Target	文字列				シナリオ内で設定
TemplatePath	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
VLANID	文字列				リソース予約情報

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.58 LB(A10)設定

- シナリオ名

SettingLB(A10)

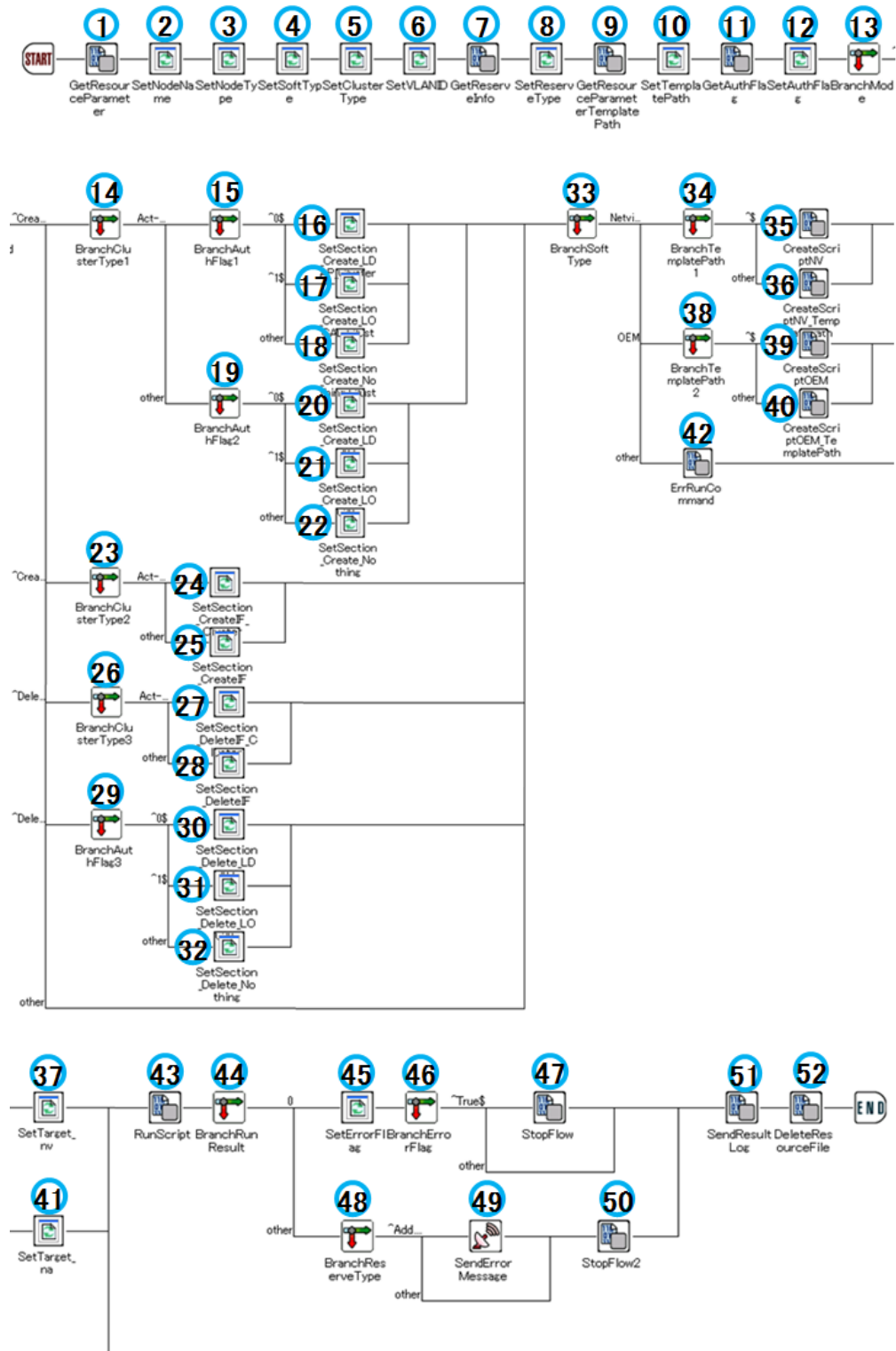
- 処理概要

LB 装置を設定する。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図



• 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
2	GetResourceParameter の実行結果から NodeName を取得し設定		
3	GetResourceParameter の実行結果から NodeType を取得し設定		
4	GetResourceParameter の実行結果から SoftType を取得し設定		
5	GetResourceParameter の実行結果から ClusterType を取得し設定		
6	GetResourceParameter の実行結果から VLANID を取得し設定		
7	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
8	GetReserveInfo の実行結果から ReserveType を取得し設定		
9	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
10	GetResourceParameterTemplatePath の実行結果から TemplatePath を取得し設定		
11	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
12	GetAuthFlag の実行結果から LBAuthFlag を取得し設定		
13	ローカルオブジェクト Mode で分岐		
14	ローカルオブジェクト ClusterType で分岐		
15	ローカルオブジェクト AuthFlag で分岐		
16	Section に CREATE_PARTITION RED CREATE_ACCOUNT_LDAP を設定		
17	Section に CREATE_PARTITION RED CREATE_ACCOUNT_LOCAL を設定		
18	Section に CREATE_PARTITION RED を設定		
19	ローカルオブジェクト AuthFlag で分岐		
20	Section に CREATE_PARTITION CREATE_ACCOUNT_LDAP を設定		
21	Section に CREATE_PARTITION CREATE_ACCOUNT_LOCAL を設定		
22	Section に CREATE_PARTITION を設定		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
23	ローカルオブジェクト ClusterType で分岐		
24	Section に CREATE_VIF SET_IPV4_ADDRESS_RED を設定		
25	Section に CREATE_VIF SET_IPV4_ADDRESS を設定		
26	ローカルオブジェクト ClusterType で分岐		
27	Section に UNSET_IPV4_ADDRESS_RED DELETE_VIF を設定		
28	Section に UNSET_IPV4_ADDRESS DELETE_VIF を設定		
29	ローカルオブジェクト AuthFlag で分岐		
30	Section に DELETE_ACCOUNT_LDAP DELETE_PARTITION を設定		
31	Section に DELETE_ACCOUNT_LOCAL DELETE_PARTITION を設定		
32	Section に DELETE_PARTITION を設定		
33	ローカルオブジェクト SoftType で分岐		
34	ローカルオブジェクト TemplatePath で分岐		
35	Controller の translation を実行し、設定スクリプトを作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
36	Controller の translation を実行し、設定スクリプトを作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
37	Target に nv を設定		
38	ローカルオブジェクト TemplatePath で分岐		
39	Controller の translation を実行し、設定スクリプトを作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
40	Controller の translation を実行し、設定スクリプトを作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
41	Target に na を設定		
42	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
43	Controller の RunCommand を実行し、設定スクリプトを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
44	終了コードで分岐する		
45	RunScript の実行結果から ErrorFlag を取得し設定		
46	ローカルオブジェクト ErrorFlag で分岐		
47	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
48	ローカルオブジェクト ReserveType で分岐		
49	エラーメッセージを送信		
50	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
51	ログファイルを GM に転送	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
52	リソース情報ファイルを削除	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
ACLParam	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
AuthFlag	文字列				リソース予約情報
ClusterType	文字列				リソース予約情報
DCResourceReserveID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
DevType	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
ErrorFlag	文字列				シナリオ内で設定
GroupGUID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
LoopIndex	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定
Mode	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
NodeGUID	文字列				リソース予約情報
NodeName	文字列				リソース予約情報
NodeType	文字列				リソース予約情報
ReserveType	文字列				リソース予約情報
Section	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
SetupNum	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
SoftType	文字列				リソース予約情報

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
Target	文字列				シナリオ内で設定
TemplatePath	文字列				シナリオ内で設定
TenantID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
VLANID	文字列				リソース予約情報

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.59 UNC 設定

- ・ シナリオ名

SettingUNC

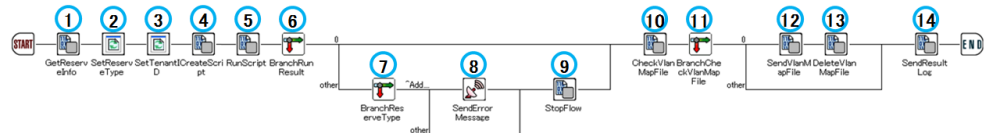
- ・ 処理概要

UNC 装置を設定する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
2	GetReserveInfo の実行結果から ReserveType を取得し設定		
3	GetReserveInfo の実行結果から TenantID を取得し設定		
4	Controller の translation を実行し、設定スクリプトを作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
5	Controller の RunCommand を実行し、設定スクリプトを実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
6	RunScript の実行結果により分岐		
7	ローカルオブジェクト ReserveType により分岐		
8	エラー情報を送信		
9	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
10	予約情報ファイル (VLANMap) の有無を確認		
11	予約情報ファイル (VLANMap) の有無により分岐		
12	予約情報ファイル (VLANMap) を送信	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
13	予約情報ファイル (VLANMap) を削除	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
14	実行結果を返却	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定
IndexStr	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
NodeName	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
NodeType	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
ReplaceStr	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
ReserveType	文字列				リソース予約情報
Section	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
TenantID	文字列				リソース予約情報
TransOpt	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
vLinkName	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
vNodeName	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
VTNName	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.60 SSC 設定

- シナリオ名

SettingSSC

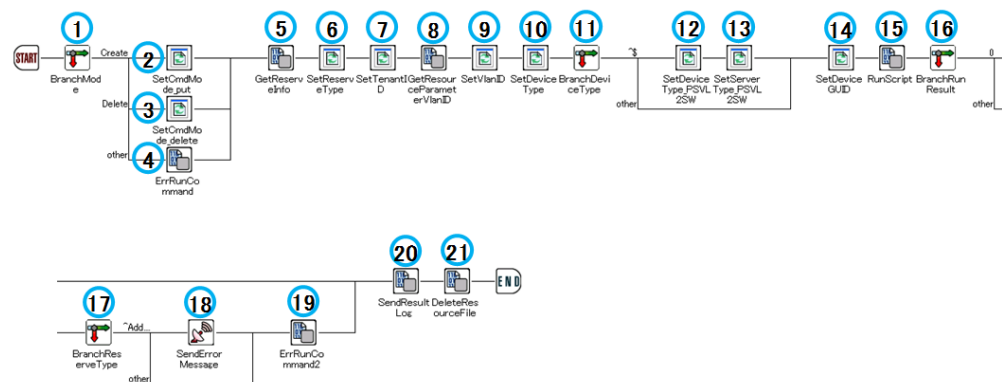
- 処理概要

SSC を設定する。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	Mode で分岐		
2	CmdMode に put を設定		
3	CmdMode に delete を設定		
4	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
5	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	GetReserveInfo の実行結果から ReserveType を取得し設定		
7	GetReserveInfo の実行結果から TenantID を取得し設定		
8	Controller の GetResourceCommand を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	GetResourceParameterVlanID の実行結果から VlanID を取得し設定		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
10	GetResourceParameterVlanID の実行結果から DeviceType を取得し設定		
11	DeviceType で分岐		
12	DeviceType を PSVL2SW に設定		
13	ServerType を PSVL2SW に設定		
14	ローカルオブジェクト DeviceGUID に%&&NodeGUID%を設定		
15	Controller の SSCTRunCommand を実行	継続実行	
16	終了コードで分岐する		
17	ローカルオブジェクト ReserveType により分岐		
18	エラー情報を送信		
19	必ず異常終了する部品を配置	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
20	ログファイルを GM に転送	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
21	リソース情報ファイルを削除		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
CmdMode	文字列				シナリオ内で設定
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定
DeviceGUID	文字列				シナリオ内で設定
DeviceType	文字列				シナリオ内で設定
Mode	文字列	○		入力	呼び出し元シナリオで設定
NodeGUID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
ReserveType	文字列				リソース予約情報
ServerType	文字列		ESX		シナリオ内で設定
TenantID	文字列				リソース予約情報
VlanID	文字列				リソース予約情報

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.61 経路情報設定

- シナリオ名

SettingRoute

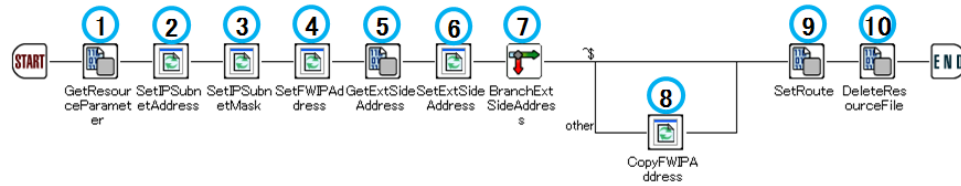
- 処理概要

MoM の経路情報（Route）を設定する。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
2	GetResourceParameter の実行結果から IPSubnetAddress を取得し設定		
3	GetResourceParameter の実行結果から IPSubnetMask を取得し設定		
4	GetResourceParameter の実行結果から FWIPAddress を取得し設定		
5	Controller の GetResourceCommand を実行する	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
6	GetExtSideAddress の実行結果から ExtSideAddress を取得し設定		
7	ローカルオブジェクト ExtSideAddress で分岐		
8	ExtSideAddress をローカルオブジェクト FWIPAddress に設定		
9	経路情報を設定	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
10	リソース情報ファイルを削除	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DeviceGUID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
ExtSideAddress	文字列				リソース予約情報
FWIPAddress	文字列				リソース予約情報
GroupGUID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
IPSubnetAddress	文字列				リソース予約情報
IPSubnetMask	文字列				リソース予約情報
LoopIndex	整数		0	入力	呼び出し元シナリオで設定
Mode	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定
Section	文字列				未使用
TenantID	文字列			入力	呼び出し元シナリオで設定

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.62 テナント FW アドレスグループ設定

- シナリオ名

SettingFWPolicy(AddrGrp)

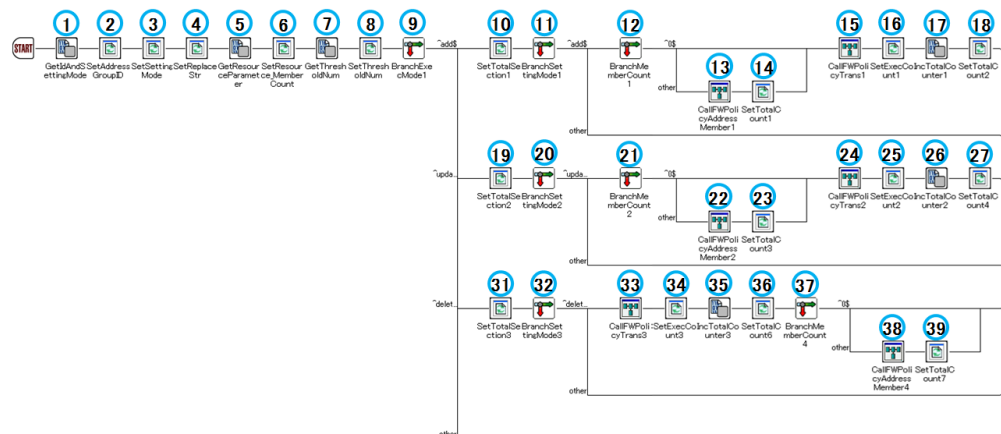
- 処理概要

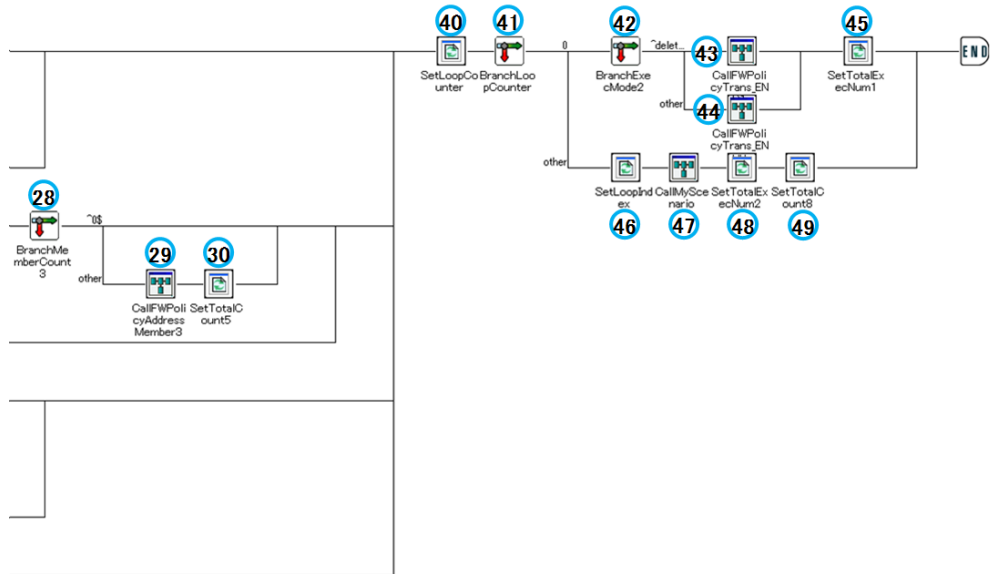
テナント FW にアドレスグループを設定する。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図





• 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	アドレスグループの ID と設定モードを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
2	アドレスグループの ID をローカルオブジェクトに格納		
3	アドレスグループの設定モードをローカルオブジェクトに格納		
4	オプション用文字列を作成		
5	アドレスメンバーのデータ数を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
6	アドレスメンバーのデータ数をローカルオブジェクトに格納		
7	設定用スクリプトの分割を行う閾値を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
8	設定用スクリプトの分割を行う閾値をローカルオブジェクトに格納		
9	シナリオの実行モードを判断		
10	設定用スクリプトの作成モードを追加に設定		
11	アドレスグループの設定を行うか判断		
12	アドレスメンバーの有無を判断		
13	アドレスメンバーの設定用スクリプトを作成(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(AddrMbr)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
14	総設定数のカウンタを更新		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
15	アドレスグループの設定用スクリプトを作成(MoMのサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
16	設定したアドレスグループのデータ数を更新		
17	アドレスグループとアドレスメンバーの総設定数を算出	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
18	総設定数のカウンタを更新		
19	設定用スクリプトの作成モードを更新に設定		
20	アドレスグループの設定を行うか判断		
21	アドレスメンバーの有無を判断		
22	アドレスメンバーの設定用スクリプトを作成(MoMのサブシナリオ SettingFWPolicy(AddrMbr)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
23	総設定数のカウンタを更新		
24	アドレスグループの設定用スクリプトを作成(MoMのサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
25	設定したアドレスグループのデータ数を更新		
26	アドレスグループとアドレスメンバーの総設定数を算出	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
27	総設定数のカウンタを更新		
28	アドレスメンバーの有無を判断		
29	アドレスメンバーの設定用スクリプトを作成(MoMのサブシナリオ SettingFWPolicy(AddrMbr)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
30	総設定数のカウンタを更新		
31	設定用スクリプトの作成モードを削除に設定		
32	アドレスグループの設定を行うか判断		
33	アドレスグループの設定用スクリプトを作成(MoMのサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
34	設定したアドレスグループのデータ数を更新		
35	アドレスグループとアドレスメンバーの総設定数を算出	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
36	総設定数のカウンタを更新		
37	アドレスメンバーの有無を判断		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
38	アドレスメンバーの設定用スクリプトを作成(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(AddrMbr)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
39	総設定数のカウンタを更新		
40	ループカウンタを更新		
41	ループを行うか判断		
42	シナリオの実行モードを判断		
43	設定用スクリプトを削除モードで実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
44	設定用スクリプトを作成モードで実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
45	設定したアドレスグループのデータ数を更新		
46	インデックス値を更新		
47	次のアドレスグループの設定を実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(AddrGrp)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
48	設定したアドレスグループのデータ数を更新		
49	総設定数のカウンタを更新		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
AddressGroupId	文字列				アドレスグループの ID。シナリオ内で設定。
AddressMemberNum	文字列				アドレスメンバーのデータ数。シナリオ内で設定。
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	DC リソースの予約 ID。呼び出し元シナリオで設定。
ExecCount	整数		0	入力	設定したアドレスグループのデータ数。呼び出し元シナリオで設定、シナリオ内で更新。
ExecMode	文字列	○		入力	シナリオの実行モード。呼び出し元シナリオで設定。
LoopCounter	整数	○	0	入力	ループ用カウンタ。呼び出し元シナリオで設定、シナリオ内で更新。
LoopIndex	整数		0	入力	ループ用インデックス。呼び出し元シナリオで設定、シナリオ内で更新。
ReplaceStr	文字列				内部処理用。シナリオ内で設定。
SettingMode	文字列				アドレスグループ毎の設定モード。シナリオ内で設定。

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
TenantID	文字列	○		入力	テナント ID。呼び出し元シナリオで設定。
ThresholdNum	文字列				設定用スクリプトの分割を行う閾値。シナリオ内で設定。
TotalCount	文字列		0		アドレスグループとアドレスメンバーの設定したデータの合計数。シナリオ内で設定。
TotalExecNum	文字列		0		設定したアドレスグループのデータ数。シナリオ内で設定。
TotalSectionName	文字列				内部処理用。シナリオ内で設定。

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.63 テナント FW アドレスメンバー設定

- シナリオ名

SettingFWPolicy(AddrMbr)

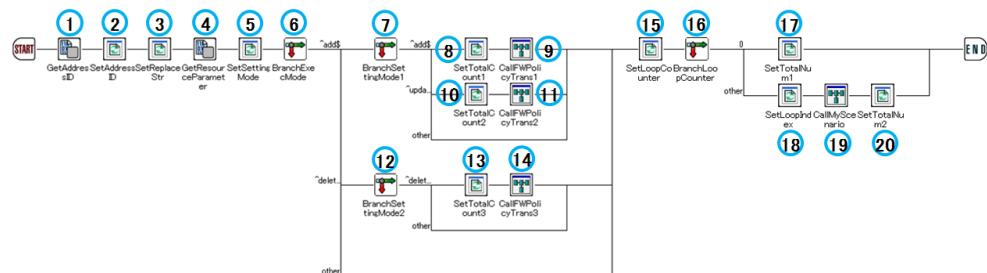
- 処理概要

テナント FW にアドレスメンバーを設定する。

- 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	アドレスメンバーの ID を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
2	アドレスメンバーの ID をローカルオブジェクトに格納		
3	オプション用文字列を作成		
4	アドレスメンバーの設定モードを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
5	アドレスメンバーの設定モードをローカルオブジェクトに格納		
6	シナリオの実行モードを判断		
7	アドレスメンバーの設定を行うか判断		
8	設定用スクリプトの作成モードを追加に設定		
9	アドレスメンバーの設定用スクリプトを作成(MoM の SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
10	設定用スクリプトの作成モードを更新に設定		
11	アドレスメンバーの設定用スクリプトを作成(MoM の SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
12	アドレスメンバーの設定を行うか判断		
13	設定用スクリプトの作成モードを削除に設定		
14	アドレスメンバーの設定用スクリプトを作成(MoM の SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
15	ループカウンタを更新		
16	ループを行うか判断		
17	設定したアドレスメンバーのデータ数を更新		
18	インデックス値を更新		
19	次のアドレスメンバーの設定を実行 (MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(AddrMbr)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
20	設定したアドレスメンバーのデータ数を更新		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
AddressId	文字列				アドレスメンバーの ID。シナリオ内で設定。
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	DC リソースの予約 ID。呼び出し元シナリオで設定。

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
EndSectionName	文字列	○		入力	内部処理用。呼び出し元シナリオで設定。
ExecMode	文字列	○		入力	シナリオの実行モード。呼び出し元シナリオで設定。
GroupID	文字列	○		入力	アドレスグループの ID。呼び出し元シナリオで設定。
LoopCounter	整数	○	0	入力	ループ用カウンタ。呼び出し元シナリオで設定、シナリオ内で更新。
LoopIndex	整数		0	入力	ループ用インデックス。呼び出し元シナリオで設定、シナリオ内で更新。
PLoopIndex	整数		0	入力	アドレスグループ側のインデックス。呼び出し元シナリオで設定。
ReplaceStr	文字列				内部処理用。シナリオ内で設定。
SettingMode	文字列				アドレスメンバー毎の設定モード。シナリオ内で設定。
TenantID	文字列	○		入力	テナント ID。呼び出し元シナリオで設定。
ThresholdNum	文字列	○		入力	設定用スクリプトの分割を行う閾値。呼び出し元シナリオで設定。
TotalCount	整数		0	入力	アドレスグループとアドレスメンバーの設定したデータの合計数。呼び出し元シナリオで設定。
TotalNum	文字列		0		設定したアドレスメンバーのデータ数。シナリオ内で設定。
TotalSectionName	文字列	○		入力	内部処理用。呼び出し元シナリオで設定。

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.64 テナント FW サービス設定

- ・ シナリオ名

SettingFWPolicy(Service)

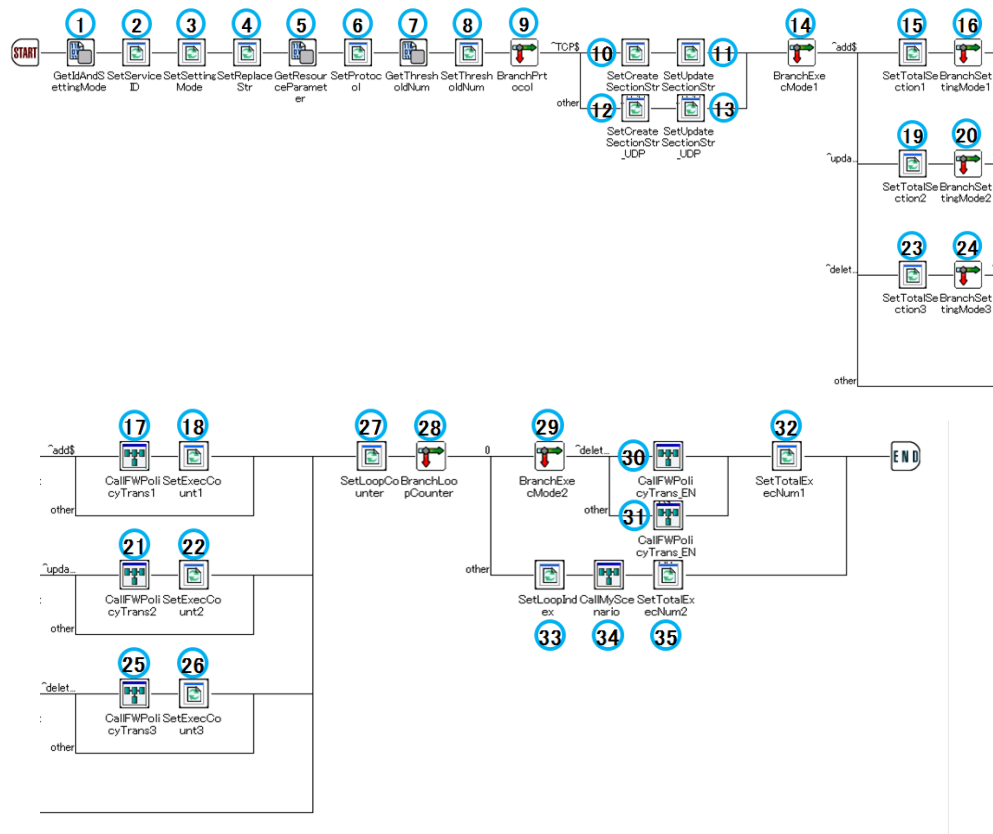
- ・ 処理概要

テナント FW にサービス設定を設定する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

・ フロー図



・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	サービスの ID と設定モードを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
2	サービスの ID をローカルオブジェクトに格納		
3	サービスの設定モードをローカルオブジェクトに格納		
4	オプション用文字列を作成		
5	プロトコル種別(TCP/UDP)を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
6	プロトコル種別(TCP/UDP)をローカルオブジェクトに格納		
7	設定用スクリプトの分割を行う閾値を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
8	設定用スクリプトの分割を行う閾値をローカルオブジェクトに格納		
9	プロトコル種別を判断		
10	サービスで使用するプロトコルを設定		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
11			
12			
13			
14	シナリオの実行モードを判断		
15	設定用スクリプトの作成モードを追加に設定		
16	サービスの設定を行うか判断		
17	サービスの設定用スクリプトを作成 (MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
18	設定したサービスのデータ数を更新		
19	設定用スクリプトの作成モードを更新に設定		
20	サービスの設定を行うか判断		
21	サービスの設定用スクリプトを作成 (MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
22	設定したサービスのデータ数を更新		
23	設定用スクリプトの作成モードを削除に設定		
24	サービスの設定を行うか判断		
25	サービスの設定用スクリプトを作成 (MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
26	設定したサービスのデータ数を更新		
27	ループカウンタを更新		
28	ループを行うか判断		
29	シナリオの実行モードを判断		
30	設定用スクリプトを削除モードで実行 (MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
31	設定用スクリプトを作成モードで実行 (MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
32	設定したサービスのデータ数を更新		
33	インデックス値を更新		
34	次のサービスの設定を実行 (MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Service)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
35	設定したサービスのデータ数を更新		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
CreateSectionStr	文字列				内部処理用。シナリオ内で設定。
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	DC リソースの予約 ID。呼び出し元シナリオで設定。
ExecCount	整数		0	入力	設定したサービスのデータ数。呼び出し元シナリオで設定、シナリオ内で更新。
ExecMode	文字列	○		入力	シナリオの実行モード。呼び出し元シナリオで設定。
LoopCounter	整数	○	0	入力	ループ用カウンタ。呼び出し元シナリオで設定、シナリオ内で更新。
LoopIndex	整数		0	入力	ループ用インデックス。呼び出し元シナリオで設定、シナリオ内で更新。
Protocol	文字列				プロトコル種別(TCP/UDP)。シナリオ内で設定。
ReplaceStr	文字列				内部処理用。シナリオ内で設定。
ServiceId	文字列				サービスの ID。シナリオ内で設定。
SettingMode	文字列				サービス毎の設定モード。シナリオ内で設定。
TenantID	文字列	○		入力	テナント ID。呼び出し元シナリオで設定。
ThresholdNum	文字列				設定用スクリプトの分割を行う閾値。シナリオ内で設定。
TotalExecNum	文字列		0		設定したサービスのデータ数。シナリオ内で設定。
TotalSectionName	文字列				内部処理用。シナリオ内で設定。
UpdateSectionStr	文字列				内部処理用。シナリオ内で設定。

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.65 テナント FW 経路情報設定

- ・ シナリオ名

SettingFWPolicy(Route)

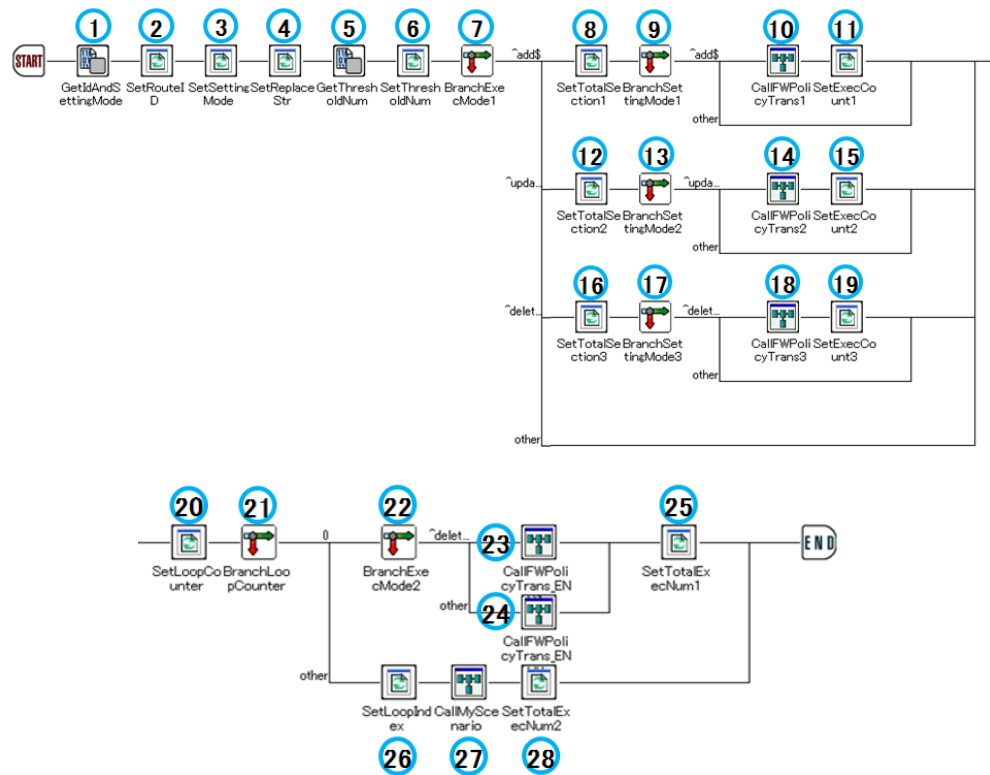
- ・ 処理概要

テナント FW に経路情報を設定する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	経路情報の ID と設定モードを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
2	経路情報の ID をローカルオブジェクトに格納		
3	経路情報の設定モードをローカルオブジェクトに格納		
4	オプション用文字列を作成		
5	設定用スクリプトの分割を行う閾値を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
6	設定用スクリプトの分割を行う閾値をローカルオブジェクトに格納		
7	シナリオの実行モードを判断		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
8	設定用スクリプトの作成モードを追加に設定		
9	経路情報の設定を行うか判断		
10	経路情報の設定用スクリプトを作成 (MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
11	設定した経路情報のデータ数を更新		
12	設定用スクリプトの作成モードを更新に設定		
13	経路情報の設定を行うか判断		
14	経路情報の設定用スクリプトを作成 (MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
15	設定した経路情報のデータ数を更新		
16	設定用スクリプトの作成モードを削除に設定		
17	経路情報の設定を行うか判断		
18	経路情報の設定用スクリプトを作成 (MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
19	設定した経路情報のデータ数を更新		
20	ループカウンタを更新		
21	ループを行うか判断		
22	シナリオの実行モードを判断		
23	設定用スクリプトを削除モードで実行 (MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
24	設定用スクリプトを作成モードで実行 (MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
25	設定した経路情報のデータ数を更新		
26	インデックス値を更新		
27	次のサービスの設定を実行 (MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Route)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
28	設定した経路情報のデータ数を更新		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	DC リソースの予約 ID。呼び出し元シナリオで設定。
ExecCount	整数		0	入力	設定したサービスのデータ数。呼び出し元シナリオで設定、シナリオ内で更新。

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
ExecMode	文字列	○		入力	シナリオの実行モード。呼び出し元シナリオで設定。
LoopCounter	整数	○	0	入力	ループ用カウンタ。呼び出し元シナリオで設定、シナリオ内で更新。
LoopIndex	整数		0	入力	ループ用インデックス。呼び出し元シナリオで設定、シナリオ内で更新。
ReplaceStr	文字列				内部処理用。シナリオ内で設定。
RouteId	文字列				経路情報の ID。シナリオ内で設定。
SettingMode	文字列				サービス毎の設定モード。シナリオ内で設定。
TenantID	文字列	○		入力	テナント ID。呼び出し元シナリオで設定。
ThresholdNum	文字列				設定用スクリプトの分割を行う閾値。シナリオ内で設定。
TotalExecNum	文字列		0		設定したサービスのデータ数。シナリオ内で設定。
TotalSectionName	文字列				内部処理用。シナリオ内で設定。

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.66 テナント FW NAT 設定

- ・ シナリオ名

SettingFWPolicy(NAT)

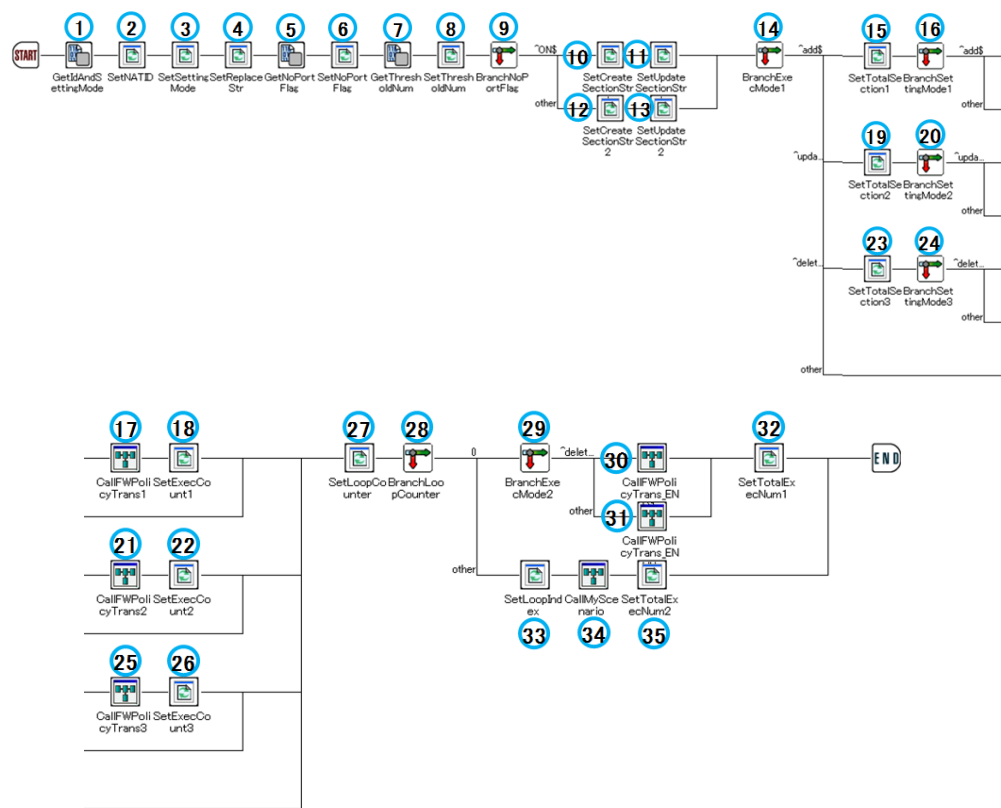
- ・ 処理概要

テナント FW に NAT を設定する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	NAT の ID と設定モードを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
2	NAT の ID をローカルオブジェクトに格納		
3	NAT の設定モードをローカルオブジェクトに格納		
4	オプション用文字列を作成		
5	ポートマップ指定の有無をフラグとして取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
6	ポートマップ指定の有無をローカルオブジェクトに格納		
7	設定用スクリプトの分割を行う閾値を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
8	設定用スクリプトの分割を行う閾値をローカルオブジェクトに格納		
9	ポートマップ指定の有無で判断		
10	NAT の追加処理をポートマップ指定なしに設定		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
11	NAT の更新処理をポートマップ指定なしに設定		
12	NAT の追加処理をポートマップ指定ありに設定		
13	NAT の更新処理をポートマップ指定ありに設定		
14	シナリオの実行モードを判断		
15	設定用スクリプトの作成モードを追加に設定		
16	NAT の設定を行うか判断		
17	NAT の設定用スクリプトを作成 (MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
18	設定した NAT のデータ数を更新		
19	設定用スクリプトの作成モードを更新に設定		
20	NAT の設定を行うか判断		
21	NAT の設定用スクリプトを作成 (MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
22	設定した NAT のデータ数を更新		
23	設定用スクリプトの作成モードを削除に設定		
24	NAT の設定を行うか判断		
25	NAT の設定用スクリプトを作成 (MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
26	設定した NAT のデータ数を更新		
27	ループカウンタを更新		
28	ループを行うか判断		
29	シナリオの実行モードを判断		
30	設定用スクリプトを削除モードで実行 (MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
31	設定用スクリプトを作成モードで実行 (MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
32	設定した NAT のデータ数を更新		
33	インデックス値を更新		
34	次の NAT の設定を実行 (MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(NAT)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
35	設定した NAT のデータ数を更新		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
CreateSectionStr	文字列				内部処理用。シナリオ内で設定。
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	DC リソースの予約 ID。呼び出し元シナリオで設定。
ExecCount	整数		0	入力	設定した NAT のデータ数。呼び出し元シナリオで設定、シナリオ内で更新。
ExecMode	文字列	○		入力	シナリオの実行モード。呼び出し元シナリオで設定。
LoopCounter	整数	○	0	入力	ループ用カウンタ。呼び出し元シナリオで設定、シナリオ内で更新。
LoopIndex	整数		0	入力	ループ用インデックス。呼び出し元シナリオで設定、シナリオ内で更新。
NATId	文字列				NAT の ID。シナリオ内で設定。
NoPortFlag	文字列				ポートマップ指定の有無を管理するフラグ。シナリオ内で設定。
ReplaceStr	文字列				内部処理用。シナリオ内で設定。
SettingMode	文字列				NAT 毎の設定モード。シナリオ内で設定。
TenantID	文字列	○		入力	テナント ID。呼び出し元シナリオで設定。
ThresholdNum	文字列				設定用スクリプトの分割を行う閾値。シナリオ内で設定。
TotalExecNum	文字列		0		設定したサービスのデータ数。シナリオ内で設定。
TotalSectionName	文字列				内部処理用。シナリオ内で設定。
UpdateSectionStr	文字列				内部処理用。シナリオ内で設定。

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.67 テナント FW ポリシールール設定

- ・ シナリオ名

SettingFWPolicy(Rule)

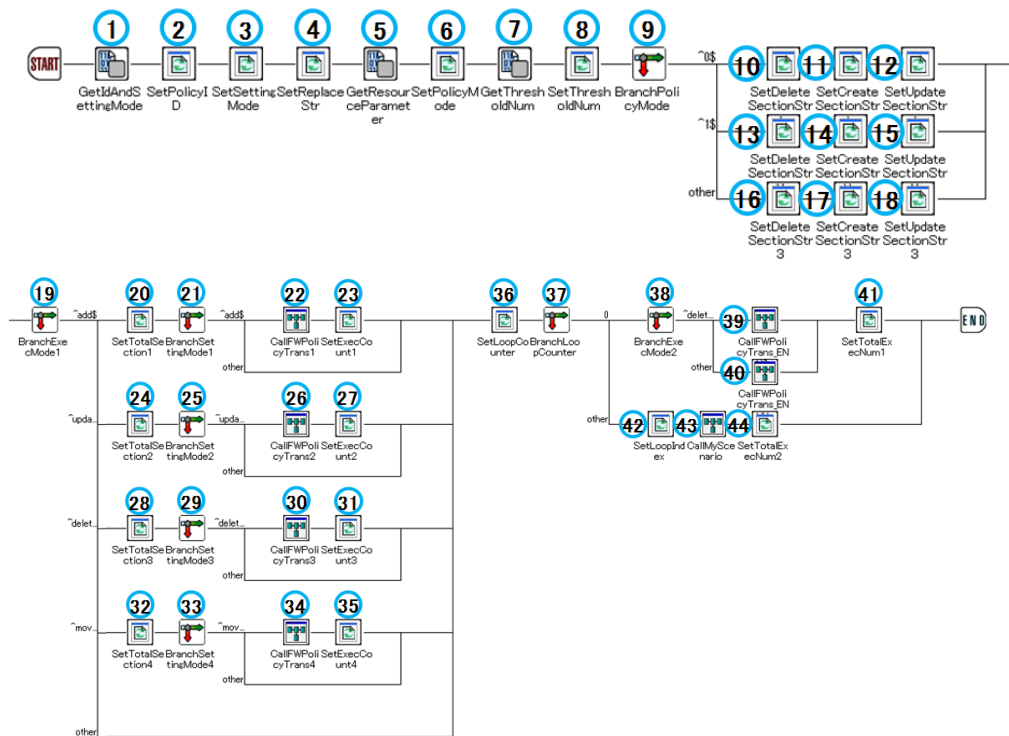
- ・ 処理概要

テナント FW にポリシールールを設定する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

・ フロー図



・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	ポリシールールの ID と設定モードを取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
2	ポリシールールの ID をローカルオブジェクトに格納		
3	ポリシールールの設定モードをローカルオブジェクトに格納		
4	オプション用文字列を作成		
5	ポリシールールの種別を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
6	ポリシールールの種別をローカルオブジェクトに格納		
7	設定用スクリプトの分割を行う閾値を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法（390 ページ）」を参照
8	設定用スクリプトの分割を行う閾値をローカルオブジェクトに格納		
9	ポリシールールの種別で判断		
10	ポリシールールの処理内容を設定		
11			
12			

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19	シナリオの実行モードを判断		
20	設定用スクリプトの作成モードを追加に設定		
21	ポリシーールの設定を行うか判断		
22	ポリシーールの設定用スクリプトを作成(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
23	設定したポリシーールのデータ数を更新		
24	設定用スクリプトの作成モードを更新に設定		
25	ポリシーールの設定を行うか判断		
26	ポリシーールの設定用スクリプトを作成(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
27	設定したポリシーールのデータ数を更新		
28	設定用スクリプトの作成モードを削除に設定		
29	ポリシーールの設定を行うか判断		
30	ポリシーールの設定用スクリプトを作成(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
31	設定したポリシーールのデータ数を更新		
32	設定用スクリプトの作成モードを優先度変更に設定		
33	ポリシーールの設定を行うか判断		
34	ポリシーールの設定用スクリプトを作成(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
35	設定したポリシーールのデータ数を更新		
36	ループカウンタを更新		
37	ループを行うか判断		
38	シナリオの実行モードを判断		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
39	設定用スクリプトを削除モードで実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
40	設定用スクリプトを作成モードで実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Sub)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
41	設定したポリシーールのデータ数を更新		
42	インデックス値を更新		
43	次のポリシーールの設定を実行(MoM のサブシナリオ SettingFWPolicy(Rule)を実行)	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
44	設定したサービスのデータ数を更新		

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須 ^{*1}	初期値	入出力	説明
CreateSectionStr	文字列				内部処理用。シナリオ内で設定。
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	DC リソースの予約 ID。呼び出し元シナリオで設定。
DeleteSectionStr	文字列				内部処理用。シナリオ内で設定。
ExecCount	整数		0	入力	設定したポリシーールのデータ数。呼び出し元シナリオで設定、シナリオ内で更新。
ExecMode	文字列	○		入力	シナリオの実行モード。呼び出し元シナリオで設定。
LoopCounter	整数	○	0	入力	ループ用カウンタ。呼び出し元シナリオで設定、シナリオ内で更新。
LoopIndex	整数		0	入力	ループ用インデックス。呼び出し元シナリオで設定、シナリオ内で更新。
PolicyId	文字列				ポリシーールの ID。シナリオ内で設定。
PolicyMode	文字列				ポリシーールの種別。シナリオ内で設定。
ReplaceStr	文字列				内部処理用。シナリオ内で設定。
SettingMode	文字列				サービス毎の設定モード。シナリオ内で設定。
TenantID	文字列	○		入力	テナント ID。呼び出し元シナリオで設定。
ThresholdNum	文字列				設定用スクリプトの分割を行う閾値。シナリオ内で設定。
TotalExecNum	文字列		0		設定したサービスのデータ数。シナリオ内で設定。
TotalSectionName	文字列				内部処理用。シナリオ内で設定。
UpdateSectionStr	文字列				内部処理用。シナリオ内で設定。

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.68 テナント FW ポリシー設定(Sub)

- ・ シナリオ名

SettingFWPolicy(Sub)

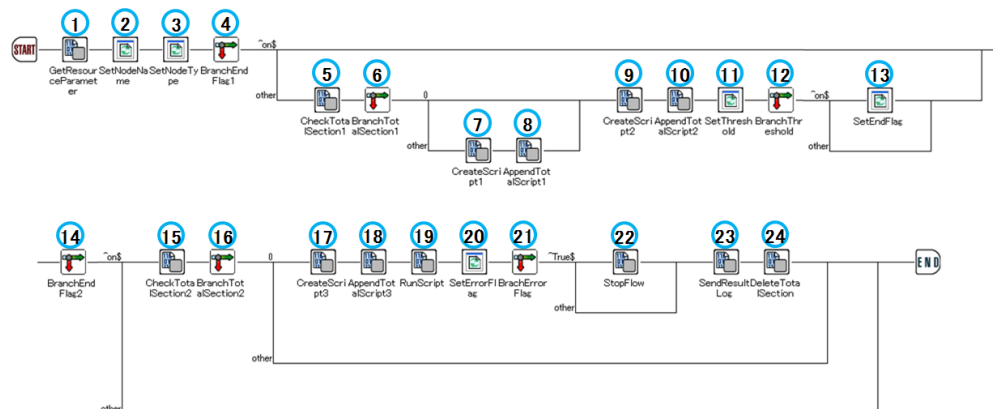
- ・ 処理概要

テナント FW にポリシーを設定する。

- ・ 実行条件

本シナリオの要求するパラメータがすべてシナリオ実行時に引数として与えられること。

- ・ フロー図



- ・ 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	装置名、装置種別を取得	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
2	装置名をローカルオブジェクトに格納		
3	装置種別をローカルオブジェクトに格納		
4	設定用スクリプトの作成が終了したか判断		
5	設定用スクリプト(マスタ)の存在確認		
6	設定用スクリプト(マスタ)を作成するか判断		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
7	設定用スクリプト(サブ)を作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
8	設定用スクリプト(サブ)を元に、設定用スクリプト(マスタ)を作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
9	設定用スクリプト(サブ)を作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
10	設定用スクリプト(サブ)を設定用スクリプト(マスタ)に統合	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
11	設定用スクリプトの分割実施フラグをローカルオブジェクトに格納		
12	設定用スクリプトを分割するか判断		
13	設定実行フラグを有効化		
14	設定実行フラグで判断		
15	設定用スクリプト(マスタ)の存在確認		
16	設定を実行するか判断		
17	設定用スクリプト(サブ)を作成	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
18	設定用スクリプト(サブ)を設定用スクリプト(マスタ)に統合	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
19	設定を実行	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
20	エラーフラグを取得		
21	エラーの有無を判断		
22	部品の強制終了※設定に失敗した場合、強制終了	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
23	実行結果ログを広域管理サーバに転送	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照
24	リソース予約情報ファイルを削除	フロー停止	「3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法 (390 ページ)」を参照

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DCResourceReserveID	文字列	○		入力	DC リソースの予約 ID。呼び出し元シナリオで設定。

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
EndFlag	文字列			入力	装置への設定を行うか判定するフラグ。呼び出し元シナリオ、もしくはシナリオ内で設定。
EndSectionName	文字列	○		入力	内部処理用。呼び出し元シナリオで設定。
ErrorFlag	文字列				装置設定のエラー有無を判定するフラグ。シナリオ内で設定。
HeadSectionName	文字列	○		入力	内部処理用。呼び出し元シナリオで設定。
LoopIndex	文字列	○		入力	ループ用インデックス。呼び出し元シナリオで設定。
NodeName	文字列				装置名。シナリオ内で設定。
NodeType	文字列				装置種別。シナリオ内で設定。
PLoopIndex	文字列	○		入力	アドレスグループのインデックス。呼び出し元シナリオで設定。
ReplaceStr	文字列	○		入力	内部処理用。呼び出し元シナリオで設定。
SectionStr	文字列	○		入力	内部処理用。呼び出し元シナリオで設定。
TenantID	文字列	○		入力	テナント ID。呼び出し元シナリオで設定。
Threshold	文字列				設定用スクリプトを分割するか判定するフラグ。シナリオ内で設定。
ThresholdNum	文字列	○		入力	設定用スクリプトの分割を行う閾値。呼び出し元シナリオで設定。
TotalSectionName	文字列	○		入力	内部処理用。呼び出し元シナリオで設定。

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧 なし

3.5.69 ネットワーク機器制御ワークフロー失敗時の対処方法

注

- ・ ネットワーク機器制御ワークフローでは、再実行・継続実行・単一継続実行のシナリオ制御の操作は行わないでください。
- ・ VM 系シナリオでの手動復旧が必要な場合は、「[3-2]障害箇所が NW リソース確保の場合(削除系ワークフロー)」以降の記載を参照してください

ネットワーク機器制御ワークフローは、以下の4段階で実行します。

1. NW リソースの予約(DC リソース管理の設定)

2. シナリオ同時実行待ち合わせ(同一リソースを操作するワークフローの待ち合わせ)
3. NW リソースの確保(NW 機器の設定)
4. NW リソースのコミット(DC リソース管理の設定)

ワークフローの障害箇所によって、ワークフローを再実行する前に、クリーンアップ作業を行う必要があります。対処方法の概要を以下に記載します。

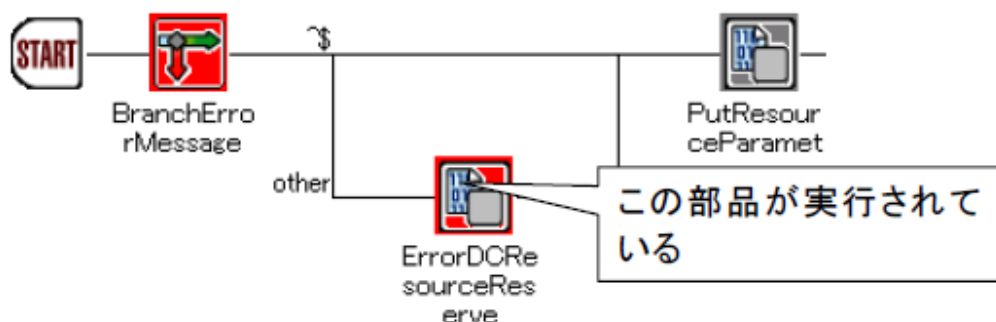
障害箇所	対象ワークフロー	対処方法
NW リソース予約	全ワークフロー	再実行(クリーンアップ作業不要) 1. サービスポータルから再実行
シナリオ同時実行待ち合わせ	全ワークフロー	再実行(クリーンアップ作業不要) 1. サービスポータルからの再実行
NW リソース確保	設定系ワークフロー(物理サーバ用 NW 設定、NAT 設定以外)	下記、「[3-1]障害箇所が NW リソース確保の場合(設定系ワークフロー)」を実施することで再実行(クリーンアップ不要) 1. サービスポータルから再実行
	削除系ワークフロー	クリーンアップ後、再実行 1. 手作業で NW 機器設定をクリア 2. NW リソース予約のキャンセル 3. サービスポータルから再実行
	その他 (上記以外)	手作業でクリーンアップ後、再実行 1. 手作業で NW 機器設定をクリア 2. NW リソース予約のキャンセル 3. サービスポータルから再実行

対処方法の詳細を以下に記載します。

- ・ [1]障害箇所が NW リソース予約の場合

NW リソースの予約に失敗している場合は、パラメータエラーか、払い出すリソースの不足が原因です。その対処を行えば、クリーンアップ作業を行うことなく、サービスポータルから再実行できます。

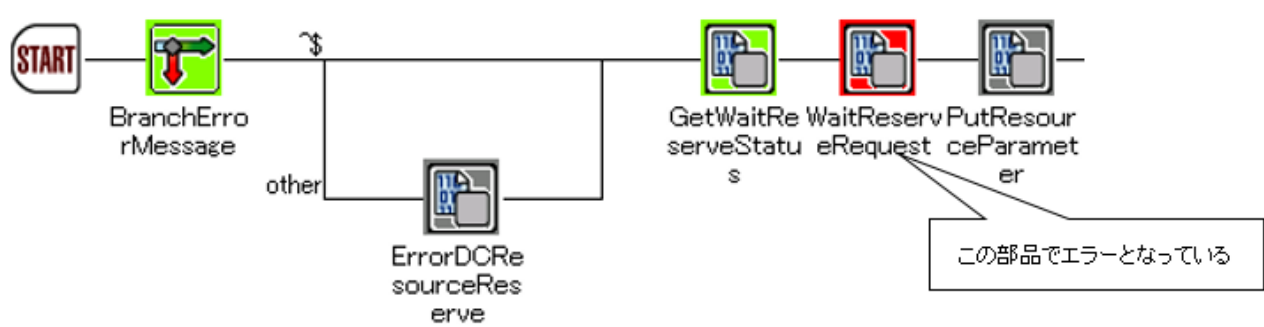
広域管理サーバの[シナリオ制御ビュー]-[Automation]-[Automatic]-[Network]配下のシナリオ実行結果において、シナリオ部品「ErrorDCResourceReserve」で失敗している場合にリソース予約に失敗しています。



・ [2]障害箇所がシナリオ同時実行待ち合わせの場合

シナリオ同時実行待ち合わせ処理で失敗している場合は、先行している シナリオでエラーが発生しているために、処理の継続が行えないことが 原因です。 このため、先行シナリオのエラーに対する対象を行えば、クリーンアップ 作業を行うことなく、サービスポータルから再実行出来ます。

広域管理サーバの[シナリオ制御ビュー]-[Automation]-[Automatic]-[Network]配下の シナリオ実行結果において、シナリオ部品「WaitReserveRequest」で失敗している場合に シナリオ同時実行待ち合わせに失敗しています。



・ [3-1]障害箇所が NW リソース確保の場合(設定系ワークフロー)

以下に示す設定系ワークフローの実行においては、 `nwa_devconfdelete` コマンド (「[3.5.70 nwa_devconfdelete.bat \(394 ページ\)](#)」を参照) を利用することで、クリーンアップ作業を行うことなく、サービスポータルからの再実行が行えます。

以下に、`nwa_devconfdelete` コマンドが対応する設定系ワークフローを示します。

失敗した設定系ワークフロー
テナント NW 作成
VLAN 作成
SSL-VPN 設定
テナント FW 作成
テナント LB 作成
汎用装置作成
DC 間 NW 接続用 VLAN 作成
VM 作成

・ [3-2]障害箇所が NW リソース確保の場合(削除系ワークフロー)

削除系ワークフロー実行において、NW リソースの確保で失敗している場合は、クリーンアップ作業後、サービスポータルから再実行します。 クリーンアップ作業として、「NW リソース予約のキャンセル」を行います。対象となる削除系ワークフローは、下記の通りです。

失敗した削除系ワークフロー
NAT 設定削除

失敗した削除系ワークフロー
テナント LB 削除
物理サーバ用 NW 削除
テナント NW 削除
SSL-VPN 解除
VLAN 削除
VM 削除

1. NW リソース予約のキャンセル

NW リソース予約のキャンセルを行うには、広域管理サーバ上で、コマンドプロンプトを起動後、以下のコマンドを実行します。ここで、<広域管理サーバのインストールパス>を、"C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\GM\FW"とします。

```
> cd /d "C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\GM\FW\Manager\bin\NWAutomation"
> nwa_controller.bat -dccommand -mode cancel -rid <予約 ID> -tid <テナント ID>
```

2. NW リソースの復旧

削除系ワークフローはエラーが発生しても処理を継続するため、ネットワーク機器に設定が残る場合があります。ワークフローが正常終了している場合でも、一部ワークフローでエラーが発生している場合は、内容を確認し手動で削除処理を行ってください。手動で削除する場合は、NW オートメーションが動作していない時に行ってください。

• [3-3]障害箇所が NW リソース確保の場合(その他)

設定系ワークフローや削除系ワークフロー以外のワークフロー実行において、NW リソースの確保で失敗している場合は、クリーンアップ作業後、サービスポータルから再実行します。

クリーンアップ作業として、「手作業で NW 機器設定をクリア」と「NW リソース予約のキャンセル」を行います。対象となるワークフローは、下記の通りです。

その他のワークフロー
物理サーバ用 NW 設定
NAT 設定
テナント FW 更新
テナント LB 更新
テナント FW ポリシー
テナント NW 無効化
テナント NW 有効化
VM 再構成

1. 手作業で NW 機器設定をクリア

対応する削除系のワークフローが存在しないため、事業者がワークフローの実行結果を確認しながら、手作業で機器の設定を変更します。

2. NW リソース予約のキャンセル

NW リソース予約のキャンセルを行うには、広域管理サーバ上で、コマンドプロンプトを起動後、以下のコマンドを実行します。ここで、<広域管理サーバのインストールパス>を、"C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\GM\FW"とします。

```
> cd /d "C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\GM\FW\Manager\bin\NWAutomation"
> nwa_controller.bat -dccommand -mode cancel -rid <予約 ID> -tid <テナント ID>
```

3.5.70 nwa_devconfdelete.bat

nwa_devconfdelete.bat は障害復旧時に、ネットワーク機器や 仮想マシンサーバ上の機器設定を削除するコマンドです。

【実行パス】

広域管理サーバマネージャ

<Install Path>\Manager\bin\NWAutomation\nwa_devconfdelete.bat

「Install Path」は広域管理サーバのインストールパスを示します。

※デフォルトは「C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\GM\FW」です。

【指定方法】

nwa_devconfdelete.bat <予約 ID>

【説明】

指定された予約 ID に紐づくワークフローで作成された機器情報を削除します。ワークフローが失敗した直接原因への対処後に、本コマンドを実行してください。

【引数】

予約 ID

実行に失敗したワークフローの予約 ID を指定します。

【対象ワークフロー】

本コマンドは、下記のワークフロー(および、それを元にカスタマイズされたワークフロー)が失敗したケースにて使用します。

- CreateTenantNW
- SettingSSL-VPN

- CreateVLAN
- CreateTenantFW
- CreateTenantLB
- CreateGeneralDev
- CreateConnectPort
- CreateVM

【戻り値】

表 3-1 戻り値一覧

戻り値	メッセージ	意味
0	Delete command succeeded.	正常終了
1	Error:Illegal parameter error.	引数指定誤り
2	Error: Unknown ReserveID.	予約 ID 指定誤り
3	Error: Invalid request type.	本コマンドの実行対象ワークフロー以外の予約 ID を指定
6	Error: The specified ReserveID is invalid; the scenario working with the ID is not failure.	指定した予約 ID のワークフローは、失敗していない
7	Error: Other process is operating already.	同じ引数を指定したコマンドが実行中
8	Warning: Unsupported MoM.	機器削除を実行しようとした MoM は本コマンドの機能をサポートしていない

上記以外の戻り値が返却された場合は、保守窓口にお問い合わせください。

⚠ 注意

- 本コマンドで削除する対象は、vDCAutomation がプロビジョニングした設定のみです。
- CreateVM の障害復旧を行う場合は、本コマンド実行前に、当該予約 ID で作成された 仮想マシンを削除する必要があります。
- PFC に対する設定でエラーになると、本コマンドは失敗する場合があります。本コマンドでのリカバリに失敗した場合は、手動での復旧を行ってください。

3.5.71 ネットワーク機器制御ワークフローにおけるワークフロー異常終了の監視方法

ネットワーク機器制御ワークフローにおいて、ワークフロー異常終了を通知するためには以下の設定を行う必要があります。

1. メニューの[設定]から[定義モード]をクリックします。
2. vDCA 画面左側のツリーから、[ビジネスビュー] - [Unified Management Framework]の配下にある [シナリオ制御] を右クリックし、[フィルタ定義]を選択します。

3. フィルタ定義ダイアログの「追加」ボタンをクリックします。
4. フィルタ項目設定ダイアログの[フィルタ定義]タブにある「メッセージテキスト」欄に、利用しているネットワーク機器に対応したパラメータを設定します。指定する条件には、以下を AND 条件で含める必要があります。

「SettingXXX」ワークフロー中で各ネットワーク機器を制御するシナリオを指定します。装置毎に、指定する条件は下記のようになります。

- UNC : "SettingUNC.*"
- PFC : "SettingPFC.*"
- SSC(vSW) : "SettingSSC.*"
- BIG-IP : "SettingLB.*"
- FortiGate : "SettingGeneralDevice.*"
- AX/Thunder : "SettingLB(A10).*"
- L2SW : "SettingGeneralDevice.*"

また、nwa_devconfdelete コマンド対象のワークフローについては、「メッセージテキスト」欄に以下の設定を行うことで、エラーとなったワークフローの情報を取得することができます。

- "Device provisioning Error.*"

5. [リカバリ定義]タブに切り替え、「通報指定」にチェックを入れます。
6. 「通報設定」ボタンをクリックします。
7. [パトライト通報]、[電子メール通報]、[アクション通報]の中から使用する通報機能を選択し設定を行います。通報機能については WebSAM MCOperations のヘルプファイルをご参照ください。
8. 通報設定ダイアログの「OK」ボタンをクリックします。
9. フィルタ項目設定ダイアログの「OK」ボタンをクリックします。
10. フィルタ定義ダイアログの「閉じる」ボタンをクリックします。

nwa_devconfdelete コマンド対象シナリオに対して上記の対応を行うと以下のメッセージが通知されます。

```
Device provisioning Error. scenario=<対象シナリオ> rid=<予約 ID>
TenantID=<テナント ID> ScenarioType=<ワークフロータイプ>
Nodetype=<ネットワーク機器のタイプ> NodeName=<ネットワーク機器ノード名>
DeviceType=<機器種別>
```

nwa_devconfdelete コマンドに指定する予約 ID は、上記のメッセージの予約 ID を指定してください。（「[3.5.70 nwa_devconfdelete.bat \(394 ページ\)](#)」を参照）

3.6 ストレージ

本節では、ストレージ機器制御に使用するワークフローテンプレートの詳細について記載します。

3.6.1 ディスクボリュームの削除

- シナリオ名

DeleteDiskVolume

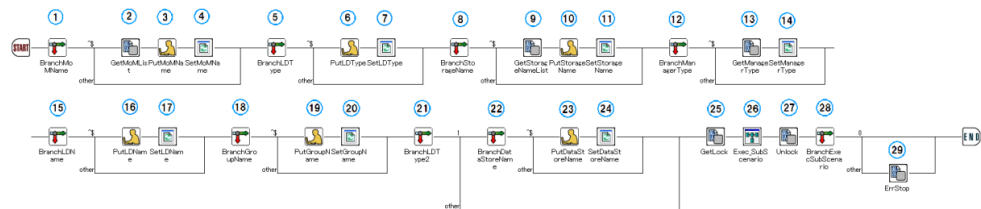
- 処理概要

ディスクボリュームの削除を行う。

- 実行条件

削除対象のディスクボリュームがあること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	MoMName で分岐		
2	CMDB から MoM 一覧の取得	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。
3	GetMoMList の結果を表示し、MoM 名の入力		
4	PutMoMName の入力値を MoMName に設定		
5	LDType で分岐		
6	LD 種別の入力		
7	PutLDType の入力値を LDType に設定		
8	StorageName で分岐		
9	CMDB から Storage 一覧の取得	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。
10	GetStorageNameList の結果を表示し、StorageName の入力		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
11	PutStorageName の入力値を StorageName に設定		
12	ManagerType で分岐		
13	CMDB から Manager 種別の取得	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。
14	GetManagerType の結果を ManagerType に設定		
15	LDName で分岐		
16	LD 名の入力		
17	PutLDName の入力値を LDName に設定		
18	GroupName で分岐		
19	Group 名の入力		
20	PutGroupName の入力値を GroupName に設定		
21	LDType で分岐		
22	DataStoreName で分岐		
23	DataStore 名の入力		
24	PutDataStoreName の入力値を DataStoreName に設定		
25	STAutomation のロックを取得	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。
26	MoM ディスクボリューム削除(Sub)シナリオを実行	継続実行	
27	STAutomation のロックを解除	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。
28	ExecSubScenario の終了コードで分岐		
29	必ず異常終了する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
DataStoreName	文字列			入力	ユーザによる入力（または実行時に登録）
GroupName	文字列			入力	ユーザによる入力（または実行時に登録）
LDName	文字列			入力	ユーザによる入力（または実行時に登録）
LDType	文字列			入力	ユーザによる入力（または実行時に登録）

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
ManagerType	文字列			入力	CMDB から取得
MoMName	文字列			入力	ユーザによる入力（または実行時に登録）
StorageName	文字列			入力	ユーザによる入力（または実行時に登録）

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

なし

3.6.2 RDM 領域の拡張

- シナリオ名

ExpantionRDMVolume

- 処理概要

RDM 領域に使用予定のディスクボリュームを拡張する。

- 実行条件

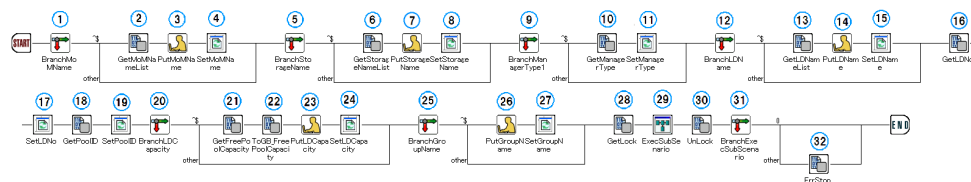
対象のストレージが iStorage であること。

対象のストレージが管理サーバのネットワークビューにディスクアレイ名のノード名で登録され、ログイン設定されていること。

対象のディスクボリュームがペア設定等されず、拡張可能な状態であること。

対象のディスクボリュームが所属するプールに、拡張に必要な空き容量があること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	MoMName で分岐		
2	CMDB から MoM 一覧の取得	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
3	GetMoMList の結果を表示し、MoM 名の入力		
4	PutMoMName の入力値を MoMName に設定		
5	StorageName で分岐		
6	CMDB から Storage 一覧の取得	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
7	GetStorageNameList の結果を表示し、StorageName の入力		
8	PutStorageName の入力値を StorageName に設定		
9	ManagerType で分岐		
10	CMDB から Manager 種別の取得	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
11	GetManagerType の結果を ManagerType に設定		
12	LDName で分岐		
13	CMDB から LD 名一覧の取得	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
14	LD 名の入力		
15	PutLDName の入力値を LDName に設定		
16	CMDB から LD 番号の取得	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
17	GetLDNo の結果を LDNo に設定		
18	CMDB から PoolID の取得	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
19	GetPoolID の結果を PoolID に設定		
20	LDCapacity で分岐		
21	CMDB から Pool の空き容量の取得	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
22	GetFreePoolCapacity の結果を取得し、GB に変換	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
23	GetFreePoolCapacity の結果を表示し、容量の入力		
24	GetLDCapacity の結果を LDCapacity に設定する		
25	GroupName で分岐		
26	グループ名の入力		
27	PutGroupName の結果を GroupName に設定		
28	STAutomation のロックを取得	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
29	MoM の RDM 領域拡張(Sub)シナリオを実行	継続実行	
30	STAutomation のロックを解除	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
31	ExecSubScenario の終了コードで分岐		
32	異常終了	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。

- ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
ManagerType	文字列			入力	CMDB から取得
LDName	文字列			入力	ユーザによる入力（または実行時に登録）
StorageName	文字列			入力	ユーザによる入力（または実行時に登録）
MoMName	文字列			入力	ユーザによる入力（または実行時に登録）
LDCapacity	文字列			入力	ユーザによる入力（または実行時に登録）
LDNo	文字列			入力	CMDB から取得
PoolID	文字列			入力	CMDB から取得
GroupName	文字列			入力	ユーザによる入力（または実行時に登録）

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧 なし

3.6.3 RDM 領域の返却

- シナリオ名

ReturnRDMVolume

- 処理概要

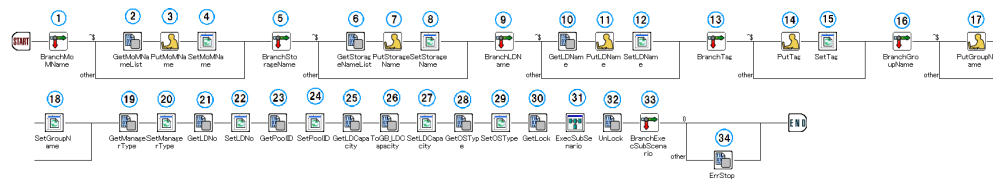
テナント専有の RDM を削除し、指定した入力での再作成を行い、RDM を払い出し可能な状態にする。

- 実行条件

指定した運用グループには、稼働中の仮想マシンサーバ以外の、ホスト、マシン、グループプールのマシンが存在しないこと。

指定したディスクアレイ、及び、SSC は環境構築済みであること。

- フロー図



- 説明

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
1	MoMName で分岐		
2	CMDB から MoM 一覧の取得	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。
3	GetMoMList の結果を表示し、MoM 名の入力		
4	PutMoMName の入力値を MoMName に設定		
5	StorageName で分岐		
6	CMDB から Storage 一覧の取得	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
7	GetStorageNameList の結果を表示し、StorageName の入力		
8	PutStorageName の入力値を StorageName に設定		
9	LDName で分岐		
10	CMDB から LD 名一覧の取得	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
11	LD 名の入力		
12	PutLDName の入力値を LDName に設定		
13	Tag で分岐		
14	Tag 名の入力		
15	PutTag の入力値を Tag に設定		
16	GroupName で分岐		
17	運用グループ名の入力		
18	PutGroupName の入力値を GroupName に設定		
19	CMDB から Manager 種別の取得	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
20	GetManagerType の結果を ManagerType に設定		
21	CMDB から LD 番号の取得	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
22	GetLDNo の結果を LDNo に設定		

部品番号	部品処理	異常時動作	異常終了の原因と対処方法
23	CMDB から PoolID の取得	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
24	GetPoolID の結果を PoolID に設定		
25	CMDB から LD の容量の取得	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
26	GetLDCapacity の結果を取得し、GB に変換	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
27	GetLDCapacity の結果を LDCapacity に設定		
28	CMDB から OS 種別の取得	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
29	GetOSType の結果を OSType に設定		
30	STAutomation のロックを取得する	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
31	MoM の RDM 領域の初期化 (Sub) シナリオを実行	継続実行	
32	STAutomation のロックを解除	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。
33	ExecSubScenario の終了コードで分岐		
34	異常終了	フロー停止	エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。

・ ローカルオブジェクト一覧

変数名	属性	必須*1	初期値	入出力	説明
LDName	文字列			入力	ユーザによる入力（または実行時に登録）
GroupName	文字列			入力	ユーザによる入力（または実行時に登録）
StorageName	文字列			入力	ユーザによる入力（または実行時に登録）
MoMName	文字列			入力	ユーザによる入力（または実行時に登録）
Tag	文字列			入力	ユーザによる入力（または実行時に登録）
ManagerType	文字列			入力	CMDB から取得
LDNo	文字列			入力	CMDB から取得
PoolID	文字列			入力	CMDB から取得
LDCapacity	文字列			入力	CMDB から取得
OSType	文字列			入力	CMDB から取得

*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ## RDM 領域の初期化

- ・ シナリオ名

- 处理概要

- 実行条件

指定したディスクアレイ、及び、SSCは環境構築済みであること。

-
- ```

graph LR
 START([START]) --> 1[1]
 1 --> 2[2]
 2 --> 3[3]
 3 --> 4[4]
 4 --> 5[5]
 5 --> 6[6]
 6 --> 7[7]
 7 --> 8[8]
 8 --> 9[9]
 9 --> 10[10]
 10 --> 11[11]
 11 --> 12[12]
 12 --> 13[13]
 13 --> 14[14]
 14 --> 15[15]
 15 --> 16[16]
 16 --> 17[17]
 17 --> 18[18]
 18 --> 19[19]
 19 --> 20[20]
 20 --> 21[21]
 21 --> 22[22]
 22 --> 23[23]
 23 --> 24[24]
 24 --> 25[25]
 25 --> 26[26]
 26 --> 27[27]
 27 --> 28[28]
 28 --> 29[29]
 29 --> 30[30]
 30 --> 31[31]
 31 --> 32[32]
 32 --> 33[33]
 33 --> 34[34]
 34 --> END([END])

```
- Figure 1: A sequence diagram showing 34 steps of a test script. The steps are numbered 1 to 34 in blue circles. The script starts with a 'START' node and ends with an 'END' node. Steps 1-15 are on the top row, and steps 16-34 are on the bottom row. Each step is represented by an icon and a text label. The labels are: 1. BranchMo mName, 2. GetMoName, PutMoName, SetMoName, moList, 3. m, 4. mo, 5. BranchMo rasName, 6. GetStore, PutStore, eNameList, 7. eName, 8. Store, 9. BranchLoD, 10. GetLoDName, 11. PutLoDName, 12. SetLoDName, 13. BranchTas, 14. PutTas, 15. SetTas, 16. BranchMo upName, 17. PutGroup, 18. SetGroup, 19. GetMass, 20. SetMass, rType, 21. rType, 22. GetLoD, 23. SetLoD, 24. GetPool, 25. SetPool, 26. GetLoDcap, 27. ToGetLoDcap, 28. GetLoDcap, 29. GetLoDcap, 30. GetLoDcap, 31. ExecSub, 32. UnLock, 33. BranchFire, 34. ErStop. The diagram shows a flow from step 1 to step 34, with some steps having multiple actions. The flow is indicated by arrows and labels like 'other'.

- | 部品<br>番号 | 部品処理                                       | 異常時動作 | 異常終了の原因と対処方法                        |
|----------|--------------------------------------------|-------|-------------------------------------|
| 1        | MoMName で分岐                                |       |                                     |
| 2        | CMDB から MoM 一覧の取得                          | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 3        | GetMoMList の結果を表示し、MoM 名の入力                |       |                                     |
| 4        | PutMoMName の入力値を MoMName に設定               |       |                                     |
| 5        | StorageName で分岐                            |       |                                     |
| 6        | CMDB から Storage 一覧の取得                      | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。  |
| 7        | GetStorageNameList の結果を表示し、StorageName の入力 |       |                                     |
| 8        | PutStorageName の入力値を StorageName に設定       |       |                                     |
| 9        | LDName で分岐                                 |       |                                     |
| 10       | CMDB から LD 名一覧の取得                          | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。  |

| 部品番号 | 部品処理                                | 異常時動作 | 異常終了の原因と対処方法                       |
|------|-------------------------------------|-------|------------------------------------|
| 11   | LD 名の入力                             |       |                                    |
| 12   | PutLDName の入力値を LDName に設定          |       |                                    |
| 13   | Tag で分岐                             |       |                                    |
| 14   | Tag 名の入力                            |       |                                    |
| 15   | PutTag の入力値を Tag に設定                |       |                                    |
| 16   | GroupName で分岐                       |       |                                    |
| 17   | 運用グループ名の入力                          |       |                                    |
| 18   | PutGroupName の入力値を GroupName に設定    |       |                                    |
| 19   | CMDB から Manager 種別の取得               | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 20   | GetManagerType の結果を ManagerType に設定 |       |                                    |
| 21   | CMDB から LD 番号の取得                    | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 22   | GetLDNo の結果を LDNo に設定               |       |                                    |
| 23   | CMDB から PoolID の取得                  | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 24   | GetPoolID の結果を PoolID に設定           |       |                                    |
| 25   | CMDB から LD の容量の取得                   | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 26   | GetLDCapacity の結果を取得し、GB に変換        | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 27   | GetLDCapacity の結果を LDCapacity に設定   |       |                                    |
| 28   | CMDB から OS 種別の取得                    | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 29   | GetOSType の結果を OSType に設定           |       |                                    |
| 30   | STAutomation のロックを取得する              | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 31   | MoM の RDM 領域の初期化 (Sub) シナリオを実行      | 継続実行  |                                    |
| 32   | STAutomation のロックを解除                | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 33   | ExecSubScenario の終了コードで分岐           |       |                                    |
| 34   | 異常終了                                | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |

- ローカルオブジェクト一覧

| 変数名    | 属性  | 必須*1 | 初期値 | 入出力 | 説明                  |
|--------|-----|------|-----|-----|---------------------|
| LDName | 文字列 |      |     | 入力  | ユーザによる入力（または実行時に登録） |

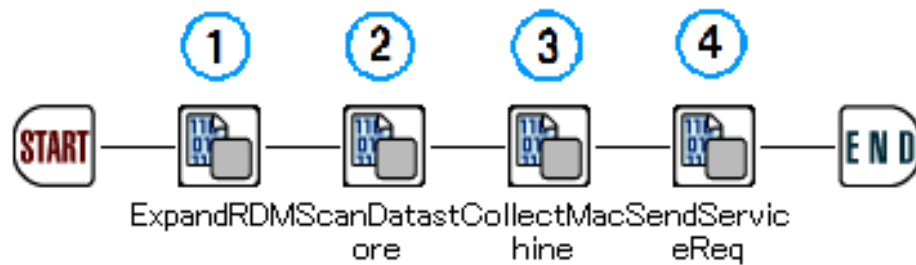
| 変数名         | 属性  | 必須*1 | 初期値 | 入出力 | 説明                  |
|-------------|-----|------|-----|-----|---------------------|
| GroupName   | 文字列 |      |     | 入力  | ユーザによる入力（または実行時に登録） |
| StorageName | 文字列 |      |     | 入力  | ユーザによる入力（または実行時に登録） |
| MoMName     | 文字列 |      |     | 入力  | ユーザによる入力（または実行時に登録） |
| Tag         | 文字列 |      |     | 入力  | ユーザによる入力（または実行時に登録） |
| ManagerType | 文字列 |      |     | 入力  | CMDB から取得           |
| LDNo        | 文字列 |      |     | 入力  | CMDB から取得           |
| PoolID      | 文字列 |      |     | 入力  | CMDB から取得           |
| LDCapacity  | 文字列 |      |     | 入力  | CMDB から取得           |
| OSType      | 文字列 |      |     | 入力  | CMDB から取得           |

\*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧  
なし

### 3.6.5 RDM 領域の拡張(Sub)

- シナリオ名  
ExpantionRDMVolume(Sub)
- 処理概要
- 実行条件
- フロー図



- 説明

| 部品番号 | 部品処理                   | 異常時動作 | 異常終了の原因と対処方法                        |
|------|------------------------|-------|-------------------------------------|
| 1    | データストア領域の拡張            | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 2    | データストア情報の更新            | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 3    | マシン情報の収集               | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 4    | SSC 構成情報収集サービスに情報収集を指示 | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |

- ローカルオブジェクト一覧

| 変数名         | 属性  | 必須 <sup>*1</sup> | 初期値 | 入出力 | 説明           |
|-------------|-----|------------------|-----|-----|--------------|
| ManagerType | 文字列 |                  |     | 入力  | 呼び出し元シナリオで設定 |
| LDName      | 文字列 |                  |     | 入力  | 呼び出し元シナリオで設定 |
| StorageName | 文字列 |                  |     | 入力  | 呼び出し元シナリオで設定 |
| LDCapacity  | 文字列 |                  |     | 入力  | 呼び出し元シナリオで設定 |
| LDNo        | 文字列 |                  |     | 入力  | 呼び出し元シナリオで設定 |
| GroupName   | 文字列 |                  |     | 入力  | 呼び出し元シナリオで設定 |

<sup>\*1</sup> 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

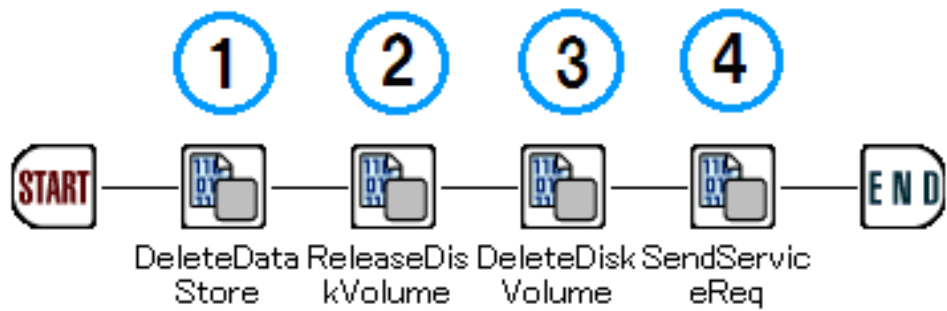
なし

### 3.6.6 ディスクボリュームの削除(Sub)

- シナリオ名

DeleteDiskVolume(Sub)

- 処理概要
- 実行条件
- フロー図



• 説明

| 部品番号 | 部品処理                   | 異常時動作 | 異常終了の原因と対処方法                        |
|------|------------------------|-------|-------------------------------------|
| 1    | データストア領域の削除            | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 2    | ディスクボリュームの割り当て解除       | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 3    | ディスクボリュームの削除           | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 4    | SSC 構成情報収集サービスに情報収集を指示 |       |                                     |

• ローカルオブジェクト一覧

| 変数名           | 属性  | 必須*1 | 初期値 | 入出力 | 説明           |
|---------------|-----|------|-----|-----|--------------|
| LDName        | 文字列 |      |     | 入力  | 呼び出し元シナリオで設定 |
| GroupName     | 文字列 |      |     | 入力  | 呼び出し元シナリオで設定 |
| StorageName   | 文字列 |      |     | 入力  | 呼び出し元シナリオで設定 |
| DataStoreName | 文字列 |      |     | 入力  | 呼び出し元シナリオで設定 |
| ManagerType   | 文字列 |      |     | 入力  | 呼び出し元シナリオで設定 |

\*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

• グローバルオブジェクト一覧

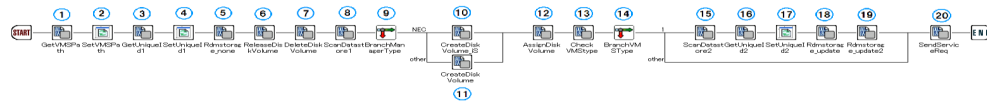
なし

3.6.7 RDM 領域の初期化(Sub)

• シナリオ名

InitializeRDMVolume(Sub)

- ・ 処理概要
- ・ 実行条件
- ・ フロー図



- ・ 説明

| 部品番号 | 部品処理                           | 異常時動作 | 異常終了の原因と対処方法                       |
|------|--------------------------------|-------|------------------------------------|
| 1    | 仮想サーバのパスの取得                    | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 2    | GetVMSPa の結果を VMSPa に設定        |       |                                    |
| 3    | ディスクボリュームの UniqueId の取得        | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 4    | GetUniqueId1 の結果を UniqueId に設定 |       |                                    |
| 5    | RDM 領域の解除                      | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 6    | ディスクボリュームの割り当て解除               | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 7    | ディスクボリュームの削除                   | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 8    | データストア情報の更新                    | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 9    | ManagerType で分岐                |       |                                    |
| 10   | ディスクボリュームの作成(iStorage)         | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 11   | ディスクボリュームの作成                   | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 12   | ディスクボリュームの割り当て                 | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 13   | 仮想サーバ種別の確認                     | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 14   | VMSType で分岐                    |       |                                    |
| 15   | データストア情報の更新                    | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 16   | ディスクボリュームの UniqueId の取得        | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 17   | GetUniqueId2 の結果を UniqueId に設定 |       |                                    |
| 18   | ディスクボリュームを RDM 領域に指定           | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 19   | ディスクボリュームにタグを設定                | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |

| 部品番号 | 部品処理                   | 異常時動作 | 異常終了の原因と対処方法 |
|------|------------------------|-------|--------------|
| 20   | SSC 構成情報収集サービスに情報収集を指示 |       |              |

- ローカルオブジェクト一覧

| 変数名         | 属性  | 必須 <sup>*1</sup> | 初期値 | 入出力 | 説明           |
|-------------|-----|------------------|-----|-----|--------------|
| LDName      | 文字列 |                  |     | 入力  | 呼び出し元シナリオで設定 |
| GroupName   | 文字列 |                  |     | 入力  | 呼び出し元シナリオで設定 |
| StorageName | 文字列 |                  |     | 入力  | 呼び出し元シナリオで設定 |
| PoolID      | 文字列 |                  |     | 入力  | 呼び出し元シナリオで設定 |
| LDCapacity  | 文字列 |                  |     | 入力  | 呼び出し元シナリオで設定 |
| OSType      | 文字列 |                  |     | 入力  | 呼び出し元シナリオで設定 |
| VMSPath     | 文字列 |                  |     | 入力  | 呼び出し元シナリオで設定 |
| ManagerType | 文字列 |                  |     | 入力  | 呼び出し元シナリオで設定 |
| Tag         | 文字列 |                  |     | 入力  | 呼び出し元シナリオで設定 |
| UniqueId    | 文字列 |                  |     | 入力  | シナリオ内で設定     |

\*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

| 変数名          | 属性  | 必須 | 初期値 | 説明                                           |
|--------------|-----|----|-----|----------------------------------------------|
| vDCA_SSCName | 文字列 |    |     | MoM 配下の SSC のホスト名(MoM と SSC が同一ホストの場合でも設定する) |

## 3.7 VM（仮想マシン）（手動）

本節では、vDCA 広域管理サーバの監視端末から手動で実行する、VM プロビジョニングのワークフローテンプレートの詳細について記載します。

### 3.7.1 VM 性能監視設定更新

- シナリオ名

UpdatePerformanceCounter

- 処理概要

VM 監視設定の更新を行う

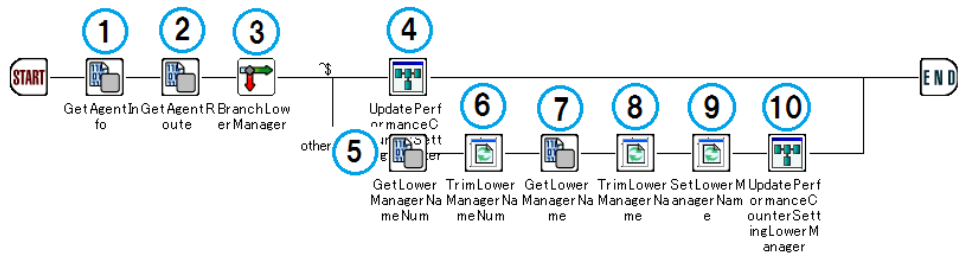
- 実行条件

VM 再構成時にディスクの追加を行う



監視端末を広域管理サーバに接続し、画面上から手動投入を行う

- フロー図



- 説明

| 部品番号 | 部品処理                                                           | 異常時動作 | 異常終了の原因と対処方法                                                                     |
|------|----------------------------------------------------------------|-------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 1    | エージェント情報の取得                                                    | フロー停止 | エージェントがマネージャに接続できていない。VM テンプレートの誤りが考えられる。VM 削除のサービスリクエストで VM を削除し、再度サービスリクエストする。 |
| 2    | エージェントの経路情報から管理サーバ名/VM 監視サーバ名を取得                               | フロー停止 | ホストの異常状態やメモリ確保失敗時。実行結果を確認し、呼び出し先のマネージャの状態を確認後、フローを継続実行する。                        |
| 3    | エージェントの接続先が VM 監視サーバか判断※2の結果出力からエージェントの接続先が VM 監視サーバか管理サーバかを判断 |       |                                                                                  |
| 4    | VM 監視設定更新(サブシナリオ UpdatePerformanceCounter(Sub)を実行)             | フロー停止 | エージェントがマネージャに接続できていない。VM テンプレートの誤りが考えられる。VM 削除のサービスリクエストで VM を削除し、再度サービスリクエストする。 |
| 5    | VM 監視サーバ名を取得※2の結果出力を整形し、VM 監視サーバ名を抽出・格納                        | フロー停止 | 実行結果を確認し、エラーの対処後、フローを継続実行する。                                                     |
| 6    |                                                                |       |                                                                                  |
| 7    |                                                                |       |                                                                                  |
| 8    |                                                                |       |                                                                                  |
| 9    |                                                                |       |                                                                                  |
| 10   | VM 監視設定更新(サブシナリオ UpdatePerformanceCounter(Sub)を実行)             | フロー停止 | エージェントがマネージャに接続できていない。VM テンプレートの誤りが考えられる。VM 削除のサービスリクエストで VM を削除し、再度サービスリクエストする。 |

- ローカルオブジェクト一覧

| 変数名        | 属性  | 必須*1 | 初期値 | 入出力 | 説明               |
|------------|-----|------|-----|-----|------------------|
| AGHostName | 文字列 | ○    |     | 入力  | ホスト名(実行ユーザが設定する) |
| UUID       | 文字列 | ○    |     | 入力  | UUID(実行ユーザが設定する) |

| 変数名                 | 属性  | 必須*1 | 初期値 | 入出力 | 説明                                                         |
|---------------------|-----|------|-----|-----|------------------------------------------------------------|
| LowerManagerName    | 文字列 |      |     | 入出力 | VM 監視サーバ名(VM が VM 監視サーバに接続されている場合)                         |
| LowerManagerNameNum | 文字列 |      |     |     | VM 監視サーバ名抽出処理時に一時的に使用するローカルオブジェクト(VM が VM 監視サーバに接続されている場合) |

\*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- ・ グローバルオブジェクト一覧

なし

## 3.8 VM テンプレート（手動）

本節では、vDCA 広域管理サーバの監視端末から手動で実行する、VM テンプレート関連のワークフローテンプレートの詳細について記載します。

### 3.8.1 手動 VM テンプレート登録

- ・ シナリオ名

RegisterTemplateByUser

- ・ 処理概要

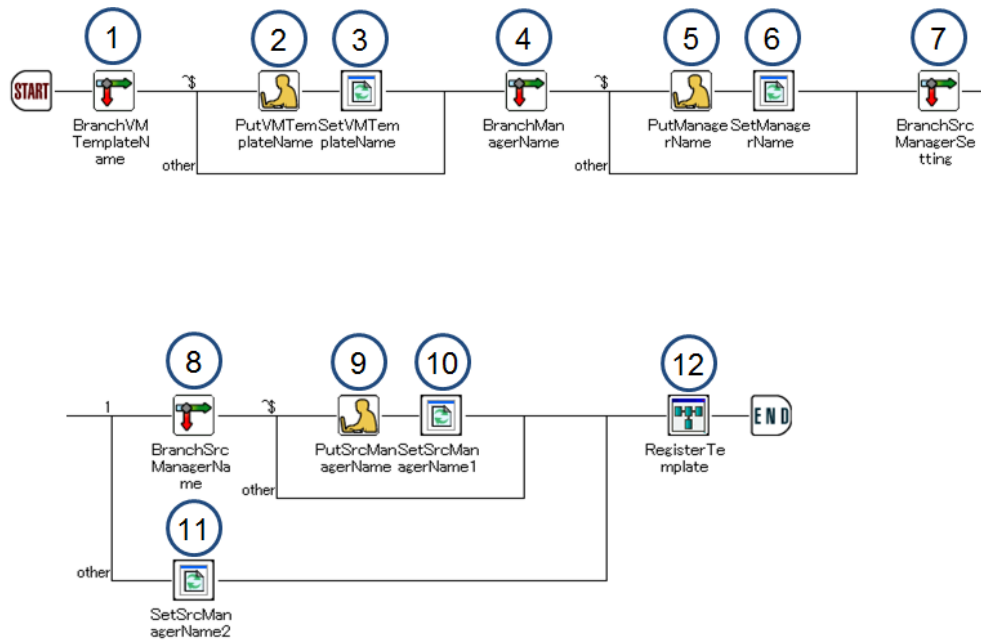
VM テンプレート機能により、管理サーバに VM テンプレートを登録する

- ・ 実行条件

リソースプールに、VM テンプレートを作成できるだけの空きがあること

登録対象となる VM テンプレートが存在すること

- ・ フロー図



- 説明

| 部品番号 | 部品処理                                      | 異常時動作 | 異常終了の原因と対処方法                 |
|------|-------------------------------------------|-------|------------------------------|
| 1    | 初期値に VM テンプレート名が設定されているかどうか判断             |       |                              |
| 2    | 登録する VM テンプレート名が入力されるまで待機                 |       |                              |
| 3    | VM テンプレート名を設定                             |       |                              |
| 4    | 初期値に VM テンプレートを登録する管理サーバ名が設定されているかどうか判断   |       |                              |
| 5    | VM テンプレートを登録する管理サーバ名が入力されるまで待機            |       |                              |
| 6    | VM テンプレートを登録する管理サーバ名を設定                   |       |                              |
| 7    | VM テンプレートのコピー元管理サーバ名を指定するかどうか判断           |       |                              |
| 8    | 初期値に VM テンプレートのコピー元管理サーバ名が設定されているかどうか判断   |       |                              |
| 9    | VM テンプレートのコピー元管理サーバ名が入力されるまで待機            |       |                              |
| 10   | VM テンプレートのコピー元管理サーバ名を設定                   |       |                              |
| 11   | VM テンプレートのコピー元管理サーバ名に空文字を設定               |       |                              |
| 12   | VM テンプレートを登録(サブシナリオ RegisterTemplate を実行) | フロー停止 | 実行結果を確認し、エラーの対処後、フローを継続実行する。 |

- ローカルオブジェクト一覧

| 変数名               | 属性  | 必須 | 初期値 | 入出力 | 説明                                                                                                                                |
|-------------------|-----|----|-----|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ManagerName       | 文字列 |    |     | 入力  | VM テンプレートを登録する管理サーバ名(コピー元管理サーバ名)                                                                                                  |
| VMTemplateName    | 文字列 |    |     | 入力  | コピーする VM テンプレート名 (SSC に登録されている VM テンプレート名)                                                                                        |
| SrcManagerSetting | 整数  |    | 1   | 入力  | VM テンプレートのコピー元管理サーバ名を指定するかどうか<br>0:コピー元管理サーバ名を指定しない<br>1:コピー元管理サーバ名を指定する                                                          |
| SrcManagerName    | 文字列 |    |     | 入力  | VM テンプレートのコピー元管理サーバ名<br>※SrcManagerSetting が 1 の場合のみ指定値が有効です。<br>SrcManagerSetting が 0 の場合は指定値が無視されます。<br>※複数のコピー元管理サーバの指定はできません。 |

- グローバルオブジェクト一覧

なし

## 3.9 ソフトウェアリポジトリ（手動）

本節では、vDCA 広域管理サーバの監視端末から手動で実行する、ソフトウェアリポジトリのワークフローテンプレートの詳細について記載します。

### 3.9.1 SW リポジトリ用論理ディスク作成

- シナリオ名

CreateDiskVolumeSWRepository

- 処理概要

SW リポジトリ用の論理ディスクを作成する。

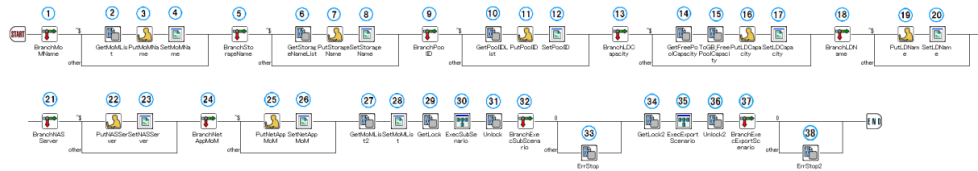
- 実行条件

対象のストレージが NetApp であること。

対象のストレージが管理サーバのネットワークビューにディスクアレイ名のノード名で登録され、ログイン設定されていること。

指定したディスクアレイ、及び、SSC は環境構築済みであること。

- フロー図



- 説明

| 部品番号 | 部品処理                                       | 異常時動作 | 異常終了の原因と対処方法                        |
|------|--------------------------------------------|-------|-------------------------------------|
| 1    | MoMName で分岐                                |       |                                     |
| 2    | CMDB から MoM 一覧の取得                          | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 3    | GetMoMList の結果を表示し、MoM 名の入力                |       |                                     |
| 4    | PutMoMName の入力値を MoMName に設定               |       |                                     |
| 5    | StorageName で分岐                            |       |                                     |
| 6    | CMDB から Storage 一覧の取得                      | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 7    | GetStorageNameList の結果を表示し、StorageName の入力 |       |                                     |
| 8    | PutStorageName の入力値を StorageName に設定       |       |                                     |
| 9    | PoolID で分岐                                 |       |                                     |
| 10   | CMDB から PoolID 一覧の取得                       | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 11   | GetPoolIDList の結果を表示し、PoolID の入力           |       |                                     |
| 12   | PutPoolID の入力値を PoolID に設定                 |       |                                     |
| 13   | LDCapacity で分岐                             |       |                                     |
| 14   | CMDB から Pool の空き容量を取得                      | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 15   | GetFreePoolCapacity の結果を取得し、GB に変換         | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 16   | GetFreePoolCapacity の結果を表示し、LDCapacity の入力 |       |                                     |
| 17   | PutLDCapacity の入力値を LDCapacity に設定         |       |                                     |
| 18   | LDName で分岐                                 |       |                                     |
| 19   | LD 名の入力                                    |       |                                     |
| 20   | PutLDName の入力値を LDName に設定                 |       |                                     |

| 部品番号 | 部品処理                              | 異常時動作 | 異常終了の原因と対処方法                        |
|------|-----------------------------------|-------|-------------------------------------|
| 21   | NASServer で分岐                     |       |                                     |
| 22   | NASServer 名の入力                    |       |                                     |
| 23   | PutNASServer の入力値を Tag に設定        |       |                                     |
| 24   | NetAppMoM で分岐                     |       |                                     |
| 25   | NetAppMoM 名の入力                    |       |                                     |
| 26   | PutNetAppMoM の入力値を NetAppMoM に設定  |       |                                     |
| 27   | CMDB から MOM の一覧を、@区切りで取得          | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 28   | GetMoMList2 の値を MoMList に設定       |       |                                     |
| 29   | STAutomation のロックを取得              | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 30   | MoMSW リポジトリ用論理ディスク作成(Sub)シナリオを実行  | 継続実行  |                                     |
| 31   | STAutomation のロックを解除              | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 32   | ExecSubScenario の終了コードで分岐         |       |                                     |
| 33   | 必ず異常終了する                          | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 34   | STAutomation のロックを取得              | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 35   | SW リポジトリ用 NFS の Exports 設定シナリオを実行 | 継続実行  |                                     |
| 36   | STAutomation のロックを解除              | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 37   | ExecExportScenario の終了コードで分岐      |       |                                     |
| 38   | 必ず異常終了する                          | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |

- ローカルオブジェクト一覧

| 変数名         | 属性  | 必須*1 | 初期値 | 入出力 | 説明                  |
|-------------|-----|------|-----|-----|---------------------|
| PoolID      | 文字列 |      |     | 入力  | ユーザによる入力（または実行時に登録） |
| LDName      | 文字列 |      |     | 入力  | ユーザによる入力（または実行時に登録） |
| StorageName | 文字列 |      |     | 入力  | ユーザによる入力（または実行時に登録） |

| 変数名        | 属性  | 必須 <sup>*1</sup> | 初期値 | 入出力 | 説明                  |
|------------|-----|------------------|-----|-----|---------------------|
| NASServer  | 文字列 |                  |     | 入力  | ユーザによる入力（または実行時に登録） |
| LDCapacity | 文字列 |                  |     | 入力  | ユーザによる入力（または実行時に登録） |
| MoMName    | 文字列 |                  |     | 入力  | ユーザによる入力（または実行時に登録） |
| MoMList    | 文字列 |                  |     | 入力  | ユーザによる入力(または実行時に登録) |
| NetAppMoM  | 文字列 |                  |     | 入力  | ユーザによる入力(または実行時に登録) |

\*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

なし

### 3.9.2 SW リポジトリ用論理ディスク削除

- ・ シナリオ名

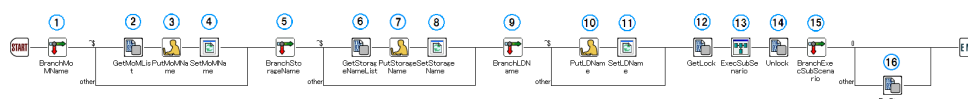
DeleteDiskVolumeSWRepository

- 処理概要

SW リポジトリ用の論理ディスクを削除する。

- 実行条件

- ・ フロー図



- 説明

| 部品番号 | 部品処理                         | 異常時動作 | 異常終了の原因と対処方法                        |
|------|------------------------------|-------|-------------------------------------|
| 1    | MoMName で分岐                  |       |                                     |
| 2    | CMDB から MoM 一覧の取得            | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 3    | GetMoMList の結果を表示し、MoM 名の入力  |       |                                     |
| 4    | PutMoMName の入力値を MoMName に設定 |       |                                     |
| 5    | StorageName で分岐              |       |                                     |

| 部品番号 | 部品処理                                       | 異常時動作 | 異常終了の原因と対処方法                        |
|------|--------------------------------------------|-------|-------------------------------------|
| 6    | CMDB から Storage 一覧の取得                      | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 7    | GetStorageNameList の結果を表示し、StorageName の入力 |       |                                     |
| 8    | PutStorageName の入力値を StorageName に設定       |       |                                     |
| 9    | LDName で分岐                                 |       |                                     |
| 10   | LD 名の入力                                    |       |                                     |
| 11   | PutLDName の入力値を LDName に設定                 |       |                                     |
| 12   | STAutomation のロックを取得                       | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 13   | MoMSW リポジトリ用論理ディスク削除(Sub)シナリオを実行           | 継続実行  |                                     |
| 14   | STAutomation のロックを解除                       | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 15   | ExecSubScenario の終了コードで分岐                  |       |                                     |
| 16   | 必ず異常終了する                                   | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |

- ローカルオブジェクト一覧

| 変数名         | 属性  | 必須*1 | 初期値 | 入出力 | 説明                  |
|-------------|-----|------|-----|-----|---------------------|
| LDName      | 文字列 |      |     | 入力  | ユーザによる入力（または実行時に登録） |
| StorageName | 文字列 |      |     | 入力  | ユーザによる入力（または実行時に登録） |
| MoMName     | 文字列 |      |     | 入力  | ユーザによる入力（または実行時に登録） |

\*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

なし

### 3.9.3 SW リポジトリ用論理ディスク作成(Sub)

- シナリオ名

CreateDiskVolumeSWRepository(Sub)

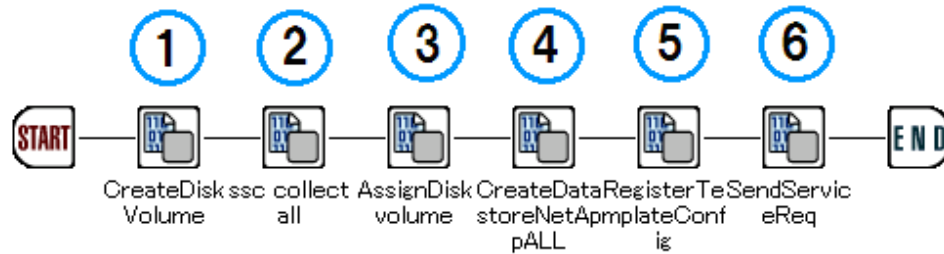


- 処理概要

ストレージから論理ディスクを切り出し、SSC に登録されている全ての仮想サーバ (ESXi)に割り当て、データストアとして使用可能にする。

- 実行条件

- フロー図



- 説明

| 部品番号 | 部品処理                       | 異常時動作 | 異常終了の原因と対処方法                        |
|------|----------------------------|-------|-------------------------------------|
| 1    | 論理ディスクを作成する                | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 2    | SSC の全情報収集を実行する            | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 3    | 論理ディスクを、全ての仮想サーバに割り当てる     | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 4    | 全ての仮想サーバで、データストアとしてマウントする。 | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 5    | テンプレートコンフィグの登録             | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 6    | SSC の構成情報を vDC で収集する。      | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |

- ローカルオブジェクト一覧

| 変数名         | 属性  | 必須*1 | 初期値 | 入出力 | 説明                   |
|-------------|-----|------|-----|-----|----------------------|
| PoolID      | 文字列 |      |     | 入力  | ユーザによる入力 (または実行時に登録) |
| LDName      | 文字列 |      |     | 入力  | ユーザによる入力 (または実行時に登録) |
| StorageName | 文字列 |      |     | 入力  | ユーザによる入力 (または実行時に登録) |
| LDCapacity  | 文字列 |      |     | 入力  | ユーザによる入力 (または実行時に登録) |

| 変数名       | 属性  | 必須*1 | 初期値 | 入出力 | 説明                  |
|-----------|-----|------|-----|-----|---------------------|
| NASServer | 文字列 |      |     | 入力  | ユーザによる入力（または実行時に登録） |

\*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

| 変数名          | 属性  | 必須 | 初期値 | 説明                                           |
|--------------|-----|----|-----|----------------------------------------------|
| vDCA_SSCName | 文字列 |    |     | MoM 配下の SSC のホスト名(MoM と SSC が同一ホストの場合でも設定する) |

### 3.9.4 SW リポジトリ用 NFS の Exports 設定

- シナリオ名

ExportMoMList

- 処理概要

指定された NFS ボリュームに、管理サーバから接続できるアクセス設定をする。

- 実行条件
- フロー図



- 説明

| 部品番号 | 部品処理                                    | 異常時動作 | 異常終了の原因と対処方法                        |
|------|-----------------------------------------|-------|-------------------------------------|
| 1    | 指定された NFS ボリュームに、管理サーバから接続できるアクセス設定をする。 | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |

- ローカルオブジェクト一覧

| 変数名         | 属性  | 必須*1 | 初期値 | 入出力 | 説明                                                                 |
|-------------|-----|------|-----|-----|--------------------------------------------------------------------|
| MoMList     | 文字列 |      |     | 入力  | @区切りで MoM の一覧をローカルオブジェクトの MoMList に設定<br>ユーザによる入力（または呼び出し元シナリオで設定） |
| StorageName | 文字列 |      |     | 入力  | ユーザによる入力（または実行時に登録）                                                |
| LDName      | 文字列 |      |     | 入力  | ユーザによる入力（または実行時に登録）                                                |

\*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

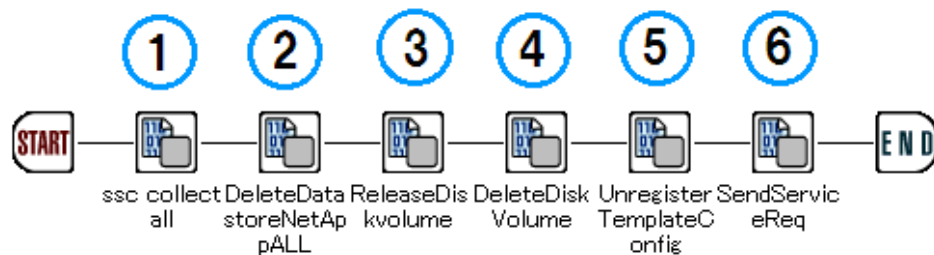
なし

### 3.9.5 SW リポジトリ用論理ディスク削除(Sub)

- シナリオ名

DeleteDiskVolumeSWRepository(Sub)

- 処理概要
- 実行条件
- フロー図



- 説明

| 部品番号 | 部品処理           | 異常時動作 | 異常終了の原因と対処方法                        |
|------|----------------|-------|-------------------------------------|
| 1    | ディスクボリュームの情報収集 | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 2    | データストア領域の削除    | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |

| 部品番号 | 部品処理                   | 異常時動作 | 異常終了の原因と対処方法                        |
|------|------------------------|-------|-------------------------------------|
| 3    | ディスクボリュームの割り当て解除       | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 4    | ディスクボリュームの削除           | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 5    | テンプレートコンフィグの登録解除       | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |
| 6    | SSC 構成情報収集サービスに情報収集を指示 | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフローを再度実行する。 |

- ローカルオブジェクト一覧

| 変数名         | 属性  | 必須 <sup>*1</sup> | 初期値 | 入出力 | 説明                  |
|-------------|-----|------------------|-----|-----|---------------------|
| LDName      | 文字列 |                  |     | 入力  | ユーザによる入力（または実行時に登録） |
| StorageName | 文字列 |                  |     | 入力  | ユーザによる入力（または実行時に登録） |

<sup>\*1</sup> 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

なし

## 3.10 ストレージ（手動）

本節では、vDCA 広域管理サーバの監視端末から手動で実行する、ストレージ機器制御のワークフローテンプレートの詳細について記載します。

### 3.10.1 ディスクボリュームを構築する

- シナリオ名

CreateDiskVolume

- 処理概要

指定した運用グループで稼働中の全ての仮想マシンサーバにディスクボリュームを割り当て、データストアまたは RDM を追加する。Hyper-V の場合はディスクボリュームを割り当てまでを行う。

- 実行条件

指定した運用グループには、稼働中の仮想マシンサーバ以外の、ホスト、マシン、グループプールのマシンが存在しないこと。

- 

- | 部品番号 | 部品処理                                       | 異常時動作 | 異常終了の原因と対処方法                       |
|------|--------------------------------------------|-------|------------------------------------|
| 1    | MoMName で分岐                                |       |                                    |
| 2    | CMDB から MoM 一覧の取得                          | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 3    | GetMoMList の結果を表示し、MoM 名の入力                |       |                                    |
| 4    | PutMoMName の入力値を MoMName に設定               |       |                                    |
| 5    | LDType で分岐                                 |       |                                    |
| 6    | LD 種別の入力                                   |       |                                    |
| 7    | PutLDType の入力値を LDType に設定                 |       |                                    |
| 8    | StorageName で分岐                            |       |                                    |
| 9    | CMDB から Storage 一覧の取得                      | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 10   | GetStorageNameList の結果を表示し、StorageName の入力 |       |                                    |
| 11   | PutStorageName の入力値を StorageName に設定       |       |                                    |
| 12   | ManagerType で分岐                            |       |                                    |
| 13   | CMDB から Manager 種別の取得                      | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 14   | GetManagerType の結果を ManagerType に設定        |       |                                    |
| 15   | PoolID で分岐                                 |       |                                    |

| 部品番号 | 部品処理                                       | 異常時動作 | 異常終了の原因と対処方法                       |
|------|--------------------------------------------|-------|------------------------------------|
| 16   | CMDB から PoolID 一覧の取得                       | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 17   | GetPoolIDList の結果を表示し、PoolID の入力           |       |                                    |
| 18   | PutPoolID の入力値を PoolID に設定                 |       |                                    |
| 19   | LDCapacity で分岐                             |       |                                    |
| 20   | CMDB から Pool の空き容量を取得                      | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 21   | GetLDCapacity の結果を GB に変換                  | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 22   | GetFreePoolCapacity の結果を表示し、LDCapacity の入力 |       |                                    |
| 23   | PutLDCapacity の入力値を LDCapacity に設定         |       |                                    |
| 24   | LDName で分岐                                 |       |                                    |
| 25   | LD 名の入力                                    |       |                                    |
| 26   | PutLDName の入力値を LDName に設定                 |       |                                    |
| 27   | ManagerType で分岐                            |       |                                    |
| 28   | OSType で分岐                                 |       |                                    |
| 29   | OS 種別の入力                                   |       |                                    |
| 30   | PutOSType の入力値を OSType に設定                 |       |                                    |
| 31   | GroupName で分岐                              |       |                                    |
| 32   | 運用グループ名の入力                                 |       |                                    |
| 33   | PutGroupName の入力値を GroupName に設定           |       |                                    |
| 34   | Tag で分岐                                    |       |                                    |
| 35   | Tag 名の入力                                   |       |                                    |
| 36   | PutTag の入力値を Tag に設定                       |       |                                    |
| 37   | LDType で分岐                                 |       |                                    |
| 38   | DataStoreName で分岐                          |       |                                    |
| 39   | DataStore 名の入力                             |       |                                    |
| 40   | PutDataStoreName の入力値を DataStoreName に設定   |       |                                    |
| 41   | ManagerType で分岐                            |       |                                    |
| 42   | NASServer で分岐                              |       |                                    |
| 43   | NASServer 名の入力                             |       |                                    |
| 44   | PutNASServer の入力値を Tag に設定                 |       |                                    |
| 45   | STAutomation のロックを取得                       | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |

| 部品番号 | 部品処理                         | 異常時動作 | 異常終了の原因と対処方法                       |
|------|------------------------------|-------|------------------------------------|
| 46   | MoM ディスクボリューム作成(Sub) シナリオを実行 | 継続実行  |                                    |
| 47   | STAutomation のロックを解除         | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 48   | ExecSubScenario の終了コードで分岐    |       |                                    |
| 49   | 必ず異常終了する                     | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |

- ローカルオブジェクト一覧

| 変数名           | 属性  | 必須 <sup>*1</sup> | 初期値 | 入出力 | 説明                                                                          |
|---------------|-----|------------------|-----|-----|-----------------------------------------------------------------------------|
| ManagerType   | 文字列 |                  |     |     | 使用するディスクアレイの種別                                                              |
| PoolID        | 文字列 |                  |     |     | ディスクボリュームを作成するプールの ID<br>「ssc show storagepool ディスクアレイ名」で表示されるプール ID を指定する。 |
| LDName        | 文字列 |                  |     |     | 作成するディスクボリュームの名前                                                            |
| OSType        | 文字列 |                  |     |     | 作成するディスクボリュームのタイプ<br>ESX の場合は LX、Hyper-V の場合は WN を設定する。                     |
| GroupName     | 文字列 |                  |     |     | ディスクボリュームを割り当てる運用グループ名                                                      |
| Tag           | 文字列 |                  |     |     | 作成するデータストア、または、RDM に設定するタグ。                                                 |
| LDType        | 文字列 |                  |     |     | ディスクボリュームの用途<br>「1」を指定するとデータストア、「2」を指定するとは RDM 領域を作成する。                     |
| StorageName   | 文字列 |                  |     |     | 使用するディスクアレイの名前                                                              |
| NASServer     | 文字列 |                  |     |     | NAS サーバ名                                                                    |
| DataStoreName | 文字列 |                  |     |     | 作成するデータストアの名前<br>RDM 領域を作成する場合は設定不要。                                        |
| MoMName       | 文字列 |                  |     |     | MoM 名                                                                       |
| LDCapacity    | 文字列 |                  |     |     | 作成するディスクボリュームの容量(GB)                                                        |

<sup>\*1</sup> 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

なし

### 3.10.2 ディスクボリュームを構築する(Sub)

- シナリオ名

CreateDiskVolume(Sub)

- 処理概要

指定した運用グループで稼働中の全ての仮想マシンサーバにディスクボリュームを割り当て、データストアまたは RDM を追加する。Hyper-V の場合はディスクボリュームを割り当てまでを行う。

- 実行条件

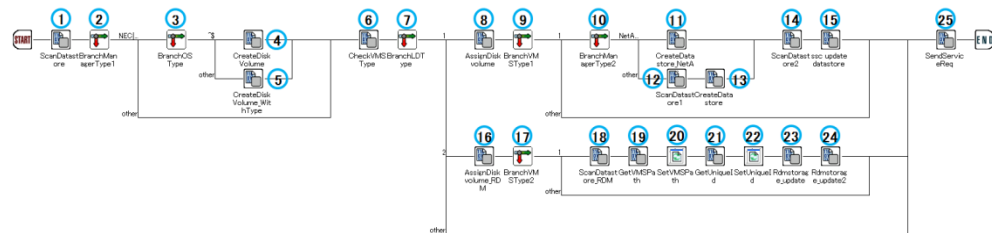
必要なローカルオブジェクトを実行前に全て指定済であること。

他の CreateDiskVolume シナリオが動作していないこと。

指定した運用グループには、稼働中の仮想マシンサーバ以外の、ホスト、マシン、グループプールのマシンが存在しないこと。

指定したディスクアレイ、及び、SSC は環境構築済みであること。

- フロー図



- 説明

| 部品番号 | 部品処理                    | 異常時動作 | 異常終了の原因と対処方法                       |
|------|-------------------------|-------|------------------------------------|
| 1    | データストア情報の更新             | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 2    | ManagerType で分岐         |       |                                    |
| 3    | OSType で分岐              |       |                                    |
| 4    | ディスクボリュームの作成            | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 5    | ディスクボリュームの作成(OSType 指定) | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 6    | 仮想サーバ種別の確認              | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 7    | LDTType で分岐             |       |                                    |
| 8    | ディスクボリュームの割り当て          | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 9    | VMSType で分岐             |       |                                    |
| 10   | ManagerType で分岐         |       |                                    |



| 部品番号 | 部品処理                            | 異常時動作 | 異常終了の原因と対処方法                       |
|------|---------------------------------|-------|------------------------------------|
| 11   | データストア領域の作成(NetApp)             | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 12   | データストア情報の更新                     | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 13   | データストア領域の作成                     | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 14   | データストア情報の更新                     | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 15   | データストア領域の接続情報を更新                | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 16   | ディスクボリュームの割り当て                  | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 17   | VMSType で分岐                     |       |                                    |
| 18   | データストア情報の更新                     | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 19   | 仮想サーバのパスの取得                     | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 20   | GetVMSPath の結果を VMSPath に設定する   |       |                                    |
| 21   | LD の UniqueId の取得               | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 22   | GetUniqueId の結果を UniqueId に設定する |       |                                    |
| 23   | ディスクボリュームを RDM 領域に指定する          | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 24   | ディスクボリュームにタグを設定する               | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |
| 25   | SSC 構成情報収集サービスに情報収集を指示          | フロー停止 | エラーを対処し、継続実行するか呼び出し元のワークフロー再度実行する。 |

- ローカルオブジェクト一覧

| 変数名         | 属性  | 必須*1 | 初期値 | 入出力 | 説明                                                                          |
|-------------|-----|------|-----|-----|-----------------------------------------------------------------------------|
| ManagerType | 文字列 |      |     |     | 使用するディスクアレイの種別                                                              |
| PoolID      | 文字列 |      |     |     | ディスクボリュームを作成するプールの ID<br>「ssc show storagepool ディスクアレイ名」で表示されるプール ID を指定する。 |
| OSType      | 文字列 |      |     |     | 作成するディスクボリュームのタイプ<br>ESX の場合は LX、Hyper-V の場合は WN を設定する。                     |
| LDName      | 文字列 |      |     |     | 作成するディスクボリュームの名前                                                            |

| 変数名           | 属性  | 必須*1 | 初期値 | 入出力 | 説明                                                          |
|---------------|-----|------|-----|-----|-------------------------------------------------------------|
| GroupName     | 文字列 |      |     |     | ディスクボリュームを割り当てる運用グループ名                                      |
| Tag           | 文字列 |      |     |     | 作成するデータストア、または、RDM に設定するタグ。                                 |
| VMSPath       | 文字列 |      |     |     | 値を設定しないでください。                                               |
| LDType        | 文字列 |      |     |     | ディスクボリュームの用途<br>「1」を指定するとデータストア、<br>「2」を指定するとは RDM 領域を作成する。 |
| StorageName   | 文字列 |      |     |     | 使用するディスクアレイの名前                                              |
| DataStoreName | 文字列 |      |     |     | 作成するデータストアの名前<br>RDM 領域を作成する場合は設定不要。                        |
| NASDirectory  | 文字列 |      |     |     | 値を設定しないでください。                                               |
| NASServer     | 文字列 |      |     |     | 値を設定しないでください。                                               |
| LDCapacity    | 整数  |      |     |     | 作成するディスクボリュームの容量(GB)                                        |
| UniqueId      | 文字列 |      |     |     | LD の UniqueID。シナリオ内で設定。                                     |

\*1 必須欄に○が付いているローカルオブジェクトはシナリオ開始時に揃っている必要があります。シナリオ開始時に必須のローカルオブジェクトに値が入っていない場合は、シナリオの実行に失敗します。

- グローバルオブジェクト一覧

| 変数名          | 属性  | 必須 | 初期値 | 説明                             |
|--------------|-----|----|-----|--------------------------------|
| vDCA_SSCName | 文字列 |    |     | SSC のホスト名(SSC が同一ホストの場合でも設定する) |

## 第4章

### 注意事項

下記に示すパラメータは、設定された文字列が、ワークフロー内で実行するコマンドのパラメータの一部に使用されます。そのため、OS に対する命令文（コマンド）が含まれないように、上位機能（呼び出し側）で対策してください。

| 変数名                    | 説明                      |
|------------------------|-------------------------|
| AGHostName             | ホスト名                    |
| DeleteLogicalAssetList | 削除するライセンスキーの一覧          |
| DistributionNameList   | 配布のタスク名                 |
| DistributionVerList    | 配布のバージョン                |
| LogicalAssetIDList     | 追加するライセンスキーの一覧          |
| LogicalAssetIndexList  | 追加するライセンスキーのインデックス番号の一覧 |
| SpecifiedManager       | 接続先 VM 監視サーバ名           |
| TenantID               | テナント ID                 |
| UUID                   | UUID                    |
| VMTemplateID           | VM テンプレート ID            |
| NicNo                  | ホスト情報ファイル               |

## 付録 A 改版履歴

- 第 1 版 (2018.4): 新規作成

---

**WebSAM vDC Automation v6.1**

**ワークフローテンプレート  
リファレンス**

**2019 年 10 月 第 1 版 発行**

**日本電気株式会社**

---

**©NEC Corporation 2012-2019**